

●電氣事業ニ關スル件

(大正六年十月 保第七四〇號)

電氣事業者中電氣事業法第五條ニ依ル通信大臣ノ指定ノ期間經過後ニ於テ事業開始期間伸長ノ許可ヲ申請スルモノ往々有之候處右ハ同法第五條第三項ノ規定モ有之期間ノ經過ニ依リ電氣事業ノ許可ハ當然失効トナル義ニ付其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條行違ヲ生セサル様各事業者ニ示達シ置カレ

●電氣事故應急處置ニ關スル件

(大正七年七月 保第六二二七號)

電氣事故ニ對スル應急處置ハ最モ迅速ヲ要スル義ニ有之候ニ付テハ警察官吏ニ於テ電線路又ハ需用家屋内電氣工作物等ニ電氣事故アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ當該電氣事業者ノ最寄技術員詰所ニ通知シ事業者ヲシテ急速機宜ノ處置ヲ爲サシムル様取計ヲハルヘク右ニ付テハ事業者トノ間ニ相當打合セテ爲シ置キ萬遺策無キチ期セラレ度此段及通牒候也

●電氣事業ニ關スル件

(大正七年十一月 保第六四九〇號)

電氣事業者中電氣事業開始期間經過後ニ於ケル同期間伸長申請ノ件ニ關シ客年十月二十二日附保第七四〇號ヲ以テ通牒致置候次第モ有之候處其後尙期間經過後ニ於テ延期ノ申請ヲ爲スモノ往々有之ニ付テ事情已ムチ得ヌト認メタルモノニ限り便宜延期ヲ許可シタルモ爾令便宜ノ取扱ハ一切之ヲ爲サ、ルコトニ決定相成ツテ右ノ電氣事業法第五條ニ依リ當然失効ト相成候義ニ付行違無キ様各電氣事業者ニ對シ豫メ注意置相成度尙事業開始期間ノ延期申請ニ對シテハ從來往々當該期間内ニ事業開始ノ見込ナキニ係ハラス延期ノ申請ヲナスモノ有之候得共如斯ハ徒ニ複雑ナル手續ヲ重ヌルニ

過キサルノミナラス公衆ノ便益ニ關係スルコト不尠次第ニツキ事業開始期間ノ延期申請ニ付テハ將來果シテ右申請ノ期間内ニ開始ノ見込アルモノナリヤ否ヤ審査ノ上御意見具申相成度此段及通牒候也

●依命通牒

(大正七年十二月 電監第七五四八號)

電氣供給事業者中往々事業經營又ハ供給區域擴張ノ許可ヲ得テラ再三延期ヲ重ネテ事業ヲ開始セサルモノアリ又ハ町村ノ一部分ニ對シテノミ事業ヲ開始シ更ニ之ヲ普及セサルモノ有之當該地方一般公衆ノ不便甚シキ爲之ニ關スル陳情等モ不尠候處右ニ關シテハ經濟狀態ヲ斟酌シ緩急ヲ計リ適宜左記各項ニ依リ御處理相成度

- 一 未開業ノモノニ對シテハ速カニ供給ヲ開始セシムルコト尙事業ヲ普及セサルモノニ付テハ普及ヲ督勵スルコト
- 二 既許可供給區域ニ對シテ事業開始ノ延期ヲ重ヌルモノニ付テハ他ノ適當ナル事業者ニ於テ供給容易ナル場合ニ在リテハ當該供給區域ハ之ヲ削除セシムルコト
- 三 電力不足ノ爲供給ヲ開始シ能ハサルモノニ對シテハ電力供給ノ途ヲ講セシムルコト
- 四 水力電氣ノ事業ニシテ電力専用線ノ施設ナキ爲畫間動力ノ供給ヲナサ、ルモノニ對シテハ専用線ノ施設ヲ爲サシムルコト

第十一節 報告、稟議、通報

●警察即報心得

(明治四十二年九月 訓令乙第一二號)

(沿革)明治二二年八月達第二〇八號、大正五年六月訓令第三號改正
第一條 警察官署ハ法令其ノ他ノ規定ニ依リ時ニ報告ヲ要スルモノハ外左

[千葉警]

[千葉警]

ノ事故ヲ即報スヘシ

第一種 司法

一 殺人ノ罪

重要ナル傷害ノ罪
致死又ハ癡疾、不具トナルヘキ虞アルモノ若ハ傷害ノ程度ハ輕微ナルモ被害者又ハ犯人多數ナルカ若ハ重要ナル關係ヲ生スルモノ其ノ他重要ナルト認ムルモノ

二 過失致死ノ罪

三 往來妨害ノ罪

四 放火ノ罪

五 強盜ノ罪

六 強姦ノ罪

七 竊盜ノ罪

八 被害價格百圓以上ノモノ若ハ五十圓以上ニシテ被害品中ニ特徴アルモノ又價格ノ如何ニ拘ラス官公署、學校、銀行等ノ被害ニ係ルモノ若ハ刀劍、銃砲、火藥類、社寺ノ寶物類ノ盜難又ハ土藏破リ、切抜キ、燒抜キ其ノ他稀有ノ手段ヲ用ヒタルモノ

九 詐欺及恐喝ノ罪

十 公務執行妨害ノ罪

十一 囚人又ハ留置人逃走ノ罪

十二 墮胎ノ罪

十三 遺棄ノ罪

十四 前各號ノ外重要ト認ムル罪

十五 以上各號ノ罪ニ該ル犯人ノ檢舉

第二種 行政

第二編 保安 行政 第一章 安寧

一 變死

自死、誤死、天災、歌害其ノ他原因ノ如何チ問ハス變死シタルモノ

二 火災

家屋其ノ他ノ建造物五棟以上ノ燒失、官公署若ハ其ノ附屬建物、學校、銀行、社寺、病院、演藝場、觀物場、知名者ノ住家若ハ其ノ別荘、其ノ他之ニ類スルモノ並ニ御料林、國有林野ノ火災、若ハ其ノ他ノ林野ニシテ五町以上ノ燒失ニ係ルモノ

三 天災地變

暴風、洪水、地震、落雷、海嘯等ノ爲メ人畜ノ死傷、家屋、田圃、道路、橋梁、堤防等ノ破壞、流失、山嶽ノ崩潰其ノ他災害ニ係ルモノ

四 汽車故障

汽車ノ顛覆、脱線、衝突、十二時間以上列車運轉ノ休止、列車分離、異線進入、列車運轉ヲ支障セル車輛ノ不良、線路障礙、列車妨害、車輛逸走、火災其ノ他危險ナル運轉上ノ事故ニ係ルモノ

五 船舶遭難

衝突、乗揚並暴風其ノ他ノ原因ニ由ル遭難若ハ死體、物件ノ漂著ニ依リ遭難船舶アリタルト思料シタルトキ又ハ沈没、乗揚船ノ曳揚ヲ了シ若ハ浮揚シタルトキ

六 工場變災

工場及其ノ寄宿舎其ノ他ノ建物ニ於テ災害其ノ他ノ事故ニ由リ死亡者又ハ負傷者ヲ生シ若ハ死傷者ヲ生セサルモ火災ニ罹リ又ハ建物、煙突、高架槽、傳導裝置、汽鐘、汽機、機械類ノ大ナル毀損ニ係ルモノ

七 火藥類ノ爆發

第二編 保安 行政 第一章 安寧

- 八 火藥庫、倉庫、假貯藏所其ノ他火藥類ノ爆發ニ係ルモノ多衆ノ紛擾
- 九 博徒、土工其ノ他多數ノ紛擾ニシテ高等警察ニ屬セサルモノ前各號ノ外重要ト認ムル事項
- 第二條 本則第一種第一號、第二號、第六號、第十四號及第二種第二號、第四號、第五號、第九號ノ事故ニシテ事態重大ナリト認ムルモノハ様式ニ依ル報告以前ニ保安課長ニ事故ノ大要ヲ通知スヘシ
- 第三條 報告スヘキ事故ニシテ調査ニ時日ヲ要スルモノハ先ツ其ノ概要ヲ報告シ調査ノ進行ニ從ヒ逐次追報スヘシ
- 附則
- 第五條 明治二十二年八月千葉縣達第二〇八號保安警察報告假規定ハ之ヲ廢ス

附錄第一様式

宛名	明治 年 月 日 第 號	發署	警察 署長
犯罪年月日時	明治 年 月 日 午前 時 分	町大字	
犯罪ノ場所	郡		
被害者ノ住所氏名年齢			
犯罪ノ方法情狀			
被害ノ形狀又ハ賊物ノ種類數量			

(用紙半紙)

附錄第三様式

宛名	明治 年 月 日 第 號	發署	警察 署長
出火ノ日時	明治 年 月 日 午前 時 分	町大字	
鎮火ノ日時	明治 年 月 日 午前 時 分		
火災ノ原因			
罹災者ノ住所職業氏名	郡		
罹災家屋ノ種類構造戸數棟數坪數及全燒半燒ノ區別			
人畜ノ死傷			
備考			

(用紙半紙)

附錄第四様式

宛名	明治 年 月 日 第 號	發署	警察 署長
事故發生年月日時	明治 年 月 日 午前 時 分	町大字	
場所	郡		
原因及狀況			

第二編 保安 行政 第一章 安寧

附錄第一様式

宛名	明治 年 月 日 第 號	發署	警察 署長
變死者ノ本籍住所職業氏名年齢			
變死ノ日時	明治 年 月 日 午前 時 分		
變死ノ原因			
變死ノ狀況			
檢視官及醫師ノ氏名			
備考			

(用紙半紙)

告 報

人畜ノ死傷	
救護ノ狀況	
備考	

警察即報心得ニ關スル件

(大正五年八月 保第七八四六號)

爾今警察即報心得第一條第一種ノ内殺人、強盜、強盜事件等ノ報告ヲナス場合ハ必ス左記事項ヲ附記セラルヘシ

- 一 被害者ノ住所ノ下ニ職業ヲ詳記スルコト
- 二 現場ニ於ケル指紋採取ノ結果詳細ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 三 屋内ニ於ケル殺人、強盜ノ場合ハ被害當時ノ家族、雇人ノ現在數ヲ男女別トナシ備考欄ニ記載スルコト

稟議事項ニ關スル件

(大正三年九月 保第八四四八號)

左記各號ニ該當スル處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ事實及適用スヘキ法條ヲ具シ稟議セラルヘシ

- 一 一事件ニ對シ又ハ二事件以上ヲ通シ若ハ前言渡後繼續シテ兩者ヲ通シ拘留十六日以上科料十一圓以上ノ即決言渡ヲ爲サントスルトキ
- 二 營業ノ許可ヲ拒否シ又ハ其ノ許可ニ取消若ハ營業ノ禁止、停止ヲ爲サムトスルトキ
- 三 營業許可ヲ拒否シ又ハ其ノ許可ノ取消若ハ營業ノ禁止、停止ヲ爲シタル者ニ對シ更ニ同一營業ヲ許可シ又ハ其ノ禁止、停止ヲ解除セムトス

- 四 法令ノ規定ニ於テ明カニ營業許可ヲ拒否シ特ニ情狀ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得ルノ除外ヲ爲セル場合ニ於テ其ノ營業ヲ許可セムトスルトキ
- 五 娼妓名簿ノ登錄又ハ登錄ノ變更ヲ拒否セムトスルトキ
- 六 (削除)
- 七 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓受、買受、交換、贈與等ニ對スル許可ヲ拒否セムトスルトキ
- 八 貸座敷、引手茶屋、娼妓組合取締ノ改選ヲ命セムトスルトキ
- 九 官有名勝地、舊蹟地、又ハ古墳地、其ノ他一般ノ官有地ニ於ケル碑表建設ヲ許可シ又ハ之ヲ拒否セムトスルトキ
- 但シ左ノ事項ヲ具スヘシ
 - (一) 碑表ニ記載シタル事蹟風教上裨益アリヤ否
 - (二) 碑表ノ體裁其他ノ美觀ヲ添ユル一助トナルヤ否
 - (三) 維持費等ヲ要スルモノニ在リテハ建設者ニ於テ之ヲ負擔スルヤ否
 - (四) 建設シタル土地ヲ公用スル必要アル場合ニ於テ管轄行政廳ニ於テ碑表ヲ棄却又移轉スルモ故障ナキ條件ヲ以テ建設者ヨリ之ヲ國ニ寄附スルコト
 - (五) 碑文ノ寫、碑表ノ物質、形狀、長幅、及建設位置ヲ表示スル圖面並ニ建設地ノ狀況等
- 十 生存者ニ對シ記念碑建設ヲ許可シ又ハ之ヲ拒否セムトスルトキ
- 十一 緊急ヲ要セサル場合ニ於ケル土地物件ノ使用處分又ハ其ノ使用ノ制限ヲ爲サムトスルトキ (行政執行法施行令)
- 十二 警察ノ取締ニ屬スル營業者ニ對シ賃錢額、周旋料等豫メ示サレタル標準額ヲ超過シテ許可セムトスルトキ
- 十三 法人ノ代表者ニ對シ拘留ノ即決言渡ヲ爲サムトスルトキ

十四 消防組頭ノ命免ヲ爲サムトスルトキ

警察衛生通報規程

(明治四十三年二月 訓令乙第四四號)

- 第一條 本規程ハ警察及衛生上ノ氣脈ヲ通シ處分ノ一轍ヲ期スルコトヲ目的トス
- 第二條 本規程ニ依リ通報ヲ要スル警察官署ハ警察部長之ヲ定ム但シ事件ノ性質等ニ依リ通報ヲ要スル警察官署ト雖適宜之ヲ省略シ又ハ其ノ以外ノ警察官署ニ通報スヘシ
- 第三條 本規程ニ依リ通報ヲ要スル事故ハ左ノ如シ
 - 第一種 (削除)
 - 第二種 行政
 - 一 精神病者ノ所在不明トナリタルトキ
 - 二 變死者ニシテ住所、氏名ノ分明ナラサル者アルトキ
 - 三 會員募集、保險加入、債券賣買、出 物豫約募集其ノ他之ニ類スル勸誘ヲ爲ス者ニシテ其ノ行動注意ヲ要スルモノアルトキ
 - 四 懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用キムコトヲ提供シ若ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノアルトキ
 - 五 營業ノ許可ヲ拒否シ又ハ其ノ許可ノ取消若ハ營業ノ禁止ヲヤコタル場合ニ於テ他署部内ニ轉シ同一營業ヲ爲サムトスル虞アリト認ムルモノアルトキ
 - 六 演劇又ハ觀物等ニ對シ禁止又ハ停止ヲ爲シタルトキ
 - 七 流行ノ事物又ハ迷信ノ行爲ニシテ公安若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノアルトキ

附錄第一様式

(用紙半紙形)

明治	年	月	日	第	號	電話掛
宛	名	警察	署長	發	署	警察
犯罪年月日時	明治	年	月	日	午前	時
犯罪ノ場所	郡	町	大字			

附錄第二様式

(用紙半紙形)

明治	年	月	日	第	號	電話掛
宛	名	警察	署長	發	署	警察
事件	年月	日	時	發生		
重要	事項	領				
備考						

通報警察官署ニ關スル件

(大正三年七月 保第五八九五號)

(沿革)大正七年三月保第一五九八號改正
明治四十三年十二月千葉縣訓令乙第四四號警察衛生通報規定第二條ニ依ル
通報警察官署ヲ左記ノ通改正候條右ニ依リ取扱ヒ相成度此段及通牒候也

署名	通	報	署	名
千葉	船橋、市川、松戸、八幡、木更津、東金、茂原、一宮、大原、佐倉、成田、佐原、成東、八日市場、木下			
松戸	野田、市川、船橋、千葉、佐倉、成田、八幡、佐原、小見川、東金、成東、木下			
野田	松戸、市川、船橋、千葉、佐倉、成田、佐原、小見川、木下			
船橋	市川、松戸、野田、成田、佐倉、千葉、八幡、木更津、茂原、東金、成東、八日市場、木下			
市川	松戸、野田、船橋、千葉、八幡、木更津、東金、茂原、成東、八日市場、木下			
佐倉	千葉、船橋、市川、松戸、八幡、木更津、茂原、東金、成東、八日市場、旭町、銚子、佐原、成田、木下、多古			
成田	佐原、松戸、野田、旭町、銚子、千葉、船橋、市川、東金、成東、八日市場、旭町、銚子、木下、多古			
木下	佐倉、成田、佐原、多古、松戸、野田、千葉、船橋、市川、東金、成東			
佐原	小見川、成田、松戸、野田、佐倉、千葉、船橋、東金、成東、八日市場、旭町、銚子、木下、多古			
小見川	佐原、成田、佐倉、千葉、船橋、松戸、野田、東金、成田、八日市場、旭町、銚子、多古			
多古	佐原、小見川、成田、木下、佐倉、船橋、東金、成東、八日市場、旭町、銚子			

鴨川 北條、巖勝浦、大原、湊、木更津、八幡、鶴舞、久留里

第十二節 雜

死産又ハ生産兒死亡届出ノ件

(明治三十一年十月 縣令第五十號)

死産又ハ生産兒生誕後三ヶ月以内ニ死亡シタル者アルトキハ埋火葬前警察官署ニ届出ツヘシ

本令ニ違反シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

漉入紙ヲ製造スル者届出ノ件

(明治二十年八月 縣令第二百二十五號)

今般勅令第三十六條ヲ以テ漉入紙製造取締規則相定メラレ候ニ付テハ本年大藏省令第十二號ニ依リ本縣ヘ差出スヘキ製造届出書ハ所轄警察官署又ハ分署ヲ經由スヘシ

漉入紙製造取締規則處分手續

(明治二十年八月 警第二〇四號)

第一條 漉入紙製造取締規則第一條ニ據リ製紙届出ヲ爲ス者アルトキハ書面ヲ調査シ速ニ進達スヘシ

第二條 前條届書ヲ爲シタル者アルトキハ毎月一回以上警部若クハ巡查ヲシテ製紙業ノ實況ヲ視察セシムヘシ

第三條 漉入紙製造取締規則第一條及第二條ノ犯則者アリ處分ヲ爲シタルトキハ其都度事由ヲ詳具シ縣廳ニ報告スヘシ

銚子	小見川、佐原、成田、松戸、佐倉、千葉、船橋、東金、成東、八日市場、旭町、多古
旭町	銚子、小見川、佐原、成田、佐倉、千葉、船橋、茂原、東金、八日市場、成東、多古
八日市場	旭町、銚子、小見川、佐原、成田、佐倉、千葉、船橋、茂原、東金、八日市場、成東、多古
東金	成東、八日市場、旭町、銚子、八幡、木更津、千葉、船橋、小見川、佐原、成田、茂原、一宮、大原、木下、多古
成東	成田、佐原、千葉、船橋、木下、多古
八幡	鶴舞、木更津、湊、大多喜、茂原、一宮、東金、成東、千葉、船橋、佐倉、久留里
鶴舞	大多喜、勝浦、大原、一宮、茂原、東金、千葉、木更津、湊、鴨川、久留里
茂原	大多喜、木更津、鶴舞、勝浦、大原、一宮、東金、成東、八日市場、旭町、千葉、船橋、八幡
一宮	茂原、大多喜、大原、勝浦、東金、成東、八日市場、旭町、千葉、船橋、八幡、木更津
大多喜	茂原、一宮、大原、勝浦、鴨川、鶴舞、八幡、木更津、湊、東金、千葉、久留里
大原	大多喜、勝浦、鴨川、鶴舞、茂原、一宮、東金、成東、千葉、船橋、八幡、木更津
勝浦	鴨川、巖勝浦、北條、大多喜、鶴舞、大原、一宮、茂原、東金、千葉、船橋、久留里
木更津	湊、北條、鴨川、八幡、鶴舞、大多喜、茂原、東金、千葉、船橋、久留里
湊	北條、巖勝浦、鴨川、木更津、八幡、鶴舞、大多喜、千葉、船橋、久留里
久留里	木更津、湊、北條、巖勝浦、鴨川、八幡、鶴舞、大多喜、勝浦
北條	巖勝浦、鴨川、勝浦、木更津、八幡、千葉、船橋、湊、久留里
巖勝浦	北條、鴨川、勝浦、大原、湊、木更津、久留里

畜犬取締規則

(明治三十四年五月 縣令第五十五號)

(沿革)明治三十九年三月縣令第五五號改正

第一條 犬ノ飼養者ハ所轄郡役所ヨリ下附ヲ受ケタル畜犬鑑札ヲ金屬又ハ革ノ類ヲ以テ畜犬ノ頸部ニ附スヘシ

第二條 咆哮狂躁其他人畜ニ危害ヲ加フルノ虞アル畜犬ニハ飼養者ニ於テ繫鎖又ハ口綱ヲ施スコトヲ要ス

第三條 警察官署ハ危害豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ前條ノ措置ヲ爲スコトヲ飼養者ニ命スルコトヲ得

第四條 野犬ヲ撲殺セントスル者ハ警察官署ニ申告シ其指示ニ遵フヘシ

第五條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ科料ニ處シ第三條第一項ノ命ニ從ハサル者又ハ第二項、第四條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第六條 明治十九年十月千葉縣令第三十八號畜犬取締規則ハ之ヲ廢止ス

畜犬取締規則施行心得

(明治三十四年五月 訓令甲第四十四號)

第一條 左ニ掲グル場合ニ於テハ畜犬取締規則第一條第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ要セズ

一 狩獵又ハ演藝ノ爲畜犬ヲ使用スルトキ
二 病犬ヲ治療スル爲必要ナルトキ
三 畜犬ノ出生後三ヶ月ニ滿タサルトキ

第二條 畜犬ノ届出ヲ爲サ、ル者アルコトヲ知リタルトキハ速ニ郡長ニ通

知スヘシ

第三條 畜犬取締規則第三條第二項ノ認可ハ書面又ハ口頭ヲ以テ申請セシムルコトヲ得

第四條 警察官署ハ野犬ノ増加其他必要アリト認ムルトキハ臨時之ヲ撲殺スヘシ

第五條 畜犬取締規則第四條ノ申告ヲ受ケタルトキハ警察官吏ヲ同行セシメ且ツ申告人ニ對シ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一 同行セル警察官吏ノ指揮ヲ受クルニ非ラサレハ撲殺ヲ爲サ、ルコト

二 交通頻繁又ハ群集ノ場所ニ於テ撲殺ヲ爲サ、ルコト

三 犬ノ屍體ヲ運搬スルトキハ外部ヨリ見透サ、ル装置ヲ爲シ且血液ヲ漏出セシメサルコト

四 犬ノ屍體ヲ埋却スルトキハ人家公道河流飲料水ヲ距ル十間以上ノ地ヲ撰ミ其土坑ハ三尺以上ノ深サヲ存セシムルコト

第六條 警察官署ニ於テハ畜犬臺帳ヲ備フヘシ

畜犬届出通知ニ關スル件

(明治三十六年四月 訓令甲第三十號)

明治三十一年縣令第三十號縣稅賦課ニ關スル細則第一條第三項ニ依リ畜犬ノ届出ヲ受ケタルトキハ同臺帳ニ登記スヘキ事項ヲ記載シ之ヲ所轄警察署若クハ同分署ヘ通知スヘシ

其届出後ニ於テ異動アリタルトキハ臨時前項ノ手續ヲ爲スヘシ

訓令甲第七號(明治三十九年三月)

明治三十六年四月千葉縣訓令甲第三十號ニ依リ警察署又ハ分署ニ畜犬届出ノ通知ヲ爲ストキハ畜犬鑑札ノ番號ヲ通知スヘシ

野犬撲殺ニ對スル補助金請求手

(大正二年九月 訓令第四十七號)

野犬撲殺ニ對スル補助金請求手續左ノ通定ム

第一條 町村ニ於テ野犬撲殺ニ對スル補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ月分ヲ取纏メ左記様式ニ依リ翌月五日マテニ所轄郡役所ヲ經テ知事ニ申請スヘシ

第二條 郡役所ニ於テ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ調査ヲ速ケ進達スヘシ

野犬撲殺補助金下付申請書

一金何 程 大正何年何月野犬撲殺費

仕 譯

月日 撲殺數 撲殺費 摘 要

例撲殺人雇上何人ニ付何程撲殺野犬買上何頭一頭何程等撲殺費ノ内譯ヲ詳記スルコト

右之通支出候條相當ノ補助金御下付相成度候也

年月日 何郡何町(村) 何 某 ㊦

知事宛 [千葉縣]

航空機飛行狀況通報ニ關スル件

(大正九年八月 保第五一五八號)

今回左記事項通報方航空局長官ヨリ照會越候條爾今其署部内ニ於テ航空機飛行ノ場合ハ其都度左記事項直接航空局宛通報相成度此段及通牒候也

左記

航空月日

航空ノ目的

航空經營者氏名

航空機操縦者氏名

航空ノ區間、距離及所要時間

航空機ノ型式、製造所名

航空ノ成績其ノ他ノ情況

民間航空機ノ事故調査ニ關スル件

(大正九年十月 保第五九六一號)

民間航空機ノ墜落其ノ他重大ナル事故發生シタル場合ノ報告並ニ其ノ取扱方ニ關シ別紙寫ノ通牒有之候ニ付テハ爾今各署ハ該通牒ニ基キ相當措置セラル、様相成度此段及通牒候也

別紙

航空局發第五〇號

民間航空機ノ事故調査ニ關スル件通牒

大正九年九月三十日

千葉縣知事 折原巳一郎殿

民間航空機ノ墜落其ノ他重大ナル事故發生シタル場合ニハ之カ原因調査ノ

第二編 保安 行政 第一章 安寧

航空局長官 山梨半造

一六三

必要有之候條左記ニ依リ措置相成様致度右依命通牒候也

左記

一 事故發生地ノ地方官憲ハ直接其ノ概要ヲ航空局ニ電報スルコト

二 航空局ハ前項ノ電報ニ接シタルトキハ原因調査ノ爲直ニ事務官又ハ技師ヲ該地ニ派遣スルコト

事務官又ハ技師ヲ派遣セサルトキハ其ノ旨航空局ヨリ同地方官憲ニ直接電報ス此ノ場合ニ在リテハ地方官憲ハ出來得ル限リ原因ヲ調査シ之ヲ別表航空機事故調査表ニ記入シ且成ルヘク寫眞ヲ附シ航空局ニ送付スルコト

三 航空機事故調査表ハ其ノ都度航空局ヨリ地方官憲ニ送付スルコト

航空局事務官又ハ技師カ現場ニ到達スル迄ハ傷害救護ノ爲必要アルモノヲ除クノ外器材ハ成ルヘク現狀ノ儘存置スルコト

若シ已ムテ得サル事由ニ依リ前項事務官又ハ技師ノ到達前之カ處置ヲ爲ス必要アル場合ニハ寫眞撮影其ノ他ノ方法ニ依リ努メテ原因調査ノ參考資料ヲ蒐集保管スルコト

航空機事故調査表

調査官

第 號

項目 記 事

事項發 生月日 大正 年 月 日 午前 午後 時 分

天 候 晴、曇、雨等 風力 北ノ風力約十米

場 所 何府、縣、市、町村、畑中、野原、水田等

風向 風向時々變更シツ、アリ

一六三

故障 體機	原因ノ故障	故障時ノ 狀況	航 空 機 種 類 及 性 能		
			機 體	機 體	
一 胴體ノ外全ク元形ヲ止メズ破損ス 一 著陸裝置ノミ破損	一 急回轉ヲナシタルニ高度低ク且速力少カリシ爲メ墜落セシモノ、如シ 一 左翼取付部材料不良ノ爲メ折損シタルニヨルモノト認ム	一 天候不良着陸ノ際轉覆ス 一 高度約五百米突ニ於テ機翼(左方)折損墜落ス	檢 査 式 證 型 式 證 檢 査 式 證 檢 査 式 證	機 體 機 體 機 體 機 體	機 體 機 體 機 體 機 體
			螺 旋 器 冷 却 器 回 轉 數 一〇〇〇、節二米、徑二米、材料 北海 道 クルミ	檢 査 式 證 檢 査 式 證 檢 査 式 證 檢 査 式 證	機 體 機 體 機 體 機 體

考 備	歴略士操	航 空 機 經 歴				後ノ狀況	
		機 體	機 體	機 體	機 體	者 乘 搭	機 動 發
一 地方官憲ニ調査ヲ委託シタル場合ニアリテハ 一 航空機ノ種類及性能欄ニハ檢査證記入事項ノミヲ 一 正確ニ記入スル事 一 縦士略歴欄ニハ免狀記入事項ノミヲ正確ニ記入 一 航空機經歷ハ記註ヲ要セサル事 一 三 航空機經歷ハ記註ヲ要セサル事 一 傍訓ハ記載例ヲ示ス	大正 年 月 日 履歴概要 免狀種類 免狀受領 日 青 山ニ於テ不時著陸	主ナル 飛行時數 時 分	製 造 年 月 日 製 造 所 及 設 計 者 所 有 者 姓 名 及 住 所	製 造 年 月 日 製 造 所 及 設 計 者 所 有 者 姓 名 及 住 所	一 頭部ニ重傷ヲ負ヒ即死	一 元形ヲ存セサル迄ニ破損	

〔千葉著〕

第二章 風

俗

第二章 風俗

第一節 演藝及觀物

●演藝取締規則

(明治四十四年一月 縣令第九號)

(沿革)大正二年一月縣令第一一號改正

第一章 通則

第一條 本則ニ於テ演藝ト稱スルハ演劇、相撲、輕業、力持、獨樂廻、擊劍、曲乘、足藝、手品、劍舞、手踊、獅子舞、太神樂、操人形、善音器、義太夫節、浪花節、源氏節、祭文、唄、講談、落語其ノ他ノ技藝ヲ演スルモノヲ謂フ

第二條 本則ニ於テ演藝場ト稱スルハ演藝ヲ爲シ公衆ニ觀覽又ハ聽聞セシムルヲ業トスル場所ヲ謂フ

第三條 演藝場ヲ分チテ劇場、寄席、諸藝場ノ三種トス

第四條 演藝場ヲ建設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第二號、第四號、第六號、第七號、第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 持主ノ住所、身分、氏名及生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所在地及代表者ノ氏名

二 演藝場ノ種類

三 演藝場ノ名稱

四 建設ノ場所

五 演藝場ノ周圍百二十間以内ニ於ケル建物、道路等ノ距離但シ其ノ平面圖ヲ添附スヘシ

六 演藝場ノ前面圖、側面圖、後面圖及平面圖但シ平面圖ニハ其ノ間取、坪數等ヲ記載スヘシ

【千葉縣】

七 演藝場ノ構造仕様書

八 燈火ノ種類、位置及其ノ裝置

九 來客定員但シ階上棧敷、階上立見場及階下等ニ區別スヘシ

十 工事落成期日

前項ノ許可ヲ受ケタル者工事落成シタルトキハ使用前所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出テ建物ノ構造設備等ノ検査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條 演藝場ハ官廳、公署、學校、病院ヲ距ル百二十間以上ノ地ニ非サレハ之ヲ建設スルコトヲ得ズ但土地ノ狀況又ハ建物ノ構造設備其ノ他情狀ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 演藝場ニ於ケル燈火ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

一 電燈又ハ瓦斯燈營業者アル場所ニ在リテハ之等ノ燈火ヲ使用スルコト

二 電燈又ハ瓦斯燈ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ消滅ノ場合ニ於テ之ニ代ユヘキ燈火ノ設備ヲ爲スコト

三 瓦斯燈ニハ適當ノ場所ニ遮斷器ヲ備フルコト

四 燃質物ニ接近セル部分ニ對シテハ適當ノ防火設備ヲ爲スコト

五 石油ヲ使用スルモノニ在リテハ火止石油ヲ用ユルコト

六 石油ヲ用ユル燈火器ノ油壺ハ金屬性ノ物質ヲ用ユルコト

七 石油ヲ用ユル燈火器ノ釣具ハ不燃質物ヲ用ユルコト

第八條 演藝場持主ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

一 演藝場ノ廢止

二 演藝場持主又ハ其ノ住所、氏名ノ變更

- 三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
- 四 演藝場ノ名稱ノ變更
- 五 燈火ノ種類、位置又ハ其ノ裝置ノ變更
- 演藝場ヲ買受ケ、讓受ケ又ハ其ノ持主死亡シ若ハ住所不明トナリタルニ依リ新ニ其ノ持主トナリタル者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ但シ其ノ買受ケ、讓受ケノ場合ニ於テハ舊持主ノ連署ヲ要ス
- 第九條 演藝場持主ハ來客定員及第六十一條ノ事項ヲ演藝場内ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ
- 第十條 演藝場持主ハ來客ノ用ニ供スル座布團、火鉢、行火、煙草盆等ノ使用料ヲ演藝場内ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ
- 第十一條 演藝場持主ハ演藝場ニ公安、風俗ヲ害スヘキ書畫其ノ他ノ物件ヲ掲出スルコトヲ得ス
- 第十二條 演藝場持主ハ火防取締規則及明治三十七年内務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件並ニ肺結核豫防規程ノ當該條項ヲ遵守スヘシ
- 第十三條 演藝場持主ハ來客ノ用ニ供スル座布團、火鉢、行火、煙草盆、飲食器具等ハ常に清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第十四條 演藝場持主ハ便所ノ手洗水ヲ常に清潔ナラシムヘシ
- 第十五條 演藝場持主ハ來客ニ共用セシムル目的ヲ以テ便所等ニ手拭ヲ備フルコトヲ得ス
- 第十六條 演藝場持主ハ演藝場ヲ演藝又ハ觀物以外ノ集會ニ使用セムトスルトキハ其ノ目的、日時等ヲ具シ使用前所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ第四十三條、第四十五條第四號、第七號、第八號、第十四號乃至第十六號、第十九號乃至第二十一號ノ演藝興行者ニ關スル規定ハ演藝場持主ニ之ヲ準用ス
- 第十七條 演藝場持主ハ演藝場ノ構造、設備ニシテ破損セルモノハ速ニ改造又ハ修繕スヘシ

- 第十八條 知事ハ吏員ヲ派シ演藝場ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ演藝場持主ニ對シ之カ改造、修繕、設備、掃除ヲ命シ又ハ來客定員ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第十九條 警察官署ハ演藝場ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ演藝場持主ニ對シ之カ修繕、設備、掃除ヲ命シ又ハ一時其ノ使用ヲ停止シ若ハ一時來客定員ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ知事ニ於テ演藝場ノ使用ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ
 - 一 演藝場持主ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキ
 - 二 演藝場持主ニシテ他人ニ名儀ヲ假スノ事實アリト認メタルトキ
 - 三 演藝場ノ構造ニ危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ
- 第二十一條 劇場
 - 一 建物ノ前面出入口ハ幅九尺以上ノ道路ニ面スルコト
 - 二 建物ノ前面ノ道路ニ對シ九尺以上ノ空地ヲ存シ其ノ側面及後面ハ六尺以上ノ空地ヲ存スルコト
 - 三 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他ノ不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
 - 四 建物ノ前面出入口ハ幅十二尺以上ト爲スコト但シ前面出入口二箇所以上アルモノハ合セテ十二尺以上ト爲スコトヲ妨ケス
 - 五 階上立見場ノ出入口ハ二箇所以上別ニ之ヲ設ケ幅ハ各四尺以上ト爲スコト
 - 六 建物ノ兩側面ニハ各幅六尺以上ノ非常口ヲ設ケルコト但シ各側面ニ非常口二箇所以上アルモノハ合セテ六尺以上ト爲スコトヲ妨ケス
 - 七 非常口ニハ其ノ旨ヲ明瞭ニ表示セル標札ヲ設ケルコト
 - 八 出入口及非常口ノ戸ハ外開キ戸又ハ引キ戸ト爲スコト

- 九 客席ニハ天井ヲ設ケルコト
- 十 棧敷、廊下、立見場等ノ天井ハ其ノ床面ヨリ六尺以上ノ高サヲ存スルコト
- 十一 階上棧敷及階上立見場ニハ各二箇以上ノ階段ヲ設ケルコト但シ階段ハ螺旋狀ノ構造ヲ避ケ適當ノ勾配ヲ付シ且成ルヘク反對ノ位置ニ之ヲ設ケヘシ
- 十二 棧敷ノ階段ハ幅四尺以上、階上立見場ノ階段ハ幅三尺以上トシ堅固ナル手摺ヲ附スルコト但シ階段ノ幅又ハ勾配ノ狀況ニ依リ墜落ノ虞ナキモノハ手摺ヲ附スルコトヲ要セス
- 十三 棧敷ノ階段ハ蹴上ケ六寸以内、踏段縱八寸以上ト爲スコト
- 十四 階上棧敷等ニシテ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト
- 十五 棧敷及平場ハ一人ノ座席一尺六寸平方以上ト爲スコト
- 十六 立見場ハ一坪ニ付十五人以上ノ收容スルコト
- 十七 棧敷及平場ニハ容易ニ出入シ得ル樣適當ノ箇所ニ幅一尺以上ノ通路ヲ設ケルコト但シ階上兩側棧敷ノ通路ハ幅二尺以上ト爲スヘシ
- 十八 平場ノ床ハ地面ヨリ高サ一尺以上ト爲スコト
- 十九 客席ニハ適當ナル換氣裝置ヲ爲シ日光線ヲ射入シ得ル構造ヲ爲スコト
- 二十 客席ハ三階以上ニ之ヲ設ケサルコト
- 二十一 場内ヲ見透シ得ル場所ニ警察官吏ノ臨監座ヲ設ケルコト
- 二十二 樂屋ニハ容易ニ屋外ニ出入シ得ル樣幅六尺以上ノ出入口ヲ設ケルコト但シ階上ニ在ルモノハ幅三尺以上ノ階段二箇以上ヲ設ケヘシ
- 二十三 樂屋及演藝人休憩所ハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト

- 二十四 火鉢、行火、煙草盆、座布團等ノ置場ヲ設ケルコト
- 二十五 風呂場、火焚場其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ニ對シ適當ナル防火設備ヲ爲スコト
- 二十六 建物ニ應ジ適當箇數ノ輕便消火器ヲ備ヘ又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スコト
- 二十七 適當箇數ノ唾壺ヲ備フルコト
- 二十八 風呂場ハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
- 二十九 風呂場ノ洗場ハ石、敲又ハ厚板等ヲ以テ敷設シ適當ノ勾配ヲ附シ汚水ハ汚水溜若ハ下水溝ニ流入セシムル構造ヲ爲スコト
- 三十 風呂場ニハ煙筒ヲ設ケルコト
- 三十一 適當箇數ノ便所ヲ設ケルコト
- 三十二 便所ハ井戸ニ對シ相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設ケルコト
- 三十三 便所ハ客席ニ對シ臭氣ノ及ハサル程相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設ケルコト
- 三十四 便所ニ於ケル壁ノ内面ハ色壁塗、砂利塗トシ又ハ板張、陶磁器張ト爲スコト
- 三十五 便所ノ床ハ板張又ハ陶磁器張ト爲スコト
- 三十六 便所ニハ採光、換氣ヲ充分ナラシムル爲成ルヘク大ニシテ但開閉シ得ル窓(キ戸ヲ用ユ)ヲ大便所及小便所ノ各上部ニ設ケルコト但シ大便所ニ在リテハ尙下部ノ床面ニ直接シ上部ニ比シテ小ナル窓(キ戸ヲ用ユ)ヲ設ケヘシ
- 三十七 便所ノ戸ニハ内外トモ横張ヲ設ケルコト
- 三十八 便所ニ於ケル「キンカクシ」及朝顔ハ陶磁器ヲ用ユルコト
- 三十九 便所ニ於ケル尿溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不透質物ヲ以テ構造スルコト
- 四十 大便所ニハ金屬其ノ他適當ノ材料ヲ以テ煙筒類似ノ臭氣抜キ便壺

附近(臭氣抜ノ口ヲ下方ニ突出)ヨリ外部ニ向ケ設クルコト但シ臭氣抜ノ高サハ附近ノ建物ニ對シ臭氣ノ及ハサル程度ニ之ヲ設クヘシ

四十一 小便所ニハ便壺ノ上部三尺五寸以上ノ高サニ適當ノ覆ヲ設ケ之ニ金屬其ノ他適當ノ材料ヲ以テ煙筒類似ノ臭氣抜ヲ附シ外部ニ突出セシメ又ハ之ヲ天井ノ上部ニ突出セシムルコト

四十二 汚水溜、汚水溝ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ且臭氣ノ發散セサル様適當ナル覆蓋ヲ設クルコト

第二十二條 劇場所在地ニ在リテハ假設演藝場ニ於テ演劇ヲ興行スルコトヲ得ス但シ止ムコトヲ得サル事由アルモノハ警察官署ニ於テ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 寄席

第二十三條 寄席ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ前面出入口ハ幅六尺以上ノ道路ニ面スルコト
- 二 建物ノ側面及後面ハ三尺以上ノ空地ヲ存スルコト
- 三 建物ノ前面出入口ハ幅六尺以上ト爲スコト
- 四 建物ノ側面ニハ幅六尺以上ノ非常口ヲ設クルコト但シ非常口ニ箇所以上アルモノハ合セテ六尺以上ト爲スコトヲ妨ケス
- 五 棧敷、廊下等ノ天井ハ其ノ床面ヨリ六尺以上ノ高サヲ存スルコト
- 六 階上棧敷ニハ階段ヲ設クルコト但シ階段ハ螺旋狀ノ構造ヲ避ケ適當ノ勾配ヲ附シ其ノ二箇以上アルモノハ成ルヘク反對ノ位置ニ之ヲ設クヘシ
- 七 棧敷ノ階段ハ幅三尺以上トシ堅固ナル手摺ヲ附スルコト但シ階段ノ幅又ハ勾配ノ狀況ニ依リ墜落ノ虞ナキモノハ手摺ヲ附スルコトヲ要セズ
- 八 棧敷及平場ハ一人ノ座席一尺六寸平方以上ト爲スコト

第二十一條第三號、第七號乃至第九號、第十三號、第十四號、第十八號

〔千葉警〕

乃至第二十一號、第二十三號、第二十四號、第二十六號、第二十七號、第三十一號乃至第四十一號ノ規定ハ寄席ニ之ヲ準用ス

第二十四條 寄席所在地ニ在リテハ假設演藝場ニ於テ義太夫節、浪花節、講談等ノ演藝ヲ興行スルコトヲ得ス但シ止ムコトヲ得サル事由アルモノハ警察官署ニ於テ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 諸藝場

第二十五條 劇場、寄席以外ノ諸藝場ノ構造、設備ニ關シテハ第二十一條第十六號、第二十五號、第二十八號及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第五節 興行

第二十六條 演藝興行ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事實ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第一號、第六號ノ事項ヲ變更シ又ハ第七號ノ興行日數ヲ增加シ若ハ第八號ノ木戸錢、席料、下足料等ヲ増額セムトスルトキ亦同シ

- 一 興行者ノ住所、氏名、生年月日
- 二 演藝ノ種類
- 三 演藝ノ名稱又ハ假設演藝場ノ場所但シ演藝場ニ在リテハ其ノ持主ノ連署ヲ要ス
- 四 假設演藝場ニ在リテハ其ノ坪數及來客定員但シ棧敷、土間等ノ區別アルモノハ之ヲ區別シテ記載スヘシ
- 五 演藝人ノ藝名及氏名
- 六 演劇ニ在リテハ其ノ脚本、義太夫節、浪花節、講談等ニ在リテハ其ノ筋書
- 七 興行ノ期日、日數及其ノ終始時間
- 八 木戸錢、席料、下足料等ヲ收受スルモノニ在リテハ其ノ金額但シ滿五歳以上十四歳未滿ト滿十四歳以上トニ區別スヘシ
- 九 神佛祭典等ニ際シ寄附スルモノ又ハ復習等ニ係ルモノニシテ木戸

〔千葉警〕

錢、席料、下足料等ヲ收受セサルモノハ其ノ事由

十 慈惠金又ハ資金醱集ノ爲ニスルモノニ在リテハ金額ヲ受クヘキモノノ住所、氏名又ハ名稱及其ノ事由、收支豫算、第三十八條第一項ノ豫定金額並ニ金額交付ノ方法

假設演藝場ニ於テ興行ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者ハ工事落成後所轄警察官署ニ届出テ建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第二十八條 第二十六條ノ許可ヲ申請シタル者アル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察官署ニ於テ演藝ノ興行ヲ許可セサルコトアルヘシ

- 一 興行ニ關シ濫ニ入場券、觀覽券其ノ他ノ物品ヲ配附スル虞アルトキ
- 二 演藝ノ内容カ第三十五條ニ違反スル虞アルトキ
- 三 慈惠金又ハ資金醱集ノ爲ニスルモノニ在リテハ收支債ハサル場合ニ於テ豫定金額ヲ交付セサル虞アリト認ムルトキ
- 四 慈惠金又ハ資金醱集ノ爲ニスルモノニ在リテハ豫定金額ヲ超過スル收益アル場合ニ於テ其ノ全部ヲ交付セサル虞アリト認ムルトキ
- 五 慈惠金又ハ資金醱集ノ爲ニスルモノニ在リテハ適當ノ出費ノ虞アリト認ムルトキ
- 六 前各號ノ外興行者ニ關スル法定義務ノ履行ニ不適當ナリト認ムルトキ

第二十九條 假設演藝場ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ前面出入口ハ幅六尺以上ノ道路ニ面スルコト
- 二 建物ノ側面及後面ハ三尺以上ノ空地ヲ存スルコト
- 三 建物ノ側面ニハ幅六尺以上ノ非常口ヲ設クルコト
- 四 人家稠密ノ場所ニ在リテハ建物ノ屋根又ハ周圍ニ落葉若ハ莖ヲ使用セ

サルコト

- 五 棧敷ハ墜落又ハ顛倒ノ虞ナキ様堅固ニ構造シ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト
- 六 棧敷及土間ハ一人ノ座席一尺六寸平方以上ト爲スコト但シ土間ハ濕氣ノ透ラサル様設備スヘシ
- 七 立見場ハ一坪ニ付十五人以上ヲ收容スルコト
- 八 場内ヲ見透シ得ル場所ニ警察官吏ノ臨監督ヲ設クルコト
- 九 樂屋、演藝人休憩所及風呂場ハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
- 十 風呂場、火焚場其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ニ對シ適當ナル防火設備ヲ爲スコト
- 十一 適當箇數ノ便所ヲ設クルコト
- 十二 便所ハ客席ニ對シ臭氣ノ及ハサル様相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト

第三十條 演藝興行者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ豫メ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 演藝人ノ變更
- 二 興行ノ期日又ハ其ノ終始時間ノ變更

第三十一條 演藝興行者ハ電氣又ハ火藥等ヲ使用スル演藝ヲ爲サムトスルトキハ豫メ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第三十二條 演藝興行者ニシテ演藝場ヲ假設シタルトキハ演藝終了後五日以内ニ之ヲ除却スヘシ

警察官署ハ前項ニ依ルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ演藝興行者ニ對シ演藝終了後三十日以内ヲ限リ除却期限ノ延期ヲ承認スルコトヲ得

第三十三條 慈惠金又ハ資金醱集ノ爲ニスル演藝興行者ハ收支決算書及交

付金領收書ノ寫ヲ添ヘ演藝終了後五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
第三十四條 演藝興行者ハ十二歳ニ滿タサル者ヲシテ演藝ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ其ノ義務教育ニ妨ケナキ範圍ニ於テ演藝ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 演藝興行者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル演藝ヲ興行スルコトヲ得ス
一 犯罪ヲ誘致又ハ助長スルノ虞アルモノ
二 猥褻又ハ慘酷ニ涉ルモノ
三 濫ニ時事ヲ諷刺シ又ハ政談ニ紛ハシキモノ
四 前各號ノ外公安、風俗ヲ害スルノ虞アルモノ

第三十六條 演劇ニ非サル演藝興行者ハ演劇類似ノ所作ヲ爲サシムルコトヲ得ス
第三十七條 演藝ハ日出ヨリ午後十二時迄ノ間ニ非サレハ之ヲ興行スルコトヲ得ス

第三十八條 慈善金又ハ資金集積ノ爲ニスル演藝興行者ハ一定ノ金額ヲ豫定シ收支償ハサル場合ト雖モ其ノ金額ヲ受クヘキモノニ之ヲ交付スヘシ
第三十九條 前項ノ演藝興行者ハ豫定金額ヲ超過スル收益アル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ受クヘキモノニ其ノ收益ノ全部ヲ交付スヘシ

第四十條 演藝興行者ハ來客ニシテ疾病ニ罹リタル者アルトキハ特ニ懇切ニ取扱フヘシ
第四十一條 演藝興行者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ來客ニ接スルトキハ言語動作ノ鄙褻又ハ不親切ニ涉ラサル様注意スヘシ

コト
十三 興行中ハ全然客席ヲ暗黒ニセサルコト
十四 興行中夜間ハ廊下、便所等ニ暗黒ナラサル様燈火ヲ點スルコト
十五 興行中ハ演藝場又ハ假設演藝場内ニ於テ濫ニ焚火セサルコト
十六 興行中來客ノ用ニ供シタル火鉢、行火、煙草盆等ハ火氣ノ消滅シタル後ニ非サレハ之ヲ重テ置カサルコト

十七 興行中樂屋又ハ演藝人休憩所ニ來客ヲ出入セシメサルコト
十八 興行中演藝人(相撲ヲ)ヲ客席ニ出入セシメサルコト
十九 興行中ハ建物ノ前面出入口ヲ閉鎖セサルコト
二十 興行中ハ非常口ニ錠前又ハ門等ヲ施シ若ハ其ノ通路等ニ障害物ヲ置カサルコト

二十一 興行中演藝場又ハ假設演藝場ノ近傍ニ火災アルトキハ直ニ非常口ヲ開放シ遠隔ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ方向ヲ來客ニ告グルコト
第四十六條 演藝興行者ハ烈風ノトキハ興行ヲ中止スヘシ
第四十七條 演藝興行者ハ來客ニシテ第六十一條ニ違反スル行爲ヲ爲シ他ノ來客ニ迷惑ナス者アルトキハ其ノ罷止ヲ注意スヘシ

第四十八條 第十二條ノ規定ハ演藝興行者ニ之ヲ準用ス
第四十九條 演藝興行者ハ左ニ掲グルモノヲ演藝場又ハ假設演藝場ニ入ラシムルコトヲ得ス
一 亂醉者又ハ監護人ノ附添ナキ精神病者
二 保護者ノ附添ナキ七歳未満ノ者
三 犬其ノ他ノ獸類

第五十條 演藝興行者ハ來客ニシテ傳染病預防法第一條ノ傳染病ニ罹リタル疑アル者アルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
第五十一條 演藝興行者ハ傳染性皮膚疾患アル者ヲシテ來客ニ接セシメ又ハ座布団、火鉢、行火、煙草盆、飲食器具等ヲ取扱ハシムルコトヲ得ス

第四十二條 演藝興行者ハ來客ノ退場スルトキハ遺留品ノ有無ニ注意スヘシ
第四十三條 演藝興行者ハ來客ノ所持品紛失シ又ハ盜難ニ罹リ若ハ來客ノ變傷其ノ他ノ異變アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十四條 演藝興行者ハ來客ヲ訪フ者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ取次クヘシ
第四十五條 演藝興行者ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ
一 興行ニ關シ濫ニ入場券、觀覽券其ノ他ノ物品ヲ配附セサルコト
二 興行ニ關シ誇大、虚偽ノ廣告ヲ爲ササルコト
三 興行中ハ木戸錢、席料、下足料等ヲ演藝場又ハ假設演藝場ノ見易キ箇所ニ掲示スルコト但シ木戸錢、席料、下足料等ヲ收受セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 興行中ハ演藝場又ハ假設演藝場ニ於ケル風紀ヲ保持スルコト
五 興行中通行人ニ對シ強テ入場ヲ勸誘セサルコト
六 興行中公衆ニ對シ粗暴、輕侮ニ涉ル言語、形容其ノ他ノ作爲ヲ爲ササルコト
七 興行中定員外ニ來客ヲ入場セシメサルコト但シ十四歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ定員一人ト看做シ五歳未満ノ者ハ定員外トス

八 興行中客席以外ノ場所ニ來客ヲ收容セサルコト
九 興行中ハ貸座敷、引手茶屋、藝妓屋等ノ樓名、屋號又ハ娼妓、藝妓等ノ姓名、藝名等ヲ記載セル引幕ヲ使用セサルコト
十 何等ノ名儀ニ拘ラス來客ニ對シ第二十六條ノ許可ヲ受ケタル木戸錢、席料、下足料等以外ノ金品ノ請求ヲ爲ササルコト
十一 興行中來客ニ對シ不均一ノ景品ヲ配附シ又ハ不均一ニ之ヲ配附セサルコト
十二 演藝中ハ飲食物、飭書、番附等ノ販賣ノ爲濫ニ客席ヲ徘徊セサル

第五十二條 演藝場持主ハ炮發、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘飲食スヘキ物品ヲ陳列販賣シ又ハ陳列販賣セシムル場合ニ於テハ蟲類ノ蟻集若ハ塵埃ノ附著ヲ防止スルニ足ルヘキ覆蓋ヲ設ケ又ハ設ケシムヘシ
第五十三條 演藝場持主ハ興行中客席、廊下、便所其ノ他演藝場ノ内外ヲ毎日掃除シテ清潔ナラシムヘシ
第五十四條 演藝場持主ハ興行中汚水溝、汚水溜ヲ毎月二回以上掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第五十五條 假設演藝場ニ於テ演藝ヲ興行スルモノニ在リテハ第六條、第七條第四號乃至第七號、第九條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第五十二條、第五十三條ノ規定ハ演藝興行者ニ之ヲ準用ス
第五十六條 演藝ニシテ第三十四條乃至第三十六條ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ臨監警察官吏ハ其ノ演藝ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第五十七條 警察官署ハ演藝興行者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ建物ノ構造ニ危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキハ其ノ興行ノ許可ヲ取消シ又ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ
第六章 雜則
第五十八條 演藝人ハ濫ニ人家ニ就キテ演藝ヲ爲スコトヲ得ス
第五十九條 演藝人ハ道路ニ於テ濫ニ演藝ヲ爲スコトヲ得ス
第六十條 七歳ニ滿タサル者ハ保護者ノ附添フ場合ノ外演藝場又ハ假設演藝場ニ入ルコトヲ得ス

第六十一條 演藝場又ハ假設演藝場ニ於ケル來客ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ
一 演藝中濫ニ起立、放談、高話、喧噪其ノ他來客ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲ササルコト
二 物品ヲ抛擲シ又ハ之ヲ放射セサルコト

〔千葉警〕
物品ヲ陳列販賣シ又ハ陳列販賣セシムル場合ニ於テハ蟲類ノ蟻集若ハ塵埃ノ附著ヲ防止スルニ足ルヘキ覆蓋ヲ設ケ又ハ設ケシムヘシ

〔千葉警〕
興行中來客ニ對シ不均一ノ景品ヲ配附シ又ハ不均一ニ之ヲ配附セサルコト

〔千葉警〕
興行中來客ニ對シ不均一ノ景品ヲ配附シ又ハ不均一ニ之ヲ配附セサルコト

〔千葉警〕
興行中來客ニ對シ不均一ノ景品ヲ配附シ又ハ不均一ニ之ヲ配附セサルコト

- 一 三 袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ醜態ヲ爲ササルコト
- 四 濫ニ舞臺等ニ昇リ又ハ花道ヲ徘徊セサルコト
- 五 通路ニ物品ヲ置キ他ノ通行ヲ妨害セサルコト
- 六 出入口、廊下等ニ於テ他ノ來客ノ通行ヲ妨害セサルコト
- 七 樽寸ノ擲擲、煙草ノ吹殻等ヲ濫ニ投棄セサルコト
- 八 樂屋又ハ演藝人休憩所ニ出入セサルコト
- 九 演藝場ヲ汚穢セサルコト

第六十二條 來客ニシテ前條ニ違反スル者アルトキハ臨監警察官吏ハ之ヲ制止シ若クセサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第七章 罰則

- 第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
 - 一 第四條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ演藝場ヲ建設シタル者
 - 二 第四條第二項、第二十六條第二項ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル建物ヲ使用シテ興行ヲ爲シタル者
 - 三 第十七條、第三十四條乃至第三十六條、第三十八條、第四十五條第一號、第四號、第五號、第七號、第八號、第十號、第十六號乃至第二十號、第四十九條、第五十一條ニ違反シタル者
 - 四 第二十條ノ禁止又ハ停止中演藝場ヲ使用シタル者
 - 五 第二十六條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ興行ヲ爲シタル者
 - 六 第五十六條ノ中止ノ命ニ違反シテ演藝場ヲ爲シタル者
 - 七 第五十七條ノ停止中興行ヲ爲シタル者
- 第六十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス
 - 一 第十三條、第十五條、第四十四條、第四十五條第十三號、第十四號、第二十一號ニ違反シタル者

- 二 第十八條ノ演藝場ノ構造、設備等ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ改造、修繕、設備、掃除ノ命ニ從ハス若ハ來客定員ノ制限ノ命ニ從ハサル者
- 三 第十九條ノ演藝場ノ構造、設備等ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ修繕、設備、掃除ノ命ニ從ハス若ハ一時其ノ使用ノ停止、來客定員ノ制限ノ命ニ從ハサル者

第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 第七條第二號、第四號、第五號、第七號、第九號、第十四條、第三十一條、第三十二條第一項、第三十三條、第三十七條、第四十三條、第五十八條、第六十一條第七號、第八號ニ違反シタル者
- 二 第十六條第一項ノ届出テヲ爲サスシテ演藝場ヲ演藝又ハ觀物以外ノ集會ニ使用シタル者
- 第六十六條 第八條、第十條、第十一條、第三十條、第四十五條第三號、第九號ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第六十七條 第十六條第二項ニ依リ演藝場持主ニ準用シタル規定ニシテ第六十三條乃至第六十六條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ハ之ヲ其ノ持主ニ科ス
- 第六十八條 第五十五條ニ依リ演藝興行ニ準用シタル規定ニシテ第六十三條乃至第六十六條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ハ之ヲ其ノ演藝興行者ニ科ス
- 第六十九條 演藝場持主又ハ演藝興行者カ十四歳未滿ノ者若ハ禁治産者ナルトキハ前六條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
- 第七十條 演藝場持主又ハ演藝興行者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

〔千葉縣〕

〔千葉縣〕

第七十一條 本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

- 第七十二條 從前ノ建設ニ係ル劇場、寄席其ノ他演藝場ノ持主ニシテ本則施行後引續キ該演藝場ヲ興行ニ使用セムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第四條第一項第一號乃至第九號、第五條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ
- 第七十三條 從前ノ建設ニ係ル劇場ニシテ第六條、第二十一條第一號乃至第六號、第九號乃至第十三號、第十七號、第十八號、第二十號、第二十二號、第三十二號ノ制限ニ適合セサルモノハ其ノ建物ノ改築又ハ大修繕ヲ爲スニ至ル迄其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第七十四條 從前ノ建設ニ係ル劇場ニシテ第二十一條第七號、第八號、第十四號、第十九號、第二十一號、第二十三號乃至第二十五號、第二十八號乃至第三十一號、第三十三號乃至第四十二號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十四年六月三十日迄ニ之ヲ改造シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ検査ヲ申請スヘシ
- 第七十五條 從前ノ建設ニ係ル寄席又ハ劇場、寄席以外ノ演藝場ニシテ第六條、第二十三條第一項ノ制限ニ適合セス若ハ第二十三條第二項、第二十五條ニ依リ寄席又ハ劇場、寄席以外ノ諸藝場ニ準用シタル第二十一條第三號、第九號、第十三號、第十八號、第二十號、第三十二號ノ制限ニ適合セサルモノハ其ノ建物ノ改築若ハ大修繕ヲ爲スニ至ル迄其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第七十六條 從前ノ建設ニ係ル寄席又ハ劇場、寄席以外ノ演藝場ニシテ第二十三條第二項、第二十五條ニ依リ寄席若ハ劇場、寄席以外ノ演藝場ニ準用シタル第二十一條第七號、第八號、第十四號、第十九號、第二十一條

● 觀物取締規則

(明治四十四年一月二十七日) 縣令第十號

(沿革) 大正二年二月縣令第一號改正

- 第一章 通則
 - 第一條 本則ニ於テ觀物ト稱スルハ、猿馬、幻燈、活動寫眞、眼鏡、鳥獸遺、動植物、人形、パノラマ、社寺山岳橋梁等ノ模造其ノ他之ニ類スル物ヲ公衆ニ觀覽セシムルモノヲ謂フ
 - 第二條 本則ニ於テ觀物場ト稱スルハ觀物ヲ爲シ公衆ニ觀覽セシムルヲ遊トスル場所ヲ謂フ
 - 第二章 觀物場
 - 第三條 觀物場ヲ建設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第三號、第五號、第六號、第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 - 一 持主ノ住所、身分、氏名及生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名

- 二 觀物場ノ名稱
 - 三 建設ノ場所
 - 四 觀物場ノ周圍百二十間以內ニ於ケル建物、道路等ノ距離但シ其ノ平面圖ヲ添附スヘシ
 - 五 觀物場ノ前面圖、側面圖、後面圖及平面圖但シ平面圖ニハ其ノ間取、坪數等ヲ記載スヘシ
 - 六 觀物場ノ構造仕様書
 - 七 燈火ノ種類、位置及其ノ裝置
 - 八 來客定員
 - 九 工事落成期日
- 前項ノ許可ヲ受ケタル者工事落成シタルトキハ使用前所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出テ建物ノ構造設備等ノ檢査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第四條** 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第五條** 觀物場ハ官廳、公署、學校、病院ヲ距ル百二十間以上ノ地ニ非サレハ之ヲ建設スルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況又ハ建物ノ構造、設備其ノ他ノ情狀ニ依リ本條ノ制限ニ拘ラス特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第六條** 觀物場ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ
- 一 建物ノ前面出入口ハ幅六尺以上ノ道路ニ面スルコト
 - 二 建物ノ側面及後面ハ三尺以上ノ空地ヲ存スルコト
 - 三 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
 - 四 建物ノ前面出入口ハ幅六尺以上ト爲スコト
 - 五 建物ノ側面ニハ幅六尺以上ノ非常口ヲ設クルコト但シ非常口二箇所以上アルモノハ合セテ六尺以上ト爲スコトヲ妨ケス
 - 六 非常口ニハ其ノ旨ヲ明瞭ニ表示セル標札ヲ設クルコト

- 七 出入口及非常口ノ戸ハ外開キ戸又ハ引キ戸ト爲スコト
- 八 客席ニハ天井ヲ設クルコト
- 九 棧敷、廊下等ノ天井ハ其ノ床面ヨリ六尺以上ノ高サヲ存スルコト
- 十 階上棧敷ニハ階段ヲ設クルコト但シ階段ハ螺旋狀ノ構造ヲ避ケ適當ノ勾配ヲ附シ其ノ二箇以上アルモノハ成ルヘク反對ノ位置ニ之ヲ設クヘシ
- 十一 棧敷ノ階段ハ幅三尺以上トシ堅固ナル手摺ヲ附スルコト但シ階段ノ幅又ハ勾配ノ狀況ニ依リ墜落ノ虞ナキモノハ手摺ヲ附スルコトヲ要セス
- 十二 棧敷ノ階段ハ蹴上ケ六寸以內、踏段縱八寸以上ト爲スコト
- 十三 階上棧敷等ニシテ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト
- 十四 棧敷及平場ハ一人ノ座席一尺六寸平方以上ト爲スコト
- 十五 立見場ハ一坪ニ付十五人以內ヲ收容スルコト
- 十六 平場ノ床ハ地面ヨリ高サ一尺以上ト爲スコト
- 十七 客席ニハ適當ナル換氣裝置ヲ爲シ且光線ヲ射入シ得ル構造ヲ爲スコト
- 十八 客席ハ三階以上ニ之ヲ設ケサルコト
- 十九 場内ヲ見透シ得ル場所ニ警察官吏ノ臨監視ヲ設クルコト
- 二十 説明人等ノ休憩所ハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
- 二十一 火鉢、行火、煙草盆、座布團ノ置場ヲ設クルコト
- 二十二 風呂場、火焚場其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ニ對シ適當ナル防火設備ヲ爲スコト
- 二十三 建物ニ應シ適當箇數ノ輕便消火器ヲ備ヘ又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スコト

- 二十四 適當箇數ノ煙草ヲ備フルコト
- 二十五 風呂場ヲ設クルモノニ在リテハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
- 二十六 適當箇數ノ便所ヲ設クルコト
- 二十七 便所ハ井戸ニ對シ相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト
- 二十八 便所ハ客席ニ對シ臭氣ノ及ハサル様相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト
- 二十九 便所ニ於ケル壁ノ内面ハ色壁塗、砂利塗トシ又ハ板張、陶磁器張ト爲スコト
- 三十 便所ノ床ハ板張又ハ陶磁器張ト爲スコト
- 三十一 便所ニハ採光、換氣ヲ充分ナラシムル爲成ルヘク大ニシテ且開閉シ得ル窓ヲ附シテ之ヲ用ユ
- 但シ大便所ニ在リテハ尙下部ノ床面ニ直接シ上部ニ比シテ小ナル窓ヲ附シテ之ヲ用ユ
- 三十二 便所ノ戸ニハ内外トモ横張ヲ設クルコト
- 三十三 便所ニ於ケル「キンカクシ」及朝顔ハ陶磁器ヲ用ユルコト
- 三十四 便所ニ於ケル尿溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造スルコト
- 三十五 大便所ニハ金屬其ノ他適當ノ材料ヲ以テ煙筒類似ノ臭氣拔テ便臺附近ニ臭氣拔ノ口ヲ下方ニ突出シヨリ外部ニ向ケ設クルコト但シ臭氣拔ノ高サハ附近ノ建物ニ對シ臭氣ノ及ハサル程度ニ之ヲ設クヘシ
- 三十六 小便所ニハ便臺ノ上部三尺五寸以上ノ高サニ適當ノ覆ヲ設ケ之ニ金屬其ノ他適當ノ材料ヲ以テ煙筒類似ノ臭氣拔ヲ附シ外部ニ突出セシメ又ハ之ヲ天井ノ上部ニ突出セシムルコト
- 三十七 競馬ニアリテハ馬場ノ周圍ニ馬匹ノ逸走ヲ防クニ足ルヘキ堅固

- ナル標識等ヲ設クルコト
- 第七條** 觀物場ニ於ケル燈火ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

 - 一 電燈又ハ瓦斯燈營業者アル場所ニ在リテハ之等ノ燈火ヲ使用スルコト
 - 二 電燈又ハ瓦斯燈ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ消滅ノ場合ニ於テ之ニ代ユヘキ燈火ノ設備ヲ爲スコト
 - 三 瓦斯燈ニハ適當ノ場所ニ遮斷器ヲ備フルコト
 - 四 燃質物ニ接近セル部分ニ對シテハ適當ノ防火設備ヲ爲スコト
 - 五 石油ヲ使用スルモノニ在リテハ火止石油ヲ用ユルコト
 - 六 石油ヲ用ユル燈火器ノ油壺ハ金屬性ノ物質ヲ用ユルコト
 - 七 石油ヲ用ユル燈火器ノ鈎具ハ不燃質物ヲ用ユルコト

- 第八條** 觀物場持主ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

 - 一 觀物場ノ廢止
 - 二 觀物場持主ノ住所、氏名ノ變更
 - 三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
 - 四 觀物場ノ名稱ノ變更
 - 五 燈火ノ種類、位置又ハ其ノ裝置ノ變更

- 觀物場ヲ買受ケ、讓受ケ又ハ其ノ持主死亡シ若ハ所在不明トナリタルニ依リ新ニ其ノ持主トナリタル者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ但シ其ノ買受ケ、讓受ケノ場合ニ於テハ舊持主ノ連署ヲ要ス
- 第九條** 觀物場持主ハ來客定員及第五十三條ノ事項ヲ觀物場内ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ
- 第十條** 觀物場持主ハ來客ノ用ニ供スル座布團、火鉢、行火、煙草盆等ノ使用料ヲ觀物場内ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ
- 第十一條** 觀物場持主ハ觀物場ニ公安、風俗ヲ害スヘキ書畫其ノ他ノ物件ヲ掲出スルコトヲ得ス

- 第十二條 觀物場持主ハ火防取締規則及明治三十七年内務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件並ニ肺結核豫防規程ノ當該條項ヲ遵守スヘシ
- 第十三條 觀物場持主ハ來客ノ用ニ供スル座布團、火鉢、行火、煙草盆、飲食器具等ハ常ニ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第十四條 觀物場持主ハ便所ノ手洗水ヲ常ニ清潔ナラシムヘシ
- 第十五條 觀物場持主ハ來客ニ共用セシムル目的ヲ以テ便所等ニ手拭ヲ備フルコトヲ得ス
- 第十六條 觀物場持主ハ觀物場ノ構造、設備ニシテ破損セルモノハ速ニ改造又ハ修繕スヘシ
- 第十七條 知事ハ吏員ヲ派シ觀物場ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ觀物場持主ニ對シ之カ改造、修繕、設備、掃除ヲ命シ又ハ一時其ノ使用ヲ停止シ若ハ一時來客定員ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第十八條 警察官署ハ觀物場ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ觀物場持主ニ對シ之カ修繕、設備、掃除ヲ命シ又ハ一時其ノ使用ヲ停止シ若ハ一時來客定員ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ知事ニ於テ觀物場ノ使用ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ
 - 一 觀物場持主ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スル事實アリト認メタルトキ
 - 二 觀物場持主ニシテ他人ニ名儀ヲ假スノ事實アリト認メタルトキ
 - 三 觀物場ノ構造ニ危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

第三章 興行

- 第二十條 觀物興行ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第二號、第六號ノ事項ヲ變更シ又ハ第七號ノ興行日數ヲ増加シ若ハ第八號ノ木戶錢、席料、下足料等ヲ増額セムトスルトキ亦同シ
- 一 興行者ノ住所、氏名、生年月日

- 二 觀物ノ種類
- 三 觀物場ノ名稱又ハ假設觀物場ノ場所但シ觀物場ニ在リテハ其ノ持主ノ連署ヲ要ス
- 四 假設觀物場ニ在リテハ其ノ坪數及來客定員但シ棧敷、土間等ノ區別アルモノハ之ヲ區別シテ記載スヘシ
- 五 説明人等ノ氏名
- 六 幻燈、活動寫眞ニ在リテハ其ノ説明書
- 七 興行ノ期日、日數及其ノ終始時間
- 八 木戶錢、席料、下足料等ヲ收受スルモノニ在リテハ其ノ金額但シ滿五歲以上十四歲未滿滿十四歲以上トニ區別スヘシ
- 九 神佛祭典ニ際シ寄附スルモノ其ノ他ニシテ木戶錢、席料、下足料等ヲ收受セザルモノハ其ノ事由
- 十 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスルモノニ在リテハ金額ヲ受クヘキモノ、住所、氏名又ハ名稱及其ノ事由、收支豫算、第三十條第一項ノ豫定金額並ニ金額交付ノ方法
- 十一 觀眼鏡等ニシテ許可ニ係ルモノハ前項第三號、第四號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス
- 十二 假設觀物場ニ於テ興行ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者ハ工事落成後所轄警察官署ニ届出テ建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ受クヘシ
- 第二十一條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第二十二條 第二十條ノ許可申請シタル者アル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察官署ニ於テ觀物ノ興行ヲ許可セザルコトアルヘシ
 - 一 興行ニ關シ濫ニ入場券、觀覽券其ノ他ノ物品ヲ配布スル虞アルトキ
 - 二 觀物ノ内容力第二十八條ニ違反スル虞アルトキ
 - 三 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスルモノニ在リテハ收受價ハサル場合ニ

- 於テ豫定額ヲ交付セザル虞アリト認ムルトキ
- 四 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスルモノニ在リテハ豫定金額ヲ超過スル収益アル場合ニ於テ其ノ全部ヲ交付セザル虞アリト認ムルトキ
- 五 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスルモノニ在リテハ過當ノ出費ノ虞アリト認ムルトキ
- 六 前各號ノ外興行者ニ關スル法定義務ノ履行ニ不適當ナリト認ムルトキ
- 第二十三條 第二十條ノ許可申請者ニシテ幻燈活動寫眞ヲ興行スルモノナルトキハ警察官署ハ之カ試演ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第二十四條 假設觀物場ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ
 - 一 建物ノ前出入口ハ幅六尺以上ノ道路ニ面スルコト
 - 二 建物ノ側面及後面ハ三尺以上ノ空地ヲ存スルコト
 - 三 建物ノ兩側面ニハ各幅六尺以上ノ非常口ヲ設クルコト
 - 四 人家稠密ノ場所ニ在リテハ建物ノ屋根又ハ周圍ニ席若ハ葦ヲ使用セサルコト
 - 五 棧敷ハ墜落又ハ顛倒ノ虞ナキ様堅固ニ構造シ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト
 - 六 棧敷及土間ハ一人ノ座席一尺六寸平方以上ト爲スコト但シ土間ハ濕氣ノ透ラサル様設備スヘシ
 - 七 立見場ハ一坪ニ付十五人以上ヲ收容スルコト
 - 八 場内ヲ見透シ得ル場所ニ警察官吏ノ臨監席ヲ設クルコト
 - 九 説明人等ノ休憩所及風呂場ハ客席又ハ道路等ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
 - 十 風呂場、火焚場其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ニ對シ適當ナル防火設備ヲ爲スコト
 - 十一 適當箇數ノ便所ヲ設クルコト

第二編 保安 行政 第二章 風俗

- 十二 便所ハ客席ニ對シ臭氣ノ及ハサル様相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト
- 十三 競馬ニ在リテハ馬場ノ周圍ニ馬匹ノ逸走ヲ防クニ足ルヘキ堅固ナル柵欄等ヲ設クルコト
- 第二十五條 觀物興行者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ豫メ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ
 - 一 説明人等ノ變更
 - 二 興行ノ期日又ハ其ノ終始時間ノ變更
- 第二十六條 觀物興行者ニシテ觀物場ヲ假設シタルトキハ觀物終了後五日以内ニ之ヲ除却スヘシ
- 警察官署ハ前項ニ依ルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ觀物興行者ニ對シ觀物終了後三十日以内ヲ限り除却期限ノ延期ヲ承認スルコトヲ得
- 第二十七條 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスル觀物興行者ハ收支決算書及交付金額收書ノ寫ヲ添ヘ觀物終了後五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二十八條 觀物興行者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル觀物ヲ興行スルコトヲ得ス
 - 一 犯罪ヲ誘致又ハ助長スルノ虞アルモノ
 - 二 猥褻又ハ慘酷ニ涉ルモノ
 - 三 濫ニ時事ヲ諷刺スルモノ
 - 四 前各號ノ外公安風俗ヲ害スルノ虞アルモノ
- 第二十九條 觀物ハ日出ヨリ午後十二時迄ノ間ニ非サレハ之ヲ興行スルコトヲ得ス
- 第三十條 慈惠金又ハ資金醜集ノ爲ニスル觀物興行者ハ一定ノ金額ヲ豫定シ收受價ハサル場合ト雖モ其ノ金額ヲ受クヘキモノニ之ヲ交付スヘシ
- 前項ノ觀物興行者ハ豫定金額ヲ超過スル収益アル場合ニ於テハ其ノ金額

- ヲ受クヘキモノニ其ノ收益ノ全部ヲ交付スヘシ
- 第三十一條 觀物興行者ハ來客ニ對シテ寧親切ニ取扱フヘシ
- 第三十二條 觀物興行者ハ來客ニシテ疾病ニ罹リタル者アルトキハ特ニ親切ニ取扱フヘシ
- 第三十三條 觀物興行者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ來客ニ接スルトキハ言語、動作ノ鄙猥又ハ不親切ニ涉ラサル様注意スヘシ
- 第三十四條 觀物興行者ハ來客ノ退場スルトキハ遺留品ノ有無ニ注意スヘシ
- 第三十五條 觀物興行者ハ來客ノ所持品紛失シ又ハ盜難ニ罹リ若ハ來客ノ變傷其ノ他ノ異變アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第三十六條 觀物興行者ハ來客ヲ訪フ者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ取次クヘシ
- 第三十七條 觀物興行者ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 興行ニ關シテ濫ニ入場券、觀覽券其ノ他ノ物品ヲ配附セザルコト
 - 二 興行ニ關シテ誇大、虛偽ノ廣告ヲ爲サザルコト
 - 三 興行中ハ木戸錢、席料、下足料等ヲ觀物場又ハ假設觀物場ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト但シ木戸錢、席料、下足料等ヲ收受セザルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 四 興行中ハ觀物場又ハ假設觀物場ニ於ケル風紀ヲ保持スルコト
 - 五 興行中通行人ニ對シテ強テ入場ヲ勸誘セザルコト
 - 六 興行中公衆ニ對シテ粗暴、輕侮ニ涉ル言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲サザルコト
 - 七 猛惡ナル動物ヲ觀物場爲スモノニ在リテハ危害ノ虞ナキ様其ノ柵欄又ハ繫鎖等ヲ堅固ニ構造スルコト
 - 八 興行中定員外ニ來客ヲ入場セシメザルコト但シ十四歳未満ノ者ハ二

- 九 興行中客席以外ノ場所ニ來客ヲ收容セザルコト
- 十 何等ノ名儀ニ拘ラス來客ニ對シテ第二十條ノ許可ヲ受ケタル木戸錢、席料、下足料等以外ノ金品ノ請求ヲ爲サザルコト
- 十一 興行中來客ニ對シ不均一ノ景品ヲ配附シ又ハ不均一ニ之ヲ配附セザルコト
- 十二 興行中ハ全然客席ヲ暗黒ニセザルコト
- 十三 興行中夜間ハ廊下、便所等ニ暗黒ナラサル様燈火ヲ點スルコト
- 十四 興行中ハ觀物場又ハ假設觀物場内ニ於テ濫ニ焚火セザルコト
- 十五 興行中來客ノ用ニ供シタル火鉢、行火、煙草盆等ハ火氣ノ消滅シタル後ニ非サレハ之ヲ重テ置カザルコト
- 十六 興行中說明人等ノ休憩所ニ來客ヲ出入セシメザルコト
- 十七 興行中說明人等ヲ客席ニ出入セシメザルコト
- 十八 興行中ハ建物ノ前面出入口ヲ閉鎖セザルコト
- 十九 興行中ハ非常口ニ錠前又ハ門等ヲ施シ若ハ其ノ通路等ニ障害物ヲ置カザルコト
- 二十 興行中觀物場又ハ假設觀物場ノ近傍ニ火災アルトキハ直ニ非常口ヲ開放シ遠隔ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ方向ヲ來客ニ告グルコト
- 第三十八條 觀物興行者ハ烈風ノトキハ興行ヲ中止スヘシ
- 第三十九條 觀物興行者ハ來客ニシテ第五十三條ニ違反スル行爲ヲ爲シ他ノ來客ニ迷惑ヲ及ス事アルトキハ其ノ罷止ヲ注意スヘシ
- 第四十條 第十二條ノ規定ハ觀物興行者ニ之ヲ準用ス
- 第四十一條 觀物興行者ハ左ニ掲クルモノヲ觀物場又ハ假設觀物場ニ入ラシムルコトヲ得ス
 - 一 亂醉者又ハ監護人ノ附添ナキ精神病者
 - 二 保護者ノ附添ナキ七歳未満ノ者

- 三 犬其ノ他ノ獸類
- 第四十二條 觀物興行者ハ來客ニシテ傳染病豫防法第一條ノ傳染病ニ罹リタル疑アル者アルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第四十三條 觀物興行者ハ傳染性皮膚疾患アル者ヲシテ來客ニ接セシメ又ハ座布團、火鉢、行火、煙草盆、飲食器具等ヲ取扱ハシムルコトヲ得ズ
- 第四十四條 觀物場持主ハ灼煮、洗濯、剥皮等ヲ要セス其ノ儘飲食スヘキ物品ヲ陳列販賣シ又ハ陳列販賣セシムル場合ニ於テハ蟲類ノ蟻集若ハ塵埃ノ附著ヲ防止スルニ足ルヘキ蓋ヲ設ケ又ハ設ケシムヘシ
- 第四十五條 觀物場持主ハ興行中客席、便所其ノ他觀物場ノ内外ヲ毎日掃除シテ清潔ヲラシムヘシ
- 第四十六條 假設觀物場ニ於テ觀物ヲ興行スルモノニ在リテハ第五條、第七條第四號乃至第七條、第九條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第四十四條、第四十五條ノ規定ハ觀物興行者ニ之ヲ準用ス
- 第四十七條 演藝場ニ於テ觀物興行者ニ之ヲ準用ス
- 第四十八條 觀物ニシテ第二十八條ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認めタルトキハ臨監警察官吏ハ其ノ興行ヲ中止セシムルコトアルヘシ
- 第四十九條 警察官署ハ觀物興行者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ建物ノ構造ニ危害ヲ生スルノ虞アリト認めタルトキハ其ノ興行ノ許可ヲ取消シ若ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

- 第五十條 觀物ノ說明人ハ濫ニ人家ニ就キテ觀物ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第五十一條 觀物ノ說明人ハ道路ニ於テ濫ニ觀物ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第五十二條 七歳ニ滿タサル者ハ保護者ノ附添ヲ場合ノ外觀物場又ハ假設觀物場ニ入ルコトヲ得ズ
- 第五十三條 觀物場又ハ假設觀物場ニ於ケル來客ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 觀物ノ說明中濫ニ放談、高話、喧噪其ノ他來客ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲サザルコト
 - 二 物品ヲ抛擲シ又ハ之ヲ放射セザルコト
 - 三 粗褻、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲サザルコト
 - 四 道路ニ物品ヲ置キ他ノ來客ノ通行ヲ妨害セザルコト
 - 五 出入口、廊下等ニ於テ他ノ來客ノ通行ヲ妨害セザルコト
 - 六 燐寸ノ擲投、煙草ノ吹殻等ヲ濫ニ投棄セザルコト
 - 七 說明人等ノ休憩所ニ出入セザルコト
 - 八 觀物場ヲ汚濁セザルコト
- 第五十四條 來客ニシテ前條ニ違反スル者アルトキハ臨監警察官吏ハ之ヲ制止シ若クセザルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五十五條 第四十七條ノ規定ハ本章ニ之ヲ準用ス

第五章 罰則

- 第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
 - 一 第三條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ觀物場ヲ建設シタル者
 - 二 第三條第二項、第二十條第三項ノ許可ヲ受ケズ又ハ之ニ合格セザル建物ヲ使用シテ興行ヲ爲シタル者
 - 三 第十六條、第二十八條、第三十條、第三十七條第一號、第四號、第五號、第七號乃至第十號、第十五號乃至第十九號、第四十一條、第四十三條ニ違反シタル者
 - 四 第十九條禁止又ハ停止中觀物場ヲ使用シタル者
 - 五 第三十條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ興行シタル者
 - 六 第二十三條ノ警察官署ノ命ニ違反シテ幻燈、活動寫眞ノ試演ヲ爲サ

サル者
 七 第四十八條ノ中止ノ命ニ違反シテ觀物ヲ爲シタル者
 八 第四十九條ノ停止中興行ヲ爲シタル者
第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス

一 第十三條、第十五條、第三十六條、第三十七條第十二號、第十三號、第二十號ニ違反シタル者
 二 第十七條ノ觀物場ノ構造、設備等ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ改造、修繕、設備、掃除ノ命ニ從ハス若ハ一時其ノ使用ノ停止、來客定員ノ制限ノ命ニ從ハサル者
 三 第十八條ノ觀物場ノ構造設備等ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ修繕、設備、掃除ノ命ニ從ハス若ハ一時其ノ使用ノ停止、來客定員ノ制限ノ命ニ從ハサル者

第五十八條 第七條第二號、第四號、第五號、第七號、第九號、第十四條、第二十六條第一項、第二十七條、第二十九條、第三十五條、第五十條、第五十三條第六號、第七號ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 第八條、第十條、第十一條、第二十五條、第三十七條第三號ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
第六十條 第四十六條ニ依リ觀物興行場ニ準用シタル規定ニシテ第五十六條乃至第五十九條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ハ之ヲ其ノ觀物興行者ニ科ス

第六十一條 觀物場持主又ハ觀物興行者ハ十四歳未満ノ者若ハ禁治產者ナルトキハ前五條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
 觀物場持主方法人ナルトキハ前項ノ刑ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス
第六十二條 觀物場持主又ハ觀物興行者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テ

サル故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第六十三條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第六十四條 從前ノ建設ニ係ル觀物場ノ持主ニシテ本則施行後引續キ該觀物場ヲ興行ニ使用セムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項、第一號乃至第八號、第四條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
第六十五條 從前ノ建設ニ係ル觀物場ニシテ第五條、第六條第一號乃至第五號、第八號乃至第十二號、第十六號、第十八號、第二十七號ノ制限ニ適合セサルモノハ其ノ建物ノ改築又ハ大修繕ヲ爲スニ至ル迄其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六十六條 從前ノ建設ニ係ル觀物場ニシテ第六條第六號、第七號、第十三號、第十七號、第十九號乃至第二十二號、第二十五號、第二十六號、第二十八號乃至第三十六號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十四年六月三十日迄ニ之ヲ改造シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ検査ヲ申請スヘシ
第六十七條 從前ノ建設ニ係ル觀物場ニシテ第七條第一號乃至第四號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十四年六月三十日迄ニ之ヲ設備シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ検査ヲ申請スヘシ

第六十八條 從前ノ建設ニ係ル觀物場ノ持主ハ明治四十四年二月二十八日迄ニ第九條、第十條ノ揭示ヲ爲スヘシ

演藝取締ニ關スル件

(明治四十四年二月 保第七八三號)

客月二十七日千葉縣令第九號ヲ以テ演藝取締規則發布相成之ト同時ニ從來ノ劇場取締規則、寄席取締規則及諸興行取締規則等廢止相成候ニ付テハ左

〔千葉警〕

〔千葉警〕

ノ各號ニ依リ御取扱相成度候

一 從來本縣ニ於テハ演藝ト觀物トヲ區別スルコトナク總テ同一ノ取締ヲ爲セリト雖モ此ノ兩者ノ間ニハ多少取締上ノ差異アルヲ免レズ故ニ改正規則ニ於テハ截然之カ區別ヲ設ケ演劇、相撲、輕業其ノ他人ノ技藝ヲ公衆ニ觀覽セシメ又ハ之ヲ聽聞セシムルモノヲ演藝ト稱シ猿馬、幻燈、活動寫眞其他ノ技藝以外ノ物ヲ公衆ニ觀覽セシムルモノヲ觀物ト爲シ各取締規則ヲ設ケタリ

二 演藝ノ種類ニ關シテハ改正規則第一條ニ於テ概ネ之ヲ列舉シタリト雖此ノ以外ニ於テ尙此ノ規則ヲ適用スヘキモノナシトセズ故ニ假令同條ニ列舉セラレサルモノト雖苟モ人ノ技藝ヲ演シ公衆ニ觀覽又ハ聽聞セシムルモノナル以上ハ總テ本則ノ適用ヲ受クヘキモノニ付誤ナキ様取扱フコトヲ要ス

三 改正規則第七條第一號、第三號及第六號ニハ罰條ノ設ケナシト雖モ右第一號及第三號ノ如キ設備ニ關スル事項ハ検査ノ際ニ之ヲ設備セシムルコトヲ得ヘク又第六號ニ關シテハ火防取締規則ニ於テ罰條ノ設ケアルヲ以テ本則ニ於テハ何レモ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス

四 改正規則第八條第二項ハ演藝場ノ持主變更等ニ關スル事項ヲ規定セリ元來諸種ノ營業者ニ在リテハ其ノ死亡ノ場合ニ於テ相續人カ當然其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得サルヲ原則トス故ニ相續人ニ於テ引續キ該營業ヲ爲サムトスルトキハ新タニ出願等ノ手續ヲ爲ササルヘカラス然レトモ演藝場ハ建設者ノ異動ニ依リ毫モ建物等ニ影響ヲ及ササルヲ以テ改正規則ニ於テハ之カ代替等ノ規定ヲ設ケタルニ外ナラス

五 改正規則第九條ニ依リ演藝場内ニ揭示スヘキ來客定員及第六十一條ノ事項竝ニ同第十條ニ依リ揭示スヘキ座布圍其ノ他ノ使用料ハ適當ナル白地ノ板面ニ墨書シ見易キ場所ヲ撰ミテ數箇所ニ揭示セシムルコトヲ要ス

一八一

第二編 保安 行政 第二章 風俗

六 改正規則第十二條ハ注意事項ニ過キサルヲ以テ之ニ對シ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス

七 從來劇場等ニ於テ使用スル座布圍ニハ甚シク不潔ナルモノアリ改正規則第十三條ハ特ニ此ノ點ノ改良ヲ圖ルカ爲メニ設ケタルモノニ付此ノ際不潔汚損ノモノハ成ルヘク改良セシムルコトヲ要ス

八 從來劇場寄席等ヲ演藝、觀物以外ノ集會ニ使用スルコトヲ抄カラス之等ノ場合ニ於テハ多數ノ人ヲ收容スルカ爲メニ危險ナキヤ否ヲ監視スルノ必要アリ故ニ改正規則第十六條ハ之等ノ場合ニ於テ演藝場ノ持主ヲシテ之カ届出ヲ爲サシメ且演藝興行者カ爲スヘキ義務ノ幾分ヲ負擔セシムルコトヲセリ

九 改正規則第二十一條第七號ノ標札ハ適宜ノ大サトシ黒地ニ白書セシムルコトヲ要ス

十 改正規則第二十條第十七號ノ階上棧敷ノ通路ハ成ルヘク其ノ棧敷ノ後方ニ設ケシメ通行ニ依リ觀客等ノ妨害トナラサル様注意スルコトヲ要ス

十一 從來劇場又ハ寄席所在地ニ於テ演藝場ヲ假設シ演劇若ハ寄席ヲ爲スモノ抄カラス改正規則ハ劇場寄席又ハ演藝場等ニ對シ種々ノ制限ヲ設ケ取締上遺憾ナキ様注意ヲ加ヘタルヲ以テ之等演藝場ノ所在地ニ於テハ濫ニ假設演藝場ヲ設ケ演藝又ハ觀物ヲ爲スコトヲ得ストセリ然レトモ演藝場ニシテ使用スルコトヲ得サル場合ニ於テハ假設スルノ必要ナキニ非ラズ止ヲ得サル場合ニ於テハ警察官署ノ許可ヲ受ケテ之ヲ假設シテ演藝ヲ興行スルコトヲ得セシメタリ

十二 從來演劇又ハ講談等ヲ爲ス場合ニ於テ或ハ鼠小僧ノ如キ窃盜犯人ヲ賞揚シテ義賊ト呼ビ或ハ國定忠次ノ如キ博徒ヲ賞讚シテ俠客ト名付ケ其ノ他犯罪ヲ誘致又ハ助長スルノ虞アルモノ猥褻又ハ慘酷ニ涉ルモノ等不都合ナル演藝ヲ爲スモノ抄カラス故ニ改正規則第三十五條ニ於テ

- ハ之制限ヲ設ケ同第二十六條第一項第六號ニ於テハ演藝興行出願ノ際演劇ニ在リテハ脚本、義大夫節、浪石節、講談等ニ在リテハ其筋書ヲ具スルコト、セリ付テハ爾後之カ調査ヲ周密ニシ俟客傳、義賊傳又ハ慘殺等ノ如キ其ノ他總テ第三十五條ニ違反スル演藝ヲ爲サシメサル様注意ヲ加フルコトヲ要ス
- 十三 從來演藝又ハ觀物ノ木戸錢、席料、下足料等ハ大人ト小人トニ區別シタリト雖斯クテハ其ノ區別明チラサルヲ以テ改正規則第二十六條第一項第八號ハ木戸錢其ノ他料金ヲ受クル場合ノ規定ヲ設ケ滿五歲以上十四歲未滿ト滿十四歲以上トニ區別スルコトトセリ故ニ爾後右ノ區別ニ依リ料金ヲ收受セシムヘク又隨テ五歲未滿ノ小兒ハ料金ヲ受クルコトヲ得サル管ニ付之カ取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十四 從來演藝又ハ觀物ノ無料興行ニ關シテハ明治二十六年二月千葉縣令第十一號ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受クヘキ管ナレトモ爾來種々ノ方法ヲ以テ無料興行ヲ爲サトスル者増加セルノ狀況ヲ呈シ支障尠カラサリシヲ以テ改正規則第二十六條第一項第九號ニ於テ右等ノ興行ヲ爲サトスル者ハ其ノ事由ヲ具スルコトトセリ
- 十五 從來慈善興行ヲ爲ス者多ク中ニハ名テ慈善ニ藉リ其ノ實私利ヲ貪ル者尠カラサルノ實況アリ之ヲ以テ去ル明治四十二年八月二十八日保第五七九一號通牒ニ依リ之カ取締ノ標準ヲ設ケタリシト雖尙ホ未充分ナルヲ免カレシ故ニ改正規則第三十八條ハ慈善興行ノ場合ニ於ケル收益ノ處分方法ヲ限定シ同第三十三條ハ之カ届出ヲ爲スコトヲ命シ尙第二十六條第一項第十號ニ於テ詳細ナル事項ヲ具スルコトト爲シ若私利ヲ圖ルノ疑アルカ又ハ方法手段ノ穩當ナラサル場合ニ於テハ之ヲ許可セサルノ規定ヲ設ケタリ付テハ爾後慈善興行出願ノ場合ニハ右ノ法條ニ依リ嚴重ナル取締ヲ遂ケ私利ヲ圖ルモノナキ時期セラルヘシ
- 十六 演藝興行者カ演藝場ヲ假設シタルトキハ改正規則第三十二條第一項

- 娼妓、藝妓等ノ姓名等ヲ記載セル引幕ヲ使用スルコトヲ禁シタリ右ハ從來該營業者等ニ於テ其ノ意思ニ反スル贈與ヲ爲セル狀況アリ然ラサル者ハ自己ノ營業廣告ノ目的ニテ殊更之ヲ寄贈スル者アリ何レニシテモ弊害尠カラサルカ故ニ絕對ニ之ヲ禁止シタル次第ニ付爾後之カ取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 二十二 改正規則第四十五條第十一號ハ來客ニ對シ均一ナラサル景品ヲ配布シ又ハ均一ヲ缺キテ景品ヲ配布スルコトヲ禁シタリ右ハ來客ノ射倖心ヲ惹起シ弊害尠カラサルヨリ之ヲ防遏セムトスルモノニシテ若之ヲ爲ス者アル場合ニハ明治四十二年八月内務省令第二號ニ依リ知事ニ於テ禁止スヘキ管ニ付速ニ其ノ事實ヲ報告セラルヘク此ノ場合ニ於テ知事ノ禁止ニ從ハスシテ之ヲ爲シタル者ニ對シテハ同令所定ノ刑罰ヲ科スル手段ヲ講スルコトヲ要ス
- 二十三 改正規則第四十五條第十二號ハ注意的ノ規定ニ過キサルヲ以テ別ニ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 二十四 改正規則第四十五條第十五號ニハ罰條ヲ設ケナシト雖右ハ警察犯處罰令第三條第五號ニ依リ之ヲ罰スルコトヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 二十五 火防取締規則第三十九條ニ依レハ火鉢、行火、煙草盆等ハ火氣ノ消滅シタル後ニ非サレハ之ヲ重ネ置クコトヲ得スト雖之カ違反者ニ對シ刑罰ヲ科スルノ規定ナキカ故ニ改正規則第四十五條第十六號ニ於テ之ト同一ノ規定ヲ設ケ且違反者ヲ處罰スルコトトセリ
- 二十六 劇場等ノ非常口又ハ建物ノ周圍ノ空地ハ非常ノ際來客ヲ避難セシムル爲之ヲ設ケタルモノナルニ往々非常口ヲ閉鎖シ錠前等ヲ施シ又ハ建物ノ周圍ノ空地ニ物件ヲ堆積シ爲ニ避難スルコト能ハサラシムルモノナキニ非ラズ故ニ改正規則第四十五條第二十號ハ之カ規定ヲ設ケタルニ依リ爾後注意ヲ加フルコトヲ要ス

- ニ依リ演藝終了後五日以内ニ之ヲ除却スヘク若シ右期間内ニ除去シ得サル場合ニハ演藝終了後三十日以内ヲ限リ除却延期ノ申請ヲ警察官署ニ爲スコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ警察官署ハ尙引續演藝興行ヲ爲スカ又ハ多少ノ期間ヲ存スルモ近ク該假設演藝場ニ於テ演藝興行ヲ爲ス等ノ事情アルトキハ之カ延期ヲ承認スルコトヲ要ス
- 十七 從來ノ演藝人申往々兒童ノ義務教育ヲ爲サス演藝ノミヲ爲サシムル者尠カラズ改正規則第三十四條ハ之等ノ弊害ヲ芟除シ治ク義務教育ヲ受ケシムルカ爲ニ十二歲未滿ノ者ト雖義務教育ニ妨ケナキ場合ニハ演藝ヲ爲スコトヲ得ルノ除外ヲ設ケタルカ故ニ之カ取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十八 從來演藝ノ課稅ヲ免ルル目的ニテ名ヲ手踊ニ假リ警察官署ノ許可ヲ得トスル者アリ之等ノ者ノ不都合ナルハ因ヨリ論ヲ待タスト雖モ中ニハ源氏節手踊等ノ名稱ニテ演劇類似ノ所作ヲ爲スモノ尠カラズ斯クテハ弊害ノ及フ所尠カラサルヲ以テ改正規則第三十六條ニ於テハ堅ク之ヲ禁止シタリ
- 十九 改正規則第四十五條第一號ハ興行ニ關シ入場券觀覽券等ノ配布ヲ禁シタリ元來之等ノ物品ヲ強テ配布スル場合ニハ警察犯處罰令第二條第三號ニ依リ之ヲ處罰シ得ルト雖強ニ至ラサル者ニ對シテハ之ヲ處罰スル途ナキカ故ニ從來之等ノ行爲ヲ爲ス者尠カラズ之ヲ以テ同條第一號ハ之等ノ配布ヲ爲スヲ禁シタルモノナルハ爾後嚴重之カ取締ヲ爲シ違反者ハ假借ナク處罰ヲ加フルコトヲ要ス
- 二十 改正規則第四十五條第二號ニ關シテハ警察犯處罰令第二條第六號ニ依リ之ヲ處罰スルヲ得ルカ故ニ別ニ之カ罰條ヲ設ケス又同條第六號ハ刑法第二百三十條、第二百三十一條ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得ルカ故ニ共ニ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 二十一 改正規則第四十五條第九號ハ貸座敷、藝妓屋等ノ樓名、屋號又ハ

- 二十七 改正規則第四十六條乃至第四十八條ハ何レモ注意的規定ニ付之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 二十八 改正規則第五十條ノ違反ニ關シテハ傳染病豫防法第四條第三十一條ニ依リ之ヲ處罰シ得ルカ故ニ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 二十九 改正規則第五十二條ノ違反ニ付テハ警察犯處罰令第三條第九號ニ依リ之ヲ處罰スルヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 三十 改正規則第五十二條、第五十三條ノ規定ハ汚物掃除法施行ノ場所ニ在リテハ違反者ヲ處罰スルコトヲ得ヘク又其ノ以外ノ場所ニ在リテハ行政處分ニ依リ之ヲ強制シ得ヘキヲ以テ別ニ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ付若萬一此ノ義務ヲ怠ルカ爲行政處分ニ付スルヲ要スル者ニ對シテハ其ノ事實ヲ報告スルコトヲ要ス
- 三十一 門付演藝人ハ第二種浮浪者トシテ之カ徘徊ヲ禁シ本籍地ニ送還スト雖若之ニ應セサル者アルカ又ハ送還スルモ屢々入込ムモノニ對シテハ處罰ヲ加フルノ必要アルカ故ニ改正規則第五十八條ニ於テ演藝人ハ濫ニ人家ニ就キテ演藝ヲ爲スコトヲ得スト爲シ違反者ニハ刑罰ヲ科スルコトトセリ
- 三十二 改正規則第五十九條、第六十條ハ注意的規定ニ過キサルヲ以テ之ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 三十三 改正規則第六十一條第一號、第四號乃至第六號ノ違反者ハ警察犯處罰令第二條第十四號ニ依リ同條第二號ノ違反者ハ同令第三條第二號ニ依リ同條第九號ノ違反者ハ同令第三條第十五號ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得ルヲ以テ別ニ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス又同條第七號ノ事項ニ關シテハ火防取締規則第四十六條ニ規定アリト雖之ニ罰條ナキカ故ニ改正規則ニ於テハ之カ罰條ヲ設ケタリ

演藝觀物取締ニ關スル件

(明治四十四年二月 保第一四八五號)

演藝及觀物取締ニ關シテハ本月五日保第七八三號及同第七八四號ヲ以テ及通牒置候處尙左記各號ニ依リ御取扱相成度候

- 一 演藝取締規則第二十六條及觀物取締規則第二十條ニ依リハ營利ヲ目的トセサルモノト雖之カ興行ヲ爲ス場合ニ於テハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルコト、ナレリ故ニ例ハ郡長ニ於テ教育又ハ勸業ノ普及若ハ獎勵ノ爲メ燈會ヲ開催シ公衆ニ觀覽セシムル場合モ尙之カ許可ヲ受ケサルヘカラスト雖當該規則ノ主タル精神ハ名ヲ神佛祭典等ノ寄附又ハ復習等ニ藉リ動モスレハ其ノ間ニ於テ不正ノ利益ヲ齎斷セムトスル者アルヲ以テ之カ取締ヲ爲シ彼等カ不正手段ヲ爲スノ餘地ナキヲ期シタル義ニ有之候條縣、郡、町、村又ハ農會其他公法人若ハ學校等ニ於テ教育、衛生、勸業等普及若ハ獎勵ノ爲メ開催スルモノ、如キハ該規則ノ適用ヲ受ケシメス只之カ開催ヲ爲スヘキ場所、目的、日時ヲ通知セシムルコトニ内務部長ト協商致シ候ニ付同部長ヨリ郡長、學校長等ヘ夫々通牒ノ管ニ付右ニ依リ相當ノ取締ヲ爲スコトヲ要ス
二 演藝又ハ觀物興行者カ演藝場(假設演藝場)若ハ觀物場(假設觀物場)ニ於テ御肖像ヲ揭示シ又ハ勸誘ヲ奉讀シ來客ヲシテ敬禮ヲ爲サシメ自己ノ品位ヲ街ハムトスルカ如キ者アリタル場合ニ於テハ演藝取締規則第三十五條第四號又ハ觀物取締規則第二十八條第四號ニ所謂公安ヲ害スルノ虞アルモノトシテ嚴重取締ヲ爲スコトヲ要ス
三 演藝取締規則第二十六條第六號ノ脚本筋書又ハ觀物取締規則第二十條第六號ノ說明書ハ所轄警察官署ニ於テ其ノ演藝若ハ觀物ノ犯罪ヲ誘致又ハ助長スルノ虞アリヤ猥褻又ハ淫靡ニ涉ルモノナリヤ其他公安若ハ風俗ヲ害スルカ如キコトナキヤ否ヲ判別シ以テ之カ許可ヲ決スルノ

チ爲サシメサルコト
六 通風換氣ヲ充分ナラシムヘキハ勿論夏季ハ適當ノ扇風器ヲ備ヘシムルコト

演藝取締ニ關スル件通牒

(大正三年一月 保第四七九號)

常設演藝場所在地ニ在リテハ規則第二十二條及第二十四條ニ依リ假設演藝場ニ於テ演劇其ノ他義太夫節、浪花節、講談等ノ興行ヲ爲スコトヲ得サルヲ原則トセルニ不拘該常設演藝場ノ使用中ナルチ口實トシテ直チニ同條但シ書ヲ適用シ假設ノ演藝興行ヲ許可セル哉ノ聞ヘ有之候處元來常設演藝場ハ常態トシテ毎ニ興行ヲ爲シ居ルヘキ旨ナルヲ以テ斯ノ如キハ所謂止ムヲ得サル事由トシテ認容スヘキモノニ無之候條今後ハ神佛ノ祭典儀式ノ執行其ノ他特種ノ事由アル場合ニ在ラサレハ斷シテ之ヲ許可セサルコトトシ該規則ノ精神ヲ沒却セサル様取締相成度候也

活動寫眞試演ニ關スル件

(大正三年三月 保第二五一八號)

幻燈及活動寫眞興行願ニ對シ許可以前ニ行フヘキ試演ハ觀物取締規則第二十八條ニ據リ犯罪ヲ誘致又ハ助長スルノ虞アルモノ、猥褻又ハ淫靡ニ涉ルモノ、濫ニ時事ヲ諷刺スルモノ其ノ他公安風俗ヲ害スル虞アルモノナルヤ否ヲ鑑別シ其ノ許否ヲ決スヘキハ勿論ナリト雖其ノ所謂虞アル程度ニ至リテハ各署其ノ所見ヲ異ニスル虞アルヘキヲ以テ時ニ甲署ノ是認スルモノモ乙署ノ非認スルモノモアルヘキハ免レ難シト雖モ亦事毎ニ見地ノ衝突ヲ來サム方興行者ヲシテ倚依スル處ヲ疑ハシメ延ヒテ警察ノ威信ニ關スルチキヲ保セサルヲ以テ概ネ左記標準ニ據リ許否ヲ決セラレ度候也
一 犯罪ノ誘致ニハ強盜其ノ他犯罪行為ノ結果カ因果應報ニ出テス若ハ

演藝及觀物取締ニ關スル件

(大正二年六月 保第六八四號)

- 資料ニ供スルモノナルカ故ニ可成詳細ナルモノヲ提出セシムヘキハ勿論ナリト雖其ノ舊劇即チ從來ノ淨瑠璃本ノ如キ一見明瞭ナルモノニ依リ演藝スル場合ハ唯其ノ公安若ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムル點ノミ改竄セシメ直ニ之ヲ許可スル等極メテ簡易ノ取扱ヲ爲シ其ノ他浪花節、講談等ノ如キモ亦之ニ準シ簡單ナル說明書又ハ演題等ヲ提出セシメ許否ヲ決スルコト能ハサルヲ以テ已ム無ク詳細ナル脚本、筋書、說明書等ノ提出ヲ命スルモノニシテ固ヨリ明瞭ナル事柄ヲ演スル場合ノ如キハ當然其ノ煩ヲ避ケ簡易ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス又其ノ提出シタル脚本、筋書、說明書等ニシテ演藝終了後之カ下付ヲ求ムル者アルトキハ直ニ下付スルコトヲ要ス
一 演劇ニ在リテハ其ノ脚本、義太夫節、浪花節、講談等ニ在リテハ其筋書ニ毫モ違フノ演藝ヲ爲サシメサルコト
二 幻燈、活動寫眞ニ對シテハ興業前必ス試演ヲ爲サシメテ其ノ許否ヲ決シ許可後密カニ之ヲ變更スルカ如キコトナキ様取締ヲ加フルコト
三 木戸錢、席料、下足料等ハ暴利ヲ貪ラサル程度即チ少クモ世間並ニ制限シテ許可スルコト
四 定員ヲ超過シテ客ヲ入場セシメサルコト
五 濫ニ構造、設備ヲ變更シ又ハ非常口ノ效用ニ影響ヲ及ホスカ如キ作爲

[千葉警]

改過遷善ノ情ナク社會風教上弊害アルモノ及如上ノ點ニ缺クル處ナキモ電氣、魔睡劑ノ類ヲ用井又ハ假裝、變裝スル等犯罪手段ノ巧妙ナルモノハ之ヲ助長ニ涉ルモノト認メ許可セサルコト
二 猥褻淫靡ニハ男女醜態ヲ露ハシ若ハ人倫ニ反スル姦通其ノ他ノ醜行爲ヲ聯想セシムルニ足ルモノ及人道ニ反シ人ヲ侮辱、酷使、虐待スル等ノ行爲ハ許可セサルコト
三 濫ニ時事ヲ諷刺スルモノニハ政事其ノ他時事問題ニ關シ云爲スルモノハ勿論犯罪ヲ曲庇シ又ハ犯罪人刑事被告人ヲ賞恤、救護、陷害スル等ノ行爲ハ許可セサルコト
四 其ノ他公安風俗ヲ害スルモノニ付テハ苟モ善良ナル日本ノ風俗ニ悖戻シ青年子女ヲシテ惡感化ヲ與フルニ足ルト認ムルモノハ之ヲ禁制セサル可ラス例ヘハ公衆ノ面前ニ於テ男女接吻ヲ交ヘ又ハ抱合スルカ如キハ外國ノ慣習トシテハ可然モ本邦現時ノ善良ナル風俗ニ背戻ス

喫煙取締ニ關スル件

(大正九年一月 保第三五九號)

劇場活動寫眞其ノ他多衆ヲ收容スル娛樂場ニ於テハ喫煙室ノ設ケアルモノ絶無ノ現況ニ有之候處本件ハ從來取締規則中ニ同規定ナカリシト設備ノ爲メ特ニ費用ヲ要スルト業體上努メテ公衆ノ喫煙ヲ便ナラシムルトニ依リ因襲ノ久シキ遂ニ設備ヲ見ルニ至ラサルモノナルヘク而モ一面之レカ設備ヲ完備スルモノ一般ノ久シキ慣習ヲ打破シテ喫煙室以外ニ於ケル喫煙ヲ絕對ニ禁止スルコトハ至難ノコト、認メラレ候ヘ共近來特ニ此種娛樂場ハ觀客充満ノ盛況ヲ呈シ而モ常業者ニ於テハ一ニ觀客ノ多カランコトヲ欲スルノ餘リ座席ノ如キハ空隙ヲ見サルモノ不尠此間公衆中喫煙ヲ縱ニスル者多ク有

之管ニ危険ナルノミナラス他人ノ衣袂ニ燒痕ヲ印シ時ニ或ハ喫煙ニ原因シテ火災ヲ發生シタル事例モ有之ハ火災豫防其ノ他危険防止上相當看過スヘカラサルモノト認メラレ候ニ付テハ當業者ヲシテ公衆ニ對シ少クモ興行業中ハ喫煙ヲ爲サシメサルノ注意ヲ與ヘシムル等相當取締ヲナシ一般ノ自衛心ヲ喚起シ漸次喫煙ノ弊風ヲ矯正シ公會場内ニ於ケル良俗ノ訓政方ニ付相當注意相成度此段及通牒候也

第二節 遊技場

遊技場營業取締規則

(大正三年十一月 縣令第七十五號)

(沿革)大正五年五月縣令第二三號改正

- 第一條 本則ニ於テ遊技場營業ヲ稱スルハ一定ノ場所ヲ設ケ又ハ各所ニ移動シテ露店等ヲ設ケ公衆ヲシテ遊技ヲ爲サシムル營業ヲ謂フ
- 第二條 遊技場營業ヲ爲サシムル者ハ左記事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 - 一 營業者ノ住所、氏名、生年月日
 - 二 遊技ノ種類及其ノ方法
 - 三 遊技場ノ位置(位置一定シ難キモノハ其ノ事由)
 - 四 遊技料
 - 五 構造制限アル遊技場ニ在リテハ之ニ關スル書類
- 前項ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書又ハ連署ヲ要ス
- 第三條 室内銃(室内射擊銃、室內發矢銃)、大弓、半弓、揚弓及吹矢等ノ遊技場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 彈丸又ハ矢箭ヲ防クニ足ルヘキ射梁ヲ設ケルコト
 - 二 射道ノ左右ニハ流彈又ハ流箭ヲ防クニ足ルヘキ境界ヲ設ケルコト
- 第四條 特種ノ遊技場ニシテ特ニ構造ヲ制限スルノ必要アリト認メ若ハ既

ニ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カレルコトヲ得ス

附則

- 第十一條 本則施行前ニ於テ許可ヲ得タル現在營業者ハ本則ニ依リ許可ヲ得タルモノト看做ス
- 第十二條 従前ノ遊技場營業者ニシテ現ニ婦女ヲ雇入レ營業ニ從事セシムル者ハ本則施行ノ日ヨリ五日以内ニ第六條第二號ニ依リ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十三條 明治十八年六月第七四號遊技取締規則ハ之ヲ廢止ス

遊技場取締規則改正ニ關スル件

(大正三年十一月 保第九三六七號)

今回改正ノ遊技場取締規則ハ其ノ運用ヲ圓滑ナラシムルノ見地ヨリシテ務メテ立法ヲ簡明ニセリ即チ第三條ノ構造制限ノ如キ概括の規定ヲナセルモ畢竟右ノ趣意ニ外ナラス又新タニ室内射擊銃ニ關スル事項ヲ本則ニ加ヘシハ等シク遊技ノ一種ト認メ同一規定ノ下ニ取締ヲ以テ實際便宜ト思料セルカタメナリ就テハ本則施行上必要ト認ムル事項二三左ニ掲記セルヲ以テ爾今右ニ準據シ取扱ハルヘシ

- 一 第一條中各所ニ移動シ露店等ヲ設ケルモノトアルハ神社ノ緣日其ノ他ノ祭典ヲ逐フテ所在營業スル吹矢ノ如キ或ハ將來新工スヘク推想サルノ移動式遊技場ノ如キ共ニ本條ノ適用ヲ受ケシメントスルモアリ
- 二 第三條ノ構造制限ハ左記標準ニ據ラシムヘシ但シ土地ノ狀況等ニ依リ多少斟酌ヲ加フルハ妨ケナシ
- イ 射擊銃及空氣銃(裝藥銃)同一ノ威力ヲ有スルモノノ射梁ハ高サ七尺以上トシ厚サ八分以上ヲ有スル松板ノ類又ハ厚キ土塀ニテ築造シ射道ノ左右兩側ハ射梁ト同一ノ高サヲ保チ厚サ四分以上ヲ有スル松板ノ類又ハ厚キ土塀等ヨリ成ル境界ヲ設ケシメ射程距離ハ五間以内

設ノ遊技場ニシテ構造完全ナラサルモノト認メタルトキハ所轄警察官署ニ於テ相當設備ヲ命スルコトアルヘシ

- 第五條 構造制限アル遊技場及特ニ工事落成ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ指示シタル遊技場ニ在リテハ所轄警察官署ノ検査ヲ受クルニアラサルハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 休業又ハ廢業若ハ住所、氏名ノ變更
 - 二 婦女ヲ雇入レ營業ニ從事セシムルトキハ其ノ本籍、身分、氏名、生年月日及戸主ノ住所又ハ之ヲ解雇シタルトキハ其ノ氏名
- 遊技場營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第一百七條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ届出ツヘシ
- 第七條 遊技場營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 賭易キ場所ニ遊技料ノ揭示ヲ爲スコト
 - 二 破損シタル銃、弓等ヲ使用セシメサルコト
 - 三 他人ニ危険ヲ及ホスノ虞アル者ニ遊技ヲ爲サシメサルコト
 - 四 客ヲ宿泊セシメ若ハ飲酒セシメサルコト
 - 五 定マリタル遊技料以外ニ金錢ヲ請求セサルコト
 - 六 強テ遊技ヲ勸誘セサルコト
- 第八條 營業者本則ノ規定ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 第二條、第五條乃至第七條ニ違反シ又ハ第八條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十條 遊技場營業者ニシテ十四歳未満ノ者若ハ禁治產者ナルトキハ前條ノ刑ハ其ノ法定代理人ニ科ス
- 營業者ハ其ノ家族、雇人等ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキ

ニ指定スルコト

- ロ 大弓及半弓ノ射梁ハ高八尺以上トシ厚キ土塀ノ類ニテ築造シ且射梁ノ前面上部ニハ木板製ノ矢受ヲ設ケ又射道ノ左右兩側ニハ射梁ト同一ノ高サヲ有スル松板張若ハ土塀ヨリ成ル境界ヲ設ケシメ射程距離ハ十五間以内ニ指定スルコト
- ハ 揚弓、吹矢及空氣銃(コロツプ)玉ヲ用ケルモノノ標的ノ背部及射道ノ左右兩側ニハ幕ノ類ニテ境界ヲ設ケシムルコト
- 三 第四條ニ規定セル特種ノ遊技場ニシテ特ニ構造ヲ制限スル必要アリト認ムル場合ハ遊技ノ種類方法及構造ノ制限ニ關スル意見ヲ付シ豫メ稟議スヘシ
- 四 第六條第四號ハ主トシテ精神病患者、亂醉者ノ如キ危険ノ虞アル者ニ對シ遊技ヲ爲サシメサルニアルモ時ニ或ハ技術不熟練ニシテ他人ニ危険ヲ及スノ虞アル者モ又本號ニ入ルヘキ場合アルヘキヲ以テ運用ヲ誤マラサル様注意スヘシ
- 五 抽籤又ハ符台ノ類ヲ以テ物ヲ與フル處罰規定ヲ缺ケルハ内務省令第二十六號ニ依リ懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖行爲ヲ處罰シ得ルヲ以テ同令トノ抵觸ヲ避ケルカタメ特ニ本則中ニ規定セス
- 射擊銃ニ要スル火藥類ノ取扱其ノ他ニ關シ本則中規定スル所ナキハ元來銃砲及火藥類ニ關シテハ銃砲火藥類取締法及之ニ關聯スル子法ノ支配ヲ受クヘク夫々規定シアルヲ以テ本則ニ於テハ唯遊技其モノノ取締ルコトトシ遊技以外ノ事項ニ關シテハ當該關係法規ニ依リ取締ルヲ至當ト認メタルニ依ル

遊技場取締ニ關スル件

(大正四年四月 保第三五三二號)

室内空氣銃ヲ以テ小サキ板上ニ積ミ重キ卷煙草(多クハ「バット」)ニ射

擊セシメ射落シタル煙草ハ顧客ノ所得トスル條件ノ下ニ一發幾何カノ料金ヲ徴スルノ方法ヲ用ヒテ營業ヲ爲スハ遊技場營業者ノ大多數ヲ占ム然ルニ今回成田警察分署ニ於テ該煙草中ニ二錢銅貨ヲ入レ置キ又ハ在中ノ煙草ヲ二三重ニ包ミ以テ重量ヲ増加セシメ容易ニ射落サレサルノ詐欺的裝置ヲ爲シ顧客ヲ欺瞞シ不正ノ利得ヲ貪リ居タルヲ檢舉セリ之等犯行ハ一見輕微ノ如シト雖モ繼續セル長日月間ニ於ケル被害金額ヲ合算セハ實ニ甚大ナルヘク加之警察取締ニ屬スル營業者ニシテ斯ル不正手段ヲ弄スル者アルニ於テハ公安維持上看過スヘカラサル義ニ付此ノ際嚴重視察遂ケ發見ノ上ハ假借ナク刑事訴追ニ付シ一面營業禁止處分ニ付稟申セラルヘシ

第三節 藝妓、酌婦其他ノ營業

●藝妓屋營業取締規則 (明治四十三年八月 縣令第七十六號)

第一條 本則ニ於テ藝妓屋營業ト稱スルハ自家ニ藝妓ヲ寄寓セシメ遊客ノ招キニ應スル業ヲ爲スモノヲ謂フ
一 戶ヲ構フル藝妓營業者ハ自家ニ藝妓ヲ寄寓セシメスト雖モ之ヲ藝妓屋營業者ト看做ス
第二條 藝妓屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ開業前所轄警察官署ニ届出ツヘシ
一 住所、身分、氏名、生年月日及屋號アルモノハ其ノ屋號
二 營業所
三 開業期日
前項ノ營業ヲ爲サムトスル者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ於テ該營業届ニ連署スヘシ
第三條 藝妓屋營業者ハ同一建物ニ於テ宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス
第四條 藝妓屋營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 休業又ハ廢業
二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ハ變更
三 法定代理人ノ變更
四 屋號又ハ所轄内ニ於ケル營業所ノ變更
藝妓屋營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
第五條 藝妓屋營業者ハ自家ニ遊客ヲ誘引シ又ハ之ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス
第六條 藝妓屋營業者ハ自家ニ寄寓スル藝妓ニシテ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹レル疑アル者アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ其ノ指示ニ從ヒ治療又ハ休業治療ヲ受ケシムヘシ
第七條 警察官署ハ藝妓屋營業者ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安、風俗ヲ害シ若ハ他人ニ名儀ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ
第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
一 第二條第一項ノ届出ヲ爲サズシテ營業ヲ爲シタル者
二 第七條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
第九條 第五條、第六條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
第十條 第四條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
第十一條 藝妓屋營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ前三條ノ刑ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ科ス
第十二條 藝妓屋營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

〔千葉警〕

附則

第十三條 従前ノ藝妓屋營業者ニシテ本則施行後引續キ藝妓屋營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一號、第二號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ爾後藝妓屋營業ヲ爲スコトヲ得ス
第十四條 同一建物ニ於テ宿屋營業ヲ兼ヌル従前ノ藝妓屋營業者ト雖モ其ノ建物ノ出入口ヲ區別シ且隔壁ヲ設クルモノニ在リテハ本則施行後尙其ノ建物ニ於テ宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

●藝妓營業取締規則 (明治四十三年八月 縣令第七十七號)

(沿革) 大正五年六月縣令第三二號改正

第一條 藝妓營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
一 本籍、寄寓所、身分、藝名、氏名、生年月日及戶主ノ住所
二 戶籍謄本
三 警察官署ノ指定セル醫師ニ於テ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ナキコトヲ證明セル診斷書
四 藝妓屋ヨリ前借金ヲ爲ス者ハ其ノ金額並ニ辨濟ノ方法
前項ノ許可申請者ニシテ未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書又ハ連署ヲ要シ又十四歳未滿ノ者ナルトキハ之ヲ寄寓セシムル藝妓屋營業者ノ連署ヲ要ス
第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ藝妓トナルコトヲ得ス
一 十二歳未滿ノ者
二 肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患アル者

三 十四歳未滿ノ者ニシテ藝妓屋ニ寄寓セサル者但シ法定代理人ト同居スル者ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 藝妓營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テ本人カ十四歳未滿ナルトキハ新ナル藝妓屋營業者ニ連署スヘシ
一 休業又ハ廢業
二 氏名又ハ藝名ノ變更
三 所轄内ニ於ケル寄寓所ノ變更
藝妓營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第一百七條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
第四條 藝妓ハ自己ノ寄寓スル藝妓屋ニ遊客ヲ誘引シ又ハ之ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス
第五條 藝妓營業者ハ宿屋ニ於テ營業ヲ爲シ又ハ營業先ニ宿泊スルコトヲ得ス但シ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第六條 藝妓ハ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹レル疑アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ其ノ指示ニ從ヒ治療又ハ休業治療ヲ受クヘシ
第七條 警察官署ハ藝妓ニシテ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ期限及醫師ノ指定シ診斷書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
第八條 警察官署ハ藝妓ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スル事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ
第九條 第一條ニ違反シ又ハ第七條ノ命ニ從ハズ若ハ第八條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
第十條 第三條乃至第六條ニ違反シタル者ハ十五日未滿ノ拘留又ハ十圓未滿ノ科料ニ處ス

第十一條 藝妓カ十四歳未満ノ者ナルトキハ前二條ノ刑ハ寄寓セシムル藝妓營業者ニ之ヲ科ス但シ藝妓屋ニ寄寓セサルモノニ在リテハ本人ト同居スル法定代理人ニ之ヲ科ス

第十二條 本則施行ノ際現ニ藝妓又ハ舞妓營業ヲ爲ス者ハ第二條ノ届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第十三條 従前ノ藝妓ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但第一條第四號ノ事項ハ大正五年六月三十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ前項ノ届出ヲ爲ス藝妓ニシテ十四歳未満ナルトキハ之レヲ寄寓セシムル藝妓屋營業者ノ連署ヲ要ス

第十四條 明治三十二年四月千葉縣令第二十八條藝妓營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

酌婦營業取締規則

(明治四十三年八月 縣第七十八號)

(沿革) 大正五年六月縣令第三一號改正

第一條 酌婦營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 本籍、寄寓所、身分、氏名、生年月日及戶主ノ住所
 - 二 戶籍謄本
 - 三 警察官署ノ指定セル醫師ニ於テ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ナキコトヲ證明セル診斷書
 - 四 雇主ヨリ前借金ヲ爲ス者ハ其ノ金額並ニ辨濟ノ方法
- 前項ノ許可申請者ニシテ未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書又ハ連署ヲ要シ又十四歳未満ノ者ナルトキハ雇主ノ連署ヲ要ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酌婦トナルコトヲ得ス

一 十二歳未満ノ者

二 肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患アル者

第三條 酌婦ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但第三號ノ場合ニ於テ本人カ十四歳未満ナルトキハ新タナル雇主ニ連署スヘシ

一 休業又ハ廢業

二 氏名ノ變更

三 所轄内ニ於ケル寄寓所ノ變更

酌婦死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第十七條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ届出ツヘシ

第四條 酌婦ハ店頭又ハ道路ニ於テ客ヲ誘引スルコトヲ得ス

第五條 酌婦ハ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹ル疑アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ其ノ指示ニ從ヒ治療又ハ休業治療ヲ受クヘシ

第六條 警察官署ハ酌婦ニシテ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ期限及醫師ヲ指定シ診斷書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 警察官署ハ酌婦ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

第八條 第一條ニ違反シ又ハ第六條ノ命ニ從ハス者ハ第七條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス

第九條 第三條乃至第五條ニ違反シタル者ハ十五日未満ノ拘留又ハ十圓未満ノ科料ニ處ス

第十條 酌婦ニシテ十四歳未満ノ者ナルトキハ前二條ノ刑ハ其ノ雇主ニ之ヲ科ス

附則

〔千葉縣〕

第十一條 本則施行ノ際現ニ酌婦營業ヲ爲ス者ハ第二條ノ届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第十二條 従前ノ酌婦ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但第一條第四號ノ事項ハ大正五年六月三十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ前項ノ届出ヲ爲ス酌婦ニシテ十四歳未満ナルトキハ雇主ノ連署ヲ要ス

藝妓屋及藝妓、酌婦營業取締規則

關スル件

(明治四十三年九月 保第七〇九號)

今回藝妓屋及藝妓、酌婦營業取締規則發布相成候ニ付テハ該規則施行後ハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候

- 一 従來藝妓屋營業者ニ關スル取締規則ヲキニ拘ラス警察上ノ視察ヲ爲スノ必要存シタルヲ以テ警察視察規程第一條乙種第二十三號ニ一箇月一回以上ノ視察ヲ爲スヘク規定セリ然ルニ今回之カ取締規則ヲ發布セラレタルカ故ニ爾後之ニ依リ視察取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 藝妓屋營業者ハ同一建物ニ於テ宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得サルハ規則第三條ノ規定スル處ナリ然ルニ紹介營業取締規則第四條第一號ニ於テ紹介營業者ハ藝妓屋營業ヲ爲スコトヲ得ストノ規定アルカ故ニ藝妓屋營業者ハ管ニ同一建物ニ於テ宿屋營業ヲ爲スコトヲ得サルノミナラズ亦全然紹介營業ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタリ
- 三 藝妓營業者ハ同一建物ニ於テ料理店ヲ兼ヌルコトヲ得ルト雖モ従前ノ料理店中ニハ宿屋ヲ兼ヌル者尠カラズ故ニ宿屋兼業ノ料理トハ藝妓屋營業ヲ爲スコトヲ得サル原則トス然レトモ従前ヨリ兼業シ居ル者ニ對シテハ其ノ建物ノ出入口ヲ區別シ且隔壁ヲ設クル場合ニ於テハ本則施行後ニ於テモ宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得セシメタリ故ニ従前ノ藝妓屋兼宿屋營業者ニ對シテハ附則第十四條ニ依リ出入口及隔壁ノ檢査ヲ遂クルコトヲ要ス

四 従來ノ藝妓屋營業者ハ狹義ノ藝妓、舞妓、酌婦ニ包含シタルトモ改正規則ハ藝妓ト酌婦トナ分離セリ而シテ藝妓ハ常態トシテ樂器ヲ携ヘ客席ニ侍シ遊興ヲ助ケル營業ヲ指シ尙従來ノ如ク舞妓ノ名稱ヲ存スルノ必要ナキヲ以テ之ヲ廢シ總テ藝妓ニ包含セシメ又酌婦ハ樂器ヲ携ヘスシテ客席ニ侍シ酒食ノ斡旋ヲ爲ス營業者ヲ指スコトトセリ故ニ藝妓ト酌婦トノ區別ヲ擧ケレハ

- 一 常態トシテ樂器ヲ携フ
- 二 常態トシテ客席ニ侍シ遊興ヲ助ク
- 三 宿屋ヲ除ク外營業ヲ爲スコトヲ得

酌婦

- 一 樂器ヲ携ヘス
- 二 客席ニ侍シ酒食ノ斡旋ヲ爲ス
- 三 料理店、飲食店、貸座敷、引手茶屋等ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得
- 右ノ如クナルヲ以テ宿屋ニ於ケル女中ハ之ヲ酌婦ト謂フヲ得ス之ニ反シ料理店、飲食店ニ於ケル女中ハ所謂飯焚ヲ除クノ外總テ酌婦ト謂フヘキモノニ付爾後漏ナク之カ届出ヲ爲サシメ從來ノ如ク無免許酌婦ノ存在シタリシ弊害ハ全然之ヲ除却スルコトヲ得ヘシ
- 五 藝妓及酌婦營業ヲ爲サムトスル者ハ警察官署ノ指定セル醫師ノ健康診斷書ヲ添附セサルヘカラス右ノ規定ハ他人ノ委囑ヲ受ケ虚偽ノ診斷書ヲ出ダスノ虞アリト認ムル醫師ヲ排斥シ公正ノ診斷書ヲ徵スルコトヲ得セシメタルモノニ付特ニ前記ノ如キ事由アル場合ノ外濫ニ醫師ノ診斷書ヲ排斥スルカ如キコトナキ様注意シ該醫師ノ診斷書ヲ以テ指定醫師ノ診斷書ト看做シ取扱フコトヲ要ス
- 六 改正規則ニ於ケル藝妓及酌婦ハ單ニ届出ノミヲ以テ足ル營業ナリト雖モ從來往々半玉ト稱スル者ノ中ニハ義務教育ヲ終ヘサル幼年者ナキニ

非ス故ニ改正規則ニ於テハ何レモ十二歳未満ノ者ノ營業ヲ爲スコトヲ禁シ尙肺結核、トシホム、花柳病、其ノ他傳染性皮膚疾患アル者ノ營業ヲ爲スコトヲ禁シタリ然レトモ現ニ營業中ノ者ニシテ之等ノ疾病ニ罹レトキ遽ニ營業ノ禁停止ヲ爲スハ聊酷ニ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ之等ノ場合ニ於テハ何レモ醫師ノ診斷ヲ受ケ休業セシメ又ハ休業治療ヲ受ケシメ治療ノ後再營業ヲ繼續セシムルコトトセリ

七 藝妓營業者ハ規則第六條ニ依リ宿屋ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得スト雖モ宿屋ニ於ケル客席力臨時宴會席ニ使用セララルル場合ニハ其ノ客室タルヤ臨時料理店ノ客席トナルカ故ニ從テ藝妓營業者ハ之等ノ場所ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ラルヘシ又藝妓營業者ハ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外營業先ニ宿泊スルコトヲ得サルノ規定アリ右ハ濫ニ料理店等ニ宿泊スルコトヲ禁シタルモノナレトモ急病其ノ他ノ事由ニ依リ歸宅スルコト能ハサル場合ニハ警察官吏ノ承認ヲ受ケシムルコトトシタリシナリ

八 藝妓營業取締規則第七條及酌婦營業取締規則第六條ニ對シテハ警察則第二條第二號ニ罰條アルヲ以テ殊更之カ罰則ヲ設ケザリシモノニ付違反者ニ對シテハ右ノ條項ニ依リ處罰ヲ加フルコトヲ要ス

九 從來ノ藝妓、雜妓及酌婦營業者ハ藝妓營業取締規則第十六條酌婦營業取締規則第十五條ニ依リ何等ノ手續ヲ盡スナセシテ當然改正規則ノ藝妓又ハ酌婦ト看做サルルカ故ニ若十二歳未満ノ者アリト雖モ此ノ際各取締規則第一號ニ依リ營業ヨリ除却セラルルコトヲキ管ニ付行違ナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス

●貸座敷引手茶屋營業取締規則

(明治四十四年二月 縣令第十七號)

(沿革)大正五年六月縣令第三三號改正

一 宿屋又ハ紹介營業者ヲ爲ス者

二 公安ヲ害スル虞アル者

第五條 貸座敷又ハ引手茶屋ニ於ケル營業用建物ノ構造設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

一 建物ハ平家又ハ二階建ト爲スコト

二 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他不燃質物ヲ以テ葺葺スルコト

三 建物ノ外部ハ人目ヲ惹クヘキ構造、裝置ヲ爲ササルコト

四 客室相互ノ境界ニハ壁、襖又ハ板戸ヲ設クルコト

五 階段ハ幅三尺以上トシ堅固ナル手摺ヲ附スルコト但シ階段ノ幅又ハ勾配ノ狀況ニ依リ墜落ノ虞ナキモノハ手摺ヲ附スルコトヲ要セス

六 二階ノ客室十五坪以上アルモノハ二階以上ノ階段ヲ設クルコト但シ此ノ場合ニ於テハ階段ハ成ルヘク各反對ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

七 二階等ニシテ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト

八 適宜ノ場所ニ一箇以上ノ洗滌場ヲ設クルコト

九 洗滌場ニハ警察官署ノ指示ニ從ヒ適當ノ洗滌器ヲ備ヘ之ニ消毒藥液ヲ入レ置クコト

十 洗滌器ハ冬期間適宜ノ方法ニ依リ加温セシムル設備ヲ爲スコト

十一 風呂場ノ洗場ハ石、敲又ハ厚板ヲ以テ敷設シ適當ノ勾配ヲ附シ汚水溜若ハ下水溝ニ流入セシムル構造ヲ爲スコト

十二 便所ハ井戸ニ對シ相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト

十三 便所ニ於ケル尿溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造スルコト

第六條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ業名若ハ樓名、屋號等ヲ記載シタル看板、標燈其ノ他人目ヲ惹クヘキモノヲ道路又ハ道路ヨリ見得ヘキ場所ニ出ダスコトヲ得ス

第一條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ左ニ掲クル地域内ニ限ル但シ第三號ニ掲クル場所ニ於テハ家督相續ニ依ルノ外新ニ該營業ヲ爲スコトヲ得ス

一 千葉郡千葉町千葉小字新町及同町登戸小字東出戸ノ遊廓地

二 東葛飾郡松戸町松戸小字平湯ノ遊廓地

三 同郡船橋町九日市小字通町ノ内千五百八十八番地ノ二、千五百八十八番地ノ一、千五百八十九番地ノ二、千六百二十一番地、千六百二十一番地ノ一、千六百二十九番地、千七百七十九番地、千七百八十七番地、千七百九十一番地、千八百一十一番地、千八百七十七番地ノ一、千八百八十一番地ノ一

四 印旛郡佐倉町彌勒町小字北側遊廓地

五 海上郡海上村松岸小字濱田及上宿ノ遊廓地

六 君津郡木更津町木更津小字仲片町ノ遊廓地

第七條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第三號、第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所、身分、氏名及生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名

二 樓名又ハ屋號

三 營業所

四 營業用建物ノ位置ヲ記シタル平面圖但シ營業用建物ニ關シテハ其ノ間取坪數ヲ記載スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ使用前所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出テ建物ノ構造、設備ノ檢査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書若ハ連署ヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ貸座敷又ハ引手茶屋營業者ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

一 開業、休業又ハ廢業

二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更

三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

四 樓名又ハ屋號ノ變更

貸座敷又ハ引手茶屋營業者死亡シ若ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第百十七條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第八條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ公衆ニ對シ粗暴、輕侮ニ涉ル言語、形容其ノ他ノ作爲ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ強盜、竊盜、橫領等ニ關スル罪ニ依リ處刑セラレタル者ヲ雇人ニ使用スルコトヲ得ス但本條ニ該當スル者ト雖所轄警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ客引ヲ出ダシ又ハ廣告其ノ他ノ方法ヲ以テ遊興ヲ勸誘スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ來客ニ對シ其ノ求メナキ飲食物等ヲ供シ若ハ藝妓等ヲ招キ之カ代料ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ客ノ求アルト否トニ拘ラス藝妓、酌婦又ハ遊藝營業者ニ非サル婦女ヲシテ其ノ客席ニ侍シ遊興ヲ助ケシムルコトヲ得ス

第十三條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ中學校以下ノ學校生徒又ハ十七歳未満ノ者ヲシテ遊興ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十四條 引手茶屋營業者ハ來客又ハ娼妓、藝妓等ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス

第十五條 貸座敷又ハ引手茶屋營業者ハ飲食物等ノ抵償トシテ來客ノ所持品ヲ受領セムトスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受クヘシ

記載スヘシ

貸座敷引手茶屋取締ニ關スル件

(明治四十四年三月 保安二四六二號)

- 客月二十八日縣令第十七號ヲ以テ貸座敷引手茶屋營業取締規則發布セラレ本月七日ヨリ施行相成候ニ付テハ左記各號ニ依リ御取相成候
- 一 改正規則第五條第十二號ノ洗濯器及消毒藥ニ關シテハ明治四十二年九月二十八日衛第五七二九號通牒ニ依リ設備セシムルコトヲ要ス
 - 二 改正規則第八條乃至第十二條ハ罰條ノ設ケナシト雖右ハ注意の規定ナルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 三 改正規則第十六條ハ罰條ノ設ケナシト雖該違反ニ對シテハ刑法第二百三十一條ニ依リ處罰スルコトヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 四 現行規則ハ貸座敷引手茶屋營業者ニ對シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ雇人ト爲スコトヲ得サラシメ且其ノ雇人若ハ解雇ノ場合ハ其都度警察官署ニ届出テテ爲サシメタリト雖改正規則第十七條ハ強盜、窃盜、横領ノ罪ニ依リ處刑セラレタル者ハ警察官署ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外之カ使用ヲ禁シ届出ニ關スル事項ヲ廢止シタリ
 - 五 現行規則第十三條第一號ハ絕對ニ學生生徒ヲ遊興ヲ爲サシムルコトヲ禁シタリト雖改正規則第二十二條ニ於テ中等學校以下ノ學校生徒ヲ限リ遊興ヲ爲サシムルコトヲ得スト爲シ其ノ以上ノ學生生徒ニ對シテハ從來ノ如キ制限ヲ廢シタリ
 - 六 警察罰則第二條第二號ニ於テ夜間十二時後他人ノ安眠ヲ妨害スヘキ喧噪ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ處罰スルノ規定アリ故ニ遊廊トシテ設ケタル場所ニ非サル地ノ貸座敷引手茶屋營業者ハ勿論之ヲ遵守セサルヘカラスト雖遊廊トシテ設ケタル地ノ該營業者ニ對シテハ此ノ條項ヲ適用ス

娼妓取締規則

(明治三十三年十月 內務省令第四十四號)

- 〔千葉警〕
- 一 〔キモノニアラス而シテ改正規則第二十六條及第二十七條ハ其ノ差異ヲ明カナラシメタル規定ニ過キサルカ故ニ本條ニ對シテハ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 二 改正規則第三十條ハ火防取締規則ニ於テ之カ罰條ヲ設ケ又三十一條ハ注意の規定ニシテ第三十二條ハ傳染病豫防法ニ罰條ノ設ケアリ第三十五條ハ汚物掃除法施行地ニ在リテハ同法ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘク其ノ他ノ場所ニ在リテハ行政執行法ニ依リ之カ強制ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 三 改正規則第三十六條ニ貸座敷營業者ニ對シテ容用ノ寢具ニシテ身體ニ接觸スル部分ニハ宿屋ト同シク清潔ナル白布ヲ覆フコト、セリ就テハ該營業者ニ對シ速ニ之ヲ實行セシムルコトヲ要ス
 - 四 改正規則第四十一條乃至四十三條ニハ罰條ノ設ケナシト雖明治三十二年內務省令第三十二號宿泊屆其ノ他ニ關スル件ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 五 改正規則第四十四條ニハ罰條ノ設ケナシト雖之等營業用建物ノ改造修繕等ヲ爲サシムル者ニ對シテハ第四十五條又ハ第四十六條ニ依リ之ヲ命スルコトヲ得ルノミナラス其ノ命令ニ從ハサル場合ニハ處罰ヲ加フルコトヲ得ルカ故ニ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
 - 六 從來貸座敷引手茶屋ニ於テ藝妓酌婦等ニ非ラサル婦女(鴉母又ハ新)ヲ客席ニ待席ニ侍シ遊興ヲ助ケシメタルモノ右ニ關シテハ改正規則第二十一條ニ於テ之カ制限ノ規定ヲ設ケタルカ故ニ右ニ依リ嚴重取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 〔千葉警〕
- 一 (沿革)大正元年一二月內務省令第一七號改正
 - 二 第一條 十八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

〔千葉警〕

第二條

娼妓名簿ニ登錄セラレサル者ハ娼妓ヲ爲スコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス

第三條

娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓タラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ

- 一 娼妓ト爲ルノ事由
 - 二 生年月
 - 三 同一戸籍内ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實
 - 四 未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト
 - 五 娼妓稼ヲ爲スヘキ場所
 - 六 娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居
 - 七 現在ノ生業但他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實
 - 八 娼妓タリシ事實ノ有無並ニ管テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシキノ住居及稼業廢止ノ事由
 - 九 前各號ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項
- 前項ノ申請ニハ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本、前項第三號第四號ノ承諾書及市町村長ノ作リタル承諾者印鑑證明書ヲ添付スヘシ
- 娼妓名簿登錄申請者ハ登錄前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス
- 第四條 娼妓稼ヲ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ヨリ削除セラレ、モノトス
- 前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但未成年者ニ在テハ前條第一項第三號第四號ニ掲クル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得

- 第六條第十二條ニ違背シタル者
- 第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得サル者又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者
- 本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登録申請又ハ登録削除ノ申請ヲ爲サシメタル者
- 第十三條ノ二ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登録ヲ申請シタル者
- 二 第七條第九條第十條ニ違背シタル者
- 三 第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稼業ヲ爲サシメタル者
- 四 第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者
- 第十四條 本令ノ外必要ナル事項ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タズシテ娼妓名簿ニ登録セラル、モノトス

娼妓取締細則

(明治四十四年三月 縣令第二十三號)

- 第一條 娼妓名簿ノ登録ヲ申請セムトスル者ハ娼妓取締規則第三條ニ依リノ外左ニ掲クル事項ヲ具シ且検査醫ノ身體検査ヲ受クヘシ
- 一 姓名アルモノハ其ノ姓名
- 二 稼業ノ期間
- 第二條 娼妓名簿ニ登録セラレタル者稼業ノ期間ヲ伸長セムトスルトキハ自ラ警察官署ニ出頭シ其ノ事由、伸長スヘキ期間及娼妓取締規則第三條第一項第三號、第四號ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ登録ノ變更ヲ申請スヘシ
- 前項ノ申請ニハ娼妓取締規則第三條第一項第三號、第四號ノ承諾書ヲ添付スヘシ

- 第十三條 娼妓名簿ニ登録セラレタル者正當ノ事由ナクシテ九十日以内ニ就業セス又ハ一箇年以上休業シタルトキハ名簿ヨリ削除セララルモノトス
- 第十四條 娼妓ハ自己ノ住居スル貸座敷所屬ノ検査所ニ於テ検査醫ノ健康診断ヲ受クヘシ
- 第十五條 前條ノ健康診断ハ定期又ハ臨時ニ之ヲ行フ
- 第十六條 定期ノ健康診断ハ警察官署ノ指定シタル期日ニ之ヲ行フ
- 第十七條 臨時ノ健康診断ハ左ニ掲クル場合ニ之ヲ行フ
- 一 娼妓名簿登録後始テ稼業ニ就カムトスル者アリタルトキ
- 二 住居外ニ於テ休業中ニ係ル娼妓ノ就業セムトスル場合ニ於テ前ノ受檢日ヨリ起算シ七日ヲ經過シタルトキ
- 三 ニシテ傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタル者アリタルトキ
- 四 治療中ニ係ル娼妓ノ傳染性疾患治癒シ就業セムトスル者アリタルトキ
- 五 警察官署ニ於テ特ニ健康診断ヲ行フノ必要アリト認メタル者アリタルトキ
- 第十八條 貸座敷ニ住居スル娼妓ハ休業中ト雖第十六條ノ検査ヲ省略スルコトヲ得ス
- 第十九條 娼妓ハ定期ノ健康診断ノ當日開始時限三十分前迄ニ検査所ニ出頭スヘシ
- 第二十條 娼妓ニシテ疾病ノ爲健康診断ノ當日検査所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ主治醫ノ診断書ヲ添ヘ當日午前十時迄ニ警察官署ニ届出テ住居ニ於テ検査ヲ受クヘシ但シ外出中又ハ入院治療中ニ係ル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 第三條 娼妓稼業ノ期間ハ前後ヲ通シ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ警察官署ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 娼妓名簿ニ登録セラレタル者同一地域内ニ於テ住居又ハ稼業ノ場所ヲ變更セムトスルトキハ書面ヲ以テ警察官署ニ之カ登録ノ變更ヲ申請スヘシ
- 第五條 娼妓ニシテ氏名又ハ姓名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ書面ヲ以テ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第六條 娼妓ハ貸座敷ニ住居スヘシ但シ遊廓トシテ設ケタル場所ニ於テハ其ノ地域内ニ限り貸座敷外ニ住居スルコトヲ妨ケス
- 第七條 娼妓ニシテ外出ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由、期間及宿泊スル者ニ在リテハ其ノ場所ヲ具シ申請スヘシ但シ遊廓トシテ設ケタル場所ニ於テ其ノ地域内ニ限り外出スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 娼妓ニシテ分娩後三十日ヲ經過セサル者ハ稼業ニ就クコトヲ得ス
- 第九條 娼妓ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ
- 一 道路又ハ道路ヨリ見得ヘキ場所ニ於テ人目ヲ惹クヘキ扮装ヲ爲ササルコト
- 二 道路又ハ道路ヨリ見得ヘキ場所ニ於テ佇立若ハ彷徨セサルコト
- 三 道路又ハ道路ヨリ見得ヘキ場所ニ業名若ハ姓名ヲ記載セル看板、標燈其ノ他人目ヲ惹クヘキ物ヲ掲出セサルコト
- 遊廓トシテ設ケタル場所ニ於テハ其地域内ニ限り前項第一號ノ規定ヲ適用セス
- 第十條 娼妓ハ遊興費等ノ抵償トシテ來客ノ所持品ヲ受領セムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 娼妓ハ住所、氏名ノ詳ナラサル來客ノ所持品ニ對シ賃入又ハ賣却等ノ周旋ヲ爲サムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十二條 警察官署ハ娼妓名簿ノ登録變更ヲ拒ムコトヲ得

- 警察官署ハ娼妓ノ疾病重症ナルカ又ハ七日以内ニ就業スルコト能ハスト認メタルトキハ前項ノ検査ヲ爲ササルコトヲ得
- 第二十一條 警察官署ハ娼妓ニ對シ附録様式ノ検査證ヲ交付シ第十五條ノ検査ヲ爲シタル都度検査醫ヲシテ之ニ檢印ヲ爲サシムヘシ
- 第二十二條 娼妓ハ前條ノ検査證ヲ保管シ健康診断ノ當日ハ之ヲ検査醫ニ差出スヘシ
- 第二十三條 娼妓ニシテ健康診断ノ結果傳染性疾患ニ罹リタリト認メラレタルトキハ警察官署ノ指示ニ從ヒ入院治療ヲ受クヘシ
- 第二十四條 前條ニ依リ入院シタル娼妓ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ病院外ニ出ツルコトヲ得ス
- 第二十五條 警察官署ハ第十五條ノ健康診断ニ際シ警察官署長シテ之ニ臨監セシムヘシ
- 第二十六條 第四條ノ名簿登録變更ノ申請ヲ爲サスシテ住居又ハ稼業ノ場所ヲ變更シタル者又ハ第八條乃至第十一條、第二十三條、第二十四條ニ違反シタル者ハ二十五日以下ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 第二十七條 第五條、第二十二條ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第二十八條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
- 附則
- 第二十九條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十條 明治三十三年十月千葉縣令第八十八號娼妓取締規則施行細則及明治二十八年四月千葉縣令第二十二號娼妓身體検査規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

テ構造スルコト

第八條 料理店又ハ飲食店營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

- 一 開業、休業又ハ廢業
- 二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名ノ變更
- 三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
- 四 屋號ノ變更

料理店又ハ飲食店營業者死亡シ若ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第九十七條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第九條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客ヲ訪問セル者アル場合ニ於テ訪問者ニ對シ濫ニ來客ノ所在ヲ隠秘スルコトヲ得ス

第十條 料理店又ハ飲食店營業者ハ種種ノ手段ヲ以テ強テ客ヲ誘引スルコトヲ得ス

第十一條 料理店ハ酌婦ヲ店頭其ノ他公衆ノ見得ヘキ場所ニ座列セシムルコトヲ得ス

第十二條 料理店營業者ハ自家ニ酌婦ヲ寄寓セシムルコトヲ得ス

第十三條 料理店營業者ハ客ノ求メアルト否トニ拘ラス藝妓、酌婦又ハ遊藝營業者ニ非サル婦女ヲシテ其ノ客席ニ侍シ遊興ヲ助ケシムルコトヲ得ス

第十四條 飲食店營業者ハ客ノ求メアルト否トニ拘ハラス藝妓、酌婦若ハ遊藝營業者ヲ客席ニ侍セシメ又ハ其ノ他ノ婦女ヲシテ客席ニ侍シ遊興ヲ助ケシムルコトヲ得ス

第十五條 料理店又ハ飲食店營業者ハ客席ニ公安、風俗ヲ害スヘキ書畫其

第二十六條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客ニ共用セシムル目的ヲ以テ便所若ハ風呂場ニ手拭ヲ備フルコトヲ得ス

第二十七條 警察官署ハ料理店又ハ飲食店ニ於ケル營業用建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ之ノ改造、修繕、設備若ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條 警察官署ハ料理店又ハ飲食店營業者ニ對シ營業用帳簿ノ提出ヲ命シ若ハ其ノ營業所ニ臨ミ之ヲ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第二十九條 料理店又ハ飲食店營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察官署ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ若ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一 本則ニ違反シ又ハ公安風俗ヲ害スル事實アリト認メタルトキ

二 他人ニ名儀ヲ假スル事實アリト認メタルトキ

第三十條 第三條、第十條乃至第十四條、第十六條乃至第二十條、第二十二條ニ違反シ又ハ第二十九條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ三十日

同條ノ命令ニ違反シ又ハ第二十九條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第三十一條 第八條、第九條、第十五條、第二十三條、第二十五條、第二十六條ニ違反シタル者ハ二十日未滿ノ拘留又ハ十五日未滿ノ科料ニ處ス

第三十二條 料理店又ハ飲食店營業者カ十四歳未滿ノ者若ハ禁治産者ナルトキハ前二條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

料理店又ハ飲食店營業者カ法人ナルトキハ前二條ノ科料ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス

第三十三條 料理店又ハ飲食店營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十四條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ補助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第三編 保安 行政 第二章 風俗

ノ他ノ物件ヲ置キ若ハ客席ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十六條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客ニ對シ其ノ求メナキ食物ヲ供シ之カ代料ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客若ハ藝妓ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス但シ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ止ムコトヲ得サル場合ニ於テ所轄警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 料理店又ハ飲食店營業者ハ臨時旅客ヲ宿泊セシムトスルトキハ所轄警察官署ノ承認ヲ受ケヘシ

第十九條 料理店又ハ飲食店營業者ハ飲食料等ノ抵償トシテ來客ノ所持品ヲ受領セムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受ケヘシ

第二十條 料理店又ハ飲食店營業者ハ住所、氏名ノ詳ヲラサル來客ノ所持品ニ對シ質入若ハ賣却等ノ周旋ヲ爲サムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受ケヘシ

第二十一條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客ニシテ夜間十二時後他人ノ安眠ヲ妨害スヘキ喧噪ノ行為ヲ爲ス者アルトキハ之ニ對シ其ノ停止ヲ注意スヘシ

第二十二條 料理店又ハ飲食店營業者ハ花柳病、肺結核、トラホーム、癩其ノ他傳染性皮膚疾患アル者ヲシテ來客ニ接セシメ若ハ飲食器具等ヲ取扱ハシメ又ハ料理ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十三條 料理店營業者ハ自家ニ寄寓スル酌婦ニシテ肺結核、トラホーム、花柳病其ノ他傳染性皮膚疾患ニ罹レル疑アル者アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ其ノ指示ニ從ヒ治療若ハ休業治療ヲ受ケシムヘシ

第二十四條 料理店又ハ飲食店營業者ハ客席、料理場、便所、風呂場及井戸流、下水溜、塵芥溜、宅地内等ヲ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第二十五條 料理店又ハ飲食店營業者ハ來客ノ用ニ供スル衣類、飲食器具等ハ常ニ清潔ノモノヲ用ユヘシ

附則

第三十五條 從前ノ飲食店營業者ニシテ引續キ其ノ營業ヲ爲サントスル者ハ營業用飲食物ノ種類ヲ大正五年八月十五日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ爾後飲食店營業許可ノ效力ヲ失フモノトス

第三十六條 從前ノ飲食店營業者ニシテ自家ニ藝妓、酌婦ヲ現ニ寄寓セシムルモノハ大正五年八月十五日迄第六條、第十一條ヲ適用セス但シ藝妓、酌婦ノ店頭其ノ他公衆ノ見得ヘキ場所ニ座列セシムルコトヲ得ス

第三十七條 從前ノ料理店營業者ニシテ藝妓屋ヲ兼ヌル者ハ當分ノ内第六條ヲ適用セサルコトアルヘシ

第三十八條 從前ノ料理店又ハ飲食店營業者ニシテ本則施行後引續キ料理店若ハ飲食店營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項、第四條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ爾後料理店又ハ飲食店營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 前條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前ノ建物、設備ヲ裝用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケヘシ

前項ノ建物ノ構造、設備ニシテ第七條ニ適合セサルモノト雖明治四十四年一月三十一日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十條 從前ノ料理店又ハ飲食店營業者ニシテ第五條ニ該當スト雖第三十八條第一項ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後料理店若ハ飲食店營業ヲ爲スコトヲ得但シ紹介營業ヲ爲ス者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 明治三十二年三月千葉縣令第二十四號料理屋營業取締規則ハ

之ヲ廢止ス

料理店飲食店營業取締ニ關スル

(明治四十三年十月 保第七六五二號)

今同料理店飲食店營業取締規則改正相成候處之カ施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候
一 料理店ト飲食店トハ客席ヲ設ケ客ニ酒肴ヲ供スルノ點ニ於テハ全ク同ノ業態ナリト雖客ニ遊興ヲ爲サシムルコトヲ得ルト否トニ於テ兩者ノ間ニ區別ヲ設ケタルカ故ニ今後出願者アル場合ニ於テハ此ノ區別ニ依リ許可ヲ與フルコトヲ要ス
二 規則第五條ニ依リ紹介營業者ハ料理店、飲食店營業ヲ爲スコトヲ得ス又同第七條ニ依リ宿屋營業者ハ同一建物ニ於テ料理店、飲食店營業ヲ兼ヌルコトヲ得サルカ故ニ該出願アル場合ニハ篤ト實地調査ヲ遂ケ之等ノ條項ニ背戾スルカ如キコトナキ様注意セサルヘカラス然レトモ本則施行前ヨリ料理店又ハ飲食店ト宿屋ト同一建物ニ於テ兼業スル營業者ハ附則第五十一條ニ依リ建物ノ出入口ヲ區別シ且隔壁ヲ設ケルニ於テハ尙之ヲ兼ヌルコトヲ得ルカ故ニ之ニ依リ検査ヲ遂クルコトヲ要ス
三 規則第七條ハ料理店、飲食店ニ於ケル營業用建物ノ構造、設備ニ對シ制限ヲ加ヘタリト雖右ハ本年五月二十一日保第四、九五八號通牒戶締其ノ他盜難豫防ニ關スル件及同年六月十一日保第五、三九九號通牒便所及風呂場改良ニ關スル件ニ依リ前者ハ來ル十一月末日迄後者ハ來ル十二月末日迄ニ悉ク改良セシムル管ニシテ亦既ニ結了濟ノモノナキニ非ス依テ附則第四十九條第二項ニ於テモ明年一月三十一日迄ハ從前ノ構造、設備ヲ其ノ儘襲用シ得ルコトトセリ就テハ之ヲ督勵シ該期日迄ニハ規則ノ制限ニ從ハシムルコトヲ要ス

四 規則第九條乃至第十三條ノ規定ハ營業者ニ對スル注意事項ニ過キサルカ故ニ之ニ對シ罰條ヲ設ケスト雖モ平素觀察ノ際ニ於テ深ク注意ヲ加ヘ營業者ヲシテ自然此ノ美風ヲ馴致セシムルコトヲ要ス
五 規則第十八條ハ料理店又ハ飲食店營業者ニ對シ酌婦ヲ店頭其ノ他公衆ノ見得ヘキ場所ニ座列セシムルコトヲ禁シタリ右ハ風俗上ノ弊害ヲ除去スルノ目的ニ出テタルモノニ付宜ク適當ノ取締ヲ爲スコトヲ要ス
六 飲食店營業者ハ客ニ遊興ヲ爲サシムルコトヲ得サルカ故ニ規則第二十條ニ於テモ藝妓ヲ客席ニ招致スルコトヲ得ストセリ之ニ反シテ料理店營業者ハ客ニ遊興ヲ爲サシムルコトヲ得レトモ規則第二十條ハ藝妓、酌婦又ハ遊藝營業者ニ非サル婦女ヲ遊興ヲ助ケシムルコトヲ得スト規定セリ就テハ右ノ區別ニ依リ取締ヲ爲スコトヲ要ス
七 料理店又ハ飲食店營業者ハ規則第二十四條ニ依リ來客若ハ藝妓ヲ宿泊セシムルコトヲ得スト雖疾病其ノ他止ムコトヲ得サル場合ニハ警察官署ノ承認ヲ得テ宿泊スルコトヲ許シタルカ故ニ之カ承認ヲ申出タル者アルニ方リテハ篤ト調査ヲ遂ケ萬止ムヲ得サル者ニ限り之ヲ承認スルコトヲ要ス
八 料理店又ハ飲食店營業者ハ規則第二十五條ニ依リ警察官署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ非レハ臨時旅客ヲ宿泊セシムルコトヲ得サルカ故ニ此ノ承認ヲ申出タル者アルトキハ調査ヲ遂ケ他ニ旅人宿等ノアルニ拘ハラシ濫ニ料理店、飲食店ニ宿泊セシムルカ如キ惡風ヲ生セシメサル様取締ヲ爲スコトヲ要ス
九 規則第二十八條ハ警察官署則第二條第二號ニ罰條アリ第二十九條ハ火防取締規則第三十二條同第五十三條ニ刑罰ノ規定アリ又第三十條ハ注意的ノ規定ニ外ナラサルカ故ニ之ニ罰條ヲ附セザリシモノニ付處罰上誤ナキヲ要ス
十 規則第三十一條ノ違反者ハ傳染病豫防法第四條及三十一條ニ依リ處罰

〔千葉警〕

スルコトヲ得ルヲ以テ別ニ之カ罰條ヲ設ケス又同第三十四條ノ違反者ハ汚物掃除法ヲ適用スル場所ニ在リテハ同法及施行命令ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘク其ノ他場所ニ在リテハ説諭再三ニ及フモ尙其ノ命令ニ從ハサルトキハ營業停止ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ別ニ之カ罰條ヲ設ケザリシモノニ付處罰上誤ナキヲ要ス

料理店飲食店營業取締ニ關スル

(大正二年十一月 保第一一五五八號)

料理店飲食店營業出願ニ對シテハ同則第五條並ニ第七條ノ制限ニ適スルヤ否ヤヲ審査シタル後許可ヲ決スヘキハ勿論ノ義ニ付他人ノ名義ヲ假リ又ハ許可以外ノ場所ニ於テ全然營業シ能ハサルハ自明ノ理ナルニ不拘營業者中俗ニ「タカマチ」ト稱シ神社ノ祭典寺院ノ緣日其他演藝興行等多數人ノ群集スル場所ニ出店シ而モ客席(所謂客席トハ一室タルト二室以上タルトヲ問ハス)苟モ店頭ニ非ラスシテ客用トシテ區別シタルモノヲ設ケ酌婦雇傭其他臨時雇入レタル醜業婦ヲ伴ヒ酒肴ヲ供シ又ハ之カ斡旋ヲ爲サシメ甚敷ハ移動式トモ稱スヘキ小屋掛材料ヲ設備シ置キ廣ク縣下ノ重ナル祭典緣日等ヲ轉々シ行商ノ營業ヲ爲ス者尠ナカラズ從テ是等ニ雇傭セラル、婦女ニ對シテハ自衛的健康診斷ノ如キモノ之ヲ行フニ由ナキ狀況ニアリト聞ク果シテ事實ナリトモ取締規則ヲ無視シ公安風俗上ニ及ホス影響尠少ナラズ候條嚴重取締ヲ爲シ違反者ニ對シテハ假借スル處テク相當加罰ヲナシ取締規則ノ運用上過誤ナキヲ期セラレ度候也

料理店飲食店營業許可ニ關スル

(大正三年十月 保第九二四九號通牒)

先般料理店飲食店營業地域ニ關シ稟議セラルヘキ旨示達スル處アリシカ營業者ニ於テ許可前ニ營業用家屋トシテ多大ノ費用ヲ投シ諸般ノ準備ヲナシ

風俗取締ニ關スル件

(大正五年九月 保第八七〇一號)

飲食店營業者ハ客月十五日限り自家ニ酌婦ヲ寄寓セシムル能ハサル管ナルニ從前ヨリノ飲食店營業者ニシテ酌婦ヲ寄寓セシメ來レル者ハ今尙解雇スルニ至ラス名ヲ雇人ニ假リテ依然就業セシメツ、アルモノ抄カラサル聞エ有之斯クテハ過般料理店轉業ニ對スル不許可ノ方針ニ改正規則ノ趣旨ヲ没却スル次第ニ付嚴重取締ヲ勵行セラルヘシ尙寄寓淫者處分方ニ就テハ一般ニ輕キニ失スル傾キアルヲ以テ爾今初犯者ト雖モ特ニ情狀酌量スヘキ者ノ外ハ大抵拘留七日以上ノ言渡ヲ爲スヘキ様致度又料理店飲食店營業者又ハ其ノ雇人ニシテ寄寓淫ノ媒介若クハ容止ヲ爲シタル者若クハ其事實ヲ確認スルコト能ハスト雖モ寄寓淫者等ヲ宿泊セシメ陰ニ之等ノ者ヲ幫助スルカ如キ者ニ對シテハ賣淫者以上ニ重罰シ尙其所爲一回タリト雖モ多額ノ金錢ヲ濫費セシムルカ或ハ數人ノ賣淫者ヲ宿泊セシムル等其情重キ者ニ對シテハ營業許可ヲ取消若クハ停止ヲ稟申スル等風俗取締上ニ今一層嚴重ニセラルヘシ

酌婦營業ニ關スル件

(大正六年七月 保第五〇二四號)

從來ハ酌婦業ニ對シテハ單ニ届出營業ト爲セシナリテ往々本籍氏名等ヲ詐稱スル者或ハ未成年者ニシテ法定代理人ノ承諾無キ者或ハ有夫ノ婦ニシテ夫ノ承諾無キ者或ハ前借金ヲ爲ス者ニシテ其金額並辨濟ノ方法不當ノ者若クハ履行不可能ナル者等有之爲ニ屢々紛議ヲ惹起シ又ハ權利ノ上ニ泣ク者

不撓其弊者ノ及ホス處官ニ善良ノ風俗ヲ害スルノミナラス一旦酌婦ト爲リタル者ハ概シテ半生ヲ苦界ニ沈淪スルノ觀アリ...

締テ爲スヘキコトニ努メラルヘシ 追テ料理店主ト酌婦トノ間ニ締結セル契約ニシテ債務辨濟ニ付無期限ノモノ又ハ五年以上ノ期限ヲ附スルモノヲ調査シ其數ハ本月十二日迄ニ報告ヲ爲シ爾今本通牒ノ趣旨ニ基キ救済ヲ爲シタルモノハ其都度事由ヲ具シ報告セラルヘシ

料理店飲食店營業許可稟議ニ關スル件

(大正七年十一月 保第六七七七號)

本件ニ付テハ大正三年十月保第八五八號ヲ以テ及通牒置候處爾今料理店營業ノ出願アリタル場合ハ其營業所々在在地域ノ如何ニ不拘總テ其周圍ノ狀況並ニ出願人ノ性行經歷資產其他參考トナルヘキ事項ヲ詳具シ稟議セラルヘク飲食店營業ノ出願ニ付テハ特別ノ事情無キ限り稟議ヲ要セサル儀ト承知セラレ度此段及通牒候也

浴場營業取締規則

(明治四十三年十一月二十二日 縣令第四百十三號)

第一條 本則ニ於テ浴場營業ト稱スルハ白湯、鹽湯、藥湯、鏡泉等ノ浴場ヲ設ケ客ニ入浴ヲ爲サシムルヲ業トスルモノヲ謂フ 第二條 浴場營業ヲ爲サシムル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ...

五 營業時間ノ終結

六 藥湯ニ在リテハ其ノ藥劑ノ名稱及其ノ用法、效能書 七 鏡泉ニ在リテハ其ノ試驗成績書、膠本及效能書

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ營業用建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第四條 強盜、竊盜、横領、姦淫ノ罪ニ依リ處刑セラレタル者ハ浴場營業ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本條ニ該當スル者ト雖改悛ノ情顯著ナル者ニ對シテハ特ニ該營業ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 營業用建物ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ前面ハ道路又ハ隣地ニ對シ六尺以上ノ空地ヲ存スルコト 二 道路其ノ他公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ面スル浴槽、洗場、脱衣場ニシテ窓又ハ戸障子ノ閉閉ニ依リ見透シ得ヘキ箇所アルモノハ其ノ部分ヲ距ル三尺以上ノ屋外ニ高サ六尺以上ノ障子ヲ設ケルコト 三 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他不燃質物ヲ以テ葺蓋スルコト 四 建物ノ前面又ハ適當ノ場所ニ見張場ヲ設ケルコト 五 客ノ出入口ハ男女ヲ區別シ出入口ノ戸障子ノ閉閉ニ依リ浴槽、洗場、脱衣場内ヲ口透シ得サル様適當ノ構造ヲ爲スコト 六 客ノ出入口ニハ摺硝子ノ障子ヲ設ケルコト 七 浴槽、洗場、脱衣場ハ男女ヲ區別シ其ノ男女ノ境界ニハ口透シ得サル様適當ノ構造ヲ爲スコト 八 浴槽、洗場、脱衣場、光線ノ射入、空氣ノ流通ニ適當ナル構造ヲ爲スコト 九 洗場、三坪以上ノ廣サヲ有シ石、敲又ハ厚板等ヲ以テ敷設シ適當ノ勾配ヲ附シ汚水ハ汚水溝及汚水溜ニ流入セシムル構造ヲ爲スコト

- 十 洗場ニハ適當ナル湯氣窓ヲ設ケルコト 十一 洗場ニハ清潔ナル水及湯ヲ供給スル爲水槽、湯槽又ハ樋管ヲ設ケルコト 十二 洗場ニハ十人以上ノ使用ニ供スヘキ腰掛及小桶ヲ備フルコト 十三 洗場ニハ唾壺ヲ備フルコト 十四 洗場ト脱衣場トノ境界ニハ硝子障子ヲ設ケルコト但シ夏季ニ在リテハ之ヲ設ケサルコトヲ妨ケス 十五 脱衣場ニハ鎖鑰ヲ附シタル戸柵ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ容器ヲ備フルコト 十六 適當箇數ノ輕便消火器ヲ備ヘ又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スコト 十七 洗場又ハ脱衣場ヨリ見得ヘキ場所ニ適當ナル下足置場及雨具置場ヲ設ケルコト 十八 浴槽、洗場、脱衣場ニ對シ臭氣ノ及ハサル様相當ノ距離ヲ有スル場所ニ男女各別ニ客用便所ヲ設ケルコト 十九 客用便所ニ於ケルキンカクシ及朝顔ハ陶磁器ヲ用ユルコト 二十 客用便所ニ於ケル尿管尿溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造スルコト 二十一 火焚場ニハ煙筒ヲ設ケルコト 二十二 火消場、灰置場ハ土坑ト爲シ又ハ土壁ヲ以テ築造セル場所ヲ用キ不燃質物ノ蓋ヲ備フルコト 二十三 燃料置場ハ火焚場、火消場又ハ灰置場ヨリ六尺以上ノ距離ヲ存スルコト 二十四 汚水溝、汚水溜ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ且臭氣ノ發散セサル様適當ノ葺蓋ヲ設ケルコト 第六條 浴場營業者ハ午前四時ヨリ午後十一時迄ノ間ニ非サレハ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 浴場營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

- 一 廢業
二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名ノ變更
三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
四 屋號ノ變更

浴場營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リテ之ヲ届出ツヘシ

第八條 浴場營業者ハ營業上來客ニ對シテ寧親切ニ取扱フヘシ

第九條 浴場營業者ハ來客ノ衣類、下足、雨具其ノ他携帶品ヲ看守スヘシ

第十條 浴場營業者ハ來客ノ所持品紛失シ又ハ盜難ニ罹リ若ハ來客ノ變死傷其ノ他異變アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第十一條 浴場營業者ハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシムルコトヲ得ス

第十二條 浴場營業者ハ浴場内ニ於ケル風紀ヲ保持スヘシ

第十三條 浴場營業者ハ左ニ掲クル者ヲ入浴セシムルコトヲ得ス但シ第一號ニ該當スル者ト雖其ノ疾患ヲ治スルコトヲ目的トスル藥湯又ハ鐵泉ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 癩患者又ハ傳染性皮膚疾患アル者

二 監護人ナキ精神病者又ハ亂醉者

第十四條 浴場營業者ハ來客中歌謠等ヲ爲シ又ハ喧噪、鄙猥、不潔ノ行爲ヲ爲シ他ノ來客ニ迷惑ヲ及ホス者アルトキハ其ノ停止ヲ注意スヘシ

第十五條 浴場營業者ハ火焚場、火消場等ノ近傍ニ薪炭其ノ他ノ燃質物ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十六條 浴場營業者ハ石油ヲ用ユル燈火器ノ油壺ハ金屬製ノ物質ヲ用ユヘシ

ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

一 第二條第一項ノ許可ヲ受ケテシテ營業ヲ爲シタル者

二 第二條第二項、第二十六條ノ検査ヲ受ケテ又ハ之ニ合格セサル建物ヲ使用シテ營業ヲ爲シタル者

三 第十二條、第十三條、第十五條、第十九條ニ違反シタル者

四 第二十九條ノ停止中營業ヲ爲シタル者

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五日以下ノ科料ニ處ス

一 第六條、第十八條、第二十條ニ違反シタル者

二 第九條ノ看守ヲ怠リタル者

三 第二十八條ノ營業用建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ改造、修繕、設備若ハ掃除ノ命ニ從ハサル者

四 第二十五條ノ中止ノ命ニ從ハサル者

第三十二條 第十條、第二十三條、第二十四條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第三十三條 第七條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第三十四條 浴場營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治產者ナルトキハ前四條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

浴場營業者カ法人ナルトキハ前項ノ刑ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス

第三十五條 浴場營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カラルコトヲ得ス

第三十六條 本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第二編 保安 行政 第二章 風俗

第十七條 浴場營業者ハ火防取締規則及明治三十七年内務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件並ニ肺結核豫防規程ノ當該條項ヲ遵守スヘシ

第十八條 浴場營業者ハ毎日浴湯ヲ交換スヘシ但シ藥湯又ハ鐵泉等ニシテ毎日交換スルコトヲ得サル事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 浴場營業者ハ傳染性疾患アル者ヲシテ來客ノ取扱ヒヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十條 浴場營業者ハ來客ニ共用セシムル目的ヲ以テ浴槽、洗場、脱衣場又ハ便所ニ手拭ヲ備ヘ若ハ之ヲ來客ニ使用セシムルコトヲ得ス

第二十一條 浴場營業者ハ浴槽、洗場、脱衣場、便所其ノ他客ノ出入スル場所又ハ水槽、湯槽、腰掛、小桶等ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第二十二條 浴場營業者ハ火焚場、火消場、灰置場、汚水溝、汚水溜等ハ毎月二回以上掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第二十三條 浴場營業者ハ湯錢其ノ他ノ對價及第十三條、第十四條、第二十四條ノ事項ヲ脱衣場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十四條 浴場營業者ハ營業時間内ト雖烈風ノトキハ焚火ヲ中止スヘシ

第二十五條 警察官署ハ風力強キ日ニ於テ危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキハ浴場營業者ニ對シテ焚火ノ中止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條 浴場營業者ハ毎年六月及十二月警察官署ノ指定シタル日時ニ於テ營業用建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ

第二十七條 浴場營業者ハ營業用建物ノ構造又ハ設備ニシテ破損セルモノハ速ニ改造若ハ修繕スヘシ

第二十八條 警察官署ハ浴場ニ於ケル營業用建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ之カ改造、修繕、設備又ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第二十九條 警察官署ハ浴場營業者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害シ若ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

附則

第三十七條 從前ノ浴場營業者ニシテ本則施行後引續キ浴場營業ヲ爲サシムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一項、第三條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十八條 從前ノ浴場營業者ハ爾後浴場營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 從前ノ浴場營業者ニシテ第四條ニ該當スト雖前條第一項ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後浴場營業ヲ爲スコトヲ得

第四十條 第三十七條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前ノ建物、設備ヲ襲用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

前項ノ建物ノ構造、設備ニシテ第五條第一號乃至第三號、第九號、第十號、第二十一號ノ制限ニ適合セサルモノハ改造又ハ大修繕ヲ爲スニ至ル迄其制限ニ依ラサルコトヲ得但シ浴槽、洗場、脱衣場ハ道路其ノ他公共ノ自由ニ交通シ得ル場所ヨリ見透シ得サル裝置ヲ爲スヘシ

第一項ノ建物ノ構造、設備ニシテ第五條第六號、第八號、第二十四號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十四年三月三十一日迄ニ之ヲ改造シ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

第四十條 明治三十四年四月千葉縣令第四十二號浴場營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

浴場營業取締ニ關スル件

（明治四十三年十一月）

（保第九八八號）

今同浴場營業取締規則改正相成候處之カ施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候

二〇九

- 一 改正規則ニ於ケル營業用建物ノ位置、構造ニ關シテハ現行規則ト格別大差ナシト雖其ノ異ナル重モナル事項ヲ舉クレハ現行規則ハ客ノ出入口ヲ除クノ外建物ノ周圍ニ對シ高サ六尺以上ノ障壁ヲ設クルコトト爲シタリシカ改正規則ハ第五條第二號ニ於テ道路其ノ他公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ面スル浴槽、洗場、脱衣場ニシテ窓又ハ戸障子ノ閉閉ニ依リ見透シ得ヘキ箇所アルモノハ其ノ部分ヲ距ル三尺以上ノ屋外ニ高サ六尺以上ノ障壁ヲ設クルコトトセリ故ニ浴場内ヲ見得ヘキ場所ニ對シテハ必ス三尺以上ノ屋外ニ高サ六尺以上ノ障壁ヲ設ケシメ單ニ目隠ニ過キサル裝置ヲ爲サシメサル様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 現行規則ハ客ノ出入口ニ對シ高サ三尺ノ障壁ヲ設クルコトヲ規定シタリト雖改正規則ハ第五條第五號ニ於テ出入口ノ戸障子ノ閉閉ニ依リ浴槽、洗場、脱衣場内ヲ見透シ得サル様適當ノ構造ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セリ故ニ改正規則ニ於テハ障壁其ノ他便宜ノ構造ヲ以テ出入口ノ戸障子ヲ閉閉スルモ裸體等ヲ見透シ能ハサル様遺憾ナク構造セシムルコトヲ要ス
- 三 改正規則第五條第六號ハ客ノ出入口ニ對シ摺硝子ノ障子ヲ設クルコトヲ規定セリ右ハ從來ノ出入口ハ多クハ障子ヲ用ユルカ故ニ其ノ破損ニ依リ外部ヨリ見透スコトナキニ非ラス改正規則ハ之等ノ弊害ヲ矯正セムカ爲メ特ニ摺硝子ノ規定ヲ設ケタルモノニ付之ヲ改良セシムルハ勿論爾後破損等ノ儘放任シ置クカ如キコトナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 四 從來ノ浴槽、洗場、脱衣場ハ男女ノ境界充分ナラスシテ或ハ見透シ得ルモノアリ或ハ其ノ境界ノ下部ニ於テ交通シ得ルモノアリ爾後ハ絕對ニ見透シ得サルハ勿論下部ヨリ交通シ能ハサル様構造セシメ且相互交通シ得ル爲メ開キ戸ノ如キモノヲ設ケシメサルコトヲ要ス
- 五 現行規則ハ雨具置場ニ關スル規定ヲ設ケサリト雖改正規則第五條第

- 十七號ハ洗場又ハ脱衣場ヨリ見得ヘキ場所ニ對シ適當ナル下足置場及雨具置場ヲ設クルコトトセリ故ニ雨具置場ニ關シテハ適當ノ設備ヲ爲サシムルコトヲ要ス
- 六 現行規則ハ汚水溝、汚水溜ニ關シ別ニ規定ヲ設ケサリト雖改正規則第五條第二十四號ニ於テハ汚水溝、汚水溜ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ且臭氣ノ發散セサル様適當ノ覆蓋ヲ設クルコトトセリ爾後之等ノ設備ニテハ完全ニ構造セシムルコトヲ要ス
- 七 改正規則第十一條ハ浴場營業者ニ對シ十二歳以上ノ男女ヲ混浴セシムルコトヲ得サラシメタリト雖同條ノ事項ニ違反スル者ニ對シテハ明治三十三年五月内務省令第二十五號ニ依リ二十五圓以下ノ罰金ニ處セラシムル管ニ付本條ハ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス
- 八 改正規則第八條、第十四條ハ注意的ノ規定ニ外ナラサルヲ以テ之ニ對シ別ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ外ナラス然レトモ第十四條ノ行爲ヲ爲シタル浴客ニ對シテハ警察犯處罰令第二條第十四號ニ依リ處罰スルコトヲ得ラルヘシ
- 九 現行規則第十一條ハ藥湯又ハ鐵泉ニシテ毎日交換シ得サルモノニ對シテハ其ノ交換期日ヲ定メ警察官署ノ認可ヲ受ケシメタリト雖改正規則第十八條ハ之カ認可ヲ廢シタリ就テハ爾後之カ認可ヲ受クルヲ要セサルニ乘シ不潔ノ浴場ヲ使用シ營業スルカ如キモノナキ様充分注意ヲ加フルコトヲ要ス
- 十 改正規則第十五條ハ浴場營業者ニ對シ火焚場、火消場等ノ近傍ニ薪炭其ノ他ノ燃質物ヲ貯藏スルコトヲ得ストノ規定ヲ設ケ同條違反ニ對シテハ第三十條ニ於テ罰條ヲ設ケアリト雖モ若營業者カ灰置場又ハ灰容器ノ近傍燃質物ヲ貯藏シタル場合ニハ火防取締規則第十五條ノ規定ニ違反スル行爲ナルヲ以テ同第五十二條ニ依リ處罰セラルヘキ旨ニ付處罰上課ナキヲ要ス

〔千葉警〕

〔千葉警〕

- 十一 改正規則第十九條ハ浴場營業者ニ對シ傳染性疾患アル者ヲシテ來客ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ禁シタリ就テハ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ之ニ違反スルカ如キコトナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十二 改正規則第二十條ハ共同手拭、備付及手拭ノ貸與ヲ禁シタリ右傳染性疾患豫防ノ爲ニ最必要ノ事柄ナルヲ以テ嚴重ニ取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十三 改正規則第二十六條ハ毎年六月及十二月警察官署ノ指定シタル日時ニ於テ營業用建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ規定セリ右ハ乗合馬車若ハ人力車等ノ如ク毎年二回定期ノ検査ヲ行ヒ構造、設備ノ充分ナラサルモノ又ハ掃除ノ行届カサルモノヲ取締ラントスル目的ニ出テタルモノニ付嚴重ニ検査ヲ行フコトヲ要ス
- 十四 從來ノ浴場營業者ニシテ改正規則施行後營業ヲ繼續スルモノハ同第三十七條第一項ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケサルヘカラス就テハ該検査ヲ行フニ方リテハ充分ニ法規ノ要求ヲ充ス迄之ヲ勵行セラルヘシ但改正規則第三十九條第二項又ハ第三項ニ於テ構造、設備ノ猶豫ヲ與ヘタルモノニ對シテハ該期日迄ニ之ヲ完了スヘキ様指示シ相當ノ取締ヲ行フコトヲ要ス

●海水浴場取締規則

(大正五年五月三十日) 縣令第二十七號

- 一 海水浴場ノ位置及區劃(圖面添付)
- 二 更衣所、便所其ノ他附屬建物ノ圖面
- 三 開場期間
- 四 料金ヲ徵スルモノハ其ノ金額
- 第五條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書若ハ連署ヲ要ス
- 第六條 海水浴場ノ區劃及建物並設備ハ使用前所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其ノ改築、大修繕、變更ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 第七條 溫浴所ヲ附設セムトスル者ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 外部ヨリ見透シ得サル設備ヲ爲スコト
 - 二 衣類ヲ入ルヘキ棚又ハ容器ヲ備フルコト
- 第八條 更衣所ニハ適當箇數ノ衣類容器ヲ備付ケ監視人ヲシテ盜難紛失ノ豫防ヲ爲サシムヘシ
- 第九條 浴場ニハ白色ノ標旗若ハ浮標ヲ以テ區劃ヲ爲シ又危險ノ箇所ニ在リテハ赤色ノ標旗若ハ浮標ヲ以テ警戒ノ表示ヲ爲スヘシ
- 第十條 海水浴場ノ賭博キ場所ニ第二條第四號ノ料金及第十二條各號ノ事項ヲ揭示スヘシ
- 第十一條 警察官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ救命具、救助船ノ設備又ハ監視人ノ増員ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ海水浴場ヲ禁止若ハ停止シ又ハ制限、變更、改築、修繕若ハ設備ヲ命スルコトアルヘシ
 - 一 本則ニ違背シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ
 - 二 危險豫防又ハ衛生上必要ト認メタルトキ
- 第十三條 海水浴場ニ於テ飲食物其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ハ其ノ定價表ヲ掲出スヘシ
- 第十四條 海水浴場ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第二編 保安 行政 第二章 風俗

111

- 一 舟筏ノ航行又ハ他人ノ浴浴ヲ妨害シ若ハ風俗ヲ紊ルヘキ所爲アルコト
- 二 十歳以上ノ男子ニシテ浴衣又ハ半股引ノ類ヲ著用セスシテ浴浴ヲ爲シ若ハ海水浴場及其ノ附近ヲ徘徊スルコト
- 三 十歳以上ノ女子ニシテ股部以上ヲ覆フノ浴衣ヲ著用セスシテ浴浴シ又ハ海水浴場及其ノ附近ヲ徘徊スルコト
- 四 十二歳未満ノ幼者、身體衰弱者、精神病者等ニシテ附添人ナクシテ浴浴スルコト
- 五 酒氣ヲ帯ヒテ浴浴ヲ爲スコト
- 六 前項ニ違反スル者アルトキハ監視人ニ於テ之ヲ制止スヘシ
- 七 第十三條 學生、生徒其ノ他多衆ノ團體ニシテ海水浴場ヲ設ケントスルトキハ代表者ヨリ浴浴場ノ位置及區劃、開場期間並團體ノ人員ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 八 前項ノ場合ニ於テハ第七條、第九條、第十條、第十二條、第十六條及其ノ罰則ヲ準用ス
- 九 第十四條 第二條、第七條ニ違反シ又ハ第九條、第十條ニ依ル命ニ従ハサル者ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 十 第十五條 第四條、第六條、第八條、第十一條、第十二條第二項ニ違反シタル者又ハ監視人ノ制止ヲ背セスシテ第十二條第一項ニ違反シタル者ハ十圓未満ノ科料ニ處ス
- 十一 第十六條 海水浴場ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ十四歳未満ナルカ若ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ又法人若ハ共同經營ニ係ルモノナルトキハ其ノ代表者ニ前二條ノ刑ヲ科ス
- 十二 海水浴場ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ代理人、家族、雇人其ノ他ノ従業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附則
 第十七條 明治四十五年七月千葉縣令第八十號沐浴游泳取締規則ニ據リ水浴場又ハ更衣所設置ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス
 第十八條 明治四十五年七月千葉縣令第八十號沐浴游泳取締規則ハ之ヲ廢止ス

海水浴場取締ニ關スル件

(正五年八月) 保第七三六號

十歳以上ノ男子ニシテ褌ヲ締メ海水浴ヲ爲スハ規則違反ニアラス爲念依命通牒候也

避暑客待遇其ノ他ニ關スル件

(大正三年七月) 保第五六六三號

近來土地ノ繁榮策トシテ町村又ハ個人ニ於テ競フテ避暑客優遇ノ途ヲ講シツ、アルハ喜フヘキ現象ナリト雖其ノ施設ニ於テ未ダ全ク遺憾ノ點ナシトセスカ完全ナ望マンニハ官民同携ノ要アルヘキヲ以テ此際町村長其ノ他ハ協議シ適當ノ施設ヲ爲スヘキハ勿論殊ニ警察取締上左記各項ニ注意シ來客ヲシテ充分避暑ノ實益ヲ享有セシムル様努メラレ度候也

記
 一、避暑客ヲ止宿セシムル家主ヲシテ盜難又ハ火災豫防上ノ設備ヲ爲サシムルコト
 二、宿屋、料理店、飲食店營業者ハ勿論臨時避暑客ヲ滞在セシムル者ニ在リテハ飲食代又ハ貸家、賃間料ハ土地ノ普通價值トシテ標準トシテ暴利ヲ貪ルカ如キコトヲアラシムルコト
 三、紳士淑女ヲ裝ヒ避暑客中ニ紛レ込ミ窃盜、賭博又ハ賣春行爲ヲ爲スカ

〔千葉警〕

廣告物取締法施行規則

(大正七年六月十一日) 縣令第三十一號

如キ者アルヲ以テ殊ニ注意スルコト
 四、犯罪常習者殊ニ窃盜及賭博常習者ニ對スル視察ヲ密ニスルコト
 五、客船、乗合馬車、人力車營業者ニ對シテハ客ニ接シ親切丁寧ナルヘキハ勿論斷シテ認可以外ノ賃錢ヲ食ルカ如キコトヲアラシムルコト
 六、外國人ヲ目シテ批評其ノ他侮辱的言行ナカラシムル様充分取締ルコト
 七、宿屋、料理店、飲食店ニ於ケル酌婦、雇婦ヲ警メ一般風紀ノ保持ニ努メ殊ニ避暑學生其ノ他青年ヲシテ墮落セシムルカ如キコトヲキ様取締ルコト
 八、沐浴游泳場取締規則ヲ勵行シ水深其ノ他ノ標識ヲ設ケ溺水ノ危険ヲ豫防スルト同時ニ風俗上ノ設備ニモ注意スルコト

〔千葉警〕

第四節 廣告物

廣告物取締法

(明治四十四年四月) 法律第七十號

- 第一條 行政官廳ハ美觀又ハ風致ヲ保存スル爲ニ必要ナリト認ムルトキハ命令ヲ以テ廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ノ設置ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル物件ニ對シ行政官廳ハ除却ヲ命シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ニシテ危險ノ虞アリ又ハ安寧秩序ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルモノハ行政官廳ニ於テ除却ヲ命シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 第二條、第三條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

●廣告物表示禁止地域ニ關スル件

(大正七年十二月二號)
告示第二百九十二號

大正七年六月千葉縣令第三十一號廣告物取締法施行規則第二條ノ廣告物ヲ表示シ其他之ニ關スル物件ヲ設置スルコトヲ得サル場所ニ左ノ通指定ス

- 記
- 錫山
- 鹿野山
- 清澄山
- 千葉市千葉字西猪ノ鼻
- 千葉郡檢見川町稻毛字古山、丸古山、大山
- 東葛飾郡八幡町八幡不知森
- 海上郡高神村字鷄屎九千五百七十四番地ヨリ九千五百七十九番地ニ至ル山
- 武郡東金町東金字谷
- 安房郡北條町淡室中芝、葎田
- 同郡同町北條字北川井、南川井、北濱小松、南濱小松、濱通、濱新田
- 同郡同町八幡字北島居脇、南島居脇小松原
- 同郡同町沼山字北下台六十一番地ヨリ八十二番地ニ至ル
- 同郡同町沼字大和田西千四百七十七番地字磯崎九百三十六番地ノ一
- 安房郡西岬村塩見字久保百八十四番地ヨリ百八十五番地ニ至ル、二百一十番地ヨリ二百九十九番地ニ至ル、字一シ屋百七十二番地ヨリ百七十五番地ニ至ル、百八十番地、百八十一番地
- 同郡勝山町加知山浮島
- 同郡白濱村白濱六百二十七番地、六百二十七番地ノ一乃至九
- 同郡大海濱濱波太仁右衛門島

第五節 雜

●懸賞其他富 類似取締方ノ件

(明治四十二年八月)
內務省令第二十號

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用キムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以内ノ罰金情ヲ知テ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ承諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ表彰物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年內務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

●懸賞富籤類似其他取締內規

(明治四十二年十月)
保第四二六九號

- 第一條 懸賞ニ關シテハ左ノ各號ニ該當シ弊害ナキモノニ限り之ヲ不問ニ附ス
- 一、學ヲ技藝ニ對シ賞金又ハ賞品ヲ贈與スルモノ
- 二、字搜シ給獲シ寶搜シ謎解キ判シ物其他ノ娛樂ニ關ル提案ニ對シ賞金又ハ賞品ヲ贈與スルモノハ自ラ贈與スルト他人ノ寄贈ニ係ルトナ問ハス其ノ金額ヲ合シ五圓ヲ超過セザルモノ
- 第二條 景品ニ關シテハ左ノ各號ニ牴觸セザルモノニ限り之ヲ不問ニ附ス
- 一、景品ノ最高價格方自ラ贈與スルモノト他人ノ寄贈ニ係ルモノトナ問

〔千葉警〕

●未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月)
法律第三十三號

- 第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
- 第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
- 第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セザルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
- 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス
- 第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●未成年者喫煙禁止法施行心得

(明治三十三年四月)
訓令乙第一五號

- 第一條 未成年者喫煙禁止法ノ施行ニ付テハ風俗ノ改良ヲ主旨トシ漸次法律ノ目的ヲ達スルコトヲ要ス
- 第二條 警察官吏ニ於テ未成年者ノ喫煙ヲ認メタルトキハ煙草及器具ヲ領置シ速ニ警察署長警察分署長ニ之ヲ報告スヘシ
- 第三條 未成年者タルコトノ一見區別シ難キ者ニ對シテハ強テ法律ヲ適用スルコトヲ要セス但未成年者タルノ疑アルトキハ其生年月ヲ問フモ妨ケナシ
- 第四條 犯行者アルノ疑ニ過キサルトキハ猥リニ居宅其他ノ場所ニ立入ルヘカラス

- ハス合シテ賣品又ハ取引ノ金額ヲ超過セザルモノ
- 二、景品ノ贈與ニ付テハ當テ物(俗ニ「ブツ」)又ハ「引割シ」ト稱スルモノノ類ノ方法ヲ用キス正確ナル抽籤ニ依ルモノ又ハ賣買取引ト同時ニ其ノ景品ヲ贈與スルモノ
- 三、抽籤ニ依ルモノハ全籤悉景品付トシ空籤ナキモノ
- 四、物品ヲ以テ景品ト爲スモノ但物品ノ切手又ハ債權ヲ以テスルモ妨ケナシ
- 五、賞品並ニ景品ニハ價格ヲ明記シ且其ノ價格ハ品質ニ相當スルモノ
- 六、景品贈與ノ廣告引札等ニハ其景品ノ種類、員數、價格及贈與ノ方法(豫メ日時、場所ヲ定メ抽籤ニ依リ景品ヲ贈與スル)ヲ詳記スルモノ(モノハ其抽籤執行ニ關スル方法ヲ明記スルコト)ヲ詳記スルモノ
- 七、行商又ハ露店以外ニ於テ舉行スルモノ
- 第三條 投票ノ募集ニ關シ左ノ各號ノ一ニ牴觸スルモノハ之ヲ禁止ス
- 一、投票者ノ資格又ハ投票用紙ノ種類ヲ制限スルモノ
- 二、人ノ名譽又ハ信用ヲ害スル虞アルモノ
- 三、投票用紙ノ押賣ヲ爲シ又ハ強テ投票ヲ勸誘シ若ハ勸誘セシムルモノ
- 四、濫リニ他人ノ投票ニ干渉シ又ハ自ラ投票ノ申込ヲ求メ若ハ求メシムルモノ
- 五、當選者又ハ投票者ニ對シ表彰トシテ金錢物品ヲ贈與スルモノハ自ラ贈與スルト他人ノ寄贈ニ依ルモノトナ問ハス其ノ金額又ハ價格ヲ合シ五圓ヲ超過スルモノ
- 六、募集者ニ於テ得票數ヲ任意ニ左右シ得サル方法ノ定メナキモノ
- 第四條 本內規ニ依リ難キモノ又ハ內規ノ範圍内ニ屬スルモノト雖モ公安又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルモノハ其方法並ニ狀況ヲ詳具シ指揮ヲ受クヘシ

第五條 警察署長警察分署長ニ於テ第二條ノ報告ヲ受ケタルトキハ附錄第一號様式ノ命令書ヲ交付シテ煙草及器具ヲ沒收スヘシ

第六條 煙草及器具ハ再ヒ之ヲ使用スル虞ナキ者ニ對シテハ必シモ之ヲ沒收スルコトヲ要セス

第七條 犯法者ニ對シテ學籍ヲ有スルモノナルトキハ違反ノ年月日場所及氏名住所ヲ記シ當該學校長ニ之ヲ通知スヘシ

第八條 親權ヲ行ヒ又ハ監督スル者ニ對シテハ之ヲ處罰スル場合タルト否トヲ問ス懇篤ニ訓諭シ將來ヲ注意セシムルコトヲ要ス

第九條 (消滅) 附錄第一號様式

命令書

住所身分(父母名)

何男

氏

生年月日

名

何

右者年月日何處ニ於テ未成年者喫煙禁止法第一條ニ違反シタルヲ以テ同

第二條ニ據リ左ノ物件ヲ沒收ス

明治何年何月何日

何警察分署長

警部 何

某

一何々

何個

● 沒收シタル煙草及器具取扱ニ關スル件

明治三十四年四月五日

內示甲第二號

未成年者喫煙禁止法第二條ニ依リ行政處分ヲ以テ沒收シタル煙草及器具ハ更ニ公賣ノ手續ヲ要スヘキ義ニ候モ或ハ警察處分ニ對シ訴願スル者アルヤ

モ計リ難キニ付處分後六十日ヲ經過スル迄又訴願ノ提起アリタルトキハ其終局ニ至ル迄公賣ノ手續ヲナサズル様取計ハルヘシ

● 違反處分者通報ニ關スル件

(明治三十四年四月)

訓示甲第一二號

本縣在籍者ニシテ他府縣ニ居住スル未成年者カ喫煙禁止法第二條ノ處分ヲ受ケタルトキ居住地ニ親權ヲ行ヒ又ハ監督スル者ナキ場合ニ於テハ居住地警察官署ヨリ直接本籍地ノ警察官署ヘ通報スヘキ旨ニ付右通知ヲ受ケタル時ハ相當説諭ヲ加ヘラルヘク又他府縣在籍者ニシテ本縣ニ居住スル未成年者ニ對シ同法第二條ノ處分ヲシタルトキ親權ヲ行フモノ等ナキ場合ニハ本籍地ノ警察官署ヘ通報セラルヘシ

● 違反者監督ニ關スル件

(明治三十四年四月)

訓示甲第九號

未成年者喫煙禁止法施行心得第八條ニ於テ未成年者ヲ監督スルモノトハ後見人ハ勿論年季奉公ヲナス者ノ主人ノ如キ又ハ親戚知己ノ附托ヲ受ケテ之レカ監督教育ヲナスモノ等ヲ目的トシ學校教員ノ如キハ右ノ目的外ニ屬スル義ト思考候條此義ニ依リ執行セラルヘシ

● 未成年者喫煙禁止法勵行ニ關スル件

(明治三十五年五月)

指示

未成年者喫煙禁止法ハ殆ント廢止セラレタルカノ感ナトセス昨年中ノ處分件數ハ僅ニ四件ナリ然ルニ往々公會ノ席上尙其禁ヲ犯スモノアルカ如シ苟モ風俗ヲ改良セント欲セハ尙ムコトナク怠ルコトナク久ニ耐ヘテ常ニ防制スルニアラスンハ其效ヲ奏スルモノニアラス宜ク注意スヘシ

〔干葉書〕

第三章 營業

業

第三章 營業

●質屋取締法

(明治二十八年三月) 法律第十四號

(沿革)明治三三年三月法律第六一號、三八年二月同第二五號、四三年四月同第四三號改正

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

帳簿質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サルハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

〔千葉警〕

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施シメ命ニ從ハサルハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金銭ヲ領收スルコトヲ得ス

資金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘テ質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ盜品ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケ

第十八條 質屋法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營

業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又

ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間

亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其以前ニ成立シ

タル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケ

タル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ヲ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀

損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第

二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二

圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其責ニ任

ス

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適

用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ

廢止ス

質屋取締法細則

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テ

ハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ

行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)知事ハ前項ノ職權ヲ警察

署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但 營

業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ヲ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ

在ラス

第二條 支店ヲ設ケルコトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變

更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘ

シ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後

見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之

ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以

内ニ於テスヘシ

一 兩戸ノ敷居ハ容易ニ戸ヲ取外シ得サル様深ク且堅固ニ構造スルコト

二 戸袋及之ニ接續スル兩戸ニシテ輪金其ノ他締チ爲スヘキ附近ニハ燒

抜又ハ切抜カレサル様戸袋及兩戸ノ内面ニ適當ナル設備ヲ爲スコト

三 戸袋ニ接續スル兩戸ニハ鈴其ノ他音響ヲ發スル物ヲ附スルコト

四 戸締ノ設ケアル以外ノ場所ハ容易ニ屋内ニ出入シ得サル様構造スル

五 コト

六 土臺下ハ容易ニ發掘シ得サル様杭ヲ打込ミ其ノ他適當ノ設備ヲ爲ス

七 コト

七 質物ヲ容ルヘキ戸棚ニハ鎖鑰ヲ附スルコト

八 質物ヲ容ルヘキ戸棚等ノ戸ハ容易ニ取外スコトヲ得サル様構造スル

九 コト

第四條 質屋ニシテ支店設置ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ場所ヲ具シ

質屋取締法施行規則

(明治四十三年十二月 縣令第九十九號)

第一條 質屋取締法及質屋取締法細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ營業ノ

禁止、停止又ハ之ヲ解除ノ處分ヲ除クノ外所轄警察官署之ヲ行フ

第二條 質屋營業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 住所、身分、氏名及生年月日

二 店舗ノ所在地

三 質物保管ノ方法

質屋營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ質物ヲ保管

スル建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受ケヘシ

第三條 質物ヲ保管スル建物ノ構造、設備ハ左ニ掲ケル制限ニ從フヘシ但

シ倉庫ヲ設ケルモノニ在リテハ第七號及第八號ノ制限ニ依ルコトヲ要セ

ス

一 兩戸、窓、引窓等ハ容易ニ破壊又ハ取外シ得サル様堅固ニ構造シ輪

金其ノ他適當ノ締チ爲スヘキ設備ヲ爲スコト

第二編 保安 行政 第三章 營業

第二編 保安 行政 第三章 營業

該當欄ニ受戻若ハ流質等ノ區別並ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十條 質屋ニシテ流質物ヲ賣却シタルトキハ其ノ都度該物品ノ入質年月日及質物臺帳番號、賣却金額、物品ノ種類、品質、模様、數量並ニ買主、讓受主ノ住所、氏名ヲ流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十一條 質札ハ附録第三號様式、通帳ハ附録第四號様式ニ依リ之ヲ作製スヘシ

第十二條 質屋ニシテ質物ヲ受取りタルトキハ質物臺帳ノ番號ヲ該質物ニ表示スヘシ

第十三條 質屋ニシテ贓品ノ品觸寫書ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ編綴スヘシ

第十四條 警察官署ハ質物ヲ保管スル建物ノ構造、設備ノ検査ヲ爲シ第三條ニ違反スルモノト認メタルトキハ之カ改造、修繕又ハ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

一 第二條第二項ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル建物ヲ使用シテ營業ヲ爲シタル者

二 第七條、第八條第二項、第十條ニ違反シタル者

三 第十四條ノ質物ヲ保管スル建物ノ構造、設備ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ改造、修繕若ハ設備ノ命ニ従ハサル者

第十六條 第六條、第十二條、第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十七條 従前ノ質屋ニシテ本則施行後引續キ營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一項ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十八條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警

警察官署ニ届出テ質物ヲ保管スル建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ

第十九條 第十七條ノ届出ヲ爲シタル者ハ明治四十三年十二月三十一日迄従前ノ質物臺帳、流質物賣拂帳ヲ使用スルコトヲ得

第二十條 明治二十八年八月千葉縣令第四十號質屋取締法施行規則ハ之ヲ廢止ス

第一號様式 質物臺帳

(用紙美濃)

番號	貸金額	質物ノ種類	受戻	流質等年	質置主住所氏名
入質年月日	質模様數量	月日及其區別	何	何	何
何月何日	金何圓何何	一枚	明治何年何月何日受戻	何那何町(村)何大字何番地	何何某
	何何	計	一本		
			二品		

[千葉警]

[千葉警]

記載例

一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス

二 警察官ノ認可ヲ受ケタル質物ハ其ノ事由ヲ當該質置主住所氏名欄ノ餘白ニ記載スルモノトス

三 證人ヲ要シタル質物ハ其ノ證人ノ住所、氏名ヲ當該質置主住所氏名欄ノ餘白ニ記載スルモノトス

第二號様式 流質物賣拂帳

(用紙美濃)

入質年月日及其質物臺帳番號	賣却金額	流質物品ノ種類	買主住所氏名
明治何年何月何日	金何圓何何	一枚	何那何町(村)何大字何番地
何何	何何	計	一本
			二品
右何月何日賣拂			

第二編 保安 行政 第三章 營業

記載例

一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス

第三號様式 質札 (用紙西ノ内八ツ切)

質札	何那何町何大字何番地
第何號	何那何町何大字何番地
明治何年何月何日	質屋(支店)何某
	質置主住所氏名
	何
	某
	此ノ質札ハ質契約ノ證トシテ交付スルモノ也
	一金何圓何拾錢
	一何何
	一何何
	計
	壹本
	貳品

記載例

一 番號ハ質物臺帳ノ番號ヲ記載スルモノトス

二 裏面ニハ質屋取締法第六條ノ事項ヲ記載スルモノトス

- トナ得
- 一 古物ノ市場、行商、露店及攤賣
- 二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
- 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セントスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス
- 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
- 第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得
- 第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官一屆出ヘシ
- 第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物

- 品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得
- 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
- 第十四條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得
- 禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ
- 第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ
- 第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得
- 第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ
- 第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損シタル者
- 二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止及ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第十五條ニ違反シタル者
- 第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ(數罪俱發)ノ例ヲ用キス

〔千葉警〕

- 第二十二條 營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ス
- 第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲メ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 附則
- 第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス
- 第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

古物商取締法細則

(明治二十八年七月) (内務省令第八號)

- 第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
- 警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ノ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ
- 一 金物商 袋物商 小間物商
- 二 衣服商 時計商 飾商 書籍商
- 三 其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業
- 第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ
- 第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ
- 後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

第二編 保安 行政 第三章 營業

- 後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交付セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交付ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續人ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
- 第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
- 第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疎明シ行政廳ニ届出ヘシ
- 第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ
- 家族又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ
- 第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受ケクヘシ
- 規約書ニハ開閉ノ時間、場所及參集スヘキ營業者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ
- 規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
- 第十一條 古物ノ賣買ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ
- 第十二條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨ

- 第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劔又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス
- 第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

古物商取締法施行規則

(明治四十三年十二月 縣令第四百二十號)

- 第一條 古物商取締法及古物商取締法細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ營業ノ禁止、停止又ハ之ヲ解除ノ處分ヲ除クノ外所轄警察官署之ヲ行フ
- 第二條 自轉車販賣營業者ニ對シテハ古物商取締法細則第二條ノ規定ヲ適用ス
- 第三條 古物商營業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ
 - 一 住所、身分、氏名及生年月日
 - 二 營業物品ノ種類
 - 三 營業所又ハ店舗ノ所在地
- 第四條 古物商ニシテ營業物品ノ種類ヲ增加又ハ變更セムトスルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 古物商ニシテ古物商取締法細則第三條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ管理人ノ住所、氏名及生年月日ヲ具スヘシ
- 第六條 古物商ハ左ニ掲グル場合ニ於テ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 營業物品ノ種類ノ減少
 - 二 管理人ノ住所、氏名ノ變更

- 第四條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 第八條、第九條第二項、第三項、第十一條ニ違反シタル者
- 第十五條 第六條、第十二條、第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

附則

- 第十六條 従前ノ古物商ニシテ本則施行後引續キ營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十七條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ明治四十三年十二月三十一日迄従前ノ物品買入讓受明細帳、物品賣拂讓渡明細帳、物品預リ明細帳ヲ使用スルコトヲ得
- 第十八條 明治二十八年八月千葉縣令第三十九號古物商取締法施行規則ハ之ヲ廢止ス

第一號様式 物品買入讓受帳 (用紙美濃)

番號	買入月日	讓受物品ノ種類	代價	讓渡年月日	賣主住所氏名
一	何月何日	何	一枚	明治何年何月何日	何郡何町村何大字何番地何

- 第七條 古物商ニシテ古物商取締法細則第八條第二項ノ鑑札ヲ受ケムトスル者ハ其ノ家族又ハ同居ノ雇人ノ住所、氏名及生年月日ヲ具シ申請スヘシ
- 第八條 古物商又ハ其ノ家族、同居ノ雇人ニシテ露店ヲ出ダシ又ハ行商ヲ爲ス場合ニ於テハ古物商取締法細則第八條第一項及第二項ノ鑑札ハ之ヲ其ノ見易キ箇所ニ表示スヘシ
- 第九條 古物商ハ附錄第一號様式乃至第三號様式ニ依リ左ニ掲グル帳簿ヲ作製スヘシ
 - 一 物品買入讓受帳
 - 二 物品賣渡讓渡帳
 - 三 物品預リ帳
- 第十條 露店又ハ市場ニ於テ營業ヲ爲シ若ハ行商ヲ爲ス者ニ在リテハ之ニ使用スヘキ物品買入讓受帳及物品賣渡讓渡帳ヲ作製シ營業中ニ之ヲ携帯スヘシ
- 第十一條 前二項ノ帳簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三年間之ヲ保存スヘシ
- 第十二條 古物商ニシテ物品ヲ賣買、交換シタルトキハ其ノ都度番號、賣買交換月日、物品ノ種類、品質、模様、數量、代價等ヲ物品買入讓受帳、物品賣渡讓渡帳ニ記載スヘシ
- 第十三條 古物商ニシテ賣却ノ依頼ヲ受ケ他人ノ物品ヲ預リタルトキハ其ノ都度番號、預リ月日、物品ノ種類、品質、模様、數量、預ケ人住所、氏名等ヲ物品預リ帳ニ記載シ若シテ之ヲ處分シタルトキハ其ノ結果及年月日ヲ該帳簿ニ記載スヘシ
- 第十四條 古物商ニシテ物品ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルトキハ物品買入讓受帳ノ番號ヲ該物品ニ表示スヘシ
- 第十五條 古物商ニシテ贓物ノ品觸寫書ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ編綴スヘシ
- 第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

(千葉縣)

番號	買入月日	讓受物品ノ種類	代價	讓渡年月日	賣主住所氏名
一	何月何日	何	一枚	明治何年何月何日	何郡何町村何大字何番地何

記載例

- 一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス
- 二 交換ニ係ル物品ハ其ノ見積價格ヲ代價欄ニ記載スルモノトス
- 三 物品ヲ自家用ニ供シタルトキハ賣渡讓渡年月日欄ニ其ノ旨及年月日ヲ記載スルモノトス
- 四 警察官ノ認可ヲ受ケ買受ケ又ハ讓受ケタル物品ハ其ノ事由ヲ賣主讓渡主住所氏名欄ノ餘白ニ記載スルモノトス
- 五 證人ヲ要シ買受ケ又ハ讓受ケタル物品ハ其ノ證人ノ住所、氏名ヲ賣主讓渡主住所氏名欄ノ餘白ニ記載スルモノトス

第二號様式 物品賣渡讓渡帳 (用紙美濃)

號	讓渡月日	讓渡物品ノ種類	代價	讓受年月別及買主住所氏名
一	何月何日	何	一枚	明治何年何月何日何郡何町村何大字何番地何

番號	預り月日	預り物品ノ種類	品質模倣數量	年月日	處分ノ結果	預ケ人住所氏名

記載例

- 一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス
- 二 交換ニ係ル物品ハ其ノ見積價格ヲ代價欄ニ記載スルモノトス
- 三 物品ヲ家用ニ供シタルトキハ賣渡讓渡月日欄ニ其ノ旨及月日ヲ記載スルモノトス

第三號様式

物品預り帳

(用紙美濃)

番號	預り月日	預り物品ノ種類	品質模倣數量	年月日	處分ノ結果	預ケ人住所氏名
一	何月何日	何	一枚	明治何年何月何日		何郡何町何大字何番地 何 何

記載例

- 一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス

古物商取締ニ關スル件

(明治四十三年十二月 保第一〇四四七號)

番號	預り月日	預り物品ノ種類	品質模倣數量	年月日	處分ノ結果	預ケ人住所氏名

今同古物商取締法施行規則改正相成候處之カ施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ取締相成候

- 一 自轉車販賣營業者ニシテ其ノ古物ヲ賣買スルモノ鈔カラス之レ等ノ營業者ニ對シテ該法令ヲ適用スルコトトセリ

〔千葉警〕

代書人規則

(大正九年十一月二十五日 内務省令第四十號)

- 第一條 本令ニ於テ代書人ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ囑託ヲ受ケ官公署ニ提出スヘキ書類其ノ他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作製ヲ業トスル者ヲ謂フ
- 第二條 代書人タルトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齢及履歷並事務所ノ位置ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 代書人其ノ業務ノ爲補助員ヲ使用セムトスルトキハ本人ノ本籍、住所、氏名、年齢及履歷ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 代書人ハ其ノ事務所ニ代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ掲クヘシ
- 第五條 代書人ハ事務所以外ノ場所ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 代書人ハ代書料額ヲ定メ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第七條 代書人ハ前條代書料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ其ノ業務ニ關シ報酬ヲ受クルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 代書人及其ノ補助員ハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 法令ノ規定ニ依ルニ非スシテ他人ノ訴願、訴訟又ハ非訟事件ニ關シ代理、鑑定、勸誘、紹介又ハ仲裁其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコト

二二九

二 行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスルモノハ古物商取締法細則第八條ニ依リ鑑札ヲ受クルハ勿論家族雇人ナシテ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルモノニ對シテモ亦同條ニ依リ鑑札ヲ受ケサル可ラス右ハ從來營業者ナシテ木札ヲ差出サシメ之ニ檢印ヲ捺捺シタリト雖モ改正規則ハ該細則第八條ノ規定ニ從ヒ必ズ鑑札ヲ交付スル管ニ有之付テハ從來ノ分ニ對シテハ其ノ儘ト爲シ置キ新規出願ノ者ニ對シテノミ左ノ木札ヲ交付スルコトヲ要ス

行商及露店鑑札

第 號	何郡何町何番地	何 何年何月何日生
古物商	道具、書畫、書籍、銅鐵、何々、何々	某

寸 三 幅

- 一、家族、雇人ノ鑑札ニハ營業者ノ氏名ヲ其ノ肩書ニ記載スヘシ
- 二 露店又ハ市場ニ於テ營業ヲ爲シ若ハ行商ヲ爲スモノハ之ヲ使用スヘキ帳簿ヲ別ニ調製シ營業中携帯セサル可ラサル管ニ付誤ナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 三 現行規則ハ毎年帳簿ヲ新調シ警察官署ノ檢印ヲ受クルコトヲ命シタリト雖改正規則ハ之ヲ廢シタリ
- 四 現行規則ハ帳簿ノ記載ヲ爲サ、ル者ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリト雖モ右ニ付テハ古物商取締法第十一條、第二十條ニ罰條アルカ故ニ改正規則ハ之カ罰條ヲ削除シタリ
- 五 現行規則ハ古物商ノ物品ニ對シ帳簿ノ番號ヲ表示スルノ規定ヲ缺キタ

- 二 囑託セラレタル事件ニ付利害ヲ異ニスル他人ノ者ノ爲ニ代書ヲ爲スコト
- 三 業務上知得シタル事項ヲ他人ニ漏洩スルコト
- 四 書類ノ紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ故ヲニ文句ヲ冗長ニシ若ハ必要以外ノ書類ヲ作製スルコト
- 五 代書囑託者ノ印類又ハ其ノ署名捺印者ハ捺印シタル白紙ヲ領置スルコト
- 六 事務所ヲ他人ノ法律事務所ニ貸與シ又ハ之ヲ他人ノ法律事務所ニ置クコト
- 第十條 代書人ハ其ノ代書シタル書類ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アルモノ又ハ書翰ノ類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 代書人ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 本人又ハ補助員ノ本籍、住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ
 - 二 事務所ヲ變更、増設又ハ廢止シタルトキ
 - 三 補助員死亡シ又ハ之ヲ廢罷シタルトキ
 - 四 廢業シタルトキ
- 代書人死亡シタル場合ニ於テハ戸主又ハ同居ノ家族ヨリ五日以内ニ主タル事務所、所在地、所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十二條 代書人ハ代書事件簿ヲ備ヘ代書ヲ爲シタル都度囑託ヲ受ケタル事件ノ名稱、年月日、書類ノ紙數、代書料及囑託者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ
- 代書人ハ代書事件簿閉鎖後一年間之ヲ保存スヘシ代書人業務ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ亦同シ
- 代書人死亡シタルトキハ前項ノ規定ヲ家督相續人ニ準用ス
- 第十三條 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ代書人ノ事務所ニ臨檢シ又ハ代書事件簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得

代書人規則施行ニ關スル件

(大正九年十一月 保第七〇七號)

令回省令第四十號ヲ以テ代書人規則公布相成候處之レカ施行ニ關シテハ左記各項參照セラレヘク尙本則施行當初ニ於テ代書人一同ニ對シヨク省令ノ趣旨ヲ說示シ將來取締上遺策ナキ様御留意相成度此段及通牒候也

- 一 第一條ノ書類中ニハ附屬圖面ノ如キ之ヲ包含スト雖單ニ設計圖面測量圖類ヲ作製ノミノ依頼ニ應スルコトヲ業トスル者又ハ單ニ書翰ノミノ代書ヲ業トスルモノニシテ稀ニ權利義務ニ關スル書翰ヲ代書スルコトアルモノ等ハ強ヒテ本規則ヲ以テ臨ムノ趣旨ニ非ス
- 二 從來普通代書ノ業務所或ハ出張所ハ省令ニ於テハ總テ事務所ト爲セリ從テ一以上ノ事務所ニ有スル者ハ其ノ一ニ就キ主タル事務所ヲ定ムルモノトス
- 三 第五條事務所以外ノ場所ニ於テ代書ノ業務ニ從事スルコトヲ認メタルハ遺言狀ノ如キ事務所ニ於テ作製スル能ハサルモノアリ又書類中作製期限ヲ指定シテ依頼スルモノアルヘク之等ニ對シ事務所内ノミニ制限スルハ宜シキニ適セサルヲ以テ事務所外ノ代書業務ヲ認メタルニ付本條但書ノ適用ニ付テハ其ノ事實已ムヲ得サルモノナルヤ否ヤヲ調査シ弊害ナシト認メタルモノニ限り承認スルコト
- 四 第六條代書料額ハ大正七年八月保第五三八七號通牒ニ準據スルコト尙同通牒ハ何レモ最高額ヲ提出シタルモノニテ省令ニ依ル代書料額ハ代書人ノ主タル事務所ノ所轄警察官署ニ限定シタルヲ以テ同一代書人ニシテ所轄以外ノ警察官署區域ニ事務所ヲ有スル場合ニ於ケル代書料額ノ認許ニ付テハ其ノ間均衡ヲ失セサル様相互照覆注意スルコト

- 第十四條 代書人業務上ノ義務ニ違反シタル者若ハ公益ヲ害スト認メラレタルトキ又ハ六月以上所在不明ナルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ地方長官、東京府ニ在リテハ警視總監ノ認許ヲ受ケ業務ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 第十五條 補助員業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認メラレタルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ使用ノ認許ヲ取消スコトヲ得
- 第十六條 第二條、第三條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ハ其ノ所屬廳府縣ノ管内ニ效力ヲ有ス
- 第十七條 本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認許ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當ナル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 - 一 第七條、第九條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 代書事件簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ第十三條ノ規定ニ依ル警察官吏ノ臨檢又ハ檢閲ヲ拒ミタル者
 - 三 第十四條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタルモノ
 - 四 第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ニ違反シテ補助員ヲ使用シタル者
- 第十九條 第三條乃至第六條、第八條、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
- 第二十條 代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其責ヲ免ルルコトヲ得
- 第二十一條 本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十二條 本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ代書ヲ業トスル者ハ本令ニ依リ

(千葉署)

代書料認可標準額ニ關スル件

(大正七年八月 保第五三八七號)

- 五 第七條但書ニ於テ代書料以外ノ報酬ヲ認メタル代書囑託者ニ於テ代書人ノ出張ヲ求ムル等ノ場合ニ於テ車馬賃其ノ他ヲ要スルコトアルヘキニ依ルモノニテ其ノ時ニ臨ミテ之ヲ承認スルモノナルモ豫メ船車馬賃宿泊料等ハ所要實費ニ依リ認可シ置クモ妨ケナシ
- 而モ本件ハ狡猾ナル代書人ノ最モ乘シ易キ處ナルヲ以テ注意取締ヲ要ス
- 第六條代書人ノ弊害ノ多クハ本條ノ規定スル條項ニ在ルヲ以テ本條ニ就テハ現ニ代書ヲ業トスルモノ及將來代書業務ヲ許可スル者ニ對シテハ懇篤其ノ趣旨ヲ說示シ了解セシメ代書人ノ義務ニ違反スルコトナカラシムルヲ要ス尙第六號中法律事務所トハ辯護士事務所特許辦理事務所公證人執達吏事務所ノ類ヲ指示シタルモノトス
- 七 第二條ノ許可ニ際シ他ノ警察官署ノ區域内ニ事務所ノ設置アリタルトキ、第三條ノ補助員ニシテ他ノ警察官署ノ區域内ニ於テ事務所ニ從業スルトキ、第五條但書ノ許可ニ際シテハ代書人ノ主タル事務所所在地警察官署ニ及第十一條ニ記載セル事項ノ届出ヲ受ケタル場合ハ何レモ他警察官署ニ主要事項ヲ遲滞ナク通報スルコト
- 八 第十四條及第十五條ニ於テ公益ヲ害スルモノト認ムトハ文書偽造詐欺強盜盜其ノ他ノ犯行ヲ爲シテ代書人トシテ業務ヲ行ハシムルニ適セサルモノヲ云フ

代書料認可標準

代書營業取締規則第六條ニ依ル代書料認可標準額別表ノ通改正候條此段及通牒候也

諸願届ニ添付スヘキ略圖 其ノ他簡易ナル圖面	諸證書及願届等ノ書類	美濃紙		半紙	
		一枚	拾貳錢以内	一枚	拾錢以内
諸願届ニ添付スヘキ略圖 其ノ他簡易ナル圖面	諸證書及願届等ノ書類	美濃紙		半紙	
		一枚	拾錢以内	一枚	五錢以内

備考

- 一 美濃紙ハ概テ半紙十二行二十字詰半紙ハ半紙十行十八字詰トス
- 一 一定ノ様式アル書類ニシテ行数字數等右標準ニ據リ難キモノハ右標準ノ行数字數ヲ基礎トシテ其ノ料金ヲ算定スヘシ
- 一 製作上専門ノ技術ヲ要スル圖面ノ料金ハ本標準ノ限ニ在ラズ
- 一 料紙ハ總テ營業者ノ負擔トス

紹介營業取締規則

(明治四十二年十二月 縣令第八十五號)

- 第一條 本則ニ於テ紹介營業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ藝妓、娼妓、酌婦、諸種ノ雇人等ノ紹介ヲ爲スモノヲ謂フ
- 第二條 紹介營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

四 法令ノ規定ニ依リ特種ノ者ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テ其ノ承諾ナキ者

- 五 債務不履行ノ儘故ナク寄寓所又ハ雇主ノ家ヲ去リタル者
- 紹介先ノ住所、氏名詳カナラサル者ニ對シテモ前項ニ同シ

第七條

- 一 被紹介人ノ意思ニ反スル紹介ヲ爲スコト
- 二 被紹介人ヲシテ營業所又ハ自己ノ家宅ニ宿泊セシムルコト
- 三 被紹介人ニ對シ紹介先又ハ其ノ家庭ノ狀況ヲ詐リ若ハ紹介先ニ對シ被紹介人ノ身分、性行等ヲ詐稱シテ紹介ヲ爲スコト
- 四 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス紹介先又ハ被紹介人ニ對シ紹介料以外ノ金品ヲ請求シ若ハ之ヲ受クルコト
- 五 紹介料ヲ受ケタル紹介先又ハ被紹介人ニ對シ稼業若ハ雇傭繼續ノ故ヲ以テ更ニ紹介料其ノ他ノ金品ヲ請求スルコト
- 六 稼業中又ハ被雇中ノ者ヲ欺罔、教唆若ハ德薄シテ稼業先、被雇先ヲ辭セシメ若ハ此等ノ者ヲ他ニ紹介スルコト
- 七 自己ノ紹介シタル者ノ雇給金又ハ前借金等ノ取引ニ關涉スルコト
- 八 紹介ノ依頼ヲ受ケサル者ニ對シ之ヲ勸誘ヲ爲スコト
- 九 被紹介人ヲラシムル目的ヲ以テ他人ニ對シ其ノ求メナキ金品ヲ貸與シ又ハ貸與ノ周旋ヲ爲スコト
- 第八條 紹介營業者ハ稼業又ハ雇傭契約ノ成立シタル後ニ於テ紹介先及被紹介人ヨリ紹介料各半額宛テ領收スヘシ
- 第九條 紹介營業者ハ營業所ノ見易キ場所ニ紹介料ヲ揭示スヘシ
- 第十條 紹介營業者ハ稼業中又ハ被雇中ノ者ニシテ他ニ紹介ヲ爲サムコトヲ申込タルトキハ紹介ヲ爲ス前ニ稼業先若ハ被雇先ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

- 一 本籍、住所、身分、氏名及生年月日
- 二 營業所及屋號アルモノハ其ノ屋號
- 三 紹介料
- 第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ紹介營業ヲ爲スコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ト雖モ改悛ノ情顯著ナル者ニ對シテハ特ニ營業ヲ許可スルコトアルヘシ
- 一 宿屋、料理店、飲食店、貸座敷、引手茶屋、藝妓屋、遊技場等ノ營業ヲ爲ス者
- 二 文書、印章偽造、罪若ハ猥褻、姦淫、略取、誘拐、竊盜、強盜、詐欺、恐喝、橫領、贓物ニ關スル罪ニ依リ處刑セラレ又ハ其ノ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者
- 三 素行不良ト認メタル者
- 第五條 紹介營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 休業又ハ廢業
- 二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更
- 三 法定代理人ノ變更
- 四 屋號又ハ所轄内ニ於ケル營業所ノ變更
- 紹介營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第二百六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
- 第六條 紹介營業者ハ左ニ掲クル者ノ紹介ヲ爲スコトヲ得ス
- 一 被紹介人ノ住所、氏名詳カナラサル者
- 二 未成年者ニシテ法定代理人ノ承諾ナキ者
- 三 有夫ノ婦ニシテ夫ノ承諾ナキ者

〔千葉警〕

〔千葉警〕

第十一條 紹介營業者ハ被紹介人ヨリ物品ヲ預カリ又ハ之ヲ買受ケ若ハ之

力質入レ賣渡シ等ノ依頼ヲ受ケタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 紹介營業者ハ附録様式ノ紹介人名簿ヲ備ヘ紹介ヲ爲シタル毎ニ

左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被紹介人ノ本籍、住所、氏名、年齢
- 二 紹介先ノ住所、職業、氏名
- 三 紹介ノ種別
- 四 紹介年月日
- 五 紹介料
- 六 稼業又ハ雇傭期間
- 紹介人名簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三年間之ヲ保存スヘシ
- 第十三條 警察官署ニシテ必要アリト認ムルトキハ紹介人名簿ヲ検査シ又ハ之ヲ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十四條 警察官署ハ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害シ若ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 一 第二條ノ許可ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者
- 二 第六條乃至第八條第一項、第十一條ニ違反シタル者
- 三 紹介人名簿ノ記載ヲ爲サス又ハ之ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタル者
- 四 第十三條ノ検査又ハ提出ヲ拒ミタル者
- 五 停止中營業ヲ爲シタル者
- 第十六條 第五條、第八條第二項、第九條、第十條、第十二條第二項ニ違反シタル者ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第十七條 紹介營業者カ十四歳未満ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ前二條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス

第十八條 紹介營業者カ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

附則

第十九條 本則施行ノ際現ニ雇人請宿營業ヲ爲シ引續キ紹介營業ヲ爲サズトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第一條、第三條ノ規定ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

引續キ紹介營業ヲ爲ス者ニシテ未タ其ノ許可ヲ受ケサル者ト雖モ前項ノ期間内ハ第二條ノ違反者トシテ處罰スルノ限ニ在ラス

第二十條 明治二十九年一月千葉縣令第二號雇人請宿取締規則ハ之ヲ廢ス

附錄様式 紹介人名簿

(用紙半紙)

紹介年月日	紹介料	雇先ノ住所	雇先ノ姓名	雇先ノ住所	雇先ノ姓名	雇先ノ住所	雇先ノ姓名
紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類
被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍
住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢
紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類

紹介年月日	紹介料	雇先ノ住所	雇先ノ姓名	雇先ノ住所	雇先ノ姓名	雇先ノ住所	雇先ノ姓名
紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類
被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍	被紹介人本籍
住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢	住所氏名年齢
紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類	紹介ノ種類

紹介料認可標準ニ關スル件

(大正六年十一月十日 保第八一九四號)

紹介營業取締規則第二條第三號ノ紹介料ノ標準ニ關シテハ明治四十三年一月保第一二五號ヲ以テ通牒致置候處爾後ハ左記標準ニ依リ許可スル義ト心得ラルヘシ

- 一、藝妓及娼妓 十圓 以内
- 一、雛妓 五圓 以内
- 一、酌婦 三圓 以内
- 一、諸雇人(給料ヲ受ケル者) 一圓五十錢 以内
- 一、臨時雇人(給料ヲ受ケサル者) 五十錢 以内

職業紹介營業者調其他ノ件

(大正九年十月 保第六一九四號)

紹介營業者ノ取締方ニ付テハ常ニ相當ノ注意ヲ拂ヒ敢テ遺憾ナカルヘキヲ信スルモ現今社會經濟界ノ變調ニ伴ヒ諸種ノ失業者漸ク多カラントスルノ時ニ際シ之カ取締ハ最モ周匝適切ナルヲ要スル義ニ被存候元來職業紹介ノ如キハ社會事業ノ一種ニシテ單ニ自己ノ營利ノミヲ馳スルヲ許スヘキ性質ノモノニ無之候然ルニ彼等營業者ノ多クハ無智ニシテ社會公益ノ何タルヲ解セス私利私慾ノ爲ニ如何ナル不法行爲ヲモ敢テシテ憚ラサルノ風アル

[千葉警]

ヲ以テ能ク之カ指導矯正ニ當リ彼等ノ業務カ社會ノ利害ニ及ホス影響ノ大ナルモノアルヲ自覺反省セシメ常ニ其ノ業務ニ忠實ニシテ殊ニ求職者ヲ遇スルニ一層懇切ナルヘキ様御誘導相成度而モ尙ホ被上ノ趣旨ニ反スルノ行動ニ出テ括トシテ顧ミス又ハ不正不義ノ行爲アルニ於テハ法令ノ敷ス範圍ニ於テ毫末假借スル處ナク嚴重ノ處分ヲ爲スト同時ニ其ノ營業ニ適セスト認ムル者ニ對シテハ免許取消ヲ爲ス等適當ノ措置ヲ誤ラサランコトヲ望ム次第ニ候尙其ノ筋ノ要求ニ依リ必要有之候條爾今左記様式ニ依リ調査ノ上毎翌月七日當部必著ヲ期シ月報トシテ報告相成度此段及通牒候也

追テ本年三月分以降九月分迄ハ各月別ニ此際報告相成度申添候

各署ニ於ケル人事相談所ニシテ職業紹介ヲ爲シタルモノ有之候ヘハ本表ニ準シ別表ニテ報告相成度候

職業紹介營業者成績調

職業	求人數	求職者數	就職者數	未就職者數	備
男	計	計	計	計	
女	計	計	計	計	
男	計	計	計	計	
女	計	計	計	計	

注意

- 一、備考欄ニハ營業者總數ヲ記入スルコト
- 二、職業ハ工業及鑛業、土木建築、商業、農林業、水産業、通信運輸、戶内使用人、雜業ノ分類ニ依ルコト
- 但シ該分類ニ包含スル諸種職業左ノ如シ
 - (イ) 工業及鑛業(製絲、紡織、染色、裝身具 船舶車輛、電氣瓦斯、金屬工業、製藥、燐寸、肥料、製紙、製版印刷)

瓦斯營業取締規則

(明治四十三年八月 縣令第七十八號)

- 第一條 本則ニ於テ瓦斯營業ト稱スルハ管ニ依リ瓦斯ヲ需用者ニ供給スル業ヲ爲スモノヲ謂フ
- 第二條 瓦斯營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 住所、氏名、生年月日、但シ法人ニ在リテハ其名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款
- 二 營業所ノ位置
- 三 瓦斯ノ種類
- 四 瓦斯使用ノ目的
- 五 供給區域及管ノ敷設地名但シ其ノ平面圖ヲ添附スヘシ

- 六 營業所及其周圍六十間以內ニ於ケル建物、道路等ノ距離但シ其平面圖ヲ添附スヘシ
- 七 土地又ハ道路使用ニ關スル許可書ノ謄本若ハ承諾書
- 八 工事設計書
- 九 資本金、工事費及營業ノ收支豫算書
- 第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第四條 瓦斯營業者ニシテ休業セムトスルトキハ其日時、期間及事由ヲ具シ二十四時間以前ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ
- 第五條 瓦斯營業者ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ五日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 開業又ハ廢業但シ其日時ヲ具スヘシ
 - 二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ事務所若ハ代表者氏名ノ變更
 - 三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
- 第六條 瓦斯營業者ハ其ノ營業許可書ニ記載シタル命令事項ヲ遵守スヘシ
- 第七條 瓦斯營業者ニシテ第二條ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以內ニ工事ニ著手セス又ハ正當ノ事由ナクシテ開業後一箇月以上休業シタルトキハ第二條ノ許可ハ其效力ヲ失フ
- 第八條 瓦斯營業者ニシテ本則ニ違反シ又ハ第六條ノ命令事項ニ違反シタルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
 - 一 第二條ノ許可ヲ受ケスニシテ營業ヲ爲シタル者

- 二 第六條ニ違反シタル者
- 三 第八條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
- 第十條 第四條第一項ニ違反シタル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
- 第十一條 第四條第二項又ハ第五條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十二條 瓦斯營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治產者ナルトキハ前三條ノ刑ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ科ス
- 第十三條 瓦斯營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カラルコトヲ得ス
- 第十四條 本則施行ノ際現ニ瓦斯營業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條ノ許可ヲ受ケクヘシ

瓦斯營業取締ニ關スル件

(明治四十三年九月 保第七〇〇三號)

今回瓦斯營業取締規則發布相成候處右ハ管ニ依リ、瓦斯ヲ需用者ニ供給スル營業者ニ適用スルモノナルヲ以テ一個人カ自家ニ於テ瓦斯ヲ點燈ニ使用シ又ハ諸種ノ事業ニ使用スルカ如キモノハ本則ノ適用ヲ受クヘキモノニ無之候條右ニ依リ御取扱相成度候也

電線ト瓦斯管トノ混觸豫防裝置

(大正九年四月七日 保第一九一〇號)

大正八年十一月選信省令第九十一號ヲ以テ電氣事業法第十五條ニ依ル障害

防止ニ關スル規定公布相成候處今回之レカ處理ニ關シ別紙ノ通り東京選信局長ヨリ各事業者ニ對シ通牒濟ノ旨通報有之候條相當御注意ノ上實施方督勵相成度此段及通牒候也

(別紙)

(大正九年四月二日)

電乙第一〇八七號
大正八年十一月二十日附選信省令第九十一號電氣事業法第十五條ニ依ル障害防止ノ施設ニ關スル件ニ就テハ左記各項ニ基キ處理相成度

- 一、同一建造物内ニ施設セル電線ト瓦斯管トノ間隔五寸未滿ノ箇所ハ關係工作物管理者ト協議ノ上危險ノ程度甚敷モノヨリ逐次改修シ可及的短期間ニ改修ヲ完了スルコト
- 二、電線ト瓦斯管トノ間隔五寸未滿ノ箇所及五寸以上三尺以內ノ箇所ノ各總數調査並ニ改修工程豫定表ヲ至急提出スルコト
- 三、改修完了ノ上ハ接近距離五寸以上三尺以內ノ分及五寸未滿ノ分ニ就キ各其隔離方法ノ程別ニ從ヒ工事別改修箇所數ヲ報告スルコト
- 四、同省令第三條第三項ニ依ル届出ニハ工事ノ場所名、關係工作物管理者名、電線ト瓦斯管トノ接近距離工事ノ日時、關係部分工事方法ノ概要、及電線ト瓦斯管トノ接近距離五寸未滿ノ場合ハ立會人ノ氏名ヲモ記載スルコト

牛馬商取締規則

(明治四十三年十二月 農商務省令第二十七號)

- 第一條 牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ住所所在地ノ地方長官ニ願出テ牛馬商ノ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 地方長官前項ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記雛形ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ

- 一 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 免許ヲ取消サレタル後滿一箇年ヲ經サル者
- 三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 四 家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シテ處罰ヲ受ケタル後滿一箇年ヲ經サル者
- 五 素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

- 第三條 牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許ノ效力ヲ失フ
 - 一 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 三 家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シテ處罰ヲ受ケタルトキ
- 第四條 牛馬商ハ免許鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第五條 牛馬商ハ產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ定款ノ規定ニ依リ組合市場ニ附スヘキ義務ノ履行ヲ終ラサル組合員ノ幟又ハ胸ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 牛馬商ハ帳簿ヲ調製シテ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタル年月日、牛馬ノ別、種類、産地、性、年齢、毛色、代價及賣買若ハ交換當事者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
- 第七條 牛馬商ハ免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ遅滞ナク其ノ再渡又ハ書替ヲ地方長官ニ願出ヘシ
- 牛馬商ハ住所ヲ他ノ道府縣内ニ移轉シタルトキハ當初免許ヲ受ケタル地方長官ニ之ヲ届出テ且住所所在地ノ地方長官ニ免許鑑札ノ書替ヲ願出ヘシ

- 第八條 牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ牛馬商ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
 - 一 牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ強請シタルトキ
 - 二 牛又ハ馬ノ種類、產地、血統若ハ年齢ヲ偽リ又ハ疫病惡癖ヲ隱蔽シテ之カ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
 - 三 獸疫ノ疑アリ若ハ所有者ノ分明ナラサル牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
 - 四 其ノ他營業上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛馬商ハ遲滞ナク免許鑑札ヲ返納スヘシ
 - 一 第三條ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ失ヒタルトキ
 - 二 免許ヲ取消サレタルトキ
 - 三 廢業シタルトキ
- 牛馬商ニシテ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ免許鑑札ヲ返納スヘシ
- 第十條 詐偽ノ所爲ヲ以テ免許ヲ受ケ又ハ免許ヲ受ケヌシテ牛馬商ヲ營ミタル者若ハ第八條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十一條 第四條、第五條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

表 分三寸二

第 號	住 所	名
牛馬商免許鑑札	族 氏	生年月日
年 月 日		

烙 印 廳 府 縣

●牛馬商取締細則 (大正九年二月二十四日) 縣令第十二號

第一條 牛馬商取締規則及本則ニ依リ知事ニ對シテ爲スヘキ手續ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 牛馬商ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ住所職業氏名生年月日ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

知事ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地目及代表者ノ氏名生年月日並法人カ直接其ノ業務ニ從事セシムル者ノ住所氏名生年月日ヲ具シ前項ノ

- 手續ヲ爲スヘシ
- 法人ニ對シ牛馬商ノ免許ヲ爲シタルトキハ同時ニ附錄第三號様式ノ業務從事者認可證ヲ下附ス
- 第三條 法人ニシテ其ノ業務從事者ヲ變更シ又ハ新ニ雇用セムトスルトキハ其ノ氏名住所生年月日ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ケヘシ
- 法人ハ認可ヲ得サル者ヲシテ直接其ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ス
- 第四條 牛馬商取締規則第二條各號ニ該當スル者ハ法人ノ業務從事者トナルコトヲ得ス
- 知事ハ法人ノ業務從事者ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第五條 業務從事認可證毀損滅失シ又ハ住所ニ移動ヲ生シタルトキハ再換又ハ再下附知事ニ申請スヘシ
- 第六條 牛馬商ハ牛馬ノ賣買交換ノ周旋料ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ該周旋料ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第七條 牛馬商ハ自己ノ周旋ニ係ル牛馬ノ賣買交換ヲ終リタル後ニ於テ當事者双方ヨリ周旋料各半額宛テ領收スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ直ニ領收證ヲ交附スヘシ
- 第八條 牛馬商ニシテ牛馬ヲ買受交換シ又ハ之ヲ周旋セムトスルトキハ當事者ニ於テ其ノ牛馬ヲ處分スル權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ
- 第九條 牛馬商ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス法人ニ於ケル業務從事者亦同シ
 - 一 當事者双方ノ依頼ヲ受ケシテ牛馬ノ賣買交換ノ場所ニ參會スルコト
 - 二 當事者双方又ハ相手方ノ依頼ヲ受ケシテ牛馬ノ賣買交換ノ場所ニ他ノ牛馬商ヲ同行スルコト

- 三 牛馬所有者ニ對シ牛馬ノ賣買交換ヲ勸誘シ又ハ濫ニ他人ノ牛馬ヲ批評スルコト
- 四 牛馬ノ毛色ヲ染換フルコト
- 五 當事者ノ意思ニ反スル周旋ヲ爲スコト
- 六 周旋ヲ爲シタルトキ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス當事者ニ對シ周旋料以外ノ金品ヲ請求シ又ハ之ヲ受ケルコト
- 七 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲スコト
- 第十條 牛馬商ハ附錄第一號様式ノ牛馬賣買帳及附錄第二號様式ノ牛馬周旋帳ヲ作製スヘシ
- 前項ノ帳簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三年間之ヲ保存スヘシ
- 第十一條 牛馬商ハ營業中前條ノ帳簿ヲ携帯スヘシ但シ法人ハ此ノ限ニ在ラス
- 法人ニ在リテハ業務從事者ヲシテ常ニ業務從事者認可證ヲ携帯セシムヘシ
- 第十二條 法人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ速ニ業務從事者認可證ヲ知事ニ返納スヘシ但シ返納シ能ハサル事由アルトキハ其ノ旨届出ツヘシ
 - 一 業務從事者死亡シタルトキ
 - 二 業務從事者ノ認可ヲ取消サレタルトキ
 - 三 業務從事者業務ニ從事セサルニ至リタルトキ
- 第十三條 警察官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ牛馬商ニ對シ營業用帳簿ノ提出ヲ命ジ又ハ其ノ所持スル牛馬若ハ營業用帳簿ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 - 一 第六條ノ認可ヲ受ケサル周旋料ヲ受領シタル者
 - 二 第七條ニ違反シタル者

- 三 第九條第一號乃至第六號ニ違反シタル者
- 四 牛馬買賣帳又ハ牛馬周旋帳ニ虛偽ノ記載ヲナシタル者
- 五 第十條第二項第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者
- 六 第十三條ノ帳簿ノ提出又ハ牛馬若ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者
- 七 牛馬商取締規則第八條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
- 第十五條 牛馬商又ハ法人ノ業務従事者ハ其ノ家族雇人等カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第十六條 明治四十四年千葉縣令第八號牛馬商取締規則ハ之ヲ廢止ス
第十七條 本則施行ノ日以前ニ於テ牛馬商ノ免許ヲ受ケタル法人ハ施行ノ日ヨリ十五日以内ニ業務従事者ノ認可ヲ受ケクヘシ

附錄第一號様式 牛馬買賣帳

第 號		買受		賣渡		買受		賣渡	
日	年	月	日	日	年	月	日	日	年
色毛	齡年	性	地產	種別	牛馬	賣渡	讓受	讓受	主住
名	所氏	名	所氏	名	所氏	名	所氏	名	所氏

(用紙半紙)

附錄第二號様式 牛馬周旋帳

(用紙半紙)

第 號		買受		賣渡		買受		賣渡	
日	年	月	日	日	年	月	日	日	年
色毛	齡年	性	地產	種別	牛馬	賣渡	讓受	讓受	主住
名	所氏	名	所氏	名	所氏	名	所氏	名	所氏

記載例

一 番號ハ毎年之ヲ改ムルモノトス
二 買受讓受代價又ハ賣渡代價欄ニハ交換ノ際牛馬ニ現金ヲ添加シタルモノ、如キハ其ノ金額ヲモ記載スルモノトス

附錄第三號様式 業務従事者認可證雛形

(厚紙)

何々會社
牛馬商業務従事者認可證
住 所 氏 名 生年月日
裏 大正 年 月 日 千葉縣

(千葉縣)

記載例

一、何々會社トアルハ法人タル牛馬商ノ社名ヲ記載スルモノトス
一、裏面年月日ハ下付ノ年月日ニ記載スルモノトス

牛馬商取締規則並同細則取扱手

續

(大正九年二月 訓令第四號)

- 第一條 牛馬商ノ免許申請又ハ法人タル牛馬商ヨリ業務従事者ノ認可申請ヲ受理シタルトキハ左ノ手續ニ依リ之ヲ處理スヘシ
- 一、牛馬商ノ免許申請アリタルトキハ牛馬商取締規則第二條各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認メタルトキハ知事名ヲ以テ許可スヘシ
 - 二、法人タル牛馬商ノ免許申請ヲ受理シタルトキハ法人設立ノ目的上牛馬ノ買賣交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スコトヲ得ヘク且ツ代表者カ牛馬商取締規則第二條各號ニ該當セサルトキハ知事名ヲ以テ許可スヘシ
 - 三、法人牛馬商ヲ許可シタルトキハ同時ニ其ノ業務従事者個々ニツキ牛馬商取締規則第二條各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認メタルトキハ知事名ヲ以テ認可スヘシ
- 第二條 前條第一號第二號ノ免許ヲ爲シタルトキハ牛馬商取締規則第一條第二項ニ依ル雛形ノ免許鑑札ヲ下附スヘシ但シ法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名ヲ併記スヘシ
- 前條第三號ノ認可ヲ爲シタルトキハ牛馬商取締規則第二條ニ依ル雛形ノ業務従事者認可證ヲ下附スヘシ
- 第三條 牛馬商取締規則第七條及同細則第五條ニ依リ免許鑑札又ハ業務従事者認可證ノ再渡若ハ書換等ノ願ヲ受理シタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ再渡又ハ書換ヲ爲スヘシ
- 第四條 返納又ハ書換シタル免許鑑札若ハ業務従事者認可證ハ署長ニ於テ之ヲ確實ニ破棄スヘシ

第五條

牛馬商ニシテ牛馬商取締規則第八條各號ノ一ニ該當ス事實アリテ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ具シ知事ニ報告スヘシ
法人タル牛馬商ノ業務従事者ニシテ認可ヲ取消ス必要アリト認メタルトキ亦同シ

第六條 周旋料ノ標準ハ別ニ定メテ之ヲ通牒ス

牛馬商周旋料ニ關スル件

(大正九年三月 保第一四七二號)

牛馬商取締規則第六條ニ依ル周旋料ノ認可標準ハ左記ニ依リ取扱フ義ト心得ラルヘク此段及通牒候也

記

- 一 牛馬ノ買賣交換ノ周旋料ハ賣買交換金額ノ百分ノ四以内
 - 二 周旋料ハ取引終了後當事者双方ヨリ各半額ツ、ヲ受領シ領收證ヲ交付スヘシ
- 但當事者ノ合意ニ依リ一方ニ於テ周旋料ヲ負擔スルモ妨ケナシ

宿屋營業取締規則

(明治四十三年九月 縣令第八十四號)

第一章 通則

- 第一條 本則ニ於テ宿屋營業ト稱スルハ宿泊料、賄料又ハ座敷料等ヲ受ケ客ヲ宿泊セシムル業ヲ爲スモノヲ謂フ
- 第二條 宿屋營業ヲ分テ旅人宿、下宿屋及木賃宿ノ三種トス
- 第三條 宿屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 住所、身分、氏名、生年月日及屋號アルモノハ其ノ屋號但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名

二 營業ノ種類

三 營業所

四 營業用建物及其ノ間取、坪數ヲ記シタル平面圖
前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ營業用建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條 前項ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治産ナルトキハ其ノ法定代人、妻ニ在リテハ夫ノ承諾書若ハ連署ヲ要ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ宿屋營業ヲ爲スコトヲ得ス
一 貸座敷、引手茶屋、紹介營業ヲ爲ス者
二 公安、風俗ヲ害スル虞アル者

第六條 宿屋營業者ハ同一範圍ニ於テ料理店若ハ藝妓屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ海水浴場其ノ他土地ノ狀況上已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ營業用客室ヲ區別シ且各其ノ出入口ヲ區別スルモノニ限リ料理店兼業ヲ特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 宿屋營業者ハ宿泊料、賄料又ハ座敷料等ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第八條 宿屋營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
一 開業、休業又ハ廢業
二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名ノ變更
三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
四 屋號ノ變更

宿屋營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第百十七條ハ出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第九條 宿屋營業者ハ來客ヨリ特ニ所持品ノ寄託ヲ受ケスト雖モ紛失セス

第二十二條 宿屋營業者ハ來客ノ用ニ供スル衣類、寢具、飲食器具等ハ常ニ清潔ノモノヲ用ユヘシ
第二十三條 宿屋營業者ハ來客ニ共用セシムル目的ヲ以テ便所又ハ風呂場ニ手拭ヲ備フルコトヲ得ス
第二十四條 警察官署ハ營業用建物ノ構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ之ヲ改造、修繕、設備ヲ命シ若ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 警察官署ハ宿屋營業者ニ對シ營業用帳簿ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ營業所ニ臨ミ之ヲ検査ヲ爲スコトアルヘシ
第二十六條 宿屋營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察官署ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
一 本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スル事實アリト認メタルトキ
二 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキ

第二章 旅人宿
第二十七條 旅人宿ニ於ケル營業用建物ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ
一 客室毎ニ鎖鑰ヲ附シタル押入又ハ戸棚(容易ニ運搬スルコト)ヲ設クルコト但シ他ニ來客ノ所持品ヲ保管スル方法アルトキハ此ノ限ニ在ラス
二 階段ハ幅三尺以上トシ堅固ナル手摺ヲ附スルコト但シ階段ノ幅又ハ勾配ノ狀況ニ依リ墜落ノ虞ナキモノハ手摺ヲ附スルコトヲ要セス
三 二階又ハ三階等ノ客室十五坪以上アルモノハ二階以上ノ階段ヲ設クルコト但シ此ノ場合ニ於テハ階段ハ成ルヘク各反對ノ位置ニ之ヲ設クヘシ
四 二階又ハ三階等ニシテ來客ノ墜落スル虞アル箇所ニハ堅固ナル手摺ヲ附スルコト

又ハ盜難ニ罹ラサル様注意スヘシ

第十條 宿屋營業者ハ來客ニ對シ故ナク宿泊ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 宿屋營業者ハ種種ノ手段ヲ以テ強ニ客ヲ誘引スルコトヲ得ス

第十二條 宿屋營業者ハ營業用建物内ニ藝妓、酌婦ヲ寄寓セシメ又ハ之ヲ招致スルコトヲ得ヘ但シ第十三條ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 宿屋營業者ニシテ客室ヲ臨時多數ノ宴會席ニ使用セムトスルトキハ所轄警察官署ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 宿屋營業者ハ客室ニ公安、風俗ヲ害スヘキ書畫其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ客室ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十五條 宿屋營業者ハ來客ニ對シ其ノ求メサル飲食物ヲ供シ宿泊料、賄料以外ノ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 宿屋營業者ハ宿泊料又ハ賄料ノ抵償トシテ來客ノ所持品ヲ受領セムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 宿屋營業者ハ住所、氏名ノ詳ナラサル來客ノ所持品ニ對シ質入又ハ賣却等ノ周旋ヲ爲サムトスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 宿屋營業者ハ宿泊料、賄料、座敷料ヲ帳場及客室ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ但客室ニシテ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 宿屋營業者ハ宿泊料、賄料又ハ座敷料等ニ等級アル場合ニ於テハ豫メ之ヲ來客ニ告ケ其ノ撰定ヲ求ムヘシ

第二十條 宿屋營業者ハ花柳病、肺結核、トヲホーム、癩其ノ他傳染性皮膚疾患アル者ヲシテ來客ニ接セシメ又ハ寢具、飲食器具等ヲ取扱ハシメ若ハ料理ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十一條 宿屋營業者ハ客室、料理場、便所、風呂場及井戸流下水溜、塵芥溜、宅地内等ヲ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ

〔千葉警〕

〔千葉警〕

五 三階以上ニ客室ノルモノハ當該各室又ハ其ノ附近ニ相當ノ避難裝置ヲ爲スコト但シ避難裝置ノ利用法ハ當該各室ノ見易キ箇所ニ之ヲ揭示スヘシ

六 料理場ハ飲食物ニ對シ蟲類ノ蟻集又ハ塵埃ノ附著ヲ防止スル設備ヲ爲スコト

七 風呂場ノ洗場ハ石、敲又ハ厚板ヲ以テ敷設シ適當ノ勾配ヲ附シ汚水溜若ハ下水溝ニ流入セシムル構造ヲ爲スコト

八 便所ニ於ケル尿管溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造スルコト

第二十八條 旅人宿營業者ハ來客ニシテ雙方ノ承諾ナキ者ヲ一室ニ同宿セシムルコトヲ得ス

旅人宿營業者ハ同行者ニ非サル男女ヲ一室ニ同宿セシムルコトヲ得ス

第二十九條 旅人宿營業者ハ來客ノ用ニ供スル寢具ニシテ身體ニ觸接スル部分ニハ清潔ナル白布ヲ被フヘシ

第三十條 旅人宿營業者ハ附録第一號様式ノ宿泊者名簿二冊ヲ作製スヘシ

前項ノ宿泊者名簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 旅人宿營業者ハ宿泊者ノ投宿毎ニ其ノ國籍(外國人ニ限リ)、住所、職業、氏名、年齢及投宿日時、前夜宿泊地、行先地等ヲ宿泊者名簿ニ記載シ宿泊者ノ出發毎ニ其ノ出發日時ヲ之ニ記載スヘシ

宿泊者ニシテ官吏、公吏ナルトキハ其ノ官職氏名、公務ニ従事スル議員、委員其ノ他ノ職員、華族、外國公使館員、領事館員ナルトキハ其ノ身分、氏名、軍隊又ハ學生、生徒等多數團體ナルトキハ其ノ隊名、校名及人員、引卒者ノ氏名ヲ記載シ國籍、住所、職業、年齢ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

宿泊者ニシテ日本語ニ通セサル外國人ナルトキハ附録第二號様式ノ用紙ヲ交付シ前二項ノ事項ノ記載ヲ求ムヘシ

第二編 保安 行政 第三章 營業

第三十二條 旅人宿營業者ハ宿泊者ノ投宿、出發又ハ滞在シタルトキハ毎
日午後十時迄ニ第三十條ノ宿泊者名簿(スヘシ)ヲ以テ所轄警察官署若
ハ巡查駐在所、巡查派出所ニ届出ツヘシ但シ前條第三項ニ依リ用紙ニ記
載セシメタル場合ニ於テハ該用紙ヲ以テ宿泊者名簿ニ換用シ之ヲ届出ツ
ルコトヲ得

前項ノ届出後宿泊者アル場合ニ於テハ翌日午前八時迄ニ前項ニ依リ之ヲ
届出ツヘシ
旅人宿營業者ニシテ第一項ノ届出ヲ爲スヘキ警察官署又ハ巡查駐在所、
巡查派出所ヲ距ル一里以上ノ地ニ在ル者ハ三日以内ニ之ヲ届出ツルコト
ヲ得

第三章 下宿屋

第三十三條 第二十七條第二十九條ノ規定ハ下宿屋營業者ニ之ヲ準用ス
第三十四條 下宿屋營業者ハ下宿者ノ氏名ヲ記載シタル標札ヲ店頭又ハ門
戸ニ掲出スヘシ

第三十五條 下宿屋營業者ハ附録第三號様式ノ下宿者名簿ヲ作製スヘシ

前項ノ下宿者名簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三年間之ヲ保存スヘシ
第三十六條 下宿屋營業者ハ下宿者ノ投宿毎ニ其ノ国籍(外國人ニ限リ)、
住所、職業、氏名、年齢及下宿ノ日時等ヲ下宿者名簿ニ記載シ下宿者出
發毎ニ其ノ出發日時及行先地ヲ之ニ記載スヘシ

第二十一條第二項及第三項ノ規定ハ下宿屋營業者ニ之ヲ準用ス
第三十七條 下宿屋營業者ハ下宿者ノ投宿又ハ出發シタルトキハ二十四時
間以内ニ第二十五條ノ下宿者名簿ヲ以テ所轄警察官署若ハ巡查駐在所、
巡查派出所ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ニ依リ用紙ニ記載セシメタル場
合ニ於テハ該用紙ヲ以テ下宿者名簿ニ換用シ之ヲ届出ツルコトヲ得

第三十二條第三項ノ規定ハ下宿屋營業者ニ之ヲ準用ス

第四十六條 従前ノ宿屋營業者ニシテ本則施行後引續キ宿屋營業ヲ爲サム
トスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項、第四條ノ事項
ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十七條 前條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前ノ建物、設
備ヲ襲用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ
検査ヲ受クヘシ

前項ノ建物ノ構造、設備ニシテ第二十七條ニ適合セサルモノト雖モ明治
四十三年十二月三十一日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十八條 従前ノ宿屋營業者ニシテ第五條ニ該當スル者ト雖モ第四十六
條第一項ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後宿屋營業ヲ爲スコト
ヲ得但シ紹介營業ヲ爲ス者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 従前ノ宿屋營業者ニシテ同一構内ニ於テ料理店又ハ藝妓屋ヲ
兼ヌルモノハ營業用客室若ハ居室ヲ區劃シ且各其ノ出入口ヲ區別スルト
キハ當分ノ内第六條ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ其ノ營業者ノ家督
相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼承セントスルトキ亦同シ

第五十條 明治三十二年三月千葉縣令第二十三號宿屋營業取締規則ハ之ヲ
廢止ス

附録第一號様式 宿泊者名簿 (用紙美濃)

Table with columns: 投宿日時, 出發日時, 泊地, 行先地, 住所, 職業, 氏名, 年齢

第二編 保安 行政 第三章 營業

第四章 木賃宿

第三十八條 木賃宿營業者ハ市街地ニ在リテハ警察官署ノ指定シタル地域
内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ木賃宿營業者ニ之ヲ準用ス
第四十條 木賃宿營業者ハ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外乞丐其ノ他
ノ浮浪者ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス

第五章 罰則

第四十一條 第三條、第十條乃至第十三條、第十五條乃至第十七條、第二
十條ニ違反シ又ハ第二十四條ノ検査ヲ拒ミ若ハ同條ノ命ニ従ハス又ハ第
二十五條ノ規定ニ依リ營業用帳簿ノ提出若ハ検査ヲ拒ミ又ハ第二十六條
ノ停止中營業ヲ爲シ又ハ第二十八條ニ違反シタル者ハ三十日未滿ノ拘留
又ハ三十圓未滿ノ科料ニ處ス

第四十二條 第七條ノ認可ヲ受ケサル宿泊料、賭料、座敷料等ヲ請求シ又
ハ第八條、第十四條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十三條、
第二十九條、第三十條、第三十四條、第三十五條、第四十條ニ違反シタ
ル者ハ二十日未滿ノ拘留又ハ十五圓未滿ノ科料ニ處ス

第四十三條 第三十二條又ハ第三十九條ニ依リ下宿屋營業者若ハ木賃宿營
業者ニ準用シタル規定ニシテ第四十一條、第四十二條ニ該當スル場合ニ
於テハ同條ノ刑ハ之ヲ其ノ營業者ニ科ス

第四十四條 宿屋營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ前三條
ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

法人ノ違反ニ付テハ前三條ノ科料ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス

第四十五條 宿屋營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他
ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以
テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第四十六條 従前ノ宿屋營業者ニシテ本則施行後引續キ宿屋營業ヲ爲サム
トスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項、第四條ノ事項
ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十七條 前條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前ノ建物、設
備ヲ襲用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ
検査ヲ受クヘシ

前項ノ建物ノ構造、設備ニシテ第二十七條ニ適合セサルモノト雖モ明治
四十三年十二月三十一日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十八條 従前ノ宿屋營業者ニシテ第五條ニ該當スル者ト雖モ第四十六
條第一項ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後宿屋營業ヲ爲スコト
ヲ得但シ紹介營業ヲ爲ス者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 従前ノ宿屋營業者ニシテ同一構内ニ於テ料理店又ハ藝妓屋ヲ
兼ヌルモノハ營業用客室若ハ居室ヲ區劃シ且各其ノ出入口ヲ區別スルト
キハ當分ノ内第六條ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ其ノ營業者ノ家督
相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼承セントスルトキ亦同シ

第五十條 明治三十二年三月千葉縣令第二十三號宿屋營業取締規則ハ之ヲ
廢止ス

附録第二號様式 (用紙美濃)

Table with columns: 投宿日時, 出發日時, 泊地, 行先地, 住所, 職業, 氏名, 年齢, 總計, 何月何日届

- カ罰條ヲ設ケサリシナリ
- 十一 規則第三十四條ハ宿屋ニ於ケル女中又ハ料理人等客ニ接シ又ハ飲食物ヲ調理スル者ニ對シ傳染性皮膚疾患アル者ヲ使用スヘカラサルコトヲ規定セリ平素注意觀察ヲ加ルコトヲ要ス
- 十二 宿屋營業者ハ規則第三十七條ニ依リ便所ノ手洗水ヲ清潔ナラシメサルヘカラス然ルニ從來甚シキハ毎日之ヲ交換セサルモノアリシカ如シ爾後之カ取締ヲ爲スハ勿論手洗鉢ニ對シテモ可成柄杓等ヲ用ユルコトナク振ニ依リ放水シ得ルモノヲ使用セシムル様獎勵スルヲ要ス
- 十三 規則第四十二條及第五十六條ハ旅人宿、下宿屋ニ於ケル營業用建物ノ構造、設備ニ對シ制限ヲ加ヘタリト雖モ右ハ本年五月二十一日保第五四九五八號通牒戶籍其ノ他盜難豫防ニ關スル件同年六月十一日保第五三九九號通牒便所及風呂場改良ニ關スル件ニ依リ前者ハ來ル十一月末日迄後者ハ來ル十二月末日迄ニ悉ク改良セシムル等ニシテ亦既ニ結了濟ノ者ナキニアラス依テ附則第六十八條第二項ニ於テモ本年末日迄ハ從前ノ構造、設備ヲ其ノ儘襲用シ得ルコト、セリ付テハ今ヨリ之ヲ督勵シ本年十二月末日期シ規則ノ制限ニ從ハシムルコトヲ要ス
- 十四 從來營業者ノ使用スル客用寢具ノ中ニハ清潔ナル白布巾被ハサルモノ抄ナカラス此際漏ナク検査ヲ遂ケ緩慢ニ流レサル様注意スルコトヲ要ス
- 十五 規則第四十九條及第五十四條ノ違反者ハ明治三十二年內務省令第三十二號宿泊屆其ノ他ニ關ヘル件第一條及第十一條ニ依リ處罰スヘキモノナルカ故ニ之ニ罰條ヲ設ケサリシナリ
- 十六 木賃宿ハ市街地ニ在リテハ警察官署ノ指定シタル地域内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得トノ規定ヲ設ケテラタルニ付新規出願ノ者ニ對シテハ濫ニ之ヲ許可スルコトナク公安、風俗上支障ナキ場所ヲ指定シ其ノ區域内ニ限リ營業ヲ許ス様注意ヲ加フルコトヲ要ス但シ從前ノ營業者ハ現

宿屋其ノ他取締ニ關スル件

(大正九年五月 保第二五七〇號)

在ノ儘繼續セシムヘシ

十七 木賃宿營業者ハ規則第五十九條ニ依リ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外乞丐其ノ他ノ浮浪者ヲ宿泊セシムルコトヲ得サルカ故ニ特ニ該營業者ニ對シ此ノ規定ヲ知ラシメ之ニ違反シテ宿泊セシムル場合ニハ處罰ヲ加フヘキ旨ヲ警告スヘシ而シテ本條ハ先頃發布セラレタル渡船營業取締規則第二十三條第二號ニ所謂渡船營業者又ハ水夫ハ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外乞丐其ノ他浮浪者ヲ乘船セシムルコトヲ得ストノ規定ト相待テ第一種及第二種浮浪者ヲ全然本縣内ニ入ラシメス又既ニ入りタル者ヲ逐放シ得ル基礎トナルヘキモノニ付之カ規定ヲ周知セシメ飽ク迄勵行スルコトヲ要ス

本月十一日ヨリ縣稅遊興稅ノ實施ニ付宿屋業者カ警察官署ノ承認ヲ得テ其ノ客席ヲ使用シ宴會ヲ開催シタル場合ハ其ノ性質上臨時料理店ト看做スヘキモノナルヲ以テ其ノ客席 藝妓酌婦ニ非サル宿屋ノ雇婦ヲ待セシメタルトキト雖之ヲ酌婦ニ準シ遊興稅ヲ賦課スルコトト相成候處右ハ單ニ課稅上ノ便宜ニ出テタルモノニテ警察取締上該雇婦等ニ酌婦タル資格ヲ附與スルモノニアラス唯當該席上ノミニ限リ酌婦行爲ヲ認許スル例外ナルカ故ニ直接其ノ取締ニ任スル一般巡查ニ對シ其ノ趣旨ヲ訓示徹底セシメラレ度尙左記事項ニ付テモ相當注意シ取締上遺憾ナキヲ期セラレ度候

- 一 宿屋營業者ニ對シ宴會開催ノ爲客席使用ノ承認ヲ與フルニ當リ來客種別員數其ノ他ノ狀況ヲ調査シ其ノ取扱ヲ慎重ナラシムルコト
- 一 宿屋料理店飲食店ハ其ノ營業行爲ニ付互ニ各其ノ分限ヲ遵守セシメ苟モ宿屋若ハ飲食店ニ於テ料理店ニ等シキ營業行爲ヲ爲シ又ハ料理店ニシテ來客ヲ宿泊セシムルカ如キコト絕對ナカラシムルコト

(千葉警)

家畜宿營業取締規則

(大正元年八月 縣令第八十五號)

- 一 料理店ニ於テハ純粹ナル炊事用ノ外酌婦以外ノ雇婦ヲ寄寓セシメサルコト
- 第一條 本則ニ於テ家畜宿營業ト稱スルハ牛馬羊豚等ヲ宿泊又ハ繋留セシムルヲ業トスルモノヲ謂フ
- 第二條 家畜宿營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第二號、第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ亦同シ
- 一 住所、身分、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名
- 二 營業所
- 三 營業用建物ノ構造仕様書及平面圖
- 前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ營業用建物ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ其ノ構造、設備ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第四條 家畜宿營業者ハ畜舎ヲ設ケヘシ
- 第五條 前條ノ畜舎ハ土地高燥ニシテ官公署、社寺、學校、病院、鐵道及公園ニハ二十間以上人家、公道、飲料用水ニハ五間以上ナリ地ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
- 第六條 畜舎ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ但シ土地其ノ他ノ狀況ニ依リ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナシト認ムルトキハ適當ノ斟酌ヲ加フルコトアルヘシ
- 一 屋根ハ瓦、石、煉瓦其ノ他不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
- 二 地盤ハ石、煉瓦、セメント敲又ハコンクリート等ノ不透質物又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設シ六十分ノ一ノ勾配ヲ附シ其ノ内壁ハ石、

第二編 保安 行政 第三章 營業

- 三 汚水溜及尿溜ハ石、煉瓦、セメント敲又ハコンクリート等ノ不透質物ヲ以テ畜舎外ニ築造シ其ノ上部ハ地盤ヨリ五寸以上ト爲シ臭氣ノ發散セサル様適當ナル覆蓋ヲ設クルコト
- 四 汚物置場ハ前號ニ準シ之ヲ築造シ屋根ヲ設クルコト
- 五 適當ナル飼料扱場ヲ設クルコト
- 六 適當個數ノ飼料容器ヲ備フルコト
- 第七條 家畜宿營業者ハ隔離室ヲ設クルニ非サレハ輕症及疑症結核病牛ヲ宿泊若ハ繋留セシムルコトヲ得ス
- 前項ノ隔離室ノ構造設備ニ關シテハ前條第一號、第二號ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 畜舎ノ内外ハ常に清潔ヲ保持シ尿溜、汚水溜及汚物置場等ハ充溢セサル様時時掃除シ清潔ナラシムヘシ
- 飼料容器ハ使用シタル都度熱湯ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ
- 輕症及疑症結核病牛ノ宿舎、汚物等ハ其ノ都度警察官吏ノ指示ニ從ヒ之カ消毒ヲ爲スヘシ
- 第九條 家畜宿營業者ハ畜舎ノ構造、設備ニシテ破損セルモノハ速ニ改造又ハ修繕スヘシ
- 第十條 警察官署ハ畜舎ノ位置、構造、設備等ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ之カ移轉、改造、修繕、設備又ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 家畜宿營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 開業、休業又ハ廢業

度候也

- 一 畜舎ノ位置ニ付テハ規則第五條ニ於テ各其ノ距離ヲ定メアリト雖右ハ其ノ最近限度ヲ示シタルモノナルヲ以テ宜シク土地ノ廣狹等ニ鑑ミ適切ノ取扱ヲ爲スコト
- 二 規則第十二條ニ依レハ家畜宿營業者ハ宿屋營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ家畜ノ所有者、管理者又ハ附添人等ヲ宿泊セシムルコトヲ得ストアリ故ニ宿泊シタル牛馬羊豚等ノ所有者、管理者又ハ附添人等ノ外一般旅客ヲモ宿泊セシムルモノニ在リテハ絕對ニ旅人宿構造、設備ノ制限ニ依リ之カ許可ヲ受ケシメサルヘカラサルモ若宿泊シタル家畜ノ所有者、管理者、附添人ノ如キ特定ノモノ、ミニ限リ宿泊セシムルモノニ對シテハ旅人宿ノ構造、設備ヲ完備セシムルコトヲ要セス只宿屋營業取締規則第四十二條第一號、第五號乃至第十一號、第十五號乃至第十七號及第二十七號乃至第二十四號ノ制限ニ適合セル構造、設備ヲ爲シタルトキハ之カ許可ヲ與フルコト但シ此ノ場合ニ於テハ必一般旅客ヲ宿泊セシメサルコト若違反シタルトキハ何時許可ノ取消ヲ受クルモ異議ナキ旨ヲ表示セル請書ヲ徵スルト共ニ視察ヲ敢行スヘシ

● 印判營業取締規則 (明治四十二年十二月 縣令第八十四號)

- 第一條 本則ニ於テ印判營業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ印判又ハ文書、圖畫ノ版面ヲ製造販賣シ若ハ之ヲ販賣スルモノヲ謂フ
- 第二條 印判營業ヲ爲サムトスル者ハ營業開始前左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 住所、身分、氏名及生年月日
 - 二 製造又ハ販賣品目
 - 三 營業所
- 第三條 印判營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 廢業シタルトキ
 - 二 住所、氏名ヲ變更シタルトキ
 - 三 製造又ハ販賣品目ヲ變更シタルトキ
 - 四 營業所ヲ變更シタルトキ
- 第四條 印判營業者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
- 第五條 印判營業者ハ印判明細帳ヲ調製シ注文ヲ受ケ又ハ販賣ヲ爲シタル毎ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 注文者又ハ購買者ノ住所、氏名及年齢
 - 二 注文品又ハ賣渡品ノ種類、數量及價格但シ印判ニ在リテハ之ヲ帳簿ニ捺捺シ文書、圖畫ニ在リテハ其ノ印本ヲ編綴シ置クヘシ
 - 三 注文又ハ販賣年月日
- 第六條 警察官署ニシテ必要アリト認ムルトキハ營業所ニ臨檢シ又ハ印判明細帳、印本綴ヲ檢査シ若ハ之カ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 警察官署ハ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害シ若ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ
- 第八條 左ノ各號ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
 - 一 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ營業ヲ爲シタル者
 - 二 第四條第二項ニ違反シタル者
 - 三 印判明細帳ニ記載又ハ印判ノ捺捺ヲ爲サス若ハ之ニ虛偽ノ事項ヲ記載シ又ハ虛偽ノ印判ヲ捺捺シタル者
 - 四 印本ノ編綴ヲ爲ササル者

五 第五條ノ臨檢、檢査又ハ提出ヲ拒ミタル者

六 停止期間内ニ營業ヲ爲シタル者

第八條 第三條ニ違反シタル者ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第九條 印判營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治產者ナルトキハ前二條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス

第十條 印判營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ營業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カサルコトヲ得ス

● 印版營業者取締ニ關スル件 (明治四十三年一月 保第一二六號)

今回發布相成タル印版營業取締規則第一條ニ所謂營利ノ目的ヲ以テ印版又ハ文書圖畫ノ版面ヲ製造販賣シ若ハ之ヲ販賣スルモノトハ印判屋又ハ彫刻師ハ勿論活版石版木版等ノ營業者ヲモ包含シ隨テ之等ノ營業者ハ同則第二條ノ届出ヲ爲スヘキ筈ニ有之然レトモ新聞社又ハ雜誌社ニ於テ新聞雜誌ヲ發行スルモノハ文書圖畫ノ版面ヲ製造販賣シ又ハ販賣スルモノニアラサルカ故ニ本則第一條ニ之レヲ包含サスト雖モ若新聞社雜誌社ニ於テ版面ノ製造販賣又ハ販賣ヲ兼營スル場合ニハ當然本則ヲ適用スヘキ義ニ有之候條右ニ依リ御取扱相成度候

● 印判營業者取締ニ關スル件 (明治四十三年一月 保第二一八號)

印判營業取締規則施行ニ關シテハ左記各號御注意相成度候

- 一 印判營業者ハ取締規則第二條ニ依リ營業所ノ届出ヲ爲スヲ要スルヲ以テ從來甲州東京其ノ他ノ方面ヨリ來ル行商人(徘徊印判師)ハ今后本縣内ニ營業所ヲ定ムルニ非サレハ營業ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ行商人

[千葉警]

ノ徘徊ニ注意シ違反行爲ナキ様取締ヲ爲スコト

二 小間物商又ハ玩具商等ニ於テ販賣スル俗ニ所謂三文判ト雖モ亦取締規則第二條ノ届出ヲ要シ總テ本則ヲ適用スヘキ筈ニ付之カ取締ヲ爲スコト

● 印判營業者取締ニ關スル件 (明治四十三年一月 保第五五六號)

印判營業者ハ同取締規則第四條ニ依リ注文ヲ受ケ又ハ販賣ヲ爲シタル毎ニ注文者又ハ購買者ノ住所氏名年齢等ヲ帳簿ニ記載スルハ勿論印判ニアリテハ之ヲ帳簿ニ捺捺文書圖畫ニアリテハ其ノ印本ヲ編綴シ置クヘキ筈ノ處官廳ニ於テ軍事上ノ機密ニ關スル文書圖畫ノ印刷ヲ註文シタル場合ノ如キハ印本ヲ編綴シ置クヲ要セサルモ其ノ事由ヲ記載セル書面ヲ編綴シ置ク義ト御心得相成度候

● 市場取締規則 (明治四十四年七月 縣令第四十六號)

(沿革) 大正二年二月縣令第一一號改正

第一條 本則ニ於テ市場ト稱スルハ物品賣買營業者カ定期又ハ臨時ニ集合シ魚介、鳥獸肉、蔬菜、果物、海藻、菌茸、乾物等ヲ賣買、交換スル一定ノ場所ヲ謂フ

第二條 本則ハ家畜市場法又ハ古物商取締法細則若ハ道路取締規則ニ依リ開設スル市場ニ之ヲ適用セス

第三條 市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ但シ第三號、第五號ノ事項ヲ變更シ又ハ第四號ノ敷地ノ坪數ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 開設者ノ住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名

- 二 商品ノ種類
 - 三 開設ノ場所
 - 四 敷地ノ坪數及其ノ周圍ノ地形、人家等ヲ記シタル平面圖
 - 五 建物其ノ他ノ工作物ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ構造仕様書
 - 六 開市期日及其ノ開閉ノ時間
 - 七 商品ヲ運搬スル牛馬、諸車等ノ置場
- 前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開市前所轄警察官署ニ届出テ建物等ノ構造、設備ノ検査ヲ受クヘシ其ノ構造ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第四條** 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第五條** 市場ハ官廳、公署、學校、病院ヲ距ル百二十間以上ノ地ニ非ザレハ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ土地ノ狀況又ハ建物ノ構造、設備其ノ他ノ情狀ニヨリ本條ノ制限ニ拘ラス特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第六條** 市場ノ建物等ノ構造、設備ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ
- 一 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其ノ他不燃質物ヲ以テ葺葺スルコト
 - 二 建物ハ光線ノ射入、空氣ノ流通ニ適當ナル構造ヲ爲スコト
 - 三 建物内部ノ地盤ハ石、葦又ハ厚板等ヲ以テ築造シ適當ノ勾配ヲ附シ汚水ハ汚水溝及汚水溜ニ流入セシムル構造ヲ爲スコト
 - 四 汚水溝、汚水溜ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ且臭氣ノ發散セサル様適當ナル蓋蓋ヲ設クルコト
 - 五 適當箇數ノ唾壺ヲ備フルコト
 - 六 便所ハ井戸ニ對シ相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト
 - 七 便所ハ公衆ニ對シ臭氣ノ及ハサル様相當ノ距離ヲ有スル場所ニ之ヲ設クルコト
 - 八 便所ニ於ケル「キンカクシ」及朝顔ハ陶磁器ヲ用ユルコト
 - 九 便所ニ於ケル尿尿溜及其ノ周圍ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造スルコト

- 十 便所ニハ適當ナル洗濯器ヲ備フルコト
- 第七條 市場ノ開設者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

 - 一 市場ノ廢止
 - 二 商品ノ種類ノ變更
 - 三 開市期日及其ノ開閉ノ時間ノ變更
 - 四 商品ヲ運搬スル牛馬、諸車等ノ置場ノ變更
 - 五 開設者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名ノ變更
 - 六 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

市場ヲ買受ケ、讓受ケ又ハ其ノ持主死亡若ハ所在不明トナリタルニ依リ新ニ其ノ持主トナリタル者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ但シ其ノ買受ケ、讓受ケノ場合ニ於テハ舊持主ノ連署ヲ要ス

第八條 市場ノ開設者ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

 - 一 市場ノ入口ニハ其ノ名稱、商品ノ種類及開設者ノ氏名ヲ標記スルコト
 - 二 市場ニ於ケル風紀ヲ維持スルコト
 - 三 火防取締規則及明治三十七年內務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件並ニ肺結核豫防規程ノ當該條項ヲ遵守スルコト
 - 四 市場ヲ閉鎖シタルトキハ直ニ掃除ヲ爲シ之ヲ清潔ナラシムルコト
 - 五 便所ノ手洗水ハ當ニ清潔ナラシムルコト
 - 六 便所ニハ共用手拭ヲ備ヘサルコト
 - 七 下水溝ハ時時浚深シ汚水溜ハ充溢セサル様之ヲ汲ミ取り清潔ナラシムルコト

第九條 市場ニ於ケル物品賣買營業者ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

〔干葉書〕

- 一 種類ノ手段ヲ以テ強テ持込人ヲ誘引セサルコト
 - 二 場内ニ現在スル商品ノ外賣買、交換ヲ爲ササルコト
 - 三 火防取締規則ノ當該條項ヲ遵守スルコト
 - 四 不潔又ハ腐敗ニ傾キタル食用品ヲ賣買、交換セサルコト
- 第十條** 市場ノ開設者ハ市場ニ於ケル建物等ノ構造、設備ニシテ破損セルモノハ速ニ改造又ハ修繕スヘシ
- 第十一條** 警察官署ハ市場ニ於ケル建物等ノ構造、設備ノ検査ヲ爲シ必要アリト認メタルトキハ市場ノ開設者ニ對シ之ヲ改造、修繕、設備又ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條** 警察官署ハ市場ニ於ケル商品等ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキハ該營業者ニ對シ其ノ物品ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ直接之ヲ廢棄スルコトアルヘシ但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フ者アルトキハ警察官署ハ之ヲ許可スルコトヲ得
- 前項ノ物品ニ對シ警察官署ニ於テ必要アリト認メタルトキハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトアルヘシ
- 第十三條** 警察官署ハ市場ノ開設者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害シ若ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ市場ノ開設ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十四條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 一 第三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ市場ヲ開設シタル者
 - 二 第三條第二項ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル建物等ヲ使用シテ市場ヲ開キタル者
 - 三 第八條第二號、第九條第一號、第二號ニ違反シタル者

- 四 第十三條ノ停止中市場ヲ開キタル者
- 第十五條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又十五圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 第八條第五號、第六號ニ違反シタル者
 - 二 第十一條ノ建物等ノ構造、設備ノ検査ヲ拒ミ又ハ其ノ改造、修繕、設備ノ命ニ從ハサル者
- 第十六條** 第七條又ハ第八條第一號ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十七條** 市場ノ開設者又ハ營業者カ十四歳未滿ノ者若ハ禁治産者ナルトキハ前三條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
- 第十八條** 市場ノ開設者又ハ物品賣買營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得
- 第十九條** 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
- 附 則
- 第二十條** 從前ノ市場開設者ニシテ本則施行後引續キ之ヲ開設セムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項、第四條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 前項ノ届出テ爲シタル者ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
- 第二十一條** 前條第一項ノ届出テ爲シタル者ニシテ本則施行前ノ建物其ノ他ノ工作物ヲ製用スル場合ニ於テハ該届出テノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ
- 前項ノ建物等ノ構造、設備ニシテ第五條又ハ第六條第一號乃至第四號、

二五五

第六號、第七號、第九號ノ制限ニ適合セサルモノハ改築若ハ大修繕ヲ爲スニ至ル迄其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
第一項ノ建物等ノ構造、設備ニシテ第六條第八號、第十號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十四年十二月三十一日迄ニ之ヲ設備シ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

●市場取締ニ關スル件

(明治四十四年七月 保第六八五號)

本月七日日本縣令第四十六號ヲ以テ市場取締規則發布相成之ト同時ニ明治十八年六月甲第七十五號遊覽所並市場取締規定廢止相成候ニ付テハ左記各號ニ依リ取締相成度候

- 一 改正規則ハ其ノ第二條ニ於テ家畜市場法又ハ古物商取締法細則若ハ道路取締規則ニ依リ開設スル市場ニ之ヲ適用セストアルヲ以テ本則ニ依リ許可ヲ與フル場合ニ於テハ彼是混同セサル様深ク注意スルコトヲ要ス
- 二 改正規則第八條第七號ノ違反ニ對シテハ處罰規定ノ設ケナシト雖右ハ其ノ情狀ニ依リ警察犯處罰令第二條第二十三號ヲ適用シ處罰スルコトヲ得ルカ故ニ之カ規定ヲ設ケサルモノニ外ナラス
- 三 改正規則施行前許可ヲ受ケタル市場所有者ニ對シテハ同則第二十條ノ趣旨ヲ注意シ若シ之ヲ繼續シタル場合ニ於テハ尙同第二十一條第三項ノ事項ヲ注意シ置クコトヲ要ス
- 四 遊覽所ハ本縣ニ於テハ未之ヲ設ケタル者ナシト雖將來ヲ豫想シ不日之カ取締規定發布セラルヘキ筈ナリ
- 五 改正規則ノ目的ハ專ラ公安及衛生上ニ對スル諸般ノ危害ヲ豫防スルニ在ルヲ以テ克ク其ノ趣旨ヲ體シ之カ運用上遺漏ナキヲ要ス (終リ)

●營業許可ニ關スル件

(大正元年十一月 保第一四三六九號)

從來乗合馬車、渡船又ハ客船營業ノ如キ他署管内ニ亘リテ營業ノ出願アリタルトキハ主タル營業所々在在所轄警察官署ニ於テ許可ノ處分致シ來リ候處斯クテハ取締上其他ニ關シ支障可有之ニ付爾今右營業ノ出願アリタル場合ハ關係警察署ト協議ヲ遂ケ處理相成度仍處分後ニ於テハ其ノ結果通報セラルヘク候也

●縣稅賦課ニ關スル件

(大正二年十月 保第一二八八九號)

諸取締規則ニ依リ縣稅賦課ニ關係アル諸營業其ノ他ヲ認許シタルトキハ所管郡長ニ通報スヘキ旨明治四十一年十月訓令甲第三十八號第七條ノ次第モ有之候處該通知書中間々必要事項ヲ脱漏シ處理上差間有之趣ニ付テハ今後之カ認許ニ際シテハ當該年度ノ營業稅雜種稅目課額ヲ參照調査ノ上其ノ標準ヲ附記セラルヘク尙知事ノ認許ヲ受ケタル營業其ノ他ニ對シテモ亦同様洩レナク通知スル儀ト御承知相成度候也

第四章 交通

第四章 交通

第一節 道路、鐵道

●道路法

(大正八年四月十一日 法律第五十八號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲ケルモノハ道路ノ附屬物トシテ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
- 二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
- 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
- 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ

本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル

第二編 保安 行政 第四章 交通

所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

(千葉警)

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 國道
- 二 府縣道
- 三 郡道
- 四 市道
- 五 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

- 一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
- 二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

- 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
- 二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
- 三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

- 七 數郡市ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線
- 第十二條 郡道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ郡内ノモノニ就キ郡長之ヲ認定ス
 - 一 郡役所所在地ヨリ隣接郡市役所所在地ニ達スル路線
 - 二 郡役所所在地ヨリ郡内町村役場所所在地ニ達スル路線
 - 三 郡役所所在地ヨリ郡内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 四 郡内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 五 郡内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 六 郡内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
 - 七 數町村ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線
- 第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス
- 第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス
- 第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス
- 第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理

橋梁又ハ渡船場ヲ設ケルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得

國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用力法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ

管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣

第二編 保安 行政 第四章 交通

者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト兼用ナル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト兼用ナル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋梁又ハ渡船場ヲ設ケルコトヲ得

前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋梁又ハ渡船場ヲ徵收スル

〔千葉縣〕

之ヲ決定ス

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト兼用ナルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川

法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ノ規定ニ依リ設ケル橋梁若ハ渡船場ニ關スルニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設ケル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之ヲ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ

負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム
第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲ニ必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理
者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス
前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ立入り又ハ使用ヲ爲サルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲ニ必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依リ立入り、使用、使役又ハ收用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入り、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ
第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム
第五章 監督及罰則
第五十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ
二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ
三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依リ許可ヲ得タルトキ
四 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要アルトキ
五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得
前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテ

ハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト
六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト
七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト
九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト
十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テ

テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル
第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得シテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者
二 許可ヲ得シテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者
四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者
五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依リ管理者ノ命ニ從ハサル者

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲ササル者
第六章 訴訟及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得
本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

〔千葉藩〕

〔千葉藩〕

第七章 雜則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道及沖繩縣ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ那役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ沖繩縣ニ付テハ郡道ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定メ爲スコトヲ得

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定メ爲スコトヲ得

第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス
一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
二 明治十一年七月二十二日達那區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
四 陸地測量標條例第二條
五 水路測量標條例第二條
六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

ルコトヲ得
第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴訟又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
●道路法施行令 (大正八年十一月五日) (勅令第四百六十號)

第一條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ勅令ノ定ムル道路會議ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣會、郡道ニ付テハ郡會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條 前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表シスヘシ

第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府、郡市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ國道、府縣道又ハ郡道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス
第二編 保安 行政 第四章 交通

七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
九 砂防法第八條及第十六條
十 私設鐵道法第四十二條
十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
十二 電氣事業法第九條
十三 大正三年法律第三十七條
附則

第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年十一月勅令第一〇九號施行)
第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス
一 明治五年第三百二十五號布告
二 明治六年第四百十六號布告
三 明治六年第四百十三號達
四 明治九年第六十號達
五 明治十八年第一號布達
六 明治二十年勅令第二十八號

第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス
第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示ス

〔千葉警〕
市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事ニ之ヲ定ム
第九條 道路元標ノ様式ハ內務大臣ノ定ムル
第十條 道路元標ノ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ
第十一條 道路元標ノ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ
第十二條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ
第十三條 道路法第二十六條ノ規定ニ依リ橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋梁又ハ渡船ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依リ橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十三條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋梁又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス
一 軍隊
二 演習中ノ軍人軍屬
三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人
四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人
五 徵發ニ關スル令書配達人
六 徵發人夫及其ノ引率人
七 徵發物件及其ノ運搬人

- 八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏
- 九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人
- 十 水火災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫
- 十一 尋常小學校ニ往復ノ児童
- 十二 受持区内ニ勤務中ノ修路工夫

第十四條 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル者ハ徵收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ

- 一 設置者
- 二 橋錢又ハ渡錢ノ額
- 三 徵收期間

四 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收セザル場合

第十五條 道路臺帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法

第十八條 第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條乃至第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

- 一 町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ郡長、第二次ニ府縣知事、第三次ニ内務大臣
- 二 郡長市長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣
- 三 前二號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣

第二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
- 二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト
- 三 道路法第二十四條ノ規定ニ依リ承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト
- 四 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト
- 五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト

第二十一條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二郡市以上ニ互ル一府縣内ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
- 二 道路法第二十四條ノ規定ニ依リ承認ヲ郡ニ對シ爲スコト
- 三 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ府縣ニ費用ヲ負擔セシムルコト

第二十二條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ

依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所、市會又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道及沖繩縣ニ付テハ區、區長、區役所、區會又ハ區道ニ關シ郡、郡長又ハ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳管内、支廳長又ハ支廳、島ニ付テハ島廳管内、島司又ハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

附則

第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年四月一日ヨリ施行)

第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス郡道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限リ第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縦覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地番若ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番圖書ヲ作製シ平面圖ニ添付スルコトヲ妨ケス

第二十八條 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

●道路取締令

(大正九年十二月 內務省令第四十五號)

第一條 道路ヲ通行スル者ハ左側ニ依ルヘシ

第二條 歩道、車道等ノ區別アル道路ニ於テハ其ノ區別ニ從ヒ通行スヘシ

隊伍、神輿、葬列其ノ他ノ行列ハ車道ヲ通行スヘシ但シ 兒童、幼兒ノ隊伍ハ此ノ限ニ在ラス

小兒軍ハ歩道ヲ通行スヘシ

第三條 牛車、馬車、自動車其ノ他ノ重キ車輛ハ歩道ヲ横切ルヘカラス但シ道路ニ特別ノ裝置アル場合又ハ最寄警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

牛、馬 諸車等ハ斜ニ道路ヲ横切ルヘカラス

地方長官必要ト認ムルトキハ交通頻繁ナル道路ニ於テ特ニ指定シタル場所ノ外區域及時間ヲ限リ車道ノ横斷ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 牛、馬 諸車等行進フトキハ互ニ左方ニ避讓スヘシ

第五條 牛、馬 諸車等前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ止ムヲ得サルトキヲ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者ハ其ノ右方ヲ通過スヘシ

前項ノ場合ニ於テ後者ニ於テ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避クルヲ待テテ進行スヘシ

牛、馬 諸車等電車ヲ追越ス場合ハ道路ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サルトキヲ除クノ外其ノ左方ヲ通過スヘシ

第六條 進行中ノ消防車、郵便車、傷病人、運搬車及隊伍神輿、葬列ニ對シテハ避讓スヘシ

第七條 牛、馬 諸車等ハ左ノ場合ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ徐行スヘシ

一、道路ノ交叉點、曲角其ノ他屈曲ノ場所又ハ雜沓ノ場所ヲ通過スルトキ

二、第三條第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ特ニ指定シタル場所ヲ通過スルトキ

三、歩道ヲ横切ルトキ

四、安全地帯ノ設ケナキ停留場ニ在ル電車ノ側方ヲ通過スルトキ

牛、馬 諸車等坂路、隧道又ハ橋梁ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

牛、馬 諸車等道路交叉ノ場所ニ於テ右折セムトスルトキハ道路ヲ横切リ

タル後右方ニ轉向スヘシ
 第一項第四號ノ場合ニ於テ乘降客輻輳スルトキハ牛、馬、諸車等ハ一時進行ヲ停止スヘシ
 第八條 牛、馬、諸車等ハ夜間燈火ヲ用キシテ通行スヘカラス
 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得
 第九條 鐵道又ハ軌道ノ踏切ヲ通過セムトスルトキハ汽車、電車等ノ接近セサルコトヲ確メタル後通行スヘシ
 第十條 牛、馬、諸車等ハ安全地帯内ヲ通行スヘカラス
 第十一條 道路ノ交叉點、曲角、隧道又ハ橋梁等ニ牛、馬、諸車等ヲ駐ムヘカラス
 牛、馬、諸車等ヲ道路ニ駐ムルトキハ其ノ左側端ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ牛馬等ノ奔逸ヲ防クニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ但シ竝木、道路元標、里程標及道路標識等ニ之ヲ繋クヘカラス
 第十二條 荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 牛車 三寸五分以上 四輪車ニ在リテハ其ノ前輪ヲ後輪ノ二分ノ一迄縮小スルコトヲ得
 馬車 三寸以上 同上
 荷臺ノ面積 二寸以上
 大車 十八平方尺 同上
 無限軌道其ノ他道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セル車ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅ト看做ス
 第十三條 荷車ノ積載量ハ車體ノ重量ヲ合セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
 自動車 千四百貫
 牛車 四輪車 五百五十貫
 其ノ他 四百貫
 馬車 四輪車 五百貫
 其ノ他 三百五十貫
 大車 二百貫

第十四條 荷車ノ積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
 一、高 自動車ニ在リテハ荷臺ヨリ八尺
 其ノ他ノ荷車ニ在リテハ六尺
 二、前後ノ出幅 荷臺ヨリ各二尺
 三、右左ノ出幅 荷臺ヨリ各一尺
 自動車ニ依ル積荷ハ之ヲ車體ノ前後左右ニ突出セシムルコトヲ得ス
 第十五條 地方長官ハ土地ノ狀況、道路、橋梁又ハ車輛ノ構造若ハ裝置ニ依リ第十二條第一項、第十三條及第十四條ノ制限ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得
 第十六條 第十三條、第十四條ノ規定又ハ第十五條ニ基ク命令ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユル物ニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地、警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
 第十七條 管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第十八條 地方長官ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 警察官署ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ一時道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第十九條 道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ物ヲ置ク場合ニハ繩張點燈其ノ他危險豫防ニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十條 沿道ノ土地ニ物ヲ堆積シ又ハ立テ置クトキハ倒壞崩落ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十一條 道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ工作物ヲ建設、撤去若ハ修繕シ又ハ其ノ他ノ作業ヲ爲ストキハ土砂、瓦石、竹木、金物等ノ道路ニ飛散又ハ墜落スルヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十二條 警察官署ハ道路及沿道ノ土地ニ於ケル工作物其ノ他ノ施設及

附則

〔千葉警〕

物件ニ付其ノ占有者ニ對シ危險防止其ノ他交通保全ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
 第二十三條 道路ニ於テ物ヲ運搬スルトキハ其ノ飛散、漏出、墜落及危險ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十四條 道路ニ於テ乘馬又ハ諸車運轉ノ練習ヲ爲スヘカラス但シ交通稀疎ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十五條 交通頻繁ナル道路ニ於テ兒童、幼兒ニ遊戲ヲ爲サシメ又ハ保護者ナクシテ幼兒ヲ歩行セシムヘカラス
 第二十六條 道路ニ於テ煙火、空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄シ又ハ投石、投球等危險ノ行爲ヲ爲スヘカラス
 第二十七條 第二條、第三條第一項、第二項、第四條乃至第八條第一項、第十條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條第三項ノ規定ニ基ク禁止ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 第二十八條 第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ違反シタル者、第十二條第一項ノ規定又ハ第十五條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル輪帶幅ノ制限ニ違反シタル荷車ヲ使用シ若ハ同條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ニ違反シタル者又ハ第十七條第十八條ノ規定ニ基ク禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第二十九條 第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第三十條 前條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス
 第三十一條 本令ニ規定スルモノノ外道路法第四十九條ノ規定ニ基ク命令ハ地方長官之ヲ定ム

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ使用スル荷車ノ輪帶幅ハ大正十五年十二月三十一日迄本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 ●道路交通取締規則 (大正七年六月 縣令第三十號)
 第一條 本則ニ於テ道路ト稱スルハ公衆ノ交通ニ供スル道路橋梁及之ニ沿ヒタル溝渠ヲ謂フ
 第二條 左ニ掲クル場合ニ於テ道路ヲ使用セムトスル者ハ其ノ住所氏名目設計場所及期日ヲ具シ第一號第二號ノ場合ニ於テハ道路管理者ノ使用承認書ヲ添付シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
 一 消防器具置場諸車駐車場火ノ見柵欄榜示杭繫馬杭齒止石等ヲ設ケムトスルトキ
 二 軌道條例ニ依ラサル軌道ヲ敷設セムトスルトキ
 三 工事等ノ爲掘鑿ヲ爲シ又ハ竹木土石ヲ置キ若ハ板圍繩張足場支柱等ヲ設ケムトスルトキ
 四 祭典法要興行又ハ集會等ノ爲旗幟其ノ他標識ヲ樹テムトスルトキ
 五 舞臺綠門飾物等ヲ設ケムトスルトキ
 六 山車踊屋臺等ヲ出サムトスルトキ
 七 道路ニ於テ建物ヲ移轉シ又ハ輾木ヲ用ヒテ物件ヲ運搬シ若ハ路幅ノ過半ヲ壅塞スヘキ物件ヲ運搬セムトスルトキ
 前項ノ許可ヲ爲スニ當リ警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ條件ヲ附スルコトアルヘシ
 第三條 神輿渡御ノ場合ニ於テハ豫メ當該神社ノ氏子總代ヨリ左ノ事項ヲ具シ 轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタル場合亦同シ
 一 出人ノ氏名

- 二 神輿渡御ノ道筋
- 三 渡御ノ期日及其ノ終始時刻
- 四 昇夫ノ員數
- 第四條 前條ノ届出人及昇夫ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 神輿ヲ擔昇シテ急進退シ又ハ左右ニ急轉セサルコト
 - 二 擔昇セル神輿ヲ轉倒シ又ハ抛落セサルコト
 - 三 濫ニ他人ノ邸宅又ハ店頭ニ神輿ヲ昇込マサルコト
- 第五條 道路ニ於テハ左ニ掲クル事項ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 竹木土石薪炭其ノ他ノ物件ヲ堆積シ若ハ立掛ケ置クコト
 - 二 泥土汚水其ノ他不潔物ヲ撒布若ハ放置シ又ハ流出セシムルコト但シ河川溝渠ノ浚渫等ニ際シ一時放置シ交通ノ妨害トナラサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 雨樋ノ水ヲ直ニ道敷又ハ橋梁ニ放注セシムルコト
 - 四 糞塵埃等ヲ散亂セシムルコト
 - 五 濫ニ焚火ヲ爲スコト
 - 六 故意ニ道路又ハ道路ニ在ル工作物樹木等ヲ毀損スルコト
 - 七 街路ニ於テ干シ物ヲ爲シ又ハ襤褸襪履其ノ他不體裁ノ物品ヲ出シ置クコト
 - 八 街路ニ於テ附添人ナクシテ三歳未満ノ小兒ヲ遊歩セシムルコト
 - 九 街路ニ於テ臭氣ヲ防クニ足ルヘキ適當ノ裝置ヲ爲サシテ屎尿等ノ汚物其ノ他惡臭ヲ發スル物ヲ運搬スルコト
 - 十 漏出又ハ飛散ノ虞アル物ヲ之ヲ防クニ足ルヘキ適當ノ裝置ヲ爲サシテ運搬スルコト
 - 十一 街路又ハ交通頻繁ナル場合ニ於テ取者臺ノ設備若ハ口取人ナキ荷牛馬車ハ口取人ナキ若ハ乘鞍ヲ著ケサル牛馬ニ乘リ又ハ濫ニ牛馬若ハ諸車ヲ疾行セシムルコト

- 十二 標柱指道標等ニ牛馬ヲ繫留スルコト
- 十三 確實ニ牛馬ノ口綱ヲ取ラス若ハ口綱ヲ六尺以上ニ伸シテ之ヲ牽クコト
- 十四 夜間前方ヲ照スニ足ル燈火ヲ用ヒシテ牛馬若ハ諸車ヲ通行セシムルコト
- 十五 適當ノ間隔ヲ保タスシテ牛馬若ハ諸車ヲ連續又ハ駢列シテ進行セシメ交通ノ妨害ヲ爲スコト
- 十六 適當ノ列間距離ヲ保タスシテ隊伍ヲ組ミテ通行シ交通ノ妨害ヲ爲スコト
- 第六條 道路ニ沿ヒタル場所ニ於テハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 竹木ノ枝葉ニシテ交通ノ妨害トナルヘキモノハ其ノ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ除却スルコト
 - 二 竹木土石薪炭其ノ他ノ物件ヲ堆積シ若ハ立掛ケ置クコトキハ交通ニ對スル支障及危害ノ豫防ノ爲適當ノ裝置ヲ爲スコト
 - 三 建物ノ建設修繕等ヲ爲ス場合ニ於テハ交通ノ支障危害若ハ塵埃ノ飛散ヲ防クニ足ルヘキ板圍其ノ他ノ裝置ヲ爲スコト
- 第七條 特ニ道路ヲ使用シタル者其ノ使用ヲ終リタルトキハ速ニ原狀ニ回復スヘシ
- 第八條 道路ニ於テハ左ニ掲クル避讓法ニ從フヘシ但シ特ニ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 歩行者牛馬若ハ諸車行逢フトキハ互ニ左方ニ避讓スルコト
 - 二 牛馬若ハ諸車一シテ他ノ牛馬若ハ諸車又ハ通行人ニ行逢ヒタルトキ又ハ屈曲ノ場所ヲ通過セムトスルトキハ人力車自轉車若ハ自動車ニ在リテハ音響器ヲ鳴シ其ノ他ノ諸車若ハ牛馬ニ在リテハ適當ノ合圖ヲ爲スコト
 - 三 牛馬若ハ諸車ニシテ他ノ牛馬若ハ諸車又ハ通行人ヲ追越サムトスル

〔千葉警〕

- トキハ後者ハ前號ノ區別ニ依リ音響器ヲ鳴シ若ハ合圖ヲ爲シ前者ハ左方ニ避讓シ後者ハ右方ヲ通過スルコト
- 四 軍隊其ノ他ノ隊伍ニ對シテハ適當ノ避讓スルコト
- 五 街路又ハ交通頻繁ノ場合ニ於テハ左側ヲ通行スルコト
- 第九條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ交通及道路使用ニ關シ特ニ禁止又ハ制限ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者本則ノ規定ニ違反シ又ハ警察官署ニ於テ交通衛生風俗美觀若ハ風致上必要ト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ使用ヲ停止シ又ハ工作物ノ改造修繕若ハ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 第二條乃至第七條ニ違反シ又ハ第八條ニ違反シテ交通上ノ支障若ハ危害ヲ生セシメタル者及第九條若ハ第十條ノ處分ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十二條 明治四十四年二月千葉縣令第十三號道路取締規則ハ之ヲ廢止ス
- 第十三條 明治四十四年二月千葉縣令第十三號道路取締規則ニ依リ道路使用ヲ許可セラレタル者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第十四條 明治四十三年八月千葉縣令第七十號人力車營業取締規則中第六條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條乃至第四十四條明治四十四年十月千葉縣令第百號乘合馬車營業取締規則中第四十四條第四十五條第四十七條乃至第五十二條大正元年九月千葉縣令第九十號荷車取締規則中第六條第七條大正元年十二月千葉縣令第百四號自動車取締規則中第二十九條第二項第十八號第三十條第四號乃至第十號第十三號乃至第十五條ハ之ヲ削除ス

●道路取締令ニ關スル件

(大正九年十二月 保第七七六三號)

本月十六日公布セラレ候道路取締令ハ來ル大正十年一月一日ヨリ施行相成

候處右實施ノ機會ニ於テ取締令規定候項中日常遵守スヘキ事項ヲ一般民衆ニ普ク了解セシメ義務ノ觀念ヲ厚カラシムルニ努メ交通ノ危險ヲ防止シ安全ヲ圖ルハ時宜ニ適シタルモノト認メラレ候ニ付テハ省令及縣令交通取締規則中最モ主要ナル事項ニ付市街地又ハ農村部落等ノ周圍ノ狀況ヲ考察シ相當工夫ヲ凝シ平易ニ摘錄印刷シ部内各學校、工場、諸興業場、飲食店浴場、理髮店等公衆ノ頻々出入スル場所其他一般ノ注意ヲ惹起スヘシト認メラル、場所ニ配付若ハ揭示相成度尙自動車自轉車ヲ運轉操縱シ若ハ使用候者ニ對シテハ取締令ノ趣旨ヲ示達シ充分之ヲ遵守スルニ從順ナラシメ違反行為ヲ遂行スルコトナキヲ期シ後又一面青年會其他多衆會同ノ機會ヲ利用シ時々交通取締上必要ノ事項ヲ反覆説述シテ宣傳ニ努メ民衆ナシテ交通上ニ於ケル紀律節制ヲ重スルノ習慣ヲ馴致セシメラレ度候旨ヲ迄モナク警察官吏ニシテ道路ノ通行等ニ當リ規則ノ條項ニ背反スルノ舉措ニ出ツル様ノコト有之候テハ一般民衆ニ於テ面白カラサル感想ヲ惹起シ執行上ニ及ホスノ影響モ可不少認メラレ候ニ付取締令ノ趣旨ニ於テモ充分規則ノ趣旨ヲ體得シ以テ範圍一般ニ示シ相待ツテ交通警察ノ目的ヲ達成スルニ努メラレヘク尙右宣傳ハ日常交通事故ノ頻發スルニ顧ミ交通ノ保全ヲ圖ルノ豫防警察上極メテ緊要ナルヲ認メ道路取締令ノ施行ヲ機トシテ交通上ニ於ケル義務ノ觀念ヲ一般民衆ニ注入シテ充分自覺ヲ促シ警察取締ヲ相待ツテ良好ナル習慣ヲ馴致スルノ趣旨ニ外ナラサルモノニ付宣傳方法等ニ關シテモ熟慮工夫ヲ凝スト共ニ一面祭典其他交通比較の頻繁ナル場合等相當時機ヲ見計ヒ時々一定ノ期間及場所ニ限リ實際ニ交通ノ整理ヲナシ以テ之カ訓練ヲナスト共ニ取締令ノ趣旨徹底ニ努メラレ度尙其ノ執行ニ際シテハ如上ノ趣旨ヲ充分了得セシ執行苛察ニ涉ル様ノコトアリテハ徒ニ民衆ノ反感ヲ來シ所期ノ目的ヲ達スル能ハサルノ結果ヲ生スルヲ以テ周到趣旨ヲ徹底セシメ執行上遺策ナキ様留意相成度此段及通牒候也

追テ縣令道路交通取締規則ハ追テ改正ノ見込ナルモ其レ迄ハ省令ト概觸

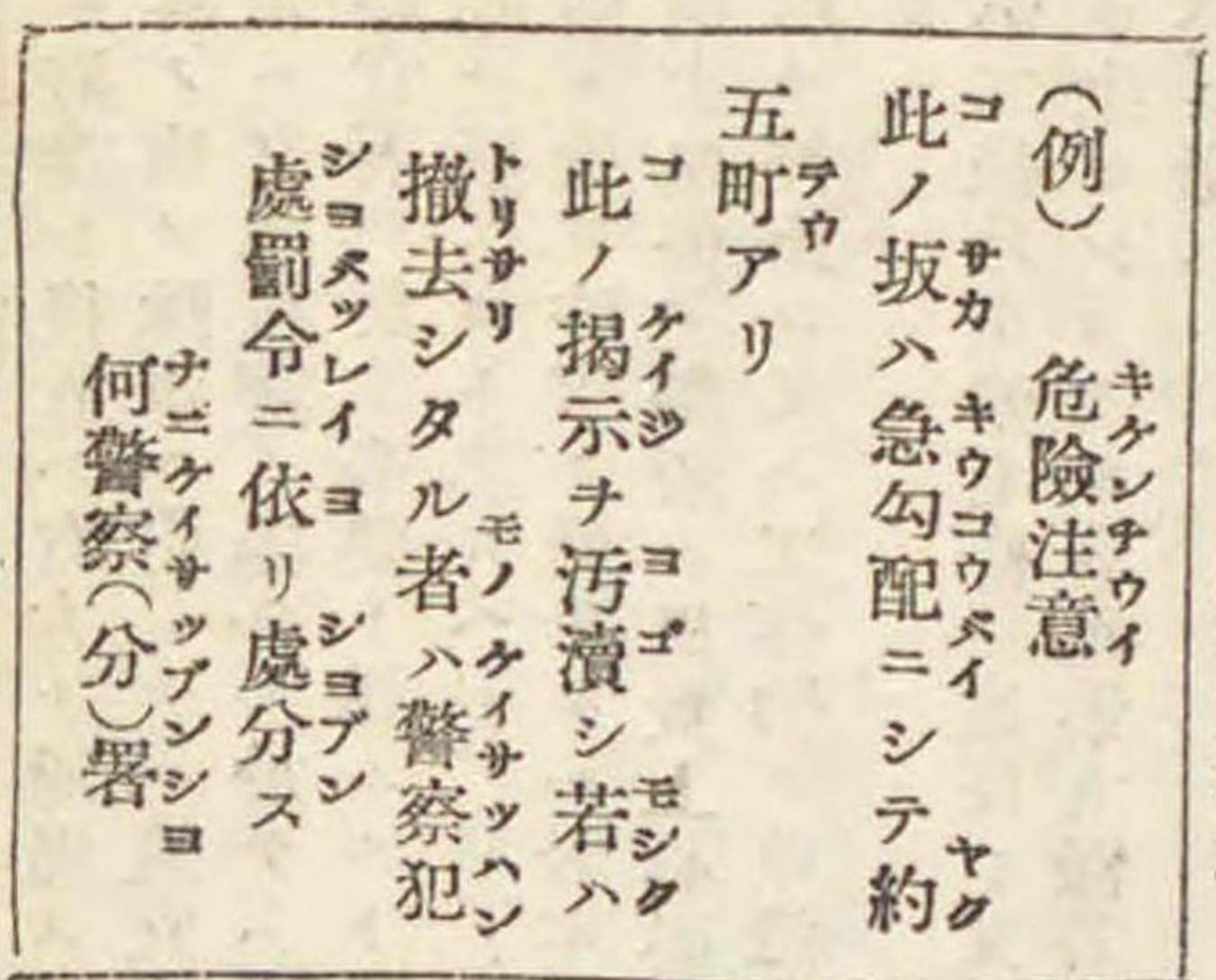
セサル部分ニ付テハ從來通。活用相成度尙本通牒ニ基キ宣傳實行相成候
計劃ノ大要及印刷物等ハ報告ト同時ニ添附相成度候

● 坂路交通注意ニ關スル件

(明治四十三年十月
保第九二九一號)

人力車、自轉車其ノ他ノ諸車ニ對シテハ交通上ノ危險ヲ防止スル爲道路取
締規則第二十七條、第二十八條、第三十條及第三十二條乃至第三十六條ニ
於テ之カ避讓方等ニ關スル規定アルノミナラス人力車ニ對シテハ特ニ該取
締規則第三十六條ニ於テ其ノ避讓法ヲ規定シテリト雖モ急峻、屈曲等ノ坂
路ニ在リテハ往々衝突、急轉直下等ノ危險ヲ惹起シ自他ニ危害ヲ及ホス
ト其ノ實例ニ乏シカラス右ハ其ノ者ノ不注意ニ依ルハ勿論ナリト雖亦以テ
地理ニ暗キ結果不慮ノ危險ニ遭遇スル者ナシトセス付テハ之カ危害豫防ノ
爲町村役場等ニ交渉シ各坂路最高所ニ左記ノ注意事項ヲ揭示セシムル様
願シ其ノ結果報告相成度候

一 揭示板ハ木札トシ左ノ雛形(木札ノ寸法ハ適宜トス)ニ依ルモノトス



二 揭示ハ見易カラシムル爲成ルヘク木板ノ生地ヲ白ペンキ塗ト爲シ文字

ハ黒書スルコト
三 揭示ハ左ノ例ニ準シ記載スルモノトス

- 一 此ノ坂ハ急勾配ニシテ約何町アリ
二 此ノ坂ハ約何町下リ右(左)ニ曲折スルトキハ右(左)ニ斷崖アリ
三 此ノ坂ハ急勾配ニシテ約何町下リ右(左)ニ曲折スルトキハ右(左)ニ斷崖アリ
四 此ノ坂ハ約何町下リ右(左)ニ曲折スルトキハ右(左)ニ斷崖アリ
五 此ノ坂ハ約何町下リ右(左)ニ曲折スルトキハ右(左)ニ斷崖アリ
六 此ノ坂ハ急勾配ニシテ約何町下リ右(左)ニ曲折スルトキハ右(左)ニ斷崖アリ

● 坂路交通注意ニ關スル件

(明治四十四年三月
保第三〇七〇號)

坂路交通注意ノ揭示ニ關シテハ客年十月三十一日保第九二九一號ヲ以テ及
通牒候以降各署ニ於テ夫夫之カ建設相成候處往該建設位置又ハ記載方等
不適當ノ爲坂路ニ近接シ熟視スルニ非サレハ之ヲ知ルコトナ得サルモノ等
有之斯クテハ自轉車等ニテ疾走スル場合ノ如キハ到底注意ヲ促スニ足ラス
切角ノ施設モ其ノ效果ヲ見ルコトナ得サルカ故ニ本年一月六日保第一二六
號ヲ以テ右建設ニ關シ再ヒ及通牒候ニ付其ノ以降ニ在リテハ苟モ不適當ノ
建設ヲ爲ササ。管ナルニ視察員ニ於テ視察シタル結果ニ依レハ左記ノ如キ
取扱上過誤アルモノ有之候趣ニ付速ニ書キ替ヘ又ハ建替ヲ爲。等之カ揭示
ナシテ有效ナラシムル様御取扱相成度候

一 揭示札ノ警頭ニハ危險注意ト他ノ字形ヨリ大書シ一見注意建札ノ存在

〔千葉警〕

ナ認識セシメサルヘカヲササルニ他ノ字形ト同一ニ記載セルモノアリ
二 揭示札ハ何人ニモ讀ミ易カラシムルタメ雛形ニ於テ漢字ノ右方ニ振假
名ヲ施シアルニ拘ラス之ニ依ラス又木札ノ形體雛形ニ準據セサルモノ
アリ

三 揭示札ハ各坂路ノ下リ口ヨリ五六間前ニ於ケル交通ノ妨害トナラサル
且見易キ場所ニ板ノ表面ヲ直角ノ方向ニ裏面ニ下リ口ニ向ケ建設スヘ
キ管ナルニ之ニ依ラスシテ道成。ニ建設スルモノアリ
四 揭示札ハ何人カ之ヲ視ルモ直ニ坂路ノ地形ヲ辨識シ得ル様記載スヘキ
管ナルニ記載方要ヲ得シテ危懼ノ念ヲ抱カシムルモノアリ即チ急勾
配ニシテ屈曲アルニモ拘ハラヌ之ヲ示サス却テ緩勾配ナリトスルカ如
キモノアリ

五 揭示札ハ適當ニ之ヲ作製シ何人ニモ見易カラシムル様適當ノ地點ニ建
設スヘキ管ナルニ高キアリ低キアリテ適切ナラサルモノアリ要ハ公衆
ノ見地ヨリ其ノ程度ヲ決スヘキモノトス
六 揭示札ハ風雨等ニ依リ倒壊セサル様堅固ニ建設スヘキ管ナルニ支柱等
不適當ノ爲倒仆セルモノアリ
追テ右建設札ニ付テハ此ノ際成ルヘク署長若止ムヲ得サル事情アルモノ
ハ警部補又ハ巡查部長ニ於テ實地ヲ確認シ濫ニ駐ニ巡查等ニ一任セサル
様注意有之度候

● 指道標ニ關スル件

(明治四十四年三月
保第三三〇二號)

旅行者等ニ於テ山道、間道等ノ人家ナク而モ人ノ往來稀ナル地若ハ國縣道、
樞要里道又ハ里道等ニ於ケル十字路、三叉路、丁字路其ノ他各所ニ交通シ得
ル分岐點ニ到リ附近ニ人家等ナク地理不案内ノ爲右顧左眊前進ニ迷ヘル者
アルハ往々ニシテ之ヲ見ル處ニ有之就テハ右等ノ箇所ニ於ケル樞要ナル地
點ニ指道標ヲ建設シ以テ一般交通者ノ利便ヲ圖ルハ極メテ必要ノコトト思

第二編 保安 行政 第四章 交通

● 道路其他破損ニ關スル件

(明治四十五年六月
保第六六八八號)

道路橋梁堤防ニシテ破損箇所ナ生シ交通危險ノ場合ハ其署ニ於テ必要ナル
措置ヲ爲シ一面報告スルト同時ニ當該工區主幹ニ其旨即時通知有之度候
也

一 指道標ノ物質ハ石材又ハ木材ヲ用ユルコト
二 指道標ハ十字路及丁字路ニ建設スルモノニ在リテハ三角形又ハ四角形
三叉路ニ在リテハ四角形ノモノヲ用ユルコト以外ノモノニ在リテハ右ニ
準シ之ヲ作製スルコト
三 指道標ハ石材ヲ用ユルモノニ在リテハ刻字ノ凹處ヲ朱色ト爲シ木材ヲ
用ユルモノニ在リテハ木材ノ生地ヲ白ペンキ塗ト爲シ塗リ方ハ生地ノ
顯ハレサル様厚塗リトナスヘシ文字ハ之ヲ黒ペンキニテ記載スルコト
四 指道標ノ文字ハ楷書體ニ之ヲ記載スルコト
五 指道標ノ高サハ地上約四尺以上ト爲シ一角面ノ幅ハ之ヲ曲尺四寸以上
ト爲スコト
六 指道標ハ見易ク風致ヲ害セス且交通ノ妨害ト爲ラサル場所ニ倒壊セサ
ル様之ヲ建設スルコト
(別紙様式略ス)

鐵道營業法(拔萃)

(明治三十三年三月) (法律第六十五號)

- 第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス
- 附添人ナキ重病者ノ乘車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得
- 第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ齎スノ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乘込マシメタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レシメタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
- 第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三章 旅客及公衆

- 第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 - 一 有效ノ乘車券ヲクシテ乘車シタルトキ
 - 二 乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乗りタルトキ
 - 三 乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ
- 第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐偽ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條

- 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス
- 第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乘車セシメタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス
- 第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得
 - 一 有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ
 - 二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルルノ所爲アリタルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂タル運賃ハ之ヲ還付セス
- 第四十三條 前條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罰金、拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ現行犯アリタルトキ被告人力其ノ住所氏名ヲ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

電氣鐵道其他軌道ニ關シ惡戯者

取締ニ關スル件

(明治四十三年十二月) (保第一〇五九一號)

近來電氣鐵道其ノ他軌道ニ依リ運輸ヲ業トスル者ノ漸時増加ニ伴ヒ之ニ關スル事故ノ發生スルコト不少之方原因種種可有之存候得共蓋ニ軌道内ヲ通行スルノ不心得ヨリ生スルコトモ原因ノ一ニ有之地方ニ依リテハ荷車ヲ使

- 第三十條ノ二 前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス
- 第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帶シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 - 一 列車運轉中乗降シタルトキ
 - 二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ
 - 三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乗りタルトキ
- 第三十四條 制止ヲ肯セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
 - 一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ
 - 二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入りタルトキ
- 第三十五條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品ノ購買ヲ求メ物品ヲ配布シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス
- 第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第三十七條 信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
- 第三十八條 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄ニ立入タル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第三十九條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ヲ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

用スル者ニシテ往々軌道内ヲ通行シ音響器ヲ以テ屢屢警告ヲ與フルモ平然タル者有之殊ニ兒童ニ於テ電車ノ進行スルニ方リ故ニ危險ヲ犯シテ軌道ヲ

橫斷シ又ハ進行先ニ立塞リ運轉手ヲシテ倉皇運轉ヲ停止セシムルノ取調ヲ爲シ爲ニ傷害ヲ被リタル事例ヲ生シ營業者ニ於テ迷惑ヲ感シ居候間キモ有之候旁危險取締上看過スヘカラサル義ニ有之候條是等行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ警察官吏ヲシテ嚴ニ之ヲ制止セシメ尙ホ小學校長及父兄ヲシテ兒童ノ訓誡ニ努メシメラルル等平素ニ於ケル警戒向特ニ御注意ノ上軌道内ニ立入又ハ兒童ノ乘車ヲ爲ス等ノコトナカラシメ努メテ如上ノ惡慣ヲ馴致スルコト無之様御配慮相成度依命此段及通牒候也

鐵道等妨害行爲ニ關スル件

(明治四十四年八月) (保第七五四號)

鐵道及電車等ノ交通機關ニ對シ之カ往來ヲ妨害スルノ行爲ハ交通上至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ輕視スヘカラサルハ勿論ノ儀ニシテ既ニ相當取締中ノコトトハ信スルモ近來各地ニ於テ之等ノ事故不尠其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條爾來線路上ニ障害物ヲ横ヘ又ハ線路標識ヲ損壞スル等其ノ他ノ違反行爲アリタル場合ハ極力犯人ノ檢舉ニ努メ假借ナク之ヲ刑事訴訟ニ付スル等遺策ナキナ期セラレ度候

鐵道等妨害行爲取締ニ關スル件

(大正二年四月) (保第四五八號)

鐵道線路ニ障害物ヲ横ヘ汽車、電車等交通機關ニ妨害ヲ加フルノ行爲取締方ニ關シテハ明治四十四年八月保第七、五三四號通牒ノ次第モ有、各署ハ

夫々注意中ノ事ト相信シ候得共近來北海道及九州地方ニ於テ此種犯行續出シ甚敷ハ列車ニ向ケ發砲シタル者アリト聞ク斯クテハ行旅者ニ不安危懼ノ念ヲ懷カシメル而已ナラス延テ警察ノ威信ニモ相關シ候條各署ハ此際前記通牒ヲ反覆シ一層取締ノ勵行ヲ期セラレ度候也

測量標取締ノ件

明治三十三年十一月
縣令第九十二號

縣廳ニ於テ道路河川其他ノ場所ニ設置シタル測量標ヲ拔取又ハ移轉シ若ハ毀損スヘカラス違フ者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二節 車馬

自動車取締令

(大正八年一月十一日)
(內務省令第一號)

- 第一條 本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用キ軌條ニ依ラスシテ運轉スル車輛ヲ謂フ
- 第二條 自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官之ヲ定ム
- 第三條 自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トシ但シ地方長官ハ道路、區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指定シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 一 輻ハ保護裝メノモノタルヘキコト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ニ異ナルモノヲ用ウルコトヲ得
 - 二 各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキコト
 - 三 變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ踏易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキコト
 - 四 蒸汽、瓦斯又ハ油其ノ他爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ置、管及氣筒並電氣裝置等ハ堅牢ニ作り漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘ

五 電氣裝置 電路ヲ除ク

六 車臺

七 車體

第八條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ定ムル所ニ依リ検査又ハ試運轉若ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行ヒ必要ト認メタルトキハ使用ノ禁止ヲ命スルコトヲ得
前項ニ依リ使用ノ禁止ヲ命セラレタルトキハ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者ハ其ノ構造裝置ニ付危害ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘシ

第十一條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ニ届出テ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十二條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ムトスル者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ營業地ノ地方長官其ノ他ノモノハ營業所在地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル營業ノ免許ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓受又ハ相續スルコトヲ得ス

第十四條 營業ヲ廢止シタルトキハ運轉ナク地方長官ニ届出ツヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ廢止前營業地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 運轉手タラムトスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ交付ス

第二編 保安 行政 第四章 交通

- 五 運轉ニ際シ甚シキ騒音ヲ發シ又ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セサル構造タルヘキコト
- 六 車輛ノ總重量八百磅度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及逆行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキコト
- 七 適當ナル音響器ヲ備フヘキコト
- 八 車輛ノ前面ニハ二箇以上、後面ニハ一箇以上ノ相當光力ヲ有スル燈火ヲ備ヘ後面燈火ハ運轉手ノ座席ヨリ消燈シ得サル樣裝置スヘキコト

第五條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ
商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ得

第六條 検査ニ合格シタルトキハ検査ノ證明ヲ爲シ車輛番號ヲ指示ス
検査證明ノ爲検査證ヲ交付セラレタルトキハ車體内部ニ之ヲ標示スヘシ

第七條 自動車ノ主タル使用地ヲ變更シタルトキハ運轉ナク其ノ旨後ノ使用地ノ地方長官ニ届出テ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ

第八條 検査ニ合格シタル自動車ノ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地ノモノニ在リテハ其ノ所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ主タル使用地ノ商品トシテ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第九條 自動車ノ構造裝置ニシテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 原動機
- 二 爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ置、管
- 三 氣筒及曲柄
- 四 制動機、變速機及換向機

〔千葉警〕

運轉手免許證ハ甲乙ノ二種トシ甲種免許證ヲ有スル運轉手ハ各種ノ自動車ヲ運轉スルコトヲ得乙種免許證ヲ有スル運轉手ハ特定又ハ特種ノ自動車ニ非サレハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス

第十條 運轉手免許ノ有效期間ハ五年トス

第十一條 運轉手ノ免許ハ試驗ニ合格シ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニ之ヲ與フ

一 十八歳未滿ノ者

二 精神病者、聾者啞者又ハ盲者

三 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第十二條 運轉手ノ試驗ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ自動車ノ構造、取締規則及實地ノ技能ニ關シ之ヲ行フ

第十三條 運轉手免許證ハ就業中ニ之ヲ携帯スヘシ

第十四條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ自動車ノ検査證明ヲ毀損シタルトキハ地方長官ニ願出テ更ニ其ノ證明ヲ受クヘシ

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ運轉手ハ運轉ナク免許證ヲ返納スヘシ

一 第二十七條ニ依リ免許ノ取消又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ

二 免許ノ有效期間ヲ經過シタルトキ

三 運轉手死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキハ其ノ雇主、戶主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ後ノ就業地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第十七條 前條ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長官必要ト認ムルトキハ第十六條第二項ニ依リ試驗ヲ行フコトヲ得

第十八條 前項ノ試驗ニ合格セサルトキハ其ノ道府縣內ニ於ケル就業ヲ停止スルコトヲ得

〔千葉警〕

第二十二條 運轉手ヲ雇入レタル者ハ五日以内ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十三條 車輛番號ハ車輛ノ前面及後面階易キ箇所ニ標示スヘシ 後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ

第二十四條 検査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコトヲ得ス

第二十五條 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業員ハ被害者ノ救護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官吏在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

運轉手其ノ他ノ從業員ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇主、自動車使用者ノ氏名、住所、姓名、事務所所在地及車輛番號ヲ警察官吏ニ申告シ、警察官吏在ラサルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項ヲ通告スルニ非サルヘシ

前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運轉手其ノ他ノ從業員ハ運轉手前各項ノ事實ヲ警察官吏ニ申告スヘシ

乘用者ハ運轉手其ノ他ノ從業員カ前項ノ措置ヲ爲スニ付之ヲ妨グルコトヲ得ス

第二十六條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十二條ノ規定ニ依リ營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一 正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營業ヲ開始セザルトキ

二 營業ヲ繼續スルニ適セスト認メタルトキ

三 公安上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

四 營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得

一 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ

二 第十六條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者、又ハ第九條第一項第二十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キテ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十一條 營業用又ハ家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十三條 自動自轉車ノモトヲ除ク及オートベツドノ類ニ付テハ其ノ

〔千葉警〕

第五條 自動車ノ進行速度ハ街路ニ在リテハ一時間十二哩交通頻繁ナル場合又ハ橋梁上ニ在リテハ一時間五哩ヲ超ユルコトヲ得ス尙交通頻繁ナル場合ニ在リテハ歩行者ト同一ノ程度ニ徐行スヘシ

第六條 知事又ハ警察官署ニ於テ危險豫防ノ爲其ノ他必要アリト認ムルトキハ自動車ノ運轉ニ關シ制限ヲ爲シ又ハ營業免許ニ條件ヲ附スルコトアルヘシ

第七條 自動車ノ運轉ニ依リ道路又ハ其ノ附屬ノ工作物ヲ損壞シタルトキハ自動車使用者ノ費用ヲ以テ原狀ニ回復スヘシ

第八條 自動車取締令第五條ニ依リ自動車ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 住所氏名及生年月日

二 使用ノ目的

三 乘車定員

四 車輛ノ數及其ノ構造裝置仕様書

自動車取締令第七條ニ依リ自動車ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ其ノ變更シタル部分ノ構造裝置仕様書ヲ具スヘシ

第九條 自動車取締令第六條ニ依リ届出ニハ前條第一項ノ事項ノ外前使用地地方長官ノ自動車検査證寫ヲ添付スヘシ

第十條 自動車取締令第八條但書ノ規定ニ依リ自動車ヲ使用セムトスル者ハ使用ノ目的日時場所及車輛ノ種類ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十一條 自動車使用者ハ毎年六月知事ノ指定シタル場所及日時ニ於テ自動車ノ検査ヲ受ケクヘシ

第十二條 自動車取締令第十二條ニ依リ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書正副二通ヲ差出スヘシ

一 營業者ノ本籍住所氏名生年月日營業者法人ナルトキハ其ノ名稱事務所在地定款寫及代表者ノ本籍住所氏名營業共同經營ニ係ルトキハ

二七七

第一條 自動車取締令及本則ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ營業者ニ在リテハ其ノ營業所其ノ他ノ者ニ在リテハ其ノ住所ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 未成年者又ハ禁治產者ノ爲ス願届ハ其ノ書面ニ法定代理人ノ連署ヲ要ス但シ自動車營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 自動車ハ有效幅員九尺以上ノ道路ニ非サレハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス但シ特ニ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル自動車營業ハ有效幅員十二尺以上ノ道路ニ非サレハ之ヲ免許セズ但シ道路ノ狀況又ハ車輛ノ構造ニ依リ特ニ本條ノ制限ニ拘ラス之ヲ免許スルコトアルヘシ

● 自動車取締令施行規則 (大正八年二月 縣令第十一號)

第三十五條 本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行前ニ於テ自動車ノ検査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月内ニ、其ノ他ノ地方ニ在リテハ三箇月内ニ本令ニ依リ検査又ハ免許ヲ受クヘシ

前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依リ試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

業務擔當者ノ本籍住所氏名及生年月日

二 營業所所在地

三 乘車賃額

四 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル營業ニ在リテハ其ノ發着地里程發着時刻
駐車場ノ地名里程及發着地並駐車場ノ位置ヲ記入シタル略圖
前項第三號及第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 一定ノ路線ニ據ラサル自動車營業者ハ他人力營業ノ免許ヲ受ケタル一定ノ路線内ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 自動車取締令第十三條ニ依ル許可申請書ニハ運輸營業讓受ノ場合ニ在リテハ讓渡ヲ爲サムトスル者連署シ相續ノ場合ニ在リテハ戶籍簿本ヲ添付スヘシ

第十五條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル自動車營業者カ其ノ營業ノ全部若ハ一部ヲ休止セムトスルトキハ休止ノ理由期間及路線ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル自動車營業者カ其ノ路線又ハ區間外ニ於テ臨時運轉ヲ爲サムトスルトキハ其ノ都度所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 自動車使用者ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ第三號ノ場合ニハ戶籍法第一百七條ノ届出義務者ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 營業ヲ開始シタルトキ
二 營業ヲ休止シタルトキ但シ第十五條ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス
三 死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキ但シ營業相續ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

運轉ヲ停止スルコト
第二十三條 第七條第十條第十二條第二項第十三條第十五條乃至第十七條第十八條第二十一條第二十二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第六條ノ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十四條 本則ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス
第二十五條 大正元年十二月千葉縣令第四百四號自動車取締規則ハ之ヲ廢止ス

●自動車取締令並同施行規則取扱

手續 (大正八年二月十八日訓令第三號)

第一條 自動車取締令(以下單ニ)第五條ニ依ル自動車検査證ハ附録第一號様式ニ依ルモノトス

第二條 一定ノ路線又ハ區間ニ據ル自動車營業線路中道路ノ屈折又ハ交叉セル場所其ノ他危險豫防上必要ト認ムル場所ニ營業者ヲシテ建設セシムヘキ標柱ハ附録第二號様式ニ依リ徐行ヲ必要トスル區域ノ兩端ニ建設セシムヘキ標柱ハ附録第三號様式ニ依ルモノトス

第三條 自動車取締令施行規則(以下單ニ規)第八條第四號ノ車輛ノ構造裝置仕様書ニハ左ノ事項ヲ具セシムヘシ

- 一 車輛ノ寸法(外法全長及幅)
- 二 重量
- 三 制動機ノ種類及個數
- 四 變速機ノ種類及個數
- 五 原動機ノ名稱及馬力數
- 六 音響器ノ種類及個數

第十八條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ書替ヲ知事ニ願出ツヘシ

第十九條 自動車取締令第十五條ニ依ル願書及自動車取締令第二十條ニ依ル願書ニハ本籍住所氏名生年月日履歷書及戶籍抄本ヲ具スヘシ

第二十條 運轉手ノ試験ヲ受ケムトスル者ハ知事ノ指定シタル場所及日時ニ出頭シ且試験用ノ自動車ヲ提供スヘシ

第二十一條 自動車營業者及運轉手ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 定員以上ニ客ヲ乗車セシメサルコト
二 車内諸易キ箇所ニ賃錢表及運轉手ノ氏名ヲ表示シタル標札ヲ掲クルコト

三 發車時刻ノ定メアルモノニシテ故ナク其ノ時刻ヲ變更セサルコト
四 故障ノ爲運轉不能ト爲リタル場合又ハ相當時間ヲ經過スルニ非サレハ運轉シ能ハサルニ因リ乗客ノ請求アリタル場合ニ於テハ殘餘里程ニ應シ相當賃錢額ノ割戻ヲ爲スコト

五 左ニ掲クル者ヲ乗合ハシメサルコト但シ貨切ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
イ 傳染病豫防法第一條及第二條ニ規定シタル傳染病患者
ロ 同乗者ニ迷惑ヲ及ボスヘキ疾病アル者及服裝其ノ他ニ於テ同乗者ニ甚シキ嫌惡ノ感ヲ起サシムル虞アル者

ハ 附添人ナキ精神病者又ハ泥酔者
ニ 惡臭ヲ發散シ又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物ヲ携帶セル者

第二十二條 運轉手ハ就業ニ付左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 危險豫防ニ關シ必要ナル一切ノ注意ヲ爲スコト
二 操縦ニ便シテ不體裁ナラサル服裝ヲ爲スコト
三 酒氣ヲ帶ヒテ運轉ヲ爲シ又ハ運轉中飲食若ハ喫煙ヲ爲ササルコト

四 警察官吏ニ於テ舉手其ノ他ノ方法ヲ以テ停車ヲ命ジタルトキハ直ニ

七 燈火器ノ種類及個數
八 製造者名及製造ノ年月日
九 車輛ノ平面圖及側面圖
前項第七號燈火器ハ屋上ニ裝置スルヲ許ササルモノトス

第四條 令第十二條ニ依ル免許申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ調査副申スヘシ但シ第三號乃至第五號ノ事項ハ一定ノ路線又ハ區間ニ據ル營業ノ出願ノ場合ニ限ルモノトス

一 營業能力
營業者ノ職業資力信用前科ノ有無並其ノ種類及營業遂行ノ見込アリヤ否ヤ等
二 營業成立ノ確否
土地ノ狀況其ノ他ニ徵シ果シテ豫定ノ收入ヲ得テ確實ニ營業ヲ維持シ得ヘキ見込アリヤ否ヤ

三 他ノ同一營業者ニ對スル關係
同一路線又ハ區間ニ於テ他ニ出願若ハ計畫中ノモノノ有無若シアラハ營業者相互間ノ關係及協定若ハ合同等ノ見込ノ有無

四 營業ニ對スル故障ノ有無及道路管理者ノ意見乗合馬車營業者人力車營業者等ニ於テ故障ヲ唱ルモノナキヤ否ヤ及其ノ路線ノ國縣道以外ノ道路ナルトキハ其ノ道路管理者ノ意見並沿道住民ノ意嚮等

五 路線又ハ區間ノ狀況
道路(橋梁)並附屬工作物及交通ノ狀況等ニ徵シ營業ヲ免許スルモ支障ナキヤ否ヤ及免許ニ付條件ヲ附スル必要ノ有無等

六 其ノ他參考トナルヘキ事項
第五條 規則第十二條第三號ノ事項變更ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査副申スヘシ
一 變更セムトスルニ至リタル事情

ニシテ中ニハ精細ナルモノヲ添付セラル、向モ有之モ多クハ極メテ粗雑ノモノニシテ審査上支障カラス候條爾今ハ陸地測量部製作ニ係ル五萬分ノ一位ノ圖面ヲ添付セシメラレ度該圖面添付不能ノ場合ハ同一擴大ニ描抄シ路線中ノ坂路路線ノ廣狹橋梁接續道及路線ノ屈曲路線附近ノ狀況人家ノ疎密等詳細ニ記載添付セシメラレ度此段及通牒候也

自動車營業出願ニ關スル件

(大正九年十月三號) (保第六五三三號)

自今自動車營業許可申請書ヲ受理シタル際ニ於テ其出願路線若ハ區間カ他署管内ニ跨ル場合ハ單ニ其署管内ノ關係事項ノミナ調査報告スルト同時ニ書類ハ速力ニ進達相成度此段及通牒候也

人力車營業取締規則 (明治四十三年八月) (縣令第七十號)

(沿革) 大正七年六月縣令第三〇號改正

第一條 本則ニ於テ人力車營業者ト稱スルハ自ラ人力車ヲ輓キ客又ハ貨物ノ運搬ヲ業トスル者ヲ謂フ自ラ人力車ヲ輓カスト雖モ他人ヲシテ之ヲ輓カシメ客又ハ貨物ノ運搬ヲ業トスル者ハ之ヲ人力車營業者ト看做ス
第二條 人力車營業者ハサムトスル者ハ本籍、住所、身分、氏名、生年月日及車數ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ人力車及其ノ附屬品並ニ服裝ノ検査ヲ受クヘシ
警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ第五條第一號乃至第五號ニ抵觸セスト認メタルトキハ人力車駛込ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ人力車ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ
第三條 第一條第二項ニ掲グル營業ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治

一 產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第一條第一項ノ人力車營業者ト爲スコトヲ得ス但シ第一號ニ該當スト雖モ改換ノ情顯著ナル者ニ對シテハ特ニ該營業者許可スルコトアルヘシ
一 猥褻、姦淫、略取、誘拐、強盜ノ罪ニ依リ處刑セラレタル者
二 酒癖又ハ粗暴ノ行爲アル者
三 十八歳ニ滿タサル者又ハ滿六十歳以上ノ者
第五條 人力車及其ノ附屬品ハ左ニ掲グル制限ニ從フヘシ
一 車體ハ堅固ニ構造シ黑無地漆塗ト爲スコト
二 車體ハ一人乗幅内法一尺五寸以上ト爲スコト
三 中張及蒲團ハ天鷲絨又ハコイルテン等ヲ用ユルコト
四 車體ニハ黑無地漆塗ノ泥除キ備フルコト
五 黑無地ノ護膜製又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フルコト但シ半母衣ニ在リテハ白無地ノモノヲ用ユルコトヲ妨ケス
六 組名及營業許可書ノ番號(同一ノ番號アルモノ)ヲ明記シタル毛布又ハ羅紗ノ膝掛ヲ備フルコト但シ夏季ニ在リテハ薄物ヲ用ユヘシ
七 組名及營業許可書ノ番號(同一ノ番號アルモノ)ヲ記載シタル細長提燈(蠟燭、燐)ヲ備フルコト
第六條 人力車營業者ハ人力車駛込ノ見易キ箇所ニ組名及營業許可書ノ番號(同一ノ番號アルモノ)並ニ住所、氏名ヲ明記シタル木札ヲ附スヘシ
第七條 人力車營業者ハ就業中左ニ掲グル服裝ヲ爲スヘシ
一 無地ノ法被又ハ筒袖ノ上衣及股引ヲ着スルコト但シ膝ノ上部ニ達スル半股引ヲ用ユルコトヲ妨ケス
二 上衣ノ背部ニハ組名ノ頭字及營業許可書ノ番號ヲ表ハスコト
三 大黒帽子又ハ便頭笠ヲ冠スルコト
第八條 人力車營業者ハ一家又ハ數家ト特約シ其ノ專用ニ應スル人力車ノ

附屬品若ハ服裝ニシテ第五條第一號、第七號又ハ第七條第二號ニ依ルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
第九條 人力車營業者ハ人力車又ハ其ノ附屬品ヲ製造、改造シ若ハ買受ケ、譲受ケタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ但シ第五條第七號ノ細長提燈ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ第五條第一號乃至第五號ニ抵觸セスト認メタルトキハ人力車駛込ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ人力車ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ
第十條 人力車營業者ハ左ニ掲グル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
一 廢業
二 所轄内ニ於ケル住所又ハ氏名ノ變更
三 人力車ノ廢止又ハ賣渡、讓渡
人力車營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
第十一條 人力車營業者ハ警察官署ノ管轄毎ニ人力車營業組合ヲ設クヘシ前項ノ組合ニ加入セザル者ハ人力車營業者ト爲スコトヲ得ス
第十二條 人力車營業組合ニハ各一名ノ取締及副取締ヲ設クヘシ取締及副取締ハ人力車營業者ニ於テ之ヲ選舉シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
第十三條 前條ノ取締及副取締ハ人力車營業組合ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ副取締ハ取締ノ故障アル場合ニ於テ其ノ事務ヲ代理スヘシ
第十四條 人力車營業組合ニ於テハ取締及副取締ノ選舉、任期其ノ他組合ニ關スル規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ該規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十五條 人力車營業組合ニ於テハ道路ノ良否、晴雨又ハ晝夜ノ區別ニ依リ賃錢額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ該賃錢額ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
第十六條 (削除)
第十七條 人力車駐車場ヲ廢シタルトキハ人力車營業組合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
第十八條 人力車駐車場ニ於ケル人力車營業者ハ駐車場ヲ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ
第十九條 人力車駐車場ニ於ケル人力車營業者ハ到着順ニ依リ人力車ヲ整列シ出車ニ妨ケナキ様相當ノ間隔ヲ保ツヘシ
第二十條 人力車駐車場ニ於ケル人力車營業者ハ順番又ハ抽籤ヲ以テ定メタル順位ニ依リ出車スヘシ
但シ乗客ノ特ニ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二十一條 人力車營業者ハ乗客ノ求メニ應ジ難キ人力車ヲ人力車駐車場ニ置クコトヲ得ス
第二十二條 人力車營業者ハ正當ノ事由ナクシテ出車ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十三條 人力車營業者ハ營業上乗客ニ對シテ寧親切ニ取扱フヘシ
第二十四條 人力車營業者ハ乗客ニシテ急病ニ罹リタル者アルトキハ特ニ懇切ニ取扱フヘシ
第二十五條 人力車營業者ハ乗客ニ於テ降車スルトキハ遺留品ノ有無ニ注意スヘシ
第二十六條 人力車營業者ハ他ノ人力車營業者ノ業務ヲ妨害スルコトヲ得ス
第二十七條 人力車營業者ハ公衆又ハ乗客ニ對シ粗暴、輕侮ニ涉ル言語、形容其ノ他ノ作爲ヲ爲スコトヲ得ス
人力車營業者ハ通行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸ムルコトヲ得ス
第二十八條 人力車營業者ハ一人乘人力車ニ二人以上ヲ乘車セシムルコト

ヲ得ス但シ十歳ニ滿タサル者ハ其ノ求メニ依リ二人迄之ヲ共乗セシメ又
 ハ一人ヲ限リ十歳以上ノ者ト共乗セシムルコトヲ妨ケス
第二十九條 人力車營業者ハ乘客ノ承諾ヲ得シテ途中ニ於テ降車セシメ
 又ハ他車ニ乗セ替ヘ若ハ停車スルコトヲ得ス
第三十條 人力車營業者ハ乘客ニ對シ濫ニ宿屋、料理店、飲食店等ヲ紹介
 勸誘スルコトヲ得ス
第三十一條 人力車營業者ハ何等ノ名儀ヲ以テスルニ拘ラス乘客ニ對シ第
 十五條ノ認可ヲ受ケタル賃錢額以外ノ金品ヲ請求スルコトヲ得ス
第三十二條 人力車營業者ハ就業中賃錢表ヲ携帶シ請求スル者アル場合ニ
 ハ之ヲ示スヘシ
第三十三條 人力車營業者ハ人力車及其ノ附屬品竝ニ服裝ヲ常ニ清潔ニシ
 其ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ修繕スヘシ
第三十四條 人力車營業者ハ左ニ掲クルモノヲ乘車セシムルコトヲ得ス
 一 傳染病豫防法第一條ニ掲クル傳染病患者又ハ同法第二條ニ掲クル傳
 染病疑似症患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲クル病獸
 二 癩患者
 三 惡臭ヲ發シ又ハ人力車及其ノ附屬品ヲ汚濁スル虞アル物
 四 車外ニ突出シ交通ノ害トナル虞アル物
第三十五條 人力車營業者ハ乘客ニシテ前條第一號ノ傳染病ニ罹リタル疑
 アル者アルトキハ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ人力車及其ノ附屬品等ニ對シ速ニ消毒法ヲ行フヘシ
第三十六條 **第三十七條** (削除)
第三十八條 人力車營業者ハ道路ニ佇立シ又ハ彷徨スルコトヲ得ス
第三十九條 乃至**第四十四條** (削除)

第四十五條 人力車營業者ハ毎年四月及十月警察官署ノ指定シタル日時及
 場所ニ於テ人力車及其ノ附屬品竝ニ服裝ノ検査ヲ受ケヘシ
第四十六條 警察官署ハ人力車ハ其ノ附屬品若ハ服裝等ノ検査ヲ爲シ第
 五條乃至第七條ノ制限ニ適合セスト認メタルトキハ之カ設備、修繕又ハ
 掃除ヲ命スルコトアルヘシ
第四十七條 人力車營業者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ
 事實アリト認メタルトキハ警察官署ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ若ハ營業
 ナ停止スルコトアルヘシ
第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未
 滿ノ科料ニ處ス
 一 第二條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 二 第二條第二項、第九條第一項、第四十五條ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ
 合格セサル人力車若ハ其ノ附屬品又ハ服裝ヲ使用シテ營業ヲ爲シタ
 ル者
 三 第五條ノ設備ヲ缺キテ營業ヲ爲シタル者
 四 第二十二條、第二十七條第二項乃至第三十一條、第三十四條、第三
 十六條ニ違反シタル者
 五 停止中營業ヲ爲シタル者
第四十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以
 下ノ科料ニ處ス
 一 第七條ニ違反シタル者
 二 第八條ノ認可ヲ受ケスシテ専用ノ人力車附屬品ヲ使用シ又ハ服裝ヲ
 爲シタル者
 三 第十六條ノ認可ヲ受ケスシテ人力車駐車場ヲ設ケタル者
 四 第四十六條ノ人力車又ハ其ノ附屬品、服裝等ノ検査ヲ拒ミ若ハ其ノ
 設備、修繕又ハ掃除ノ命ニ従ハサル者
第五十條 第六條、第二十條、第二十一條、第三十二條、第三十七條、第三

十八條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
第五十一條 第十條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
第五十二條 第一條第二項ノ人力車營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治産者
 ナルトキハ前四條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
 附則

第五十三條 本則ハ明治四十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
第五十四條 従前ノ人力車營業者又ハ輓子ニシテ本則施行後引續キ人力車
 營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ第二條第一項ノ事
 項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ第一條第二項ノ營業ヲ爲サムト
 スル者ニ對シテハ第三條ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第二條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
第五十五條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前検査ヲ受ケタル人
 力車又ハ其ノ附屬品若ハ服裝ヲ本則施行後引續キ使用スル場合ニ於テハ
 本則施行ノ日ヨリ二十日以内ニ第二條第二項ノ検査ヲ受ケ車體ニ烙印ヲ
 受ケヘシ
 前項ノ烙印ニ關シテハ第二條第三項ノ規定ヲ準用ス
 第一項ノ人力車又ハ其ノ附屬品若ハ服裝ニシテ第五條又ハ第七條ニ適合
 セサルモノト雖モ明治四十四年十月施行ノ検査ヲ受ケル迄之ヲ使用スル
 コトヲ得
第五十六條 従前ノ人力車營業者又ハ輓子ニシテ十八歳ニ滿タスト雖モ第
 五十四條ノ届出ヲ爲シタル者ハ本則施行後第一條第一項ノ人力車營業
 者ニシテ得
第五十七條 従前ノ人力車營業者又ハ輓子ニシテ滿六十歳以上ノ者ト雖モ
 第五十四條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後滿三箇年間第一條
 第一項ノ人力車營業者ニシテ得
第五十八條 従前ノ人力車營業者又ハ輓子ニシテ第五十四條ノ届出ヲ爲シ

タル者本則施行ノ際滿五十八歳以上六十歳未滿ノ者ナルトキハ本則施行
 後尙滿三箇年間ハ第一條第一項ノ人力車營業者ニシテ得
第五十九條 従前ノ人力車營業組合ニシテ第十一條第一項ニ適合セサルモ
 ノハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ同條ニ依リ之ヲ設ケ第十二條ノ選舉
 ナ行ヒ及第十四條ノ規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ但シ第十
 一條第一項ニ適合スルモノニ在リテハ本條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做
 ス
第六十條 前條ノ人力車營業組合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ
 賃錢額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ但シ其ノ許可ヲ受ケタル後
 従前ノ賃金額ニ依リ營業スルコトヲ得
第六十一條 従前ノ人力車駐車場ヲ引續キ使用セムトスルトキハ本則施行
 ノ日ヨリ三十日以内ニ第十六條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ
 ン
第六十二條 明治二十一年九月千葉縣令第百二十號營業人力車取締規則ハ
 本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●人力車營業賃錢額標準ニ關スル

(大正八年八月 保第六七一號)

大正七年十二月五日附保第七二四八號通牒ノ人力車營業賃錢額標準左記ノ
 通變更致候條爾後該營業ノ賃錢認可ハ其ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲ス義ト心得
 ラルヘク此段及通牒候也

一里ノ賃錢額	普通	三十七錢以内
晝間	普通	四十五錢以内
同 雨雪泥濘強風ノ時	普通	四十錢以内
夜間	普通	五十五錢以内
同 雨雪泥濘強風ノ時	普通	五十錢以内

但シ難路ニ在リテハ六貨錢ノ二割以内ヲ増スコトヲ得
一里未滿ノ端數ハ本貨錢額ノ割合ニ依リ計算スルモノトス
市街地内又ハ停車場汽船發着場等ト市街地トヲ往復スルモノ一里未滿ノ貨錢額

- 十町未滿 普通 二十錢以内
- 同 雨雪泥濘強風ノ時 二十五錢以内
- 十町以上 普通 二十五錢以内
- 同 雨雪泥濘強風ノ時 三十錢以内
- 往復ノ場合ニ於テハ復路ハ本貨錢額ノ二割引トス
- 客待ハ一時間以内ニ付晝間十五錢以内夜間ハ二十錢以内トス
- 雇上ノ場合ニ於テハ半日(四時間)一圓以内一日(八時間)二圓以内トシ一時間ヲ増ス毎ニ二十五錢以内ヲ増ス但シ雨雪泥濘強風ノトキハ二割以内ヲ増スコトヲ得
- 署名ノ社寺名勝地等ニ到ル貨錢額ハ豫メ之ヲ定メ置クコト
- 二人輓以上ノ場合ニ於テハ一人輓ノ貨錢額ヲ合算シ其ノ以内ニ於テ之ヲ定ムルコト

●人力車營業取締ニ關スル件

(明治四十三年八月 保第六七八九號)

今回人力車營業取締規則改正相成候處右施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ取扱相成度候

- 一 現行規則ハ人力車營業者ト輓子トヲ區別シタリト雖モ改正規則ハ之カ區別ヲ廢シ總テ人力車營業者ト稱シ之ニ同一ノ許可ヲ與ヘ輓子鑑札ノ交付ヲ廢シタリ
- 二 現行規則ハ人力車營業者ニ對シ車體檢査證ヲ交付シタリト雖モ改正規則ハ之カ交付ヲ廢シ單ニ許可書ヲ與フルニ止メ車體檢込ノ見易キ箇所

輪畫ハ隨意トス

何 一 二

何 三 四

- 六 改正規則第二十七條第一項ニ所謂輕侮ニ涉ル言語形容其ノ他ノ作爲ニ關シテハ刑法第二百三十一條ノ所罰ヲ受クルモノアルヘシ而シテ同條ハ親告罪ナルヲ以テ改正規則第二十七條第一項ニ罰條ヲ設ケタルハ彼此權衡ヲ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ本則ニ關シテハ別ニ罰條ヲ設ケザリシモノニ付刑法其ノ他ノ法令ニ該ルモノハ之ニ依テ所罰ヲ加ヘ然ラザルモノハ行政處分ニ依リ相當ノ制裁ヲ加フルコトヲ要ス
- 七 改正規則第二十六條ハ警察犯處罰令第二條第五號ニ依リ處罰スルコトヲ得ルヲ以テ之ニ罰條ヲ設ケザリシモノニ付本則ノ違反者ニ對シテハ處罰令ニ依リ處分ヲ加フルコトヲ要ス
- 八 改正規則第三十五條ハ傳染病豫防法ノ規定ニ依リ處罰スルコトヲ得ルヲ以テ罰條ヲ設ケザリシモノニ付本則ノ違反者ニ對シテハ豫防法ノ規定ヲ適用スルコトヲ要ス
- 九 改正規則第三十九條ノ違反ニ對シテハ警察犯處罰令第二條第十三號ニ罰條ノ設ケアリ改正規則第四十條ノ違反者ニ對シテハ處罰令第二條第十五號ニ罰條ノ設ケアリ又改正規則第四十一條乃至第四十四條ノ違反者ニ對シテハ處罰令第二條第十二號ニ罰條アルヲ以テ之カ罰條ヲ設ケザリシモノニ付右條項ノ違反者ニ關シテハ處罰令ニ依リ處分スルコトヲ要ス

●人力車營業取締ニ關スル件

(明治四十三年九月 保第七一五九號)

ニ組名及許可證ノ番號並ニ住所氏名ヲ明記シタル木札ヲ附セシムルコトトセリ就テハ該木札ハ左ノ様式ニ依リ記載セシムルコトヲ要ス
從來ノ車體檢査證大

何 組 第 何 號
何 郡 何 町 大 字 何 番 地
何 某

- 三 人力車ノ檢査ヲ爲シタルトキハ號込ノ内部ニ許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺セサルヘカラス就テハ改正規則ノ施行期マテニ〇 二三四五六七八九ノ數字ノ烙印ヲ調製シ一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇等ノ番號ヲ號込ノ内部ニ捺捺シ若シ營業者ニシテ二以上ノ人力車ヲ有スル者ニ對シテハ一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇等ノ符號ヲ捺捺スルコトヲ要ス
- 四 膝掛又ハ細長提灯ニハ組名及許可書ノ番號ヲ附セサルヘカラス就テハ左ノ様式ニ依リ記載セシムルコトヲ要ス但シ膝掛ニ對シテハ其ノ一端ニ白布ヲ附シ記載セシムヘシ

何 組 第 何 號
何 某

- 五 人力車營業者ノ服裝ハ改正規則第七號ニ於テ之カ制限ヲ設ケ著衣ハ無地ノ物ヲ用ヒシメ其ノ背部ニハ左ノ様式ニ依リ組名ノ頭字及許可書ノ番號ヲ表ハシ半股引ヲ用ユルモノハ必ス膝ノ上部ニ迄達スルモノヲ用ヒシムルコトヲ要ス

〔千葉警〕

改正人力車營業取締規則施行ニ關シテハ客月二十二日保第六七八九號ヲ以テ及通牒置候處人力車及其ノ附屬品並ニ服裝ニ附スヘキ營業許可書ノ番號ハ左記各號ニ依リ御取扱相成度候

- 一 規則第一條ニ於ケル人力車營業者ノ種別ヲ舉ケレハ左ノ如シ
 - イ 自己所有ノ人力車ヲ輓ク者
 - ロ 貸人力車ヲ輓ク者
 - ハ 自ラ人力車ヲ輓カス他人ヲシテ之ヲ輓カシムル者(戶主)
 - ニ 他ノ人力車營業者ノ車ヲ輓ク者(雇人又ハ雇人ニ非サルモ他ノ人力車營業者ノ車ヲ輓ク者)
- 二 前號ノイロハニ屬スル者ハ何レモ單獨ニ人力車ヲ所持シ居ル者ナルヲ以テ車體、膝掛、細長提灯及號込ニ付スヘキ木札並ニ上衣ノ背部ニ表スヘキ營業許可書ノ番號ハ總テ一致スヘキモノトス
- 三 之ニ反シテ第一號ノ二ニ屬スル者ハ單獨ニ人力車ヲ所持スルモノニ非ラス他ノ人力車營業者ノ烙印ヲ受ケタル人力車及番號ヲ附シタル膝掛、細長提灯並ニ號込ニ付スヘキ木札等ヲ使用スル者ナルカ故ニ隨テ自己ノ輓クヘキ車體及其ノ附屬品ニハ自己ノ營業許可書ノ番號ヲ附スルコトヲ要セス單ニ上衣ノ背部ニ之ヲ表ハスヲ以テ足レリトス

●人力車賃錢額揭示ニ關スル件

(明治四十四年一月 保第二四四號)

汽車停車場又ハ汽船發着場等公衆ノ見易ク且風致ヲ害セス交通ノ妨害トナラサル場所(例ヘハ停車場ニ在リテハ出口ヨリ見易ク人力)ニ人力車賃錢額ヲ揭示スルヘカ取締上ノ周到ナリ得ルハ勿論交通上ノ便益トモ相成候ニ付左記各號ニ依リ揭示札ヲ建設候様御取扱相成度候

(假リニ千葉停車場ヨリノモノヲ掲ク)

人力車賃額

- 此處ヨリノ人力車賃額左ノ如シ
- 一千葉縣廳迄 何 錢
- 二大和橋迄 何 錢
- 三何何 此ノ處ニハ認可シタル人力車賃額ヲ記載スルモノトス

高サ適宜

右賃額以外ノ賃額ヲ請求シタル人力車賃業者アリタルトキハ其ノ背部ノ番號ヲ記憶シ置キ其ノ旨口頭又ハ信書ニテ當署若ハ巡查派出所、巡査駐在所又ハ巡行ノ巡査ニ申告セラルヘシ

此ノ揭示ヲ汚濁シ若ハ撤去シタル者ハ警察犯處罰令ニ依リ處分ス

明治四十四年 月 日

何 警察(分)署

- 二 揭示ハ見易カラシムル爲木板ノ地ノ白ペンキ塗ト爲シ文字ハ黒ペンキニテ楷書體ニ之ヲ記載スルコト
- 三 揭示ハ左ノ例ニ準シ記載スルコト

此ノ處ヨリノ人力車賃額左ノ如シ

- 一 千葉縣廳迄 何 錢
- 二 千葉地方裁判所迄 何 錢

● 乗合馬車營業取締規則

(明治四十三年十月) 縣令第百號

(沿革) 大正七年六月縣令第三〇號改正

- 第一條 本則ニ於テ乗合馬車營業ト稱スルハ乗合馬車ヲ以テ客又ハ貨物ノ運搬ヲ業トスルモノヲ謂フ
 - 第二條 乗合馬車營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第二號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 - 一 住所、身分、氏名及生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款
 - 二 營業線路
 - 三 發着場、駐車場ノ地名及其ノ發着時刻
 - 四 乗合馬車及馬匹ノ員數
 - 五 乘客及貨物ノ賃額
- 前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ乗合馬車及其ノ附屬品、馬匹並ニ馱者ノ服裝ノ検査ヲ受クヘシ
- 警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ第四條又ハ第五條ニ牴觸セスト認メタルキハ乗合馬車ノ後方内部及馬匹ノ前左蹄ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ乗合馬車ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ
- 第三條 前條營業ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
 - 第四條 乗合馬車及其ノ附屬品ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ
 - 一 車體ハ定員六人乗馬匹一頭輓ト爲スコト
 - 二 車體ハ堅固ニ構造シ黒無地漆塗ト爲スコト但シ止ムコトヲ得サル事

● 人力車用音響器設備ニ關スル件

(明治四十四年四月) 保第三九七號

- 三 千葉縣廳迄 何 錢
 - 四 縣立千葉病院迄 何 錢
 - 五 交通兵旅團迄 何 錢
 - 六 大和橋迄 何 錢
 - 七 寒川長洲鐵道踏切迄 何 錢
 - 八 寒川舊監獄跡迄 何 錢
 - 九 寒川五田保迄 何 錢
 - 十 登戸迄 何 錢
 - 十一 千葉寺迄 何 錢
- 四 揭示札ニハ停車場又ハ汽船發着場等ノ所在地ニ於ケル人力車賃額ヲ記載シ其以前一般ノ賃額ハ雜形ノ如ク後ニ記載スルコト

從來人力車營業者ハ就業中道路ニ於ケル避讓合圖ノ爲自己ノ音聲ヲ以テ通俗ニ所謂掛聲ヲ爲シ來リ候處右ハ甚タ不體裁ニ付自轉車用音響器(一名ベル之ハ鈴)ヲ轆木ニ附著セシメ之ヲ鳴ラシ合圖ヲ爲サシムルハ極メテ有利ニシテ而モ掛聲ニ比シ效果有之候尤モ多クノ該營業者中ニハ一時ノ出金ハ或ハ其ノ負擔ニ苦シム者アラムモ多數共同シテ購入セムカ一箇購入スルニ比シ廉價ナルヲ以テ單獨購入ヲ爲シ得サル者ニ對シテハ組合等ニ於テ一時立替購入ヲ爲シテ之ヲ配布シ日掛月賦其ノ他適當ノ方法ニ依リ徵收セハ取テ難キニ非スシテ不知不識營業上ノ附屬品ヲ設備スルニ至ルノミナラス延テハ危險豫防上ノ效果有之候條今期ノ定期検査等ヲ利用シ之ガ設備ヲ爲サシムル様御取扱相成度而シテ其ノ狀況ハ報告有之度候 (終リ)

[千葉縣]

- 由アルモノハ黒無地ワニス塗ト爲スコトヲ妨ケス
 - 三 屋根ハ亜鉛板等ヲ以テ葺キ黒無地塗ト爲シ屋根裏ハ絨布又ハ板ヲ以テ張ルコト
 - 四 車輪ハ四輪以上ト爲シ適當ナル駐車器及泥除ヲ備フルコト
 - 五 車輪ノ齒幅ハ一寸以上ト爲スコト
 - 六 腰掛ハ高サ一尺二寸以上、一人ノ座席廣一尺三寸以上、縱一尺以上ト爲シ、腰掛相互ノ距離ハ一尺三寸以上、腰掛ト屋根トノ距離ハ三尺四寸以上ト爲スコト
 - 七 腰掛ニハ螺旋形ノ發條十八箇以上ヲ附シ天驚絨又ハコウルテン等ノ蒲團ヲ用キ白布ニテ之ヲ覆フコト
 - 八 腰掛ノ上部ニハ天驚絨又ハユウルテル等ノ中張ヲ附シ白布ニテ之ヲ覆フコト
 - 九 乗降口ノ踏臺ハ横一尺以上縱八寸以上厚サ八分以上ノ堅固ナル板ヲ用ユルコト
 - 十 適當ナル布ノ日覆及護膜製又ハ桐油製等ノ雨覆ヲ備フルコト
 - 十一 手荷物用ノ雨覆及網ヲ備フルコト
 - 十二 車體ニハ合圖用ノ喇叭ヲ備フルコト
 - 十三 車體ノ前面兩側ニ白色ノ硝子燈ヲ備フルコト
 - 十四 擔彈機ハ堅牢強靱ニシテ彈力ノ強キモノヲ用ユルコト
 - 十五 運轉器、心棒、力革、手綱、止轆、頸緒等ハ堅牢強靱ノモノヲ用ユルコト
 - 十六 馬具ハ堅牢ニシテ不體裁ナラサルモノヲ用ユルコト
 - 十七 馬匹ニハ革製ノ目隠ヲ附スルコト
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ乗合馬車ノ馬匹ニ使用スルコトヲ得ス
- 一 一年齡四歲未滿ノモノ

- 二 身幹四尺五寸未滿ノモノ
 - 三 去勢セサルモノ
 - 四 惡癖又ハ驚逸ノ虞アルモノ
 - 五 羸瘦ノ甚シキモノ
 - 六 視力ニ差支アルモノ
 - 七 胸圍狭小、腰附著不良ノモノ
 - 八 四肢諸關節弛緩ノ甚シキモノ
 - 九 屈腿短縮運動ニ差支アルモノ
 - 十 交突、追突、進歩甚シク矯正ノ見込ナキモノ
 - 十一 前各號ノ外運動ニ堪ヘサルモノ
- 第六條** 乗合馬車營業者ハ乗合馬車ノ内部見易キ箇所ニ營業許可書ノ番號
(同一番號アルモノ)及住所、氏名ヲ明記シタル木札ヲ附スヘシ
(其ノ符號ヲ含ム)
- 第七條** 乗合馬車營業者ハ乗合馬車ノ運轉ニ取者ヲ缺クコトヲ得ス
乗合馬車營業者ハ自ら取者トナリ又ハ他ノ取者ヲ使用セムトスルトキハ
其ノ住所、氏名、生年月日ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ乗合馬車ノ取者ヲ爲スコトヲ得ス
- 一 猥褻、姦淫、略取、誘拐、強盜ノ罪ニ依リ處刑セラレタル者
 - 二 酒癖又ハ粗暴ノ行爲アル者
 - 三 身體強壯ナラサル者
 - 四 取術ニ熟練セサル者
 - 五 十八歳ニ滿タサル者又ハ滿六十歳以上ノ者
- 第九條** 乗合馬車ノ取者ハ就業中左ニ掲クル服裝ヲ爲スヘシ
- 一 洋服又ハ無地筒袖ノ上衣及股引ヲ著スルコト
 - 二 大黒帽子ヲ冠スルコト
 - 三 靴又ハ足袋、草履ヲ用ユルコト
 - 四 雨雪其ノ他ノ場合ニハ絨製又ハ護謨製、桐油製ノ外套其ノ他ノ雨具

- 一 乗合馬車營業者ハ發着場ニ厩舎ヲ設クヘシ
- 二 乗合馬車營業者ニシテ前項ノ厩舎ヲ設ケムトスルトキハ其ノ場所及構造
方法ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同
シ
- 三 乗合馬車營業者ハ前項ニ依リ駐車場ニ厩舎ヲ設クルコトヲ得
乗合馬車營業者ハ前二項ノ厩舎ノ工事ヲ竣リタルトキハ使用前所轄警察
官署ニ届出テ之ヲ検査ヲ受クヘシ
- 四 厩舎内ハ馬匹一頭毎ニ適當ナル區劃ヲ設クルコト
- 五 地盤ハ石、煉瓦、敲、厚板等ヲ以テ敷設シ適當ノ勾配ヲ附シ且汚水
溝、汚水溜ヲ設クルコト
- 六 汚水溝、汚水溜ハ石、陶磁器其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ且臭氣
ノ發散セサル様適當ナル覆蓋ヲ設クルコト
- 七 汚物溜ノ地盤ハ石、煉瓦其ノ他不滲透質物ヲ以テ築造シ其ノ周圍ハ
石、煉瓦、敲等ヲ以テ高サ三尺ノ腰張ヲ爲シ雨水ノ浸入ヲ防クヘキ
設備ヲ爲スコト
- 八 乗合馬車營業者ハ發着場、駐車場及乗合馬車ノ内部見易キ箇所
ニ賃錢表並ニ發着時刻表ヲ掲示スヘシ
- 九 賃錢表並ニ發着時刻表ヲ掲示スヘシ
- 十 乗合馬車營業者ハ乗合馬車又ハ其ノ附屬品ヲ製造、改造シ若ハ
買受ケ、讓受ケタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
馬匹ヲ買受ケ、讓受ケ又ハ交換シタルトキ亦同シ但シ第四條第七號、第
八號ノ白布及第十二號ノ喇叭ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
- 十一 警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ第四條又ハ第五條ニ抵觸セスト認メタル
キハ乗合馬車ノ後方内部若ハ馬匹ノ前左蹄ニ其ノ營業許可書ニ記載シタ
ル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ乗合馬車ヲ有ス
ル者ハ之ヲ捺捺スルコトヲ得ス

- 場合ニ於テハ該番號ノ外一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ
- 第十四條** 乗合馬車營業者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官
署ニ届出ツヘシ
- 一 廢業
 - 二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ事務
所在地若ハ代表者氏名ノ變更
 - 三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更
 - 四 發着場、駐車場又ハ其ノ發着時刻ノ變更
 - 五 發着場又ハ駐車場ニ於ケル厩舎ノ廢止
 - 六 駐車場ノ廢止
 - 七 乗合馬車又ハ馬匹使用ノ廢止若ハ之カ賣渡、讓渡
 - 八 取者ノ解雇又ハ死亡、所在不明但シ其ノ日時及住所氏名ヲ具スヘシ
乗合馬車營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第百二十六
條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
 - 九 乗合馬車營業者ハ第二條第一項第二號ノ線路以外ニ於テ臨時營
業ヲ爲サムトスルトキハ發着前所轄警察官署又ハ巡查駐在所、巡查派出
所ニ之ヲ届出ツヘシ
 - 十 乗合馬車營業者又ハ取者ハ營業上乗客ニ對シテ丁寧親切ヲ旨トシ
其ノ乗降ノ際ハ懇切ニ取扱フヘシ
 - 十一 乗合馬車營業者又ハ取者ハ乗客ニシテ急病ニ罹リタル者アルト
キハ特ニ懇切ニ取扱フヘシ
 - 十二 乗合馬車營業者又ハ取者ハ乗客ニシテ降車スルトキハ遺留品ノ
有無ニ注意スヘシ
 - 十三 乗合馬車營業者又ハ取者ハ乗客中死傷其ノ他異變アリタルトハ
直ニ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ
 - 十四 乗合馬車營業者又ハ取者ハ何等ノ名義ヲ以テテスル拘ラス乗客

- 一 對シ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル賃錢額以外ノ金品ヲ請求スルコト
ヲ得ス
- 二 乗客ノ手荷物ハ一人ニ付三貫目迄ハ賃錢ヲ請求スルコトヲ得ス
- 三 乗客ノ手荷物ハ一人ニ付三貫目迄ハ賃錢ヲ請求スルコトヲ得ス
- 四 食店等ヲ紹介勸誘スルコトヲ得ス
- 五 乗合馬車營業者又ハ取者ハ他ノ乗合馬車營業者若ハ取者ノ業
務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲スコトヲ得ス
- 六 乗合馬車營業者又ハ取者ハ馬匹ニ對シ苛酷ノ取扱ヲ爲スコト
ヲ得ス
- 七 乗合馬車營業者又ハ取者ハ馬匹ニ對シ雨雪ノトキハ護謨製若
ハ桐油製ノ雨覆ヲ用キ炎天ノトキハ白布ノ日覆ヲ用ユヘシ
- 八 乗合馬車營業者又ハ取者ハ公衆若ハ乗客ニ對シ粗暴、輕侮ニ
涉ル言語、形容其ノ他ノ作爲ヲ爲スコトヲ得ス
- 九 乗合馬車營業者又ハ取者ハ乗客中粗暴、鄙猥其ノ他ノ作爲ヲ
爲シ他ノ乗客ニ迷惑ヲ及ボス者アルトキハ之ニ對シ其ノ停止ヲ注意スヘ
シ
- 十 取者ハ乗客ニ於テ著席シ又ハ降車シ終リタル後ニ非サレハ發
車スルコトヲ得ス
- 十一 取者ハ就業中濫ニ乗合馬車ヲ離ルルコトヲ得ス
- 十二 取者ハ濫ニ自己ノ業務ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス
- 十三 取者ハ發着前乗合馬車及其附屬品並ニ馬匹等ニ異狀ナキヤ否ヤ
ヲ注意スヘシ其ノ行車中ニ在リテモ亦同シ
- 十四 取者ハ就業中體裁ノ扮裝ヲ爲スコトヲ得ス
- 十五 取者ハ就業中酒食又ハ喫煙スルコトヲ得ス
- 十六 乗合馬車營業者又ハ取者ハ通行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸ムルコ
トヲ得ス
- 十七 乗合馬車營業者又ハ取者ハ三人以上若ハ雇切りノ乗客アルト

キハ正當ノ事由ナクシテ發車ヲ遲滞シ又ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第三十五條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ乘客ノ承諾ヲ得シテ途中ニ於テ降車セシメ若ハ他車ニ乗セ替ヘ又ハ停車スルコトヲ得ス
第三十六條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ故ナク客ノ乗降ヲ拒ミ若ハ貨物ノ積ミ下ロシナ拒ムコトヲ得ス
第三十七條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ乘客定員ヲ超過シテ客ヲ乗車セシムルコトヲ得ス
 十歳ニ滿タサル者ニ在リテハ二人ヲ以テ乘客定員一人ト看做シ三歳ニ滿タサル者ハ定員以外トス
 乗載貨物ノ重量ハ百貫目ヲ超ユルコトヲ得ス但シ乘客ト貨物ヲ共載スル場合ニ於テハ乘客一人ニ對スル重量ハ十四貫目ニ計算シ其ノ割合ニ應ジ兩者ヲ通シテ重量百貫目迄之ヲ乘載スルコトヲ得
第三十八條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ客座以外ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ積載スルコトヲ得ス
第三十九條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ左ニ掲グルモノヲ乗車セシムルコトヲ得ス
 一 傳染病豫防法第一條ニ掲グル傳染病患者又ハ同法第二條ニ掲グル傳染病疑似症患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲グル病獸
 二 癩患者、監護人ナキ精神病者又ハ亂醉者
 三 屍體又ハ危險ナル獸類
 四 惡臭ヲ發シ又ハ他物ヲ汚濁スル虞アル者
 五 車外ニ突出シ交通ノ妨害トナルヘキ虞アル物
第四十條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ乘客ニシテ前條第一號ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキハ速ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ乗合馬車及其ノ附屬品等ニ對シ速ニ消毒法ヲ行フヘシ

第四十一條 乗合馬車營業者ハ發着場駐車場及厩舎ヲ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ
第四十二條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ乗合馬車及其ノ附屬品竝ニ馬匹ヲ常ニ清潔ニスヘシ
第四十三條 馭者ハ服裝ヲ常ニ清潔ニスヘシ
第四十四條、第四十五條 (削除)
第四十六條 馭者ハ客引ノ徑濫ニ道路ニ佇立シ又ハ彷徨スルコトヲ得ス
第四十七條乃至第五十二條 (削除)
第五十三條 乗合馬車營業者又ハ馭者ハ毎年四月及十月警察官署ノ指定シタル日時場所ニ於テ乗合馬車及其ノ附屬品竝ニ馬匹服裝ノ検査ヲ受クヘシ
第五十四條 警察官署ハ乗合馬車又ハ其ノ附屬品ノ検査ヲ爲シ第四條ノ制限ニ適合セスト認メタルトキハ之ヲ設備若ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ
第五十五條 警察官署ハ乗合馬車ノ馬匹ノ検査ヲ爲シ第五條ニ該當スルモノト認メタルトキハ之ヲ使用ノ廢止又ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ
第五十六條 警察官署ハ發着場又ハ駐車場ニ於ケル厩舎ノ検査ヲ爲シ第十條ノ制限ニ適合セスト認メタルトキハ之ヲ設備若ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ
第五十七條 警察官署ハ乗合馬車營業者ニシテ本則ニ違反シ公安、風俗ヲ害シ又ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ若ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
第五十八條 警察官署ハ馭者ニシテ本則ニ違反シ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキハ乗合馬車營業者ニ對シ第七條第二項ノ許可ヲ取消シ又ハ馭者ノ業務ヲ停止スルコトアルヘシ
第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿 拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

一 第二條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 二 第二條第二項、第十三條第一項、第五十三條ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル乗合馬車若ハ其ノ附屬品、馬匹、服裝ヲ使用シテ營業ヲ爲シタル者
 三 第七條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ自ラ馭者トナリ又ハ同條ノ許可ヲ受ケサル馭者ヲ使用シタル者
 四 第九條、第二十條、第二十一條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十五條乃至第三十七條、第三十九條、第四十四條、第四十五條ニ違反シタル者
 五 第五十四條ノ乗合馬車又ハ其ノ附屬品ノ検査ヲ拒ミ若ハ之ヲ設備、修繕ノ命令ニ從ハサル者
 六 第五十五條ノ馬匹ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ使用ノ廢止、停止ノ命令ニ從ハサル者
 七 第五十六條ノ厩舎ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ設備、修繕ノ命令ニ從ハサル者
 八 第五十七條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
 九 第五十八條ノ停止中業務ヲ爲シタル者
第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス
 一 第十條第一項ノ厩舎ヲ設ケス又ハ同條第二項ノ認可ヲ受ケサル者
 二 第十條第四項ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル厩舎ヲ使用シタル者
 三 第二十四條、第三十八條、第四十二條、第四十三條ニ違反シタル者
第六十一條 第六條、第十二條、第十九條、第二十七條、第三十二條、第三十四條、第四十六條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第六十二條 第十四條、第十五條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
第六十三條 乗合馬車營業者カ十四歳未滿ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ前條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
 乗合馬車營業者カ法人ナルトキハ前項ノ刑ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス
第六十四條 乗合馬車營業者ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人等馭者以外ノ者ニシテ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カサルコトヲ得ス
第六十五條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
 附則
第六十六條 從前ノ乗合馬車營業者ニシテ本則施行後引續キ乗合馬車營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一項、第三條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
第六十七條 前條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前検査ヲ受ケタル乗合馬車又ハ其ノ附屬品若ハ馬匹ヲ本則施行後襲用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ車體又ハ馬蹄ニ烙印ヲ受クヘシ
 前項ノ烙印ニ關シテハ第二條第三項ノ規定ヲ準用ス
 第一項ノ乗合馬車又ハ其ノ附屬品若ハ馬匹ニシテ第四條又ハ第五條ニ適合セサルモノト雖明治四十五年三月三十一日迄之ヲ使用スルコトヲ得
第六十八條 前條第三項ニ該當スル馬匹ニシテ第五條第三號ニ該當スルモノハ乗合馬車ノ運轉ニ馬丁ヲ缺クコトヲ得ス
 馬丁ノ資格及服裝ニ關シテハ第八條第一項第一號乃至第三號、第五號及

第九號ノ規定ヲ準用ス但シ草鞋ヲ用ユルコトヲ妨ケス

第六十九條 第六十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ハ該届出ノ日ヨリ十日以内ニ第六條ノ木札ヲ附スヘシ

第七十條 第六十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ從前ノ馭者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ馭者ノ住所ノ氏名、生年月日ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第七十一條 從前ノ馭者ハ第七條第二項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ第七條第二項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第七十二條 從前ノ馭者ニシテ滿六十歳以上ノ者ト雖第七十條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ本則施行後滿三年間馭者ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 從前ノ馭者ニシテ第七十條ノ届出ヲ爲シタル者本則施行ノ際滿五十八歳以上六十歳未滿ナルトキハ本則施行後尙滿三箇年間ハ馭者ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 從前ノ馭者、馬丁ノ服裝ニシテ第九條ニ適合セサルモノト雖明治四十四年三月三十一日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得

第七十五條 第六十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ニシテ本則施行前ニ於ケル發着場又ハ駐車場ノ既合ヲ本則施行後襲用スル場合ニ於テハ該届出ノ日ヨリ三十日以内ニ第十條第二項ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第七十六條 第六十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル者ハ該届出ノ日ヨリ二十日以内ニ第十二條ノ揭示ヲ爲スヘシ

第七十七條 明治二十一年九月千葉縣令第百十八號乗合馬車營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

●乗合馬車營業賃錢額標準ニ關スル件

(大正八年九月) (保第七五四號)

大正七年三月保第一八六六號通牒ノ乗合馬車營業賃錢額標準左記ノ通り變更致候條爾後該營業賃錢認可ハ其ノ範圍内ニテ之ヲ爲ス義ト心得ラルヘク此段及通牒候也

一 乘客一人一里ノ賃錢額

普通 十五錢以内

雨雪泥濘強風ノ時 十八錢以内

夜間 普通 十八錢以内

雨雪泥濘強風ノ時 二十錢以内

所轄警察官署ニ於テ特ニ難路ト認メタル場所ハ一里ニ付五錢以内ヲ增加スルコトヲ得

二十二歳未滿ノ小兒ハ右賃錢額ノ半額トス

三 乘客携帶ノ荷物ニシテ容積一尺五寸立方以上ノモノ又ハ重量三貫匁以上ノモノハ一個一里ニ付金五錢以内トス

以上一尺立方又ハ一貫匁ヲ増ス毎金一錢ヲ増スコトヲ得

四 一里未滿ノ端數ハ本賃錢額ノ割ニ依リ計算スルモノトス

●乗合馬車營業取締ニ關スル件

(明治四十三年十月) (保第七九六九號)

今回乗合馬車營業取締規則改正相成候處之カ施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成候條

(千葉縣)

一 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ從來單ニ警察官署ノ許可ヲ受ケルノミニ止マリシカ改正規則ハ其第二條ニ於テ出願ノ際具スヘキ事項ヲ列記シ而シテ該事項中ニハ營業線路ヲモ記載スルカ故ニ本則施行ノ曉ニハ營業願書ニ記載シタル線路以外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得スト云ハサルヘカラス故ニ若時該線路以外ニ行車セムトスルトキハ規則第十

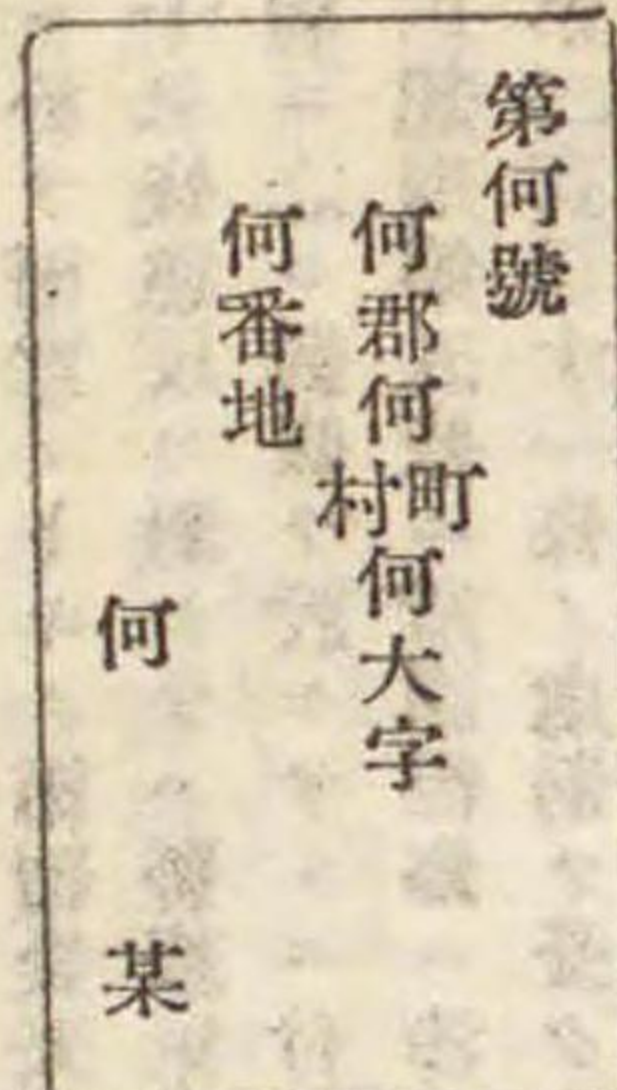
五條ニ依リ警察官署又ハ巡査駐在所派出所ニ届出ツルコトヲ要スルカ故ニ右ニ依リ之ヲ取締ヲ爲スコトヲ要ス

二 從來乗合馬車及馬匹ニ對シテハ検査證ヲ交付シ馭者馬丁ニ對シテハ鑑札ヲ交付シタリト雖改正規則ハ右ノ検査證及鑑札ヲ廢シ乗合馬車ニ對シテハ其ノ後方内部ニ馬匹ニ對シテハ其ノ前左蹄ニ各許可書ノ番號ヲ記シタル烙印ヲ捺捺スルコトヲセリ

三 許可書ノ番號ハ總テ臺帳番號ヲ記シタル烙印ヲ捺捺スルコトヲセリ

四 就テハ該番號ノ烙印ニ用ユヘキ數字ハ營業人力車ニ附シタルモノヲ用キ之ヲ捺捺ノ方法モ亦人力車ト同一ニ取扱フコトヲ要ス

五 乗合馬車ノ内部見易キ箇所ニハ改正規則第六條ニ依リ營業許可書ノ番號及住所氏名ヲ明記セル木札ヲ附セサルヘカラス就テハ此ノ木札ハ從來ノ車體検査證ノ大サトナシ左ノ様式ニ依リ記載スルコトヲ要ス



四 乗合馬車ノ構造及附屬品並ニ馬匹ニ對シテハ從來殆ト放任ニ失シタルヤノ觀ナキ能ハス故ニ車體ニハ六人乗アリ八人乗アリ又ハ十人乗十二人乗等アリテ馬匹モ亦一頭輓二頭輓等ノ區別アリ而シテ營業ノ多クハ

- 九 條ヲ設ケサリシモノニ付右ニ依リ處分ヲ加フルコトヲ要ス
 乘合馬車營業者又ハ馭者カ馬匹ニ對シ苛酷ノ取扱ヲ爲スハ往々目撃スル處ナリ故ニ改正規則第二十三條ニ於テ之カ規定ヲ設ケ又同第二十四條ニ於テ雨雪ノトキハ雨覆炎天ノトキハ日覆ヲ用ユルコトトセリ最第二十三條違反ニ對シテハ警察犯處罰令第三條第十四號ニ罰條アルヲ以テ別ニ之ニ罰條ヲ設ケサルニ付嚴重取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十 改正規則第五條ニ所謂輕侮ニ涉ル言語形容其ノ他ノ作爲ニ關シテハ刑法第二百三十一條ノ處罰ヲ受クルモノアルヘシ而シテ同條ハ親告罪ナルヲ以テ改正規則第二十五條ニ罰條ヲ設ケルハ彼此權衡ヲ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ之ニ罰條ヲ附セザリシモノニ付刑法其ノ他ノ法令ニ該ルモノハ之ニ依テ處罰ヲ加ヘ否ラサルモノハ行政上相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
- 十一 改正規則第四十條ハ傳染病預防法ノ規定ニ依リ處罰スルコトヲ得ル方故ニ別ニ之ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ付違反者ニ對シテハ同法ニ依リ處分スルコトヲ要ス
- 十二 改正規則第四十一條ノ違反者ハ汚物掃除法ヲ適用スル場所ニ在リテハ同法及施行命令ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘタ其ノ他ノ場所ニ在リテハ説諭并ニ及フモ尙其ノ命ニ從ハサルトキハ營業禁止ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ之ニ罰條ヲ設ケサリシモノニ付處罰上課ナキヲ要ス
- 十三 乘合馬車營業者又ハ馭者ハ動モスレハ他ノ營業者ト競争シ其ノ他濫ニ疾驅スル等ヨリ往往轉覆等ノ危險ヲ招クコト尠カラズ改正規則第十四條及第四十五條ハ之カ避讓及行車ニ關スル制限ヲ設ケタルカ故ニ之ヲ勵行スルハ勿論特ニ危險ノ箇所ヲ行車スルトキハ轉覆等ノ虞ナキニ注意ヲ爲サシメ若轉覆セシメタル者ニ對シテハ營業又ハ馭者ノ業務ヲ禁止ナラシムル該條ノ取締ヲ勵行スルコトヲ要ス

● 乘合馬車營業免許ニ關スル件

(大正九年五月 保第二五七號)

- 十四 乘合馬車ハ從來ト雖車體ノ前面ニ硝子燈ヲ備フヘキ管ナルニ營業中之ニ違反シ提灯ヲ備フルモノアリシカ如シ今後之等ノ違反行爲ナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十五 改正規則第四十七條ノ違反ニ付テハ警察犯處罰令第二條第十三號ニ罰條アリ又改正規則第四十八條ノ違反ニ付テハ處罰令第二條第十五號ニ罰條アリ又改正規則第四十九條乃至第五十二條ノ違反ニ付テハ處罰令第二條第十二號ニ罰條アルヲ以テ之カ罰條ヲ設ケサリシモノニ付處罰上課ナキヲ要ス
- 十六 從前ノ營業者ニシテ改正規則第四條又ハ第五條ニ違反スル車體馬匹ヲ繼續使用スルモノニ在リテハ明治四十五年三月三十一日迄ハ延期ヲ爲シアルヲ以テ之等ノ者ニ對シテハ出來得ル速ニ改正規則ニ依リ設備スル様諭示セラレヘク又去勢セサル馬匹ヲ繼續使用スル營業者ニ對シテハ依然馬丁ヲ附セシムル管ニ付行違ナキ様取締ヲ爲スコトヲ要ス
- 十七 從前ヨリ繼續スル乘合馬車ニシテ改正規則第四條ニ違反スルモノト雖前號ノ如ク明治四十五年三月三十一日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得レトモ日覆及雨覆ニ限リテ往々不體裁ノモノ多キカ故ニ右期限迄猶豫スルナリ此ノ際速ニ同條第十號ニ依リ設備ヲ爲サシムル様取締ヲナスコトヲ要ス

● 荷車取締規則

(大正元年九月 縣令第九十號)

- 一 第一條 本則ニ於テ荷車ト稱スルハ貨物運搬ノ用ニ供スル牛車、馬車(軌道ニ依ルモノヲ除ク)其ノ他諸車(自働車ヲ除ク)ヲ謂フ
- 第二條 荷車所有者ハ其ノ住所、氏名ヲ木札ニ明記シ車體ノ右側見易キ個所ニ釘付スヘシ
- 第三條 車輪ノ齒幅ハ左ノ制限ニ從ヒ扁平ニ構造スヘシ其ノ改造若ハ大修繕ノ場合亦同シ
 - 一 牛 車 四寸以上
 - 二 馬 車 二輪車三寸以上
四輪車二寸五分以上
 - 三 前各號以外ノ荷車(荷臺十四平方尺)一寸以上
- 第四條 積載重量ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ分割スヘカラサル物件ニシテ第八條ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 牛馬車 三百貫以內
 - 二 前號以外ノ荷車(荷臺十四平方尺)百貫以內
- 第五條 積荷ノ容積ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ竹木其ノ他分割スヘカラサル物件又ハ藁秣等輕キモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 高サ荷臺ヨリ六尺以內

- 二 前後ノ出幅荷臺ヨリ各一尺以內
- 三 左右ノ出幅荷臺ヨリ各一尺以內
- 第六條、第七條 (削除)
- 第八條 第四條但書ノ物件ヲ運搬セムトスルトキハ其ノ物件ノ種類、重量、寸法及通過路線並運搬日時等ヲ具シ發送地所轄警察官署又ハ巡查部長派出所若ハ巡查駐在所ノ認可ヲ受ケ車上見易キ個所ニ其ノ旨ヲ標記スヘシ兩輪以上ノ荷車ヲ連繫シテ貨物ヲ運搬セムトスルトキ亦同シ
- 第九條 (削除)
- 第十條 第三條第四條第一項ノ制限ニ從ハス若ハ第八條ノ認可ヲ受ケシテ第四條但書ノ物件ヲ運搬シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 第十一條 第四條第二項ノ命令又ハ制限ニ從ハス若ハ第二條第六條第七條ニ違反シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十二條 第八條ノ認可ヲ受ケルモノ其ノ標記ヲ怠リ又ハ同條ノ認可ヲ受ケス二輪以上ノ荷車ヲ連繫シテ貨物ヲ運搬シ若ハ第五條ノ制限ニ從ハサル者又ハ第十三條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留若ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

- 第十三條 明治三十二年九月千葉縣令第六十號第二條ノ制限ニ依ル荷車ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十四條 明治三十二年九月千葉縣令第六〇號ハ之ヲ廢止ス

● 荷車取締規則施行ニ關スル件

(大正元年九月 保第一三五八九號)

本月二十七日日本縣令第九十號ヲ以テ荷車取締規則發布相成候ニ付テハ施行上左記事項ニ注意相成度候也

- 一 第三條ニ於テ舊規則ニ比シ車輪ノ齒幅ヲ廣メ又ハ彈條ノ有無ニ依リ其ノ區別ヲ爲サ、ルニ至リタル理由ハ元來彈條ノ作用タル之ヲ構成スル材料ノ性質及構造等ニ依リ一定セサルノミナラス彈條ヲ備フルモ其ノ不良ナルモノニ在リテハ全ク之ヲ備ヘサルト其ノ結果均シキヲ以テ寧ロ之ヲ區別ヲ廢スルノ可ナルヲ認メタルニ因ル
- 二 第四條ニ於テ新タニ積載重量ノ制限ヲ設ケタルハ主トシテ道路保存ノ目的ニ出テタルハ勿論ナルモ其ノ執行ハ稍ヤ困難ナルヘク然レトモ米穀ノ如キ其ノ容器表裝等ノ一定セルモノ又ハ石、木材ノ如キ物件ニシテ寸尺略一定セルモノ、如キハ其ノ中一部ノ重量ヲ試ムレハ積載物件ノ重量ヲ推測シ得ヘキヲ以テ先ツ外觀上ノ注意ヲ爲シ時ニ或ハ必要アリト認メタル場合ハ尙ホ衡器ヲ以テ實査スル等取締上遺策ナキナ期スルコト
- 三 舊規則ニ於テハ單ニ夜間燈火ナクシテ荷車ヲ輓クヘカラスト規定セルカ故ニ或ハ燈火ヲ側方ニシ其ノ甚シキニ至リテハ之ヲ後方ニシ毫モ前方ヲ照ラスコトナク恬トシテ顧ミサル者アリ而モ取締ノ任ニ在ル警察官吏亦之ヲ怪マサルカ如キ全ク危險豫防上何等ノ效果ナキ實況ナリシヲ以テ新ニ第六條第一號ノ規定ヲ見ルニ至レリ依テ取締上注意スルコト
- 四 舊規則ニ於テハ單ニ馭者臺ノ設ナキ荷牛馬車ニ乗ルコトヲ得スト規定セルカ故ニ口取人ヲ附スルモ猶之ニ乗ルコトヲ得サルノ不便アルノミナラス牛馬ニ兩手綱ヲ附シ且之ヲ馭シ得ル者ト雖其ノ場所ノ如何チ問ハス絶對ニ荷牛馬車ニ乗ルコトヲ禁スルハ甚タ酷シ失スルノ嫌アルヲ以テ交通稀稀ナル僻路ニ於テ而モ兩手綱ヲ附シ牛馬ヲ馭シ得ル者ニ限リ第七條ニ於テ之ニ乗ルコトヲ許セリ然レトモ特ニ馭シ得ル者ト限定セルカ故ニ婦女子供者其ノ他ニシテ全ク馭スルコト能ハサル者ハ之ニ乗ルコトヲ得サルハ勿論ナリトス依テ取締上注意スルコト

第三節 海河、船舶

舟筏取締規則

(明治十二年十一月) 甲第九二號

- 第一條 諸川川筋ニ於テ回漕運輸ノ業ニ從事スルモノハ此規則ヲ遵守スヘシ
- 第二條 該營業者中申合セ重立候モノ相擇ミ回漕取締役ニ充テ同業者ナシテ左ノ條款ヲ踐履セシメ取締ニ關スル一切ノ事ヲ負擔スルノ責ニ任スヘシ但回漕取締役ハ各部毎ニ適宜人員ヲ選定シ人名ハ本縣ヘ届出ヘシ
- 第三條 日本西洋兩形ノ川船川路通行ノ際船長以下ノモノハ親睦ヲ旨トシテ互ニ公平ノ心ヲ持シ荷荷衝突破船等ノ患者ヲ醸生セサル様專ラ注意スヘシ
- 第四條 汽船ハ必ス時々汽笛ヲ鳴シ日没ヨリ日出迄ノ間ハ紅綠白ノ三燈ヲ掲ケ狹隘ノ場所ニ於テハ速力ヲ遲緩ニシ通行スヘシ
- 第五條 日本西洋兩形船ノ別ナク出船ノ前水量深淺ニ應シ荷物増減積載スヘシ萬一場所ニヨリ船體進止自由ナラサルトキハ速ニ解テ備ヒ個物ヲ積取或ハ陸揚等ヲ爲シ毫モ停船スヘカラス
- 第六條 水量淺少ノ場所ニ至リテハ汽船ハ其運行ヲ止メ日本形船ハ其儘行路ヘ繫留シ川底土砂ノ浚疏スルヲ待チ或ハ堀立河身修繕ノ個所ヲ破却セシムル等ノコトアルヘカラス
- 第七條 日本形用船乗組船頭以下ノモノ尙舊來ノ弊習ニ狎レ甲乙二船ヲ繫合シ流レ下リ或ハ其他船舶ニ障礙トナルヘキ場所ヘ繫留スルコトアルヘカラス
- 第八條 筏ハ長拾五間幅貳間ヲ限ルヘシ且筏ヲ解キ陸揚ケセントスルトキハ通船ノ妨トナラサル様注意スヘシ
- 第九條 江戸川筋ニ於テハ舟筏通行ノ際縣下東高師郡市川村地先水底電信

〔千葉警〕

- 沈架線貳拾間以内(水底線ハ骨ノ目標アルヘシ)及堤防並ケレツフ等ニ棹ヲ突掛ケ又ハ繫留ナナスヘカラス
 - 第十條 諸船並ニ筏等行進フトキハ互ニ左方ニ避クヘシ尤日本船ハ進止自由ヲ得サルニ付特ニ遠近ノ場所ヨリ進行シ夜中ハ提燈等現出シ或ハ時機ニヨリ大聲ヲ發シ精々避應ノ方法ニ盡力スヘシ但互ニ左方ニ避ク難キ場合ニ在テハ其便宜ニ從フモ妨ケナシ
 - 第十一條 官許ノ證ナクシテ銃砲彈等渾テ禁制ノ品物ヲ運送シ或ハ船中ニ於テ運送ノ品物ヲ採取其他不正ノ所業ナナスモノト見認ムルトキハ其最寄警署又ハ分署ヘ密告スヘシ
 - 第十二條 江戸利根兩川航通スル諸船河水八合以上ニ増水ノ節ハ航行ヲ差止ムヘシ(本條ハ十三年八月甲第九十九號ヲ以テ追加)
 - 第十三條 前各條ヲ犯シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
- 利根川運河航運規則** (明治二十三年三月) 縣令第四十號
- 第一條 利根運河ヲ航通スル船舶若クハ筏ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 諸船舶吃水四尺以下
 - 二 川汽船長九十尺幅二十七尺以下
 - 三 帆船及ヒ各種ノ船舶長八十尺幅二十尺以下
 - 四 筏長九十尺幅十二尺以下
 - 第二條 前條ノ船筏ヨリ徵收スヘキ通航料ハ會社ニ於テ河口見易キ場所ニ榜示スヘシ
 - 第三條 運河ヲ通過セントスル船舶筏ハ運河河口到著ノ順次ニ從ヒ各其右側ヲ航行スヘシ但他ニ障礙ヲ起サスニテ互ニ通過シ得ヘキ運河直流ノ場所又ハ通過シ得ヘキ場合ニ於テハ同一ノ方向ニ進航スル船舶及筏ヲ航超スルコトヲ得
 - 貨物搭載又ハ陸揚其ノ他ノ事故ニ依リ順番ニ進航スルコト能ハサル場合

- コトヲ得
- 曳舟法ノ如何ニ關ハラス曳子ハ舟曳道ノ以外ナリ通行スヘカラス
- 第十三條 乗客及ヒ荷物ノ上下チナスハ特ニ指定シタル場所ニ限ル
- 第十四條 左ノ場合ニ於テ運河會社ハ直チニ水堰ヲ閉塞シ船舶ヲ通行ナ止メ其事故止ミタルトキハ之ヲ開放スヘシ
 - 一 水堰若クハ運河内流勢ノ速力強大トナリ航通又ハ運河岸ノ安全ヲ保ツニ不適當トナリタル場合
 - 二 干水ニ際シ利根江戶兩川内航通上便宜ノ爲メ若クハ洪水ニ際シ兩川堤防決壊ノ危險其他此ヨリ起ルヘキ水害ヲ防クニ必要ナル場合
 - 三 緊急必要ノ時又ハ堤防決壊ノ危險其他水害ヲ除クニ必要アリト認メ官廳ノ命令アル場合
- 第十五條 河岸又ハ河底ノ修繕工事若クハ洪水干水ソノ他ノ事故ニ依リ航路ヲ示シ又ハ進航ヲ遲緩ナラシムヘキ注意ヲ要スル箇所アルトキハ運河會社ハ赤色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ其局部ニ掲ケテ之ヲ通航者ニ示スヘシ
- 第十六條 總テ運河ノ航通ヲ停メタルトキハ運河會社ハ運河兩所ノ河口其他必要ノ箇所ニ晝間ハ綠色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ掲ケヘシ
- 第十七條 諸船舶筏ハ江戶利根兩川運河口近傍ニ停泊シ又ハ繋留シテ運河出入ノ船舶筏若クハ水流ヲ妨害スヘカラス
- 第十八條 運河兩岸及ヒ舟曳道ニ土石竹木其他ノ物品ヲ堆積スヘカラス
- 第十九條 運河内又ハ内岸近傍ニ汚穢物ハ勿論塵芥タリトモ放棄スヘカラス
- 第二十條 第五條第六條第十三條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 第五條ヲ犯シタルモノハ五十錢以下ノ科料ニ處ス

利根川筋ニ河川法準用ノ件

(明治三十四年一月) 告示第七號

- 一 河川法ヲ準用スヘキ河川左ノ通認定ス
- 一 横利根川筋左岸香取郡新島村大字大島ヨリ同郡佐原町ニ至ル下利根川ニ合流點迄
- 一 北利根川筋右岸香取郡新島村大字大島ヨリ同郡同村大字附洲新田ニ至ル下利根川ニ合流點迄

横利根川其他ノ河川沼ニ河川法ヲ準用ノ件

(明治四十年十二月) 縣令第四十七號

- 一 左記ノ河川沼ニ河川法第二十四條第一項第二十九條第三十七條ヲ準用ス
- 一 北利根川
- 一 横利根川
- 一 鹿島川
- 一 印旛沼
- 一 長門川

河川取締規程

(大正元年十月) 縣令第九十七號

第一章 總則

- 第一條 河川法ヲ施行シタル河川及之ヲ準用シタル河沼ニ於ケル行爲ニ關シテハ法律命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本規程ヲ適用ス
- 第二條 本規程ニ於テ河川ノ工作物ト稱スルハ制水導水若クハ護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタルモノヲ云フ
- 第三條 本規程ニ於テ許可ヲ受ケタルモノト稱スルハ河川法又ハ本規程ニ

(千葉縣)

依リ許可ヲ受ケタルモノヲ云フ

第四條 本規程ニ依ル願届書類ハ所轄町村役場及所管河川管理員ヲ經由スヘシ

第二章 禁止及制限

- 第五條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ禁止ス
 - 一 航路ニ投錨シ若クハ濫ニ引繩ヲ爲シ又ハ航路狹隘ノ箇所ニ舟筏ヲ並航セシムルコト
 - 二 水防ヲ開始シタル場合ニ於テ發動機付船舶ヲ急航セシムルコト
 - 三 長十五間幅二間以上ノ筏ヲ流漕シ又ハ舟筏若クハ木材ノ類ヲ放流スルコト
 - 四 河川敷ニ掘上堤ヲ設ケ其ノ他盛上チ爲スコト
 - 五 河川敷若クハ堤防ニ土石塵芥其ノ他ノ物ヲ投棄シ又ハ堆積スルコト
 - 六 堤防ニ家畜ヲ放牧シ又ハ濫ニ堤防若クハ護岸ヲ昇降スルコト
 - 七 貨物陸揚場ノ設備ナキ堤防若クハ河川ノ工作物ニ於テ船積若クハ陸揚チ爲スコト
 - 八 堤防橋梁若クハ河川ノ工作物又ハ量水標其ノ他ノ標識ニ舟筏流木若クハ家畜ヲ繋留スルコト
 - 九 河川ノ工作物ヲ物置場又ハ物干場ニ使用スルコト
- 第六條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サントスルモノハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 - 一 河川ノ工作物ヲ渡船通路ニ供スルコト
 - 二 河川ノ浚渫其ノ他ノ流水方向若クハ深淺ニ影響及ボス行爲
 - 三 河川敷若クハ堤防ヨリ土石砂礫其ノ他ノ生産物ヲ採取スルコト
- 第七條 筏其ノ他ノ流送物ニシテ目的地ニ到着シタルトキハ速ニ之ヲ陸揚スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 舟筏其ノ他流送物ニシテ河底ニ膠砂シ又ハ顛覆若クハ沈没シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出テ速ニ之ヲ除却スヘシ

出願ニ係ルトキハ其ノ議會ノ決議書寫ヲ添付スヘシ
 第十一條 河川法第十七條第十八條又ハ本規程第六條第三號ノ許可ヲ受ケタル者ハ所管郡長ノ發スル納入告知書ニ依リ其ノ料金を納付スヘシ
 第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ料金を免除若ハ減額スルコトアルヘシ

- 一 河川法第二十條第二號乃至第四號又ハ第六號ニ依リ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シタルトキ
- 二 河川法施行規程第九條ニ該當スルトキ
- 三 直接公共ノ用ニ供スルトキ
- 四 天災其ノ他不可抗力ニ依リ占用使用若ハ採取ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

第十四條 河川法第十七條明治三十三年勅令第三百號第四條又ハ本規程第六條第二號若ハ第三號ノ許可ヲ受ケタルトキハ所管河川管理員ノ指揮ヲ受ケ工事ノ施行若ハ目的物ノ採取ヲ爲シ其ノ竣功若ハ終了シタルトキハ知事ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十五條 河川法第十八條又ハ本規程第六條第二號若ハ第三號ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ箇所ニ第六號ノ標識ヲ建設スヘシ但シ干葉縣漁業取締規則ニ依リ標識ヲ建設シタルトキ及左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ所管河川管理員ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 地形ニ依リ其ノ箇所ニ建設スルコト能ハサルトキ
 二 期間ノ短期ナルトキ
 第十六條 規程第六條第三號ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ目的物ヲ採取スルトキハ下付セラレタル證票ヲ携帶シ當該官吏員又ハ警察官吏ノ要求アルトキハ之ヲ示スヘシ
 第十七條 許可ヲ受ケタル者ノ義務履行ニ關シテハ共同出願者間及保證人ハ連帶ノ責ニ任ス

第十八條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ占用若ハ使用ノ目的又ハ工事ノ計畫若ハ設計ヲ變更セントスルトキ及占用若ハ使用ノ期間ヲ更新セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第十九條 本規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依テ生スル權利義務ヲ他人ニ移サントスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十條 許可ヲ受ケタル者死亡シタルトキ其ノ相續人ニ於テ權利義務ヲ承繼セントスルトキハ一箇月以内ニ出願シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十一條 許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキハ其ノ保證人相續人若ハ共同出願者ニ於テ十日以内ニ之ヲ届出ツヘシ
 保證人死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ於テ更ニ保證人ヲ定メ連署届出ツヘシ
 第二十二條 許可ヲ受ケタル者又ハ保證人ニ於テ改氏名若ハ轉住シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ
 第二十三條 許可ヲ受ケタルモノニ於テ占用使用若ハ採取等ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原形ニ復セシムルコトアルヘシ
 許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ行衛不明トナリタル場合ニ於テ第一項及第二項ノ義務ハ保證人又ハ相續人ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第四章 費用負擔
 第二十四條 河川敷及堤防ノ掃除ハ明治四十一年五月干葉縣令第三十九號ニ基キ指定シタル公共團體ノ行政廳ニ於テ之ヲ施行スヘシ
 前項ノ掃除ニ要スル費用ハ其ノ公共團體ノ負擔トシ毎年之ヲ豫算ニ計上スヘシ
 第二十五條 前條ノ掃除ハ河川敷ニ在リテハ毎年五月及九月ノ二回堤防ニ在リテハ五月及十月ノ二回ニ之ヲ施行スヘシ

〔干葉縣〕

前項ノ定額掃除ノ外雜草ノ茂リ狀況ニ依リ前條ノ公共團體ノ行政廳ニ於テ必要ト認メタルトキ若ハ知事ニ於テ特ニ命シタルトキハ臨時ノ掃除ヲ施スヘシ

第二十六條 前條ノ定期若ハ臨時ノ掃除ヲ了リタルトキハ其ノ公共團體ノ管理員ヨリ所管河川管理員ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

第二十七條 河川法第四十五條ニ依リ河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ヲシテ土地ノ缺壞其ノ他ノ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトアルヘシ
 第二十八條 河川法第四十六條第一項ニ依リ行政廳ニ於テ植付タル竹木芝草ハ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養セシムルコトアルヘシ

第五章 罰則

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ料金を處ス
 一 許可ヲ受ケスシテ本規程第六條若ハ第十八條ノ行爲ヲ爲シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者
 二 本規程第五條第七條乃至第九條第十條第一項第十四條乃至第十六條第二十一條第二項第二十二條第二十三條第一項及同條第三項ニ違反シタル者

附則

明治三十九年一月干葉縣令第九號明治四十二年八月干葉縣令第五十四號及明治四十五年一月干葉縣令第九號ハ之ヲ廢止ス
 第一號様式
 工作物新築(改築、除却)願
 河川筋何郡何町村大字何字何地先
 一 何

第二編 保安 行政 第四章 交通

- 一 河川敷(水面、堤防)占用(使用)面積何坪
- 二 施設(施行)ノ目的何々
- 三 着手ノ期日何年何月何日
- 四 竣功(終了)期日何年何月何日
- 五 料金額
- 六 占用(使用)期間許可ノ日ヨリ滿何箇年

右御許可相成度平面圖詳細圖及設計書相添此段出願候也

住 所 住 所
 願 人 氏 名 印
 保 證 人 氏 名 印
 千葉縣知事宛

備考
 一 明治三十三年七月勅令第三百號第四條第二號又ハ第三號ノ内竹木ノ栽植若ハ伐採ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ様式表目ナ「土地ノ堀鑿(盛土)又ハ竹木ノ栽植(伐採)願」ト記載スヘシ
 二 本規程第六條第二號ノ許可ヲ受ケントスルトキハ様式表目ナ「河川ノ浚渫(埋立)願」ト記載スヘシ
 三 明治三十三年七月勅令第三百號第四條又ハ本規程第六條第二號ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ様式附記第一號ノ面積第五號ノ料金額及第六號ノ期間ハ記載ヲ要セズ
 四 願書添付ノ平面圖ハ河川臺帳切圖寫トス但シ河川臺帳ヲ調製セサル簡所ナルトキハ見取圖(六千分ノ一)ヲ添付スヘシ
 五 様式附記第一號ノ面積ヲ記載スヘキ願書ニ添付スル平面圖ニハ其ノ實測三斜間數ヲ記入スヘシ

六 願書添付ノ明細圖ハ工作物ノ新築改築若ハ除却ニアリテハ其ノ構造圖土地ノ掘鑿若ハ盛土又ハ河川ノ浚渫若ハ埋立ニアリテハ其ノ箇所ノ横斷面圖ヲ添付スヘシ

第二號様式

占用(使用)願

河川筋何郡何町村大字何字地先

一 河川敷(水面、堤防)何坪

二 目的 何々

三 料金 何程

四 期間 許可ノ日ヨリ滿何箇年

右御許可相成度平面圖相添此段出願候也

年 月 日

住 所

願 人 氏 名 印

住 所

保 證 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

第一號様式備考第四第五ニ準ス

第三號様式

河川筋何郡何町村大字何字地先

一 土(石、砂、砾、竹、木、雜草等)何程

二 区域 河川敷(堤防)何坪

三 目的 何々

三 料金 何程

年 月 日

住 所

願 人 氏 名 印

住 所

保 證 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

第一號様式備考第四第五ニ準ス

河川筋何郡何町村大字何字地先

一 土(石、砂、砾、竹、木、雜草等)何程

二 区域 河川敷(堤防)何坪

三 目的 何々

三 料金 何程

年 月 日

住 所

願 人 氏 名 印

住 所

保 證 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

工事計畫ノ變更願ニハ變更設計書及圖面ヲ添付スヘシ

第五號様式

河川筋何郡何町村大字何字地先

一 何々

二 何年何月何日土第何號許可

三 許可ヲ受ケタル者ノ氏名

右御許可相成度(承繼ノトキハ戸籍抄本相添)此段出願候也

年 月 日

住 所

移 轉 人 (相續人) 氏 名 印

住 所

被 移 轉 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

承繼ノ場合ニ於テハ被移轉人ノ住所氏名記入ヲ要セス

第六號様式

右 何年何月何日ヨリ

左 河川敷(堤防)占用(使用)又ハ採取

表 区域何坪

裏 住 所 氏 名

何年何月何日許可

千葉縣知事宛

備考

承繼ノ場合ニ於テハ被移轉人ノ住所氏名記入ヲ要セス

第六號様式

右 何年何月何日ヨリ

左 河川敷(堤防)占用(使用)又ハ採取

表 区域何坪

四 期間 許可ノ日ヨリ何年何月何日迄

五 採取物件運搬ノ方法

右御許可相成度平面圖相添此段出願候也

年 月 日

住 所

願 人 氏 名 印

住 所

保 證 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

第一號様式備考第四、第五、ニ準ス

二 平面圖ニハ目的物採取箇所ト其ノ附近ニ在ル河川附屬及工作物トノ距離ヲ記載スヘシ

三 土、砂、礫、ハ六尺立方チ一坪トシ一坪以下チ切捨トス

四 石材ハ一尺立方チ一才トシ一才以下ハ切捨トス

五 轉石ハ箇數トス

六、竹、柴、笹、葦、雜草類、ハ三尺繩ノチ一束トス

七 樹木ハ樹種目通周尺及梢迄ノ長サ一本毎ニ記入スヘシ

第四號様式

占用(使用)ノ目的若ハ工事ノ計畫(設計)變更又ハ占用(使用)ノ期間更新願

河川筋何郡何町村大字何字地先

一 何々

二 何年何月何日土第何號許可

三 何々トアルヲ何々ト變更(更新)

右御許可相成度此段出願候也

年 月 日

住 所

願 人 氏 名 印

住 所

保 證 人 氏 名 印

千葉縣知事宛

備考

標杭ハ角三寸以上長地上四尺以上根入二尺以上トス

汽船營業取締規則 (明治四十二年十一月)

(縣令第七十號)

第一條 本則ニ於テ汽船營業ト稱スルハ蒸汽、石油發動機其ノ他機械力ニ依リ運轉スル船舶ヲ以テ乘客又ハ貨物ノ運送ヲ業トスルモノヲ謂フ

第二條 汽船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ發船場又ハ著船場所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第六號ノ事項ヲ增加又ハ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款

二 航路ノ圖面及發船場、著船場、寄航場ノ地名

三 發船場、著船場、寄港場ノ發著時刻

四 各航路ニ用ユル船舶ノ種類及員數

五 旅客、貨物ノ運送賃

六 舢板又ハ棧橋ヲ使用スル場所及其ノ賃錢

第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ五日以内ニ發船場又ハ著船場所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

一 開業但シ其ノ日時、船名及其ノ檢査證書ノ寫ヲ具スヘシ

二 休業又ハ廢業

三 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ事務所又ハ代表者氏名ノ變更

四 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

五 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

六 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

七 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

八 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

九 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十一 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十二 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十四 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十五 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十六 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十七 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十八 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

十九 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十一 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十二 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十三 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十四 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十五 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十六 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

二十七 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

- 五 航路又ハ寄航場ノ廢止
- 六 船舶又ハ舢、棧橋使用ノ廢止
- 七 船舶検査證書ノ異動
- 第五條 臨時發船ヲ爲サムトスルトキハ其ノ船名、航路及發著時刻ヲ具シ義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
- 第六條 臨時發船場所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第七條 定期ノ發船ヲ休止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ三時間以内ニ發船場所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第八條 船舶内ニ於テ死傷者其ノ他異變アリタルトキハ其ノ旨直ニ寄航場又ハ著船場所轄警察官署若ハ警察官吏ニ届出ツヘシ
- 第九條 同一ノ場所ニ於ケル船舶ノ發著ハ他ノ船舶トノ間ニ十分間以上ノ時間ヲ存スヘシ
- 第十條 旅客ノ乗降ニ用ユル棧橋ニハ兩側ニ堅固ナル高サ曲尺三尺以上ノ欄干ヲ設クヘシ
- 第十一條 旅客ノ用ニ供スル甲板ニ船舷ナキモノハ其ノ周圍ニ高サ曲尺一尺五寸以上ノ堅固ナル欄干ヲ設クヘシ
- 第十二條 河川ヲ航行スル船舶ノ烟突ニハ噴火止ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十三條 前項噴火止ノ裝置ハ其ノ構造及圖面ヲ具シ使用前發船場又ハ著船場所轄警察官署ニ検査ヲ申請シ検査證ヲ受クヘシ
- 第十四條 船舶ニハ輕便消火器又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スヘシ
- 第十五條 船舶内ニ使用スル燈火用油壺ハ金屬製ノモノヲ用ユヘシ
- 第十六條 河川ヲ航行スル船舶ニハ日出前日没後右舷ニ綠燈、左舷ニ紅燈、前面ニ白燈ヲ掲クヘシ
- 第十七條 旅客、貨物ノ運送貨及舢、棧橋ノ賃錢ハ發船場、著船場、寄航場並ニ船舶内ノ毎客室ニ掲示スヘシ

- 第十六條 機關室其ノ他危險ノ場所ニ故ナク旅客ヲ出入セシムルコトヲ得ス
- 第十七條 船舶内ハ嚴ニ風紀ヲ保持スヘシ
- 第十八條 定員ヲ超過シテ旅客ヲ乗船セシムルコトヲ得ス
- 第十九條 故ナク旅客ノ乗降ヲ拒ミ又ハ貨物ノ搭載、陸揚、拒ムコトヲ得ス
- 第二十條 發船場、著船場又ハ寄航場ニ非サル場所ニ於テ旅客ヲ乗降セシメ若ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十一條 旅客又ハ荷主ニ對シ何等ノ名儀ヲ以テスルニ拘ラス定額賃錢以外ノ金銭ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第二十二條 強テ乗船ヲ勸ムルコトヲ得ス
- 第二十三條 船舶内ハ常ニ清潔ヲ保持スヘシ
- 第二十四條 旅客ノ用ニ供スル敷物等ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第二十五條 傳染病豫防法第一條第一項及第二項ニ依リ指定セラレタル傳染病患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲クル病獸ハ之ヲ乗船セシムルコトヲ得ス
- 第二十六條 船舶内ニ於テ前條ニ掲ケタル患者、死者又ハ病獸ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ隔離シ且消毒法ヲ行フヘシ
- 第二十七條 前項ノ場合ニ於テハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ旅客ヲ乗降セシメ又ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十八條 監護人ナキ精神病者又ハ旅客ノ嫌疑スヘキ疾患アル者若ハ亂醉者ハ他ノ旅客ト室ヲ異ニスルニ非サレハ乗船セシムルコトヲ得ス
- 第二十九條 左ニ掲クルモノハ旅客又ハ他ノ貨物ト室ヲ異ニスルニ非サレハ搭載スルコトヲ得ス
 - 一 死體
 - 二 家畜又ハ危險ナル動物
 - 三 惡臭ヲ發シ又ハ他物ヲ汚濁スル虞アル物品

- 第二十九條 旅客ヲ乗載スル舢ニハ同時ニ第二十五條、第二十七條又ハ第二十八條ニ規定セルモノヲ搭載スルコトヲ得ス
- 第三十條 濫ニ機械力ヲ增加シ他ノ船舶ト競争スルコトヲ得ス
- 第三十一條 狹隘、屈曲又ハ船舶輻輳ノ場所ヲ航行シ若ハ他ノ船舶ニ近接シタルトキハ機笛ヲ鳴ラシ徐行スヘシ
- 第三十二條 多數ノ人員又ハ貨物ヲ乗載セル船舶ニ行進ヒ若ハ之ヲ追越サムトスルトキハ機笛ヲ鳴ラシ其ノ船舶ノ前後二十間以上ヲ徐行スヘシ
- 第三十三條 曳船ヲ使用スルモノハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 江戸川筋、利根川筋ハ五艘以内
 - 二 前號ノ場所ニ於ケル曳綱ノ長サハ第一船ハ五十尺以内第二船乃至第五船ハ十五尺以内
- 第三十四條 警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第三十五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
 - 一 故ナク營業許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セザルトキ
 - 二 故ナク三十日以上休業シタルトキ
 - 三 本則ニ違反シ又ハ營業上不適當ト認メタルトキ
- 第三十六條 故ナク三十日以上發船セザル航路アルトキハ其ノ航路ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第三十七條 各發著時刻ニ應スヘキ船數ヲ缺キ又ハ故ナク七日以上定期ニ發船セザルモノアルトキハ其ノ發著時刻ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第三十八條 警察官署ハ強風、出水其ノ他ノ事故ニ因リ航行上支障又ハ危險アリト認ムルトキハ船舶ノ發著時刻ヲ伸縮シ若ハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得
- 第三十九條 左ノ各號ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ

- 科料ニ處ス
 - 一 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 - 二 第八條、第十七條、第十八條、第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十二條ニ違反シタル者
 - 三 第九條ニ違反シテ棧橋ヲ營業ニ使用シタル者
 - 四 第十條、第十一條第一項、第十四條ニ違反シテ船舶ヲ營業ニ使用シタル者
 - 五 第三十四條ノ検査ヲ拒ミタル者
 - 六 第三十八條ノ命令ニ從ハサル者
 - 七 停止中營業ヲ爲シタル者
- 第四十條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
 - 一 第四條乃至第七條、第十一條第二項、第十六條、第十九條乃至第二十三條、第二十七條、第二十八條、第三十三條ニ違反シタル者
 - 二 第十二條、第十三條、第二十四條ニ違反シテ船舶ヲ營業ニ使用シタル者
 - 三 第十五條ニ違反シテ營業ヲ爲シタル者
- 第四十一條 第七條、第八條、第十四條、第十六條乃至第二十條、第二十二條、第二十五條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條又ハ第三十八條ノ命令ノ違反ニ付テハ前二條ノ刑ハ之ヲ船長ニ科ス
- 第四十二條 汽船營業者カ十四歲未滿ノ者又ハ禁治產者ナルトキハ第三十九條及第四十條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス
- 第四十三條 汽船營業者ハ家族、雇人其ノ他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カサルコトヲ得ス
- 第四十四條 從前ノ汽船營業者ニシテ引續營業ヲ爲サムトスル者ハ明治四十二年十二月二十日迄ニ第二條ノ事項ヲ具シ發船場又ハ著船場所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

第四十五條 從前ノ汽船營業者ニシテ引續營業ヲ爲ス者ハ明治四十二年十月三十日迄ニ第九條乃至第十四條ノ設備ヲ爲シ發船場又ハ著船場所轉警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

汽船營業取締ニ關スル件

(明治四十二年十一月 保第七八一七號)

汽船營業取締規則施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候 一 舊規則第三條ハ航路ノ距離ニ依リテ發船時間ニ長時ノ間隔ヲ取ラシメタリ右ハ航行中競争ヨリ生スル危險ヲ豫防スルノ目的ニ出テタルモノナルヘシト雖モ自然先願者ヲシテ利益ヲ斷斷セシムルノ嫌アルヲ免カレズ航行上ノ競争ハ警察ノ取締ニ依リテ之ヲ防制スル難キニ非サルヲ以テ改正規則第八條ハ全ク舊規則ト趣テ異ニシ發船場著船場又ハ寄航場ノ發着ニ各船ヲシテ十分間以上ノ間隔ヲ取ラシムルコトトセリ故ニ一航路ニ二人以上ノ營業者アル場合ハ航行中汽船ノ競争ヲ爲スモノアルヤモ計リ難シ又同一營業者ノ汽船ト雖モ時ニ或ハ競争ナキヲ保シ難キヲ以テ此ノ點ニ付テハ常ニ視察ヲ爲シ不測ノ變災ナカラシムル様嚴重取締ヲ爲スコトヲ要ス

二

前項ノ如ク汽船ノ發着時間ニ十分間以上ノ間隔ヲ取ラシムルニ付則第四十四條ニ依リ從前ノ營業者カ出願シタル場合ニ於テ發着時刻ヲ豫定スルニハ先願者ヲ基礎トシ他ハ其ノ前後ニ於テ間隔ヲ取ラシムル様注意スルヲ要ス而シテ發船場又ハ寄航場ニ於ケル實際ノ發着ハ汽船ノ速力ニ關係アルヲ以テ必スシモ豫定ノ如クナルコト能ハスシテ後發ノ汽船力カ却テ先發ノ汽船ヲ追越スコトアルヲ免レス斯ノ

如キ場合ニハ先發ノ汽船ハ後發ノ汽船ノ發着後法定ノ時間ヲ存シテ發着ヲ爲サ、ルヘカラス 三 河川ヲ航行スル汽船ノ烟突ニハ從來噴火止ノ裝置アリシト雖モ其ノ構造極メテ不完全ニシテ火粉ヲ噴出シ爲ニ沿岸地ノ民家ヲ燒燬シタル類例尠ナカラス故ニ規則第十一條ハ検査證ヲ下付スルノ規定ヲ設ケタルヲ以テ爾後危險ナキ様嚴重ノ取締ヲ爲スコトヲ要ス

四 汽船内ニ於テハ往々賭博ヲ爲シ又ハ風俗ヲ害スヘキ圖畫ヲ販賣シ其ノ他猥褻ノ行爲ヲ爲ス者アリトノ聞ヘアルヲ以テ規則第十七條ハ此等ノ場合ニ於テハ船長ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリ之亦深ク注意ヲ加フルコトヲ要ス 五 汽船内ハ公衆ノ出入起臥スルコト頻繁ナルヲ以テ能ク掃除ヲ爲シ不潔汚穢ノ箇所ナカラシメ又布團、枕、座布團等ヲ客ニ供給スルモノニ在リテハ清潔ナルモノヲ使用セシムルノ急務ナルヲ認メ規則第二十三條及第二十四條ヲ以テ之カ規定ヲ設ケタリ故ニ平素視察ヲ嚴ニシ取締ヲ爲スコトヲ要ス

客船營業取締規則

(明治四十三年九月 縣令第九十六號)

第一條 本則ニ於テ客船營業ト稱スルハ河海池沼等ニ於テ船ヲ以テ客ヲ乗載運漕スルヲ業トスルモノヲ謂フ 第二條 本則ハ汽船營業取締規則又ハ渡船營業取締規則ノ適用ヲ受クヘキモノニ之ヲ適用セズ 第三條 客船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ第三號乃至第八號ノ事項ヲ變更セムトスル、キ亦同シ 一 住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地 代表者ノ氏名及定款 二 營業ヲ爲サムトスル河海池沼等ノ名稱

〔千葉縣〕

三 發船場、著船場ノ位置及其ノ土地ノ官有、民有ノ區別但シ官有地ニ在リテハ當該官廳ノ土地使用許可書ノ原本、民有地ニ在リテハ其ノ所有者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

四 營業時間

五 客船ノ種類、員數

六 乘客定員

七 船賃但シ平時、夜間等ノ場合ニ區別スヘシ

八 水夫ノ員數

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ客船ノ検査ヲ受クヘシ

警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ構造、設備ニ支障ナシト認メタルトキハ船尾ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ客船ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ

第四條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第五條 發船場著船場ハ客ノ乗降ヲ便ニシ且危險ヲ豫防スル設備ヲ爲スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水夫タルコトヲ得ヌ 一 十八歳ニ滿タサル者又ハ滿六十歳以上ノ者

二 酒癖又ハ粗暴ノ行爲アル者

三 身體強壯ナラサル者

四 操船又ハ水泳ニ熟練セサル者

第七條 客船營業者ハ發船場、着船場ノ見易キ箇所ニ其ノ住所、氏名、營業許可書ノ番號及營業時間乘客定員、船賃ヲ揭示スヘシ

第八條 客船營業者ハ客船ヲ製造、改造又ハ修繕シ若ハ買受ケ、讓受ケタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ構造、設備ニ支障ナシト認メタルトキハ船尾ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ客船ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ捺捺スヘシ

第九條 客船營業者ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ 一 廢業

二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ事務所若ハ代表者氏名ノ變更

三 法定代理人又ハ法人代表者ノ變更

四 客船使用ノ廢止

五 水夫ノ雇入又ハ解雇、死亡、所在不明但シ其ノ日時及住所、氏名、生年月日ヲ具スヘシ

客船營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ籍法第二百二十六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リテ届出ツヘシ

第十條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客ニ對シテ寧親切ヲ旨トシ其ノ乗降ノ際ハ懇切ニ取扱フヘシ

第十一條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客ニシテ急病ニ罹リタル者アルトキハ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十二條 客船營業者又ハ水夫ハ客船内ニ貨物ヲ搭載スル場合ニ於テハ乘客ノ妨害トナラサル様注意スヘシ

第十三條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客ニ於テ降船スルトキハ遺留品ノ有無ニ注意スヘシ

第十四條 客船營業者又ハ水夫ハ客船内ニ於テ死傷者其ノ他 變アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第十五條 客船營業者又ハ水夫ハ夜間ニ於テハ客船及發船場 著船場ニ標

燈ヲ點スヘシ

第十六條 客船營業者又ハ水夫ハ何等ノ名儀ヲ以テスルニ拘ラス乘客ニ對シ第三條ノ許可ヲ受ケタル船貨以外ノ金品ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 客船營業者又ハ水夫ハ他ノ客船營業者若ハ水夫ノ業務ヲ妨害スルコトヲ得ス

第十八條 客船營業者又ハ水夫ハ公衆若ハ乘客ニ對シ粗暴、輕侮ニ涉ル言語、形容其ノ他ノ作為ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客中粗暴、毆打其ノ他ノ行為ヲ爲シ他ノ乘客ニ迷惑ヲ及ボス者アルトキハ之ニ對シ其ノ停止ヲ注意スヘシ

第二十條 水夫ハ就業中濫ニ客船ヲ離ルルコトヲ得ス

第二十一條 水夫ハ濫ニ自己ノ業務ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第二十二條 水夫ハ就業中袒袒、裸袒シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ醜態ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 客船營業者又ハ水夫ハ客船内ニ於ケル風紀ヲ保持スヘシ

第二十四條 客船營業者又ハ水夫ハ他人ニ對シ強テ乘船ヲ勸ムルコトヲ得ス

第二十五條 客船營業者又ハ水夫ハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ遲滯シ若ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客ノ承諾ヲ得シテ發船場、着船場ニ非サル場所ニ降船セシメ若ハ他船ニ乗セ替ヘ又ハ停船スルコトヲ得ス

第二十七條 客船營業者又ハ水夫ハ故ナク客ノ乗降ヲ拒ミ若ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十八條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客定員ヲ超過シテ客ヲ乗船セシムルコトヲ得ス但シ十歳ニ滿タサル者ハ二人ヲ以テ乗載人員一人ト看做シ三歳ニ滿タサル者ハ定員以外トス

第二十九條 客船營業者又ハ水夫ハ左ニ掲クルモノヲ乘船セシメ若ハ搭載スルコトヲ得ス

スルコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ニシテ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 傳染病豫防法第一條ニ掲クル傳染病患者又ハ法第二條ニ掲クル傳染病疑似症患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲クル病獸

二 癩患者又ハ乞丐其ノ他ノ浮浪者

三 監護人ナキ精神病者又ハ亂醉者

四 惡臭ヲ發シ又ハ他物ヲ汚濁スル虞アル物

五 船外ニ突出シ交通上危險ナル長大ノ物品

第三十條 客船營業者又ハ水夫ハ前條第一號ノ傳染病ニ罹リタル疑アル者アルトキハ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ客ヲ乗降セシメ又ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 客船營業者又ハ水夫ハ乘客ノ用ニ供スル敷物其ノ他ノ器具等ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ

第三十二條 客船營業者又ハ水夫ハ發船場、着船場若ハ客船等ヲ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第三十三條 客船營業者又ハ水夫ハ強風、洪水、激浪ノ際ハ出船ヲ停止スヘシ

第三十四條 客船ノ避讓法ハ左ニ掲クル制限ニ從フヘシ但シ各號ノ場合ニ於テ之ニ依ルコトヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 船船又ハ筏等ニ行進フトキハ左方ニ避クルコト

二 前船ヲ追越サムトスルトキハ後船ヨリ合圖ヲ爲シ前船ハ左方ニ避ケ後船ハ右方ヲ通過スルコト

三 屈曲ノ場所ヲ通過スルトキハ右折ノ場合ニハ大廻ヲ爲シ左折ノ場合ニハ小廻ヲ爲スコト

〔千葉警〕

〔千葉警〕

第三十六條 水夫ハ客船ノ運漕中他ノ船舶ニ近接シタルトキハ徐行スヘシ

第三十七條 水夫ハ交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ濫ニ客船ヲ置クコトヲ得ス

第三十八條 客船營業者ハ客船ノ破損セルモノハ速ニ改造又ハ修繕スヘシ

第三十九條 客船營業者ハ毎年四月及十月警察官署ノ指定シタル日時、場所ニ於テ客船及其ノ設備ノ検査ヲ受クヘシ

第四十條 警察官署ハ發船場、着船場又ハ客船ノ検査ヲ爲シ破損若ハ第五條、第七條、第十五條、第三十一條ノ設備ヲ缺キ又ハ第三十二條ノ掃除ヲ怠ルノ事實アリト認メタルトキハ之カ改造、修繕、設備若ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第四十一條 警察官署ハ客船營業者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ若ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十二條 警察官署ハ水夫ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキハ其ノ業務ヲ禁止若ハ停止スルコトアルヘシ

第四十三條 警察官署ハ強風、出水其ノ他ノ事故ニ因リ客船ノ運漕上危險アリト認メタルトキハ其ノ乗載人員又ハ搭載貨物ヲ制限シ若ハ水夫ヲ増加セシメ又ハ其ノ出船ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

一 第三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者

二 第三條第二項、第八條第一項、第三十九條ノ検査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル客船ヲ使用シテ營業ヲ爲シタル者

三 第十六條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十八條、第二十九條、第三十三條、第三十五條、第三十六條、第三十八條ニ違反スル者

第二編 保安 行政 第四章 交通

三〇

反シタル者

四 第四十一條ノ停止中營業ヲ爲シタル者

五 第四十二條ノ停止中業務ヲ爲シタル者

六 第四十三條ノ制限、増加又ハ停止ノ命ニ違反シテ出船シタル者

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス

一 第二十條、第二十一條、第二十四條、第二十七條、第三十一條ニ違反シタル者

二 第四十條ノ發船場、着船場又ハ客船ノ検査ヲ拒ミタル者

第四十六條 第六條第一號、第七條、第十四條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第四十七條 第九條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第四十八條 客船營業者力十四歳未滿ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ前四條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

第四十九條 客船營業者力法人ナルトキハ前項ノ刑ハ之ヲ其ノ代表者ニ科ス

第五十條 客船營業者ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人等水夫以外ノ者ニシテ本則ニ違反シタル場合ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第五十一條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第五十二條 從前ノ客船營業者ニシテ本則施行後引續キ客船營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條第一項ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可ヲ受ケサル者ハ爾後客船營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者本則施行前ノ使用ニ係ル客船ヲ本則

施行後引續キ使用スル場合ニ於テハ該許可ノ日ヨリ二十日以内ニ第三條第二項ノ検査ヲ受ケヘシ

第五十三條 第五十一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ該許可ノ日ヨリ三十日以内ニ第五條、第七條及第十五條、第三十一條ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十四條 第五十一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ水夫ノ住所、氏名及生年月日ヲ具シ該許可ノ日ヨリ二十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第五十五條 従前ノ水夫ニシテ本則施行ノ際十八歳ニ滿タスト雖前條ノ届出ヲ爲シタルトキハ本則施行後水夫ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 従前ノ水夫ニシテ本則施行ノ際滿六十歳以上ノ者ト雖第五十四條ノ届出ヲ爲シタルトキハ本則施行後滿三箇年間水夫ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 従前ノ水夫ニシテ第五十四條ノ届出ヲ爲シタル者本則施行ノ際滿五十八歳以上六十歳未滿ナルトキハ本則施行後尙滿三箇年間ハ水夫ヲ爲スコトヲ得

●客船營業取締ニ關スル件

(明治四十三年十月 保第七六五三號)

今回客船營業取締規則發布相成候處之カ施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候

一 本則ハ汽船營業又ハ渡船營業ニ關スル取締規則ノ適用ヲ受ケルモノヲ除キ河海池沼等ニ於テ客ヲ乗載運漕スル業ヲ爲スモノニ適用スルノ精神ナルカ故ニ從來利根川筋ニ於ケル早船業者ハ勿論津津郡等ヨリ神奈川縣地方ヘ渡航スル客船等ハ總テ本則ニ依リ許可ヲ受ケサルヘカラ

二 規則第三條第三項ニ依リ船尾ノ内部ニ許可書ヲ記載シタル番號ノ烙印ヲ押捺スル場合ニハ一、二又ハ三、四等ノ番號ヲ押捺シ若一營業者ニシテ二以上ノ船ヲ有スル者ニ對シテハ一、二ノ一又ハ三、四ノ二等ノ符號

●渡船營業取締規則

(明治四十三年八月 縣令第七十一號)

第一條 本則ニ於テ渡船營業ト稱スルハ船ヲ以テ河川池沼ヲ横キ、客又ハ貨物ノ運漕ヲ業トスルモノヲ謂フ

第二條 渡船營業者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ第三號又ハ第六號乃至第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱及業務擔當者ノ氏名、數人共同ノ事業ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名

二 渡船場ヲ設ケムトスル河川池沼ノ名稱

三 渡船場ノ位置及其ノ土地ノ官有、民有ノ區別別シ官有地ニ在リテハ當該官廳ノ土地使用許可書ノ謄本、民有地ニ在リテハ其ノ所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

四 渡船場ニ接続スル道路ノ種類

五 横キラムトスル河川池沼ノ水面ノ間數但シ平水、増水及減水ノ場合ニ區別スヘシ

六 渡船期間及其ノ終始

七 船ノ種類、員數

八 乗載人員但シ平水、増水及減水ノ場合ニ區別スヘシ

九 搭載貨物ノ斤量但シ平水、増水及減水ノ場合ニ區別スヘシ

十 客及貨物ノ渡船賃但シ平水、増水及強風並ニ夜間(日没後、日ノ場合ニ合ニ區別スヘシ)

十一 渡船時間及其ノ終始

十二 水夫ノ員數但シ平水、増水及強風並ニ夜間(日没後、日ノ場合ニ區別スヘシ)

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ開業前所轄警察官署ニ届出テ船ノ検査ヲ受ケヘシ

警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ構造、設備ニ支障ナシト認メタルトキハ船尾ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ押捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ船ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ押捺スヘシ

第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第四條 渡船營業者ハ左ニ掲グル場合ニ於テ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 開業又ハ廢業

二 營業者又ハ法定代理人ノ住所、氏名ノ變更但シ法人ニ在リテハ其ノ業務擔當者氏名若ハ數人共同ノ事業ニ在リテハ其ノ代表者氏名ノ變更

三 法人ノ業務擔當者、數人共同事業ノ代表者又ハ法定代理人ノ變更

四 船ノ使用ノ廢止

五 水夫ノ雇入又ハ解雇但シ其ノ日時及住所、氏名、生年月日ヲ具スヘシ

渡船營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法第二百六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ届出ヲ届出ツヘシ

第五條 渡船營業者ハ臨時渡船ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ三時間以前ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第六條 渡船營業者ハ船ヲ製造、改造又ハ修繕シ若ハ買受ケ、讓受ケタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ

警察官署ハ前項ノ検査ヲ爲シ構造、設備ニ支障ナシト認メタルトキハ船尾ノ内部ニ其ノ營業許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ押捺スヘシ但シ一營業者ニシテ二以上ノ船ヲ有スル場合ニ於テハ該番號ノ外ニ一又ハ二等ノ符號ヲ附シ其ノ烙印ヲ押捺スヘシ

第七條 渡船場ハ客ノ乗降ヲ便ニシ且危険ヲ豫防スル設備ヲ爲スヘシ

第八條 渡船營業者又ハ水夫ハ夜間營業ヲ爲ス渡船場及渡船ニ標燈ヲ點スヘシ

第九條 渡船營業者ハ渡船場ノ見易キ箇所ニ其ノ住所、氏名、營業許可書ノ番號(同一番號アルモノ)及乗載人員、搭載貨物ノ斤量並ニ渡船賃ヲ掲示スヘシ

第十條 渡船營業者ハ年齢滿十八歳以上六十歳未滿ニシテ操船及水泳ニ熟練シ且身體強壯ナル者ニ非サレハ水夫タラシムルコトヲ得ス

第十一條 渡船營業者又ハ水夫ハ營業上乘客ニ對シ丁寧親切ニ取扱フヘシ

第十二條 渡船營業者又ハ水夫ハ乘客ニシテ急病ニ罹リタル者アルトキハ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十三條 渡船營業者又ハ水夫ハ乘客ニ於テ降船スルトキハ遺留品ノ有無ニ注意スヘシ

- 第十四條 水夫ハ其ノ渡船時間内ハ濫ニ渡船場ヲ離ルルコトヲ得ス
- 第十五條 渡船營業者又ハ水夫ハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ遲滯シ若ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十六條 渡船營業者又ハ水夫ハ故ナク客ノ乗降ヲ拒ミ若ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十七條 渡船營業者又ハ水夫ハ渡船場ニ非サル場所ニ於テ濫ニ客ヲ乗降セシメ若ハ貨物ノ搭載、陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十八條 渡船營業者又ハ水夫ハ乘客ニ對シ粗暴、輕侮ニ涉ル言語、形容其ノ他ノ作爲ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十九條 渡船營業者又ハ水夫ハ乗載人員ヲ超過シテ客ヲ乗載シ若ハ搭載斤量ヲ超過シテ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ス但シ十歳ニ滿タサル者ハ二人ヲ以テ乗載人員一人ト看做シ三歳ニ滿タサル者ハ定員以外トス
- 第二十條 渡船營業者又ハ水夫ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス乘客若ハ貨物ニ對シ第二條ノ許可ヲ受ケタル渡船賃以外ノ金品ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第二十一條 渡船營業者又ハ水夫ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シ渡船賃ヲ請求スルコトヲ得ス
 - 一 軍隊
 - 二 制服着用ノ陸海軍人(帶劍ノ者)及之ニ附隨シタル馬丁
 - 三 召集令狀所持ノ陸海軍人及其ノ令狀配達ノ使丁
 - 四 制服ヲ着用シ又ハ證票ヲ携帯スル憲兵、警察官吏
 - 五 憲兵、警察官吏ノ押送ニ係ル囚人、刑事被告人、勞役場留置人並ニ行政檢束人
 - 六 警察官吏非常召集ノ場合ニ於ケル令狀配達ノ使丁
 - 七 囚人押送ノ監獄官吏及其ノ囚人
 - 八 制服着用又ハ證票携帯ノ電報配達人若ハ郵便物遞送人、同集配人及

- 九 其ノ車馬
- 十 水火災警防又ハ其ノ演習等ノ際ニ於ケル一定ノ服裝ヲ爲ス消防組員及其ノ車馬
- 十一 道路、河川ノ視察監督又ハ測量ノ職務ヲ有スル官吏、吏員若ハ制服着用ノ工夫
- 第十二條 渡船營業者又ハ水夫ハ渡船場又ハ船等ヲ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ
- 第十三條 渡船營業者又ハ水夫ハ左ニ掲クルモノヲ乗船セシムルコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ニシテ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 傳染病豫防法第一條ニ掲クル傳染病患者又ハ同法第二條ニ掲クル傳染病疑似症患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲クル病獸
 - 二 癩患者又ハ乞丐其ノ他ノ浮浪者
 - 三 監護人ナキ精神病者又ハ亂醉者
 - 四 惡臭ヲ發シ又ハ他物ヲ汚濁スル虞アル物
 - 五 船外ニ突出シ交通上危險ナル長大ノ物品
- 第十四條 渡船營業者又ハ水夫ハ乘客ニシテ前條第一號ノ傳染病ニ罹リタル疑アル者アルトキハ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ
- 第十五條 渡船營業者又ハ水夫ハ船内ニ於テ死傷者其ノ他異變アリタルトキハ其ノ旨直ニ警察官吏ニ届出ツヘシ
- 第十六條 水夫ハ船ノ運漕中他ノ船舶ニ近接シタルトキハ徐行スヘシ
- 第十七條 渡船營業者ハ船ノ破損セルモノハ速ニ改造若ハ修繕スヘシ
- 第十八條 橋梁修繕又ハ出水等ノ爲臨時渡船營業者ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 船名、數人共同ノ事業ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名
 - 二 渡船場ヲ設ケムトスル河川池沼ノ名稱
 - 三 渡船場ノ位置
 - 四 渡船場ニ接続スル道路ノ種類
 - 五 渡船ヲ爲サムトスル水面ノ間數
 - 六 渡船期間及其ノ終始
 - 七 船ノ種類、員數
 - 八 乘載人員
 - 九 搭載貨物ノ斤量
 - 十 客及貨物ノ渡船賃
 - 十一 渡船時間及其ノ終始
 - 十二 水夫ノ員數

【千葉警】

【千葉警】

- 一 住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱及業務擔當者ノ氏名、數人共同ノ事業ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名
- 二 渡船場ヲ設ケムトスル河川池沼ノ名稱
- 三 渡船場ノ位置
- 四 渡船場ニ接続スル道路ノ種類
- 五 渡船ヲ爲サムトスル水面ノ間數
- 六 渡船期間及其ノ終始
- 七 船ノ種類、員數
- 八 乘載人員
- 九 搭載貨物ノ斤量
- 十 客及貨物ノ渡船賃
- 十一 渡船時間及其ノ終始
- 十二 水夫ノ員數
- 第二十九條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シテハ第七條乃至第二十七條、第三十一條乃至第三十七條、第四十條、第四十一條ノ規定ヲ準用ス
- 第三十條 第二十八條ノ届出ヲ爲シタル者渡船ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第三十一條 警察官署ハ渡船場又ハ船ノ檢査ヲ爲シ破損若ハ第七條乃至第九條ノ設備ヲ缺キ又ハ第二十二條ノ掃除ヲ怠ルノ事實アリト認メタルトキハ之カ改造、修繕、設備若ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三十二條 渡船營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察官署ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
 - 一 故ナク營業許可ノ日ヨリ六十日以内ニ開業セサルトキ
 - 二 故ナク三十日以上休業シタルトキ
 - 三 本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキ
 - 四 渡船場附近ニ賃錢其ノ他報酬ヲ受ケサル橋梁ヲ架設シタルモノアル

- 第十三條 水夫ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ事實アリト認メタルトキハ警察官署ハ其ノ業務ヲ禁止若ハ停止スルコトアルヘシ
- 第十四條 強風、出水其ノ他ノ事故ニ依リ船ノ運漕上危險アリト認ムルトキハ警察官署ハ其ノ乗載人員又ハ搭載貨物ヲ制限シ若ハ水夫ヲ增加シ又ハ其ノ出船ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
 - 一 第二條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ第二十八條ノ届出ヲ爲サスシテ營業ヲ爲シタル者
 - 二 第二條第二項、第六條第一項ノ檢査ヲ受ケス又ハ之ニ合格セサル船ヲ使用シテ營業ヲ爲シタル者
 - 三 第十五條、第十九條乃至第二十一條、第二十三條、第二十六條ニ違反シタル者
 - 四 第三十二條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
 - 五 第三十三條ノ停止中業務ヲ爲シタル者
 - 六 第三十四條ノ制限、增加又ハ停止ノ命ニ違反シ出船シタル者
- 第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五日以下ノ科料ニ處ス
 - 一 第十四條、第十六條、第十七條、第二十三條ニ違反シタル者
 - 二 第三十一條ノ渡船場又ハ船ノ檢査ヲ拒ミタル者
 - 三 第三十七條、第九條、第十條、第二十五條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
 - 四 第三十八條、第四條、第五條、第三十條ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
- 第三十九條 渡船營業者ニシテ十四歳未滿ノ者又ハ禁治產者ナルトキハ前

三一五

四條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

第四十條 渡船營業者ニシテ法人又ハ數人共同ノ事業ナルトキハ第三十五條乃至第三十八條ノ刑ハ之ヲ其ノ業務擔當者若ハ代表者ニ科ス

第四十一條 渡船營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者等水夫以外ノ者ニシテ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カラルコトヲ得ス

附則

第四十二條 本則ハ明治四十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 従前ノ渡船營業者ニシテ本則施行後引續キ渡船營業ヲ爲サムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條 前條ノ許可ヲ受ケタル者本則施行前ノ使用ニ係ル船ヲ本則施行後引續キ使用スル場合ニ於テハ該許可ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第二項ノ検査ヲ受クヘシ

第四十五條 第四十三條ノ許可ヲ受ケタル者ハ該許可ノ日ヨリ三十日以内ニ第七條乃至第九條ノ設備ヲ爲スヘシ

第四十六條 第四十三條ノ許可ヲ受ケタル者ハ水夫ノ住所、氏名及生年月日ヲ具シ該許可ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四十七條 従前ノ水夫ニシテ本則施行ノ際十八歳ニ滿タスト雖モ前條ノ届出ヲ爲シタルトキハ本則施行後水夫ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 従前ノ水夫ニシテ本則施行ノ際滿六十歳以上ノ者ト雖モ第四十六條ノ届出ヲ爲シタルトキハ本則施行後滿三箇年間水夫ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 従前ノ水夫ニシテ第四十六條ノ届出ヲ爲シタル者本則施行ノ際滿五十八歳以上六十歳未滿ノ者ナルトキハ本則施行後尙滿三箇年間ハ水夫ヲ爲スコトヲ得

法第二百三十一條ノ所罰ヲ受ケルモノアルヘシ而シテ同條ハ親告罪ナルヲ以テ本則ニ對シ罰則ヲ設ケルハ聊權衡ヲ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ之方罰則ヲ設ケザリシモノニ付刑法其ノ他ノ法令ニ該ルモノハ之ニ依テ所罰ヲ加ヘ然ラサルモノハ行政處分ニ依リ相當ノ制裁ヲ加フルコトヲ要ス

四 規則第二十三條第二號ハ乞丐其他ノ浮浪者ヲ乗船セシムルコトヲ得サルノ規定アルカ故ニ此際篤ト渡船營業者ニ本條ノ規定ヲ示シ乞丐其ノ他ノ浮浪者ハ之レヲ渡船セシメサル様嚴重ナル注意ヲ加ヘ之力違反者ニ對シテハ適切ナル處分ニ出テ以テ浮浪者ノ侵入ヲ杜絶スルコトヲ要ス

渡船場取締ニ關スル件

(大正二年五月 保第五六四二號)

渡船營業取締規則第九條ニ依リ該營業者ハ渡船ノ見易キ箇所ニ乗載人員及搭載貨物ノ斤量並ニ渡船賃等ノ揭示ヲ爲スヘキハ勿論尙其ノ第十九條ニ於テ定員ヲ超過シテ客ヲ乗載シ若ハ制限斤量ヲ超過シテ貨物ヲ搭載スルコトヲ得サル旨規定シアリ然レニ營利ニ急ナル營業者ニ在リテハ右制限ヲ無視シ渡船ヲ試ムル者ナキヲ保セス而モ其ノ結果萬一不測ノ災害ヲ惹起スルカ如キコト有之候ニ於テハ獨リ交通上ニ不安ノ念ヲ與フルノミナラス延テ警察取締ノ不行届ニ聯想セシムルコトナシトセシ現ニ本月六日東京市本郷區湯島尋常小學校第三學年以上ノ生徒約二百五十名ハ校長以下職員引率ノ下ニ修學旅行ノ途次縣下東葛飾郡國府臺總寧寺公園ヨリ同所乘市渡船場ナリテ渡船ナリシ三回目ニ生徒二十七名附添人五名以外ニ教師一名ヲ乗載シ渡船中生徒ハ歡喜ノ餘リ期セスシテ一方ノ舷側ニ偏シ水中ニ手ヲ入レ戲レタル爲俄然船體傾斜シ遂ニ沈没ノ不幸ヲ見ルニ至リ其結果三名ノ生徒ハ溺死シ今尙多額ノ費用ヲ投シテ死體搜索中ニ係レリ而シテ之カ原因ハ主トシ

渡船賃錢額ニ關スル件

(大正八年八月 保第六七一三號)

大正三年九月七日付保第七二一八號通牒ノ渡船賃額標準ハ之ヲ廢止致候條爾今該賃額ハ水面ノ距離交通ノ狀況營業ノ維持等ヲ酌量シ相當ト認ムル程度ニ於テ認可セラレヘク此段及通牒候也

渡船營業取締ニ關スル件

(明治四十三年八月 保第六七八號)

本縣ニハ從來渡船營業取締規則ノ制定ナク單ニ明治三十三年十二月千葉縣令第九十八號渡船場ノ新設變更ノ場合ニ於ケル出願手續ト明治十年三月本縣達第百十八號渡船場ニ制札ヲ建設スル件ト明治十九年三月達乙第五十號渡船賃ヲ請求スヘカラサル件トアルノミニ過キス然ルニ東京埼玉及茨城ノ各府縣ト管轄ヲ境セル江戸川及利根川ニハ多數ノ渡船營業者アリ其其養老川小櫃川小糸川夷隅川並ニ印旛沼等ニモ亦該營業者アルカ故ニ今回之カ取締規則ヲ設ケラレタル義ニ有之候條右施行ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ御取扱相成度候

規則第二條第三項ニ依リ船尾ノ内部ニ許可書ニ記載シタル番號ノ烙印ヲ捺捺スル場合ニハ一、二又ハ三、四等ノ番號ヲ捺捺シ若一營業者ニシテ二以上ノ渡船ヲ有スル者ニ對シテハ一、二ノ一又ハ三、四ノ二等ノ符號ヲ捺捺スルコトヲ要ス

規則第七條及第八條ノ違反ニ對シテハ警察犯處罰令第二條第十三號ニ罰則ノ設ケアリ又規則第二十四條ノ違反ニ對シテハ傳染病預防法ニ罰則ノ設ケアルヲ以テ之レカ罰則ヲ設ケザリシモノニ付右ノ違反者ニ關シテハ該法令ニ依リ處罰スルコトヲ要ス

規則第十八條ニ所謂輕侮ニ涉ル言語形容其ノ他ノ行爲ニ關シテハ刑

〔千葉警〕

テ生徒ノ遊戯ニ在ルカ如シト雖モ亦全ク渡船夫及保護者等ニ責任ナシト云フ能ハス若シ夫レ其ノ際乗載人員ヲ制限シ且ツ兒童ノ遊戯ヲ戒ムル等適當ノ注意ヲ加ヘタリトセンカ斯ル慘事ヲ見ルコトナカリシヤモ知ルヘカラス果シテ然ラハ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ニ有之候就テハ爾來一層渡船場ノ取締ヲ勵行シ不測ノ危難ヲ豫防スヘキハ勿論尙ホ此際各渡船場ニ左記雜形ノ標示ヲ掲ケシメ一般渡船者ノ注意ヲ喚起スル様取計ヒ相成度候也

危険注意
船には
一、定員より多く乗らぬこと
二、多数乗込むときは皆腰を下し「しやがみ」居ること
三、船外に出した手は船外に出したり又動き騒ぎたりせぬこと

木札ノ寸法ハ適宜トス

艦船危難ニ罹リタル際軍艦ニ報告方ノ件

(明治二十四年一月 訓令第一號)

内外國艦船ニシテ本縣沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ郡役所町村役場又ハ警察署ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告スヘシ

又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ但海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ケナシ

海上衝突豫防ニ關スル注意ノ件

(明治二十九年六月 訓令第四十五號)

從來海難ニ因リ生命財產ヲ亡失セルモノヲ調査スルニ汽船ト和船若ハ漁船トノ衝突ハ成規ノ燈火ヲ標示セサルヨリ惹起スルモノ十中八九ニ居レリ元來明治二十五年法律第五號海上衝突豫防法ハ是等災害ナカラシメンカ爲ニ制定セラレタルニモ拘ハラズ和船若ハ漁船乗込員ニ於テハ往々該法ノ何タルヲ辨知セサルヨリ遂ニ不測ノ災害ニ罹リ船破損シ生命貨物モ共ニ亡失スルニ至ルハ寔ニ慨嘆ニ堪ヘサル次第有之依テ右等船乗込員ニ該法ヲ遵由セシメ必ス燈火ヲ標示候標篤ク諭示シ之カ災害ヲ避ケシムヘシ

不開港場寄港ニ關スル件

(明治三十四年十二月 內示甲第六號)

外國船舶ハ法律若ハ條約ニ別段ノ定アルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ遞信大臣ノ特許ヲ得タル場合ヲ除ク外不開港場ニ寄港スルヲ得サルコトハ船舶法第三條ノ規定スル所ニシテ若シ之ニ違反シタルトキハ同法第二十三條ノ規定ニ依リ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收スヘキモノトス然ルニ外國人中我國法ニ通セシテ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スニ非サル以上ハ外國船舶ト雖隨意ニ我各港ニ航行スルコトヲ得ヘシト誤解シ其禁ヲ犯ス者ナシトセス斯ル場合ニ於テハ篤ク國法ノ規定ヲ諭示シ過ヲ再セサシムルコトヲ屬メ尙ホ制止ニ服セサル者アハ相當ノ手續ヲ爲スト共ニ其旨報告セララルヘシ

海難届出ノ際調書作製ニ關スル

沈船報告 (記載例ハ朱書ニ據ルヘシ) (△印ハ朱書)
地區名
船主、船名
船ノ種類、長、吃水、噸數
△一物體ノ角度ヲ以テ示ス時ハ可成三物體以上ノ角度ヲ用ユ但シ二角度ナルトキハ沈船ヨリ外物體ニ向ヒ右方角左方角ナルヲ明記スヘシ
△一物體ノ方位ヲ以テ示ストキハ可成三方位以上トシ若シ二方位ナルトキハ其物體ヨリ沈船迄ノ距離ヲ記スヘシ
△萬一已チ得シテ右ノ諸法ニ據ル能ハサル事情アル時ハ經緯度若ハ島嶼山頂等ノ切合重合等ノ法ニ據ル
△一海軍省水路部刊行ノ海軍海圖ヲ有スルトキハ圖上ニ點記シ本報告ト共ニ送付スルコト

位置
△一船體水面上ニ現ハレ居ルトキハ潮時ニ對シ現ハルヘキ細狀
△一水面下ニ在ルトキハ潮時ニ對スル水深
△一浮標、旗、煙火或ハ番船等假設シアルヤ否
沈没點
△一潮時ニ對シ沈没點ノ水深海底質可成其附近ノ物ヲ併記スルヲ要ス
質及海底
△一石炭、石油、若クハ兵器等
沈没時ノ情
△一大氣模様一海流若クハ潮流ノ方向及其強弱ノ模様
△一其他當時ノ諸事情ヲ可成詳記スルヲ要ス
沈船變
△一變狀アリタルトキハ速ニ前記ノ例ニ據リ其詳狀ヲ報告スルコト
△一浮標番號等ノ變更アルトキモ之ニ準ス

件

(明治三十五年五月 訓示甲第三〇號)

海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ衝突、乗揚、觸礁等ノ海難ニ罹リタルトキハ當該船長ヨリ其地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ官署公署ニ届出ヲ爲シ之ヲ受理若ハ其事實ヲ認知シタル官吏公吏ハ明治三十年六月選信省令第十九號及ヒ同省訓令第三號ニ依リ當該海技免狀受有者及必要關係人ニ對シ事實ノ取調ヲナシ調書ヲ作り直ニ其ノ船籍港ヲ管轄スル地方海員審判所理事官ニ送致スヘキ管ナルニ近來沿岸警察官署ニ於テ海難ノ届出アルモ之ヲ受理シタル儘何等ノ取調ヲナサズ又其ノ事實ヲ認知スルモ何等ノ手續ヲナサ、ルモノアリ爲ニ當該海技免狀受有者ヲシテ不當ニ其ノ懲戒ヲ免レシムル場合ヲ生スルノミナラス是等閑ニ付スルトキハ任意ニ届出ヲナサ、ルモノヲ増加スルニ至ルヘク從テ海員懲戒法ニ於ケル船舶、貨物、旅客及海員ヲ保護スルノ精神ニ反スル儀ニ候條海難ニ罹リ若ハ他ヨリ到岸シタル海難船舶ニシテ未タ取調ヲ受ケサルモノヲ認知シタルトキハ届出ノ有無ニ拘ハラズ進ンテ事實ノ取調ヲ爲シ其調書ヲ送致シ若シ取調ヲナスコト能ハサル事出アリタルトキハ其旨ヲ附記シ海難届書ヲ必ス管轄地方海員審判所理事官ニ送致スヘシ

海難ノ際報告方ニ關スル件

(明治三十五年九月 訓示甲第四〇號)

海底沈没船舶ハ沈没位置ノ狀況及當該船舶ノ大小ニ依リ固ヨリ其ノ場合チ一ニセスト雖他ノ船舶ニ對シテハ通常暗礁ニ等シキ妨害ヲ與フルモノナルカ故ニ其精確ナル位置ヲ知り又其ノ曳揚ヲ了シタルトキハ速ニ之ヲ知ルノ必要有之候條自今沿海ニ於テ右等ノ場合ヲ生シタルトキハ出來得ヘキ限リ精査ヲ遂ケ別紙様式ニ依リ報告スヘシ (別紙様式)

沈船 (△一沈没船ヲ除去シタル時若クハ流失シタル時ハ速ニ其旨ヲ報告除去) スヘシ
年月日
警部長 宛
署 長

臺灣汽船職員懲戒取扱届出ノ件

(明治三十六年一月 訓令甲第二號)

明治三十五年十一月二日 臺灣總督府令第八十二號臺灣汽船職員懲戒取扱規則第一條第二條ノ届出アリタルトキハ之ヲ受理シ第三條ニ準據シ處理スヘシ

海上衝突豫防法ニ於ケル船舶區別標準

(明治三十年六月 指示)

客月十八日行發第七一號ヲ以テ本年三月海上衝突豫防法第七條第三項第四項ノ船舶區別標準届出ノ件ハ左ノ通り心得ラルヘシ
第三項第四項トモ船舶ノ構造ニ依リ帆ヲ主トスルカ又ハ機杼ヲ主トスルカヲ以テ決定スヘキモノトス
鴨川分署長何(明治三十年五月十八日)
本年三月三十日法律第四三號ヲ以テ海上衝突豫防法改正セラレ同年七月一日ヨリ施行セラレ、管ニ有之候處同改正ノ第七條第三項第四項ヲ閱スルニ其ノ第三項ニ於テ二、噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト機杼ヲ用ウルトニ拘ハラズ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一ヶ云々第四項ニ於テ機杼ヲ以テ運轉スル船ハ機杼ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラズ白色ノ燈籠一個云々ト有之即チ右兩項ニ於テ實體上帆船ニ機杼船トチ區別シ前者ハ兩

色燈籠後者ハ白色燈籠ヲ設備セシムルハ明カナリト雖モ實際ニ適用スル場
合ニ於テ何レハ帆船ナルカ何レハ檣樞船ナルカ往々其ノ區別分明ナラサル
モノ有之例ヘハ鯨釣船、鮪釣船、烏賊釣船、巾着網船、制網船、練網船、鮪釣
船ノ如キ實質上ニシテ相半ハスルノ構造ナリ而カモ多クハ十里内外
ナリト雖モ鮪釣船ノ如キハ時ニ數十里ノ遠洋ニ出ツルコトアリテ何レモ沿
岸ノ間ニ檣樞船用ユト雖モ沖合ニ出ツルニ從ヒ總テ帆船用キ運行スルハ常
ナリ即チ斯ノ如ク觀察シ一面ヲ取リ前項ノ諸船ヲ帆船ナリトセハ沿海漁業
ニ從事スル船ハ總テ帆船ナリト認メサルヘカラス又々一面ヲ取リ一般ニ檣
樞船ナリト認ムルモ帆、檣樞兩様ノ構造ナリ有シ遠洋ニ出ツルコトアルモノ
ニ於テハ稍穩カナラサル點モ有之ヘクト思料セラレ候就テハ前列記ノ鮪網
釣船、鯨釣船其他五種船ノ如キハ帆船ト認メ兩色燈籠ヲ設備セシムヘキヤ
今ヨリ準備法指示スルノ都合モ有之候ノミナラス各署兩様ノ見解ヲ異ニス
ル間ヘモ有之且ツ部内一二ノ町村役場ヨリ申出ノ次第モ有之候條右疑義ノ
廉至急何分ノ御指揮相成候様致度此段相伺候也

外國軍艦ニ對スル法律關係ノ件

(明治三十二年七月) (訓示甲號外)

外國軍艦ニ對スル法律上ノ關係ハ改正條約實施後ト雖帝國領海内ニ於テハ
從來ト毫モ異ナル處ナキヲ以テ開港以外ノ地點ニ寄港セントスルトキハ該
軍艦ハ其都度豫メ帝國政府ノ承認ヲ要スル義ニ有之旨其筋ヨリ通牒有之候
條爲念示達ス

船舶遭難ノ際遞信大臣ニ報告方ノ件

(明治三十八年六月) (訓示甲第一八號)

船舶ノ遭難ニ就テハ明治二十六年遞信省訓令第一號ノ次第モ有之事體ノ重
キモノハ遞信大臣ヘ電報々告スヘキノ處往々之ヲ爲サル向モ有之哉ニ相

聞ヘ候條爾今該當事件發生ノ場合ハ直ニ電報々告シ一面其旨本官ヘモ報告
セラレヘク將又明治三十年六月遞信省訓令第三號ニ依リ作製スヘキ海難事
件ノ顛末ハ詳細ニ且ツ迅速ニ調査シテ送致スル様注意スヘシ

(參考)

- 一 東京地方海員審判所方海難取調ニ關スル希望明治三十六年七月
海難ノ届出ニ接シタルトキハ其海難ノ種類及事件ノ大小ヲ問ハス
直ニ當該船舶乗組ノ船長若クハ事件ノ當事者タルヘキ者(相手船
タル漁舟舢舨ノ乗組人等ヲモ包含ス)及必要ナル關係人(當該
船舶ノ乗組員又ハ旅客等)ニ對シ海難ノ取調ヲナシ調査ヲ作成ス
ヘキコト

(參照)

明治二十九年四月法律第六十九號海員懲戒法○明治三十年六月二十六
日遞信省令第十九號海難等届出ニ關スル件○明治三十年六月二十六日
遞信省訓令第三號海難其他取調手續

- 二 海難ノ届出ニ接セサル場合ト雖モ海難船ヲ認メ若クハ其他ノ方法
ニ依リ之ヲ認知シタルトキハ直ニ前項ノ取調ヲナスヘキコト
- 三 海難調査ニ記載スヘキ事項ハ明治三十年六月二十六日遞信省訓令
第三號ニ規定スルモノノ外尙左記ノ事項ヲ附記スルコト
- 一 當該船舶ノ船籍港
- 二 當該船舶ノ總噸數若クハ積石數
- 三 海難發生ノ頻繁ナル地方ニ於テハ別紙ノ如キ式紙ヲ海難取調
ニ用ユル官署アリ依テ參考ノ爲メ添付ス
- 四 海難取調事項中事件ノ顛末ハ成ルヘク詳細ニ取調ヘ其ノ顛末ニ關
聯スル事項アルトキハ所定ノ事項以外ト雖モ取調記載スヘキコト
- 五 海難事件ノ發生カ天候風浪等ニ關係アルトキハ(例之濃霧暗夜暴
風激浪等ノ爲メ衝突乗揚沈没シタル等ノ場合)其ノ當時ノ實際ノ
狀況ヲ調査シ若シ當該船員ノ申立ト相違スルトキハ其詳細ヲ意見

書ニ記シ添付スヘキコト

- 六 夜間漁舟カ沖合ニ於テ汽船又ハ帆船ト衝突シタルトキハ漁舟ニ於
テ漁業上燈火ヲ表示シ居ラサリシ場合ト雖燈火ヲ掲示シ居タリト
主張スル習慣アリ依テ此ノ如キ事件發生シタルトキハ漁舟燈火ノ
有無ヲ精密ニ取調ヘ漁夫ノ陳述及舉動其他漁業上ノ習慣等ヲ綜合
シ漁夫申立ノ眞偽ニ關シ取調者ノ意見書ヲ添付アリタシ
- 七 海難調査ニハ左記ノ書類ヲ添付スルコト
- 一 當該船舶ノ船員ヨリ書面ニ依リ海難ノ届出タルトキハ其ノ届
書及關係書類ノ原本若クハ謄本
- 二 當該船舶カ受有シ居タル船舶検査證書ノ寫
- 三 衝突ノ場合ニ於テ相手船カ漁舟若クハ舢舨船ニシテ検査證書ヲ
受有セザルモノナルトキハ其船鑑札ノ寫
- 四 海難發生當日ノ航海日誌若クハ機關日誌ノ寫
- 五 沈没衝突坐礁乗揚等ノ場合ニ於テハ其位置水深及附近水面ノ
狀況并當該船舶ノ航行シタル針路等ヲ顯ハシタル圖面
- 六 前各項ノ書類ハ當該船員ニ調製提出セシムルモ妨ケナシ
- 七 船體ニ損傷ヲ生シタルトキハ其損傷部分ノ實況見分書及其略
圖
- 八 死傷者アリタルトキハ其死體檢案書及診斷書ノ原本又ハ謄本
夜間漁舟ト衝突シタル海難ニアリテハ其漁舟ニ於テ燈火ヲ掲
示シ置キタリト云フ位置ヲ現ハシタル船體ノ圖面
- 九 重大ナル海難事件發生シタルトキハ直ニ電報ヲ以テ管轄審判所理
事官ニ報知シ海難調査後ヨリ送致スルコト
- 十 海難調査ハ當該船舶ノ船籍港ヲ管轄スル地方海員審判所理事官ニ
送致スヘキコト但シ衝突ノ場合ニ於テ兩船其管轄ヲ異ニシタルト
キハ事件發生地ヲ管轄スル地方海員審判所理事官ニ送致スヘキコ
ト

(參照)

明治二十九年四月法律第六十九號海員懲戒法第十二條、第十五條○地
方海員審判所管轄區域ハ別表ノ通り

- 十 海難ニ罹リタル船舶カ直ニ發航シテ其取調ヲナスコト能ハサル場
合ニ於テ認知シタル事項及發航先等ヲ管轄審判所理事官ニ通知ス
ルコト
- 十一 海難取調ヲ受クヘキ船舶若クハ船員カ逃走シタルトキハ其方面
ニ於ケル警察官署ニ取調方ヲ依頼スルト同時ニ管轄審判所理事官
ニ電信ヲ以テ通スルコト
- 十二 理事官又ハ審判官ヨリ搜索又ハ取調ニ關シ電信報告ヲ依頼シタ
ルトキハ直ニ取調報告アリタシ此場合ニ於テハ審判所ヨリ現金又
ハ郵便切手ヲ以テ電信料ヲ返付スヘシ
- 十三 海技免狀受有者カ執職中刑事被告人トナルヘキ所爲アリタルト
キハ海員懲戒法ニ依リ處分ヲ受クヘキモノニ付海難取調ニ準シ調
書ヲ作成シ其告發ヲ爲シタル裁判所名及月日並ニ刑事事件名ヲ具シ
テ調査ヲ管轄理事官ニ送致スヘキコト
- 十四 水難救護法ニ依リ海難船ヲ認知シタルトキ其船舶カ總噸數二十
噸以上若クハ積石數二百石以上ノ日本船舶ナリシトキハ前各項ニ
依リ取調ヲ爲スヘキコト

海難取調書

取調ヲ受ケタ ル者ノ住所氏 名職業及年齢	遭難ノ種類 及ヒ名稱	船籍港	船長ノ住所 氏名	船長ノ職名	船長ノ海技 免狀種類番號
			總噸數若クハ積石數	登簿數	

集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 移民取扱人ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス但其ノ手數料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 一 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日内ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セス又ハ第七條ノ二ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ヲ取消又ハ其ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ

第二十條 一 移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ許リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シタル移民ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 一 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十七條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 一 第二十六條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二編 保安 行政 第四章 交通

其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 一 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 一 本法ニ於テ移民運送船ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル地方ニ渡航スル五十人以上ノ移民ヲ搭載スル船舶ヲ謂フ

第二十二條 一 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 一 行政廳ハ前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 一 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者ハ其ノ運送貨ニ關シ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第二十六條 一 行政廳ハ移民運送船ノ船長ヲシテ運送移民ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第二十九條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十一條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十二條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十三條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十四條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十五條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十六條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十七條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十八條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第三十九條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十一條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十二條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十三條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十四條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十五條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十六條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十七條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十八條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第四十九條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第五十條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第五十一條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第五十二條 一 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

移民保護法施行細則

第一章 移民
第一條 移民保護法第一條ノ勞働ハ農業、漁業、露領薩哈哇州、沿海州及勸

察加州沿岸ニ於テ行フ漁業ヲ除ク、鑛業、工業、土木、運搬、建築、炊事、洗濯、裁縫、理髮、給仕及看病等ニ關スル勞働トス

第二條 移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ渡航地、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ但シ寄留地ノ地方長官ニ出願スル場合ニ於テハ三箇月以上其ノ地ニ住居シタル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ連署シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ニ連署スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添付スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人

第五條 移民取扱人タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ商會社ノ場合ニ於テ合名會社ニ在リテハ總社員、合資會社ニ在リテハ無限責任社員、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添付スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ其ノ商號

二 營業所

三 營業資本金額

四 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

五 移民ヲ渡航セシムヘキ地

六 移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法

七 商會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款ヲ變更シタルトキ

移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉ハ一週間以内ニ其ノ地ノ地方長官ニモ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ズ

一 禁治產者及準禁治產者

二 剝奪公權者及停止公權者

三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

一 兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方

二 兼營スヘキ業務ト移民トノ關係

三 兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額

四 兼營スヘキ業務經營ノ方法

移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添付スルヲ要ス

第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ノ兼營ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定ムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添付シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ

七 出願者ノ履歷

八 出願者ノ財産但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財産、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役ノ株式引受又ハ所有額及財産並株式ノ總數及一株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額株式引受額及財産並株式總數及一株ノ金額

移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ讓受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ

二 合名會社及合資會社ニ在リテ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメムトスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歷書及財産調書、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財産調書ヲ添付スルヲ要ス

三 株式會社ニ在リテ取締役ヲ選任セムトスルトキ並資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

四 株式合資會社ニ在リテ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉

六 前數號ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項

第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

一 商號ノ新設、取得、變更又ハ廢止

二 開業ノ年月日

三 業務執行社員ノ選任及業務執行社員又ハ取締役ノ解任又ハ死亡

四 同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉

五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉

六 前數號ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項

受クヘシ
一 内地代理人ト海外代理人ノ別
二 代理人ノ履歷
三 代理人ノ財産
外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ
代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ
第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行為法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十三條 移民取扱人又ハ代理人ハ本店、支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ同長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ
第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ、移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證ヲ携帯スヘシ
代理人死亡シタルトキ、解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ
移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレタルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遲滞ナク其認可證ヲ當該地方長官ニ返納スヘシ
第十五條 業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルトキ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ
運滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留セル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ
歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所
轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員、取締
役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコト
アルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留セル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民
名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地、職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テ
ハ賃金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留セル
業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ運滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地
及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ移民募集地方別豫定表
ヲ添附シ豫メ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文
ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認
可ヲ受クヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ヲ募集ナク爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業
務執行社員若ハ取締役ノ在留セル地方ヲ除ク外代理人ナシテ募集ノ期
間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ
要ス

要ス

一 契約期限

二 手数料

三 渡航及歸航費用ノ支辨方法

四 賃金及賃金ノ支辨方法

五 渡航地ニ於ケル周旋方法

六 移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助又ハ歸國ノ方法

移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添附シ移民本籍
地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該
契約書寫ヲ添附シ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出テ且
其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニモ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ
爲スニ當リ該契約書寫ヲ添附スヘシ

主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原
本ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル契約書ヲ示ス
ヘキコトヲ命シタルトキハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキ
ハ移民取扱人ハ移民ノ渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留
地ノ地方長官ニ出願スヘシ

第二十七條 移民取扱人移民保護法第十五條ノ一ニ依リ豫定シタル移民ノ
出發期日ヲ移民ニ通知スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地
及移民出發港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十八條 移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代
表

理人ヲ在留セシムヘキ旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ

第二十九條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移
民ノ氏名ヲ其ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ但シ契約移
民ニ係ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三十條 移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移
民取扱人直ニ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留セル業務執行社員、取締役又ハ代理
人ハ運滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第三十一條 移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ調
製シ翌月五日迄ニ又附屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿
及死亡者名簿ヲ調製シ翌年三月三十一日迄ニ外務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條 外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合
規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス

第三十三條 本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ出願又ハ届出ヲ爲スヘキ場
合及第三十一條ニ依リ名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所
ヲ置ク地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ謄本一通ヲ添ヘ原本ト共ニ之ヲ地方長官
ニ差出スヘシ

第三章 保證金

第三十四條 移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ
置ク地ノ地方長官ニ納付スヘシ

第三十五條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣之
ヲ定ム

第三十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券又ハ地方債證券ヲ
以テ之ニ代用スルコトヲ得

前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ地方長官ノ定ム

第二編 保安 行政 第四章 交通

〔千葉縣〕

ル所ニ依ル本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人
ヲシテ之ニ依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民取扱人ノ保證金ノ増
額ヲ追納セシム又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶
豫ヲ與フルコトヲ得

第四章 移民運送船

第三十八條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方ハ外務
大臣之ヲ告示ス

第三十九條 移民保護法第二十二條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ
於テ五年以上十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ、二年以上五年未滿ノ者ハ四
人ヲ以テ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

第四十條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ
詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國
運送業者ニ在リテハ帝國内ニ在ル其ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ
外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ船籍證書寫並移民運送船備船ナ
ルトキハ備船契約書寫ヲ添附スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ其ノ商號

二 本店所在地

三 移民運送船

四 船長ノ國籍、住所、氏名

五 移民乗船港、到着港並寄航港

六 移民乗船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數

七 營業資本金額

八 運送スヘキ移民ノ豫定人員

同一運送業者カ同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上同一ノ願書
ニ併記スルコトヲ得

外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歷書、商會社ニ在リテハ其ノ定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四十一條 第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ港ヘ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ユル期間ニ互ルコトヲ得ス

第四十二條 外務大臣移民運送船ニ依ル移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條 第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條ノ手續ニ準シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

前項ノ運送業者第四十條第一項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ運送ナク同條ノ手續ニ準シ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船長ニ交付スヘシ

移民運送船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示スヘシ

第四十五條 移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ運送ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ第四十一條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間満了シタルトキ亦同シ

第四十六條 移民保護法第二十條ノ第三項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額ハ外務大臣隨時ニ之ヲ定ム

前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ

本條ノ保證金ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金錢貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

〔千葉縣〕

之ト同等以上ノ資産ヲ有シ營利的關係無キ者ニ限ル

第六章 罰則

第五十六條 第六條、第十條、第十三條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十八條、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項第二項、第二十五條、第二十七條、第三十條、第三十一條、第四十三條、第四十四條又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第七條、第十一條第三項、第十五條、第十九條、第二十條、第二十九條、第四十五條、第四十九條又ハ第五十條ニ違反シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十八條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第五十九條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ帝國總領事館、領事館又ハ貿易事務館ヲ謂フ總領事館、領事館、貿易事務館ナキ地ニ於テハ帝國大使館及公使館ヲ謂フ

第六十條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年外務省令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔千葉縣〕

〔沿革〕明治四二年五月縣令第三七號改正

第一條 移民保護法及同施行細則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第一條ノ二 移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ移民保護法施行細則第二條ニ依ル外最近ノ撮影ニ係ル寫眞二葉ヲ添ヒ且ツ出發港ヲ願書ニ記載ス

第二條 移民保護法第三條ノ保證人ハ直接國稅年額五圓以上ヲ納メ若クハ

第十條 本則第三條、第四條、第八條、第九條ニ違背シタル者ハ科料ニ處

明治三十三年六月外務省令第二號外國旅券規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●外國旅券規則施行細則

(明治四十年三月 縣令第二十六號)

- 第一條 外國旅券規則ニ依リ差出ス書面ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
第二條 旅券ノ下付ヲ請フ者ハ外國旅券規則第二條ニ定ムル外左ノ事項ヲ願書ニ記載シ履歷書及眼病ノ有無ニ付醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
一 滞在年限
二 兵役關係
第三條 戶主ト同行セル家族、夫ト同行スル妻又ハ父若ハ母ト同行スル子ニシテ旅券ノ下付ヲ受ケントスルトキハ一通ノ願書ニ其旨ヲ併記スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ戶主、夫、父母ノ旅券ニ其ノ同行者ノ氏名、身分及年齢ヲ併記ヲ受ケントスル者ハ願書中ニ其旨併記スヘシ但シ夫ト同行スル妻ヲ除ク外成年未滿ノ者タル場合ニ限ル
第四條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十九年千葉縣令第九十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●外國旅券下付願ニ關スル件

(明治三十九年十二月 內訓第一七號)

- 一、外國旅券規則第十條各號ノ事項
二、本人ノ履歷書
三、渡航後ニ於ケル目的確否
四、目的ヲ達セムトスル手段方法
五、本人若ハ戶主ノ資産額
六、渡航費並滞在費ノ金額及其ノ出所

- 三 右ノ外參考トナルヘキ事項
四 許否ノ意見
注意事項

- 一 本文ノ取扱ニ依ルヘキ者ハ北米合衆國及其ノ領地タル布哇、比律賓群島英領加奈陀ニ再渡航スル者ニシテ右ニ關スル在外帝國領事ノ發給シタル證明書ヲ有スル者ニ限ル但本邦ニ歸來後滿一箇年半以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ再渡航者トシテ取扱フヘキ限リニ在ラス
二 前項ノ如ク前在留地ニ赴ク再渡航者ニ限ラル、ナリテ新ニ妻子等ヲ帶行スル者及前在留地以外ニ赴ク者ニ對シテハ普通ノ手續ニ依ルヘキハ勿論ナリトス

●海外渡航ニ關スル件

(大正二年一月 保第二號)

北米合衆國本土及布哇、比律賓群島ニ渡航スル本邦人ニ對シ同國移民官ニ於テ十二指腸蟲病ノ検査ヲ執行セラルル義ニ關シテハ屢々通牒シタル次第モ有之候處米國政府ニ於テ本年一月一日以後ハ該罹病者ニ對シ從前ノ如ク上陸受療ヲ許サス直ニ本國ニ送還スルコトト相成候趣ニ付テハ乗船港ニ於ケルトラホーム検査ノ例ニ倣ヒ神奈川、兵庫、長崎ノ三縣廳ニ特置スル海外渡航者検査醫ナシテ十二指腸蟲病有無ノ検査ヲ施行セシムル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候ニ付本月十一日以降出願ニ係ル前記地方ニ渡航スル者ニ對シテハ左記各項ニ依リ取扱相成度候也

- 一 北米合衆國本土及布哇、比律賓群島渡航者ニ對シテハ十二指腸蟲卵検査ノ爲豫備検査ト本検査トヲ執行スルニ付非移民ト雖モ願書ニ出發港ヲ明記セシムヘシ
二 豫備検査
(イ) 當廳ニ於テ願書受理ノ上渡航許可若ハ旅券下付スヘキ見込ノ者ニ

- 七、補助ヲ他人ノ資力ニ仰ク者ハ其ノ契約ノ確否
八、兵役忌避ノ疑ヒアル者ナリヤ否
九、其ノ他必要ト認ムル事項

●米加再渡航者旅券下付簡易取扱

(明治四十五年三月 保第三七六號)

方ニ關スル件

北米合衆國本土並其ノ領地タル布哇、比律賓群島及英領加奈陀ニ在留シタル者ニシテ在外帝國領事ヨリ再渡航ニ關スル證明書ノ下付ヲ受ケ一時本邦ニ歸來ノ後該證明書ヲ添付シ前在留地ニ再渡航スル爲旅券ノ下付ヲ出願スル者ニ對シテハ特ニ簡易ノ取扱ニ依ルヲ適當ト認メラレ候ニ付テハ將來右ニ該當スル者ヨリ提出スル渡航旅券下付願ニ關スル書類ノ形式ハ外國旅券規則所定ノ事項ヲ充サシムルヲ以テ足レリトシ(戶籍謄本ノ添付ヲ要ス尙移民ニ在リテハ戶籍謄本ノ外出發港ヲ願書ニ明記セシメ且ツ最近撮影ニ係ル寫眞ニ葉ヲ添付セシムルコト) 出願人前科ノ有無、資産又ハ納稅額等ニ關スル町村長ノ證明書、戶主ノ同意書、保證人ヲ立テ保證書ヲ差出サシムルカ如キ添付書類ヲ作成セシムルコトハ一切省略シ且ツ身元内查ハ明治三十九年十二月內訓第十七號ニ據ルコトナク左記内查事項ニ付内查ヲ遂ケ副申書添付進達可有之候也

追テ本文ノ趣旨ハ再渡航ヲ許可スルモ差間ナキ者ニ可成便宜ヲ與ヘムトスルニ止マリ從來採リ來リタル方針ニ何等差異ナキハ勿論取テ手心ヲ緩ムルノ旨意ニハ無之候尙亦左記注意事項ヲ參照シ取扱上過誤ナキ様致サレ度爲念申添候

左記

- 一 出願人ハ本人ニ相違ナキヤ又他人ニ名義ヲ假スカ如キコトナキヤ
二 本邦ニ歸來セル年月日並其ノ後ノ行動

〔千葉警〕

對シテハ其ノ旨通牒スヘキニ依リ該通牒ヲ受ケタルトキハ直ニ出願人ニ對シ自己ノ糞便ヲ直接出發港(願書ニ記載シタル)管轄縣廳ニ送付セシメ豫備検査ヲ受ケシムヘシ(受檢ニ關スル詳細ノ手續ハ其筋ヨリ通知アル管ニ付進テ通牒ノ見込)

- (イ) 豫備検査ノ結果ハ出發港ノ検査醫ヨリ當廳ニ通知アルヘキヲ以テ豫備検査アリト認メタル者及十二指腸蟲卵ト酷似ノ寄生蟲卵ヲ有スル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ其ノ瓶移標スヘキヲ以テ直ニ此ノ旨本人ニ通知シ驅蟲療法ヲ受ケシムヘシ

- (ロ) 豫備検査ノ結果蟲卵保有者ト認メラレタル者醫師ニ就テ驅蟲療法ヲ行ヒ顯微鏡的検査ノ結果糞便中ニ蟲卵ヲ認メサルコトヲ記シタル醫師ノ證明書ヲ提出シタルトキハ之ヲ進達スヘシ

- (ハ) 再渡航者ニシテ歸朝後一箇年以内ニ出發スル者ニ對シテハ豫備検査ヲ省略セラルヘキニ付再渡航者ニ關シテハ歸朝年月日及出發豫定期日ヲ調査シ副申書ニ附記セラルヘシ

- (ニ) 豫備検査ヲ受ケタルコトヲ得サル正當ノ事情アリト認メタル出願者ニ對シテハ豫備検査省略ノ承認ヲ與フルコトアルヘキニ付其ノ理由書ヲ提出セシムルト共ニ事實調査ノ結果ヲ詳具シ進達セラルヘシ

三 本検査

豫備検査ニ合格シタル者及前記(イ)號又ハ(ホ)號ニ該當シ承認ヲ與ヘタル者ニ對シテハ出發港(願書ニ記載シ)ノ管轄縣廳ニ於テ更ニ糞便検査ヲ行フニ付乗船出航日四日以前(十日ニ出航日ト假定スレハ六日ヲ最終到着日トナスカ如シ)ニ當該縣廳ヘ到着シ其ノ検査ヲ受クヘキ旨旅券下付ノ際必ス注意ヲ與ヘラルヘシ

四 一等船客ニ對シテハ豫備及本検査共ニ省略セラルルコト可有之ニ付一等船客タルヤ否ヤニ關シテハ渡航出願者ノ申立及其ノ身分、地位等ニ鑑ミ適宜認定ノ上是又副申書ニ附記セラルヘシ

海外渡航者検査ニ關スル件

(大正二年一月 保第二六〇號)

北米合衆國本土及布哇、比律賓群島渡航者ニ對スル十二指腸蟲病検査執行ノ義ニ付本月九日付保第二號ヲ以テ及通牒置候處右検査ニ關シテハ左ノ通取相成度候也

- 一 渡航許可若ハ旅券下付スヘキ見込ノ者ニ對シ豫備検査ヲ受ケシムヘキ旨ノ通牒ニ接シタルトキハ直ニ出願人ナシテ自己ノ糞便ヲ出發港ノ管轄縣廳(警察部海外渡航者検査掛)ヘ宛テ送付セシムヘシ
二 糞便輸送ニ要スル容器ハ内務省ヨリ當廳ニ送付セラルヘキ旨ニ付該容器ヲ無代價交付ノ豫定ナリト雖モ之ヲ交付スル迄ハ出願人ナシテ適宜ノ容器ヲ自辨セシメ左記各號注意ノ上送付セシムヘシ
(イ) 検査用糞便ノ量ハ梅干大ナルヘキコト
(ロ) 糞便ニハ水又ハ消毒藥等他ノ物品ヲ入レサルコト
(ハ) 丈夫ナル硝子壺又ハ罐等ニ入レテ密封シ之ヲ再ヒ木箱等ニ收メ破壞セサル様包装スルコト
(ニ) 包装其ノ他適當ノ箇所ニ願書ヲ提出シタル縣廳名並自己ノ住所、氏名ヲ明記スルコト
三 豫備検査ノ結果蟲卵保有者ト認メラレタル者ニシテ驅蟲療法ヲ行ヒ糞便中ニ蟲卵ヲ認メサル旨ノ證明書ヲ提出スルニ付醫師ノ行フヘキ顯微鏡的検査(本月九日付保第二號通牒中豫備検査ノ項(ハ)號參照)ハ別紙糞便中ニ於ケル十二指腸蟲卵檢出法ニ據ラシムヘシ

海外在留者送金額等調査ニ關スル件

(明治四十五年一月 保第八七六號)

部民ニシテ海外ニ在留セル者アリタルトキハ其ノ送金額等毎年十二月末日調ナ以テ別紙様式ニ依リ作製シ翌年一月二十日迄ニ報告相成度候也

Table with columns: 送金ノ方法, 人, 員, 送金額. Rows include 外國郵便爲替, 日米銀行爲替, 正金銀行爲替, 日本銀行爲替, 三井銀行爲替, 香港銀行爲替, 其他ノ銀行取扱, 歸朝者ニ委託セルモノ.

備考 一、本表ハ各所轄内ニ於ケル本縣民ニシテ其ノ郷里ニ送金シタル人員、金額ヲ計上スルモノトス

参考

糞便中ニ於ケル十二指腸蟲卵檢出法
糞便少量ヲ適宜ノモノヲ以テオブエクトグラスノ二ヶ所ニ塗布シ後デツキグラスヲ乗セ小指爪甲ニテ蟲卵ヲ破損セサル程度ニ於テ輕ク厭シ弱度ノ擴大力ニテ鏡檢スヘシニ枚乃至三枚ノオブエクトグラス標本ニ付テ検査シ陰性ノ場合ニハ次ノ方法ヲ行フヘシ
矢尾板誠策氏法 糞便ノ各部ヨリ豌豆大ノ糞塊五個ヲ試験管内ニ取り二五%ノ「アンチフォルミン」溶液約五、〇ccノ「エーテル」ヲ加ヘテ強ク振盪シ或ハ三十七度ノ孵卵器内ニ約一時間放置シテ糞塊ヲ乳劑様トナシ後五、〇ccノ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ之レヲ「ガーゼ」ニテ濾過シ其ノ濾液ヲ遠心器ニテ一分間回轉シテ沈澱セシメ其最下層部ヲ「ピペット」ニテ吸取シ檢スヘシ
參考トシテ他ノ試験法ヲ左ニ記載ス矢尾板氏法ヲ行フヲ得サルトキハ之ヲ用ウルモ妨ケナシ
(一) バツス氏新法 可檢糞便ニ約十倍ノ水ヲ加ヘテ乳劑様トナシ「ガーゼ」ニテ之ヲ濾過シ其ノ濾液ヲ遠心沈澱セシメ上層ヲ棄テ更ニ水ヲ加ヘテ本作業ヲ反覆シ以テ溶解性物質ヲ去リ其ノ沈澱物ニ一、二五ノ比重ヲ有セル鹽化「カルシウム」溶液ヲ加フル時ハ蟲卵ハ比較的多數ニ液ノ表面部ニ浮遊スルヲ以テ之ヲ検査ス
(二) 宮川米次氏ノ「テレマン」氏變法 試験管ニ糞便ノ各部ヨリ約三瓦程ノ糞塊ヲ取り純鹽酸ヲ二倍ト三倍ニ稀釋セシモノノ七、〇ccヲ加ヘ栓ヲ施シテ強ク振盪シテ乳劑様トナルヲ待テ後更ニ「エーテル」ノ等量ヲ加ヘ栓ヲ施シテ輕ク振盪シ栓ヲ抜キテ生シタル瓦斯ヲ放散セシメ後更ニ栓ヲナシ兩三回振盪シテ鹽酸層ト「エーテル」層トヲ混和セシメ之レヲ「ガーゼ」ニテ濾過シ其ノ濾液ヲ約二分間遠心器ニテ處理シ其ノ沈澱物ヲ「ピペット」又ハ代用品ニテ吸取シ

- 二、當年中歸國シタル者ト雖モ同年内海外在留申送金シタル事實アレハ其ノ人員金額ヲ計上スルモノトス
三、送金額ノ計ハ別表外國在留人員送金額調査表ノ送金額計ト符合スルモノトス
四、金額ハ一二三等ノ數字ヲ用キテ記入シ圓位ノ右側下ニ(、)ヲ附スヘシ

Table with columns: 外國在留人員送金額調査表. Rows include 北米合衆國, 米領布哇, 英領加奈陀, 南米秘魯, 南米伯刺西爾, 何々, 計.

備考

- 一、國籍ハ細別シテ記載スルモノトス例ハ南米ニ在リテハ伯刺西爾、智利、秘魯、亞爾然丁等ニ區別スルカ如シ
- 二、外國在留人員欄ニハ各所轄内ニ於ケル當年末現在本縣民在外者ヲ計上スルモノトス
- 三、送金額欄ニ何々トアル箇所ニハ一例ヲ示シタルカ如ク別表在外者ヨリ送金額調査表ニ據ル送金ノ方法ヲ記載スルモノトス
- 四、當年中歸國シタル者ト雖モ同年内海外在留中送金シタル事實アラハ其ノ金額ヲ計上スヘシ故ニ送金額ノ計ハ別表在外者ヨリ送金額調査表ノ送金額計ト符合スルモノトス
- 五、金額ハ一二三等ノ數字ヲ用キテ記入シ圓位ノ右側下ニ「」ヲ附スヘシ

新米國移民法實施ニ付渡米者ニ關スル件

關スル件

(大正六年六月 保第三五〇六號)

這回北米合衆國ニ於テ移民法改正セラレ客月一日ヨリ法律トシテ實施セラレ、コトニ相成候ニ付今後本邦ヨリ渡米スル者ニ對シ其ノ移民ト非移民トノ區別ナク一様ニ適用セラル、次第ニ有之候條左記ニ據リ取扱ハル、ヘシ

- 第一(イ)米國上陸ノ際文字試驗ニヨリ入國ヲ拒絕セラル、者ハ左ノ如シ
 - (甲)前項ノ文字試驗ヲ免除セラル、者ハ左ノ如シ
 - (甲)在米邦人ノ呼寄ニ係ル父又ハ祖父ニシテ五十五歳以上ノ者
 - (乙)同上呼寄ニ係ル妻、母、祖母、未婚若クハ夫ニ死別レタル娘
 - (丙)引續キ滿五ヶ年以上米國ニ在留シタル者カ出發後六ヶ月以内ニ歸

米シタルトキ

- (丁)旅行 途次單ニ米國ヲ通過スル者又ハ米國ノ一地方ヨリ他國ヲ通過シテ再ヒ米國內ニ入國スル者
- (戊)帝國官吏並ニ其ノ屬僚家族又ハ賓客
- (己)合衆國法律ニ依リ公認セラレタル同國博覽會ニ關係シ同國ニ赴ク者

第二 文字試驗ハ米國勞務局長官ノ指定シタルモノニシテ三十五語乃至四十語ヲ以テ成レル印刷物ニヨリ行ハルヘキニ付米國上陸ノ際文字試驗ヲ受クヘキ者ニシテ尋常小學校卒業又ハ之ト同程度ノ學力ヲ有セサル旅券下付願者ニハ之ヲ下付セサルコトニ取扱致居候ニ付無教育者ノ調査方ハ明治三十九年十二月二十五日付内訓第一七號内偵書ノ一項目トシテ一々調査明記セラルヘシ

寫眞結婚婦人ニ對シ渡米旅券下付廢止ノ件

寫眞結婚婦人ニ對シ渡米旅券下付廢止ノ件

(大正八年十二月 保第九四一〇號)

所謂寫眞結婚婦人ノ北米合衆國本土行旅券ハ來ル大正九年三月一日以後一切發給セサルコト相成候ニ付爾今之ニ關シテハ左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也

- 一 當願ニ於テ夫ノ呼寄ニ依ル寫眞結婚婦人ノ渡米旅券下付願書ノ受理ハ大正九年二月二十五日迄其ノ旅券發給ハ同月末日限トシ以後一切發給セス

〔千葉警〕

- 二 大正九年二月末日以前ニ旅券下付ヲ受ケタル夫ノ呼寄ニ依ル渡米婦人ニシテ六ヶ月以内ニ出發シ能ハサリシ爲再下付ヲ出願セルモノニシテ寫眞結婚婦人ナルニ於テハ三月一日以後再下付ヲ爲サス
- 三 本通牒ニ寫眞結婚トハ男力米國ニ在リ女カ日本ニ在ル間ニ結婚入籍シタルモノヲ云ヒ其ノ曾テ相識ノ間ナルト否トヲ問ハス又必シモ寫眞ノ交換ニ依リテ結婚シタルモノノミヲ意味スルモノニアラス但シ男力米國ニ在リ女カ日本ニ在リテ結婚入籍シタル者ト雖其ノ後夫カ一度歸國シタル場合ハ其ノ同伴渡航スルト夫ノ前ニ渡航シ後ヨリ妻ヲ呼寄スルトニ不拘之ヲ寫眞結婚ト看做サス
- 四 今後夫ノ呼寄ニ依ル妻ノ北米合衆國行旅券下付願書ヲ受理シタルトキハ副申ニ明治三十九年十二月二十五日內訓第一七號各項ノ外寫眞結婚ノ有無ヲ調査記載スルコト

再渡航旅券下付願ニ關スル件

(大正九年二月二日 保第六二二號)

寫眞結婚婦人ノ北米合衆國本土行旅券ハ來ル三月一日以後一切發給セサルニ關シテハ客年十二月二十四日保第九四一〇號ヲ以テ及通牒置候處其結果在外者ノ妻ヲ呼寄セムトスルニハ一時歸國スルノ已ムヲ得サルコトト相成將來迎妻ノ爲歸國モ再渡航ヲ出願スルモノ多カルヘク然ルニ客年九月徵兵事務條例並ニ同施行細則改正セラレ同年十二月一日ヨリ施行セラルコトト相成候爲徵兵令第二十三條ノ二依リ徵兵猶豫中ノ者ハ同事務條例施行細則第一九六條ノ規定ニ基キ毎年四月十六日ヨリ七月三十一日迄ノ間ニ歸國シタル者ハ令第二十三條ノ二第二項ニ依リ徵集セラレ右期間以外ニ歸國シタルモノハ毎年滞在三十日(内地港灣上陸ノ日ヨリ同出發ノ日迄)一回限徵集延期ノ資格アル外國ニ在ルノ事由繼續スルモノト看做サルコトト相成候故此種渡航出願者ハ必該期間内ニ出發セサルヘカラサルニ付右願書

〔千葉警〕

ヲ受理シアルトキハ特ニ兵役關係ノ有無ヲ調査シ徵兵猶豫中ノ者ナルニ於テハ可成迅速(調査事項明治四十五年三月保第三七六一號各項ノ事項ニテ足レリ)ニ進達相成度現ニ某署ニ於テハ此種再渡航ノ願書ヲ受理シ故ナク之ヲ停滯セシメ出發期日ニ切迫シテ進達シタル爲當願ニ於テハ正規ノ手續ヲ爲ス能ハス事實調査ノ上特ニ簡易取扱ヲ爲シ辛フシテ旅券ヲ發給シ得タル實例モ有之右ハ出願者ノ權利義務ニ至大ノ影響ヲ及ホスコトトモ相成候條特ニ注意セラルヘク此段及通牒候也

第五章 社寺、宗教、兵事

第一節 社寺

●神輿昇出ノ節整肅ヲ要スル件

(明治九年九月 乙第二二九號)

神社祭禮ノ節神輿ヲ昇出シ候儀祭式ノ一典ニ付禮敬ヲ盡シ可申管ニ候處從來ノ弊習ニテ多人數ニテ相昇練行ト唱ヘ急進又ハ逆退候ヨリ或ハ挫傷候者モ出來致シ又與下ト相成候者揃ノ衣裳ヲ爲シ又ハ奇怪ノ粉色ヲナシタル襦袢等ヲ著シ甚シキハ裸體ニテ相昇候者有之哉ニ相聞實ニ神靈ヲ褻瀆シ不相濟儀ニ付已來ハ與下ト相成候者著シ人數モ昇クニ堪フヘキ程ノ者ヲ用ヒ彼ノ急進退等ノ狂體ヲナサス必ス整肅ニ神事ヲ執行シ尊敬ノ意ヲ表シ候様神官ハ勿論區内無洩懇示可致此段諭達候事

●神輿渡御ノ節古例アルモノハ帶

刀スルヲ得ル件

(明治十一年六月 甲第三十五號)

縣社以下諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ專ラ古大ノ裝飾ニ模擬シ神輿ニ供奉致候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限帶刀不苦候尤モ其都度所轄警察署ヘ可届出候此旨布達候事但普通祭服著用ノ者帶刀不相成儀ハ勿論タル可コト

●神輿渡御練物ヲ爲スハ届出ヲ要スル件

スル件

(明治十一年六月 甲第三十六號)

神社祭例ノ節神輿渡御或ハ練物等差出候節ハ其都度可願出旨九年縣廳甲第一

〔千葉警〕

六十七號ヲ以テ及布達候處自今出願ニ不及候條所轄警察署又ハ分署ヘ可届出候尤モ例祭届ノ儀モ自今同署ヘ差出候儀ト可相心得此旨布達候事但神社臨時祭佛寺臨時開扉等願出候儀ハ從前ノ通尤モ執行日限ハ警察署又ハ分署ヘ可届出事

●神社寺院守札及神佛號ヲ記載セ

ル畫像等出版ニ關スル件

(明治十五年十一月 甲第一三九號)

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ニ候條此旨布達候事

●寺院佛像開扉開帳ニ關スル件

(明治二十四年九月 縣令第五十三號)

寺院ノ佛像ヲ開扉開帳セントスルトキハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院連署ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ其ノ他府縣ヘ持出シ開帳セントスルトキハ尙本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シテ本縣ヘ願出且其持出地管廳ヘモ願出ヘシ但賣物ヲ持出スコトヲ得ス

●縣社以下祭典神輿渡御ニ關スル件

(明治四十二年六月 訓令甲第十四號)

縣社以下神社祭典ノ際神輿ノ渡御ハ嚴肅ニ執行シ且ツ其ノ昇夫ハ左ノ制限ニ依ラシムヘシ 一 昇夫ハ烏帽子及白丁ヲ著用セシムヘキコト

- 二 昇夫ハ丁年以上ノ男子ヲラシムヘキコト
- 三 昇夫ニハ前科者ヲ加ヘシメサルコト
- 但シ悔悛ノ情顯ハレタリト認ムルモノハ此限ニアラス
- 四 昇夫ノ人員ハ神社毎ニ一定セシムヘキコト

● 社寺ニ關スル規程 (明治四十五年四月 縣令第四十八號)

(沿革) 大正元年一月二日縣令第一二二號改正

第一章 總則

第一條 社寺ニ關スル事項ハ特別ノ規定アル場合ノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ社寺ト稱スルハ縣社以下神社、境外分社、同進拜所、招魂社及寺院、佛堂並ニ祠宇ヲ謂フ

第三條 社寺ハ從前社寺明細帳ニ登錄セラレタルモノ、外將來創建、再興、復舊其ノ他ノ場合ニ之ヲ登錄ス

社寺明細帳ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 神社ハ所在地名、社格、社名、祭神、由緒、社殿其ノ他ノ建物、境内地、境内神社、境内進拜所、氏子又ハ崇敬者
- 二 寺院ハ所在地名、本山又ハ本末寺ノ別、宗派、寺名、本尊、由緒、堂宇、其ノ他ノ建物、境内地、境内佛堂、境内庵室、境外所有地、檀信徒

社寺明細帳ノ脱漏又ハ登錄事項ノ誤脱ヲ發見シタルトキハ其事由ヲ具シ其事實ヲ確認スヘキ處據及脱漏ニ關シテハ前項登錄事項ノ明細書ヲ添ヘ編入若ハ更正ノ登錄ヲ知事ニ申請スヘシ

前項ノ外登錄事項ノ異動ハ知事ノ許可ヲ受ケルモノ、外ハ其都度之ヲ知事ニ届出ヘシ

第二章 興廢

第四條 社寺ノ創建再興、復舊移轉、廢合及社寺號改稱ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 創建、再興、復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的
- 二 維持方法及基本財産
- 三 再興、復舊ニ關シテハ當初廢絶合併ノ年月日及其ノ事由
- 四 神社ノ分社及進拜所ノ建設ニ關シテハ本社ノ承諾書
- 五 社殿堂宇諸建物、坪數、圖面並ニ設計仕様書
- 六 費額及財源
- 七 境内坪數及社寺有又ハ共有ノ別
- 八 廢合ニ關シテハ跡地、建物、寶物、貴重品、什器、其ノ他財産ノ處分
- 九 發起者ノ人員
- 十 社寺明細帳登錄事項ノ明細書

前項ノ規程ハ邸内社堂ノ公認及寺號公稱等ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 社寺ノ建物及境内地ハ古來ノ制式又ハ從來ノ區域ヲ變更セサルモノトス其ノ改築、模様替又ハ特別ノ事情ニ依リ區域ノ變更ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ事由及前條第一項五號乃至七號ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 前各條ニ依リ社寺ノ創建、再興、復舊、其他許可ヲ受ケタルモノハ二ケ年以内ニ完成スヘシ其期限ヲ過クル場合ニ於テハ更ニ期限ヲ定メテ知事ノ許可ヲ受クヘシ

社寺ノ建物變災ニ依リ全部損壞シタルトキハ五ケ年以内ニ再建スヘシ

社寺ノ創建、再興、復建及再建ニシテ前各項ノ期限ヲ過クルトキハ其許可ヲ取消シ社寺明細帳ヲ削除スヘシ

第七條 前條ノ完成ハ總テ之ヲ知事ニ届出ヘシ

第三章 社寺總代人

第八條 社寺ハ其氏子、崇敬者、檀徒又ハ信徒中ヨリ名望、資産ヲ有スル

七 其ノ他神職又ハ住職ノ協議ニ關スル事

第四章 管理

第十三條 社寺ノ維持經營ニ關スル一切ノ事項ハ神職又ハ住職ノ管掌トス

第十四條 社寺ノ建物及境内地ハ修理及整理ヲ怠ラズ其莊嚴ヲ失セサルヘシ

第十五條 社寺ハ其取締及防火其ノ他非常警戒ノ方法ヲ設クヘシ

社寺ノ建物變災ニ罹リ若ハ寶物ヲ失シタルトキハ速ニ知事ニ届出ヘシ

第五章 財務

第十六條 本章ニ於テ社寺財産ト稱スルハ神社ニ在テハ登錄財産、貴重品、什器及金穀、寺院ニ在テハ不動産、寶物、古文書、什器及金穀等ノ類ヲ謂フ

第十七條 社寺財産ノ管理及處分ニ關シテハ氏子、崇敬者、檀徒又ハ信徒總代人ノ協議ヲ經ルモノトス社寺ノ負債ニ付亦同シ

第十八條 寺院財産ヲ擔保ニ供シ又ハ處分セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

寺院ノ寶物、古文書ハ擔保ニ供シ又ハ處分スルコトヲ得ス由緒アル土地建物等亦同シ

第十九條 前條第一項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ目的物ノ名稱、員數、價格及事由ヲ詳具スヘシ

第二十條 寺院ノ財産ヲ處分スル場合ニ於テハ其ノ寺院ノ住職檀徒若ハ信徒總代人ノ取得スルコトヲ得ス

第二十一條 寺院財産ハ臺帳ヲ備ヘ之ニ登載シ増減異動アリタルトキハ加除訂正スヘシ

第二十二條 神職又ハ住職缺員ノ場合ニ於ケル社寺財産ハ神社ニ在テハ氏子又ハ崇敬者總代人寺院ニ在テハ檀徒若ハ信徒總代人社寺法類ニ於テ保管シ神職又ハ住職定マリタルトキ之ヲ引繼クヘシ

第二十三條 寺院ニ對スル寄附ノ金穀物件ニシテ用途ノ指定アルモノハ其

者三名乃至七名ノ總代人名簿ヲ置クヘシ

總代人ノ定數ハ氏子、崇敬者、檀徒又ハ信徒ノ多寡ニ依リ町村長之ヲ指定ス

第九條 寺社總代人ハ神職又ハ住職ニ於テ氏子、崇敬者、檀徒又ハ信徒ヲシテ互選セシメ其當選ハ之ヲ町村長ニ届出ヘシ

神職又ハ住職缺員ノ場合ニ於テハ前項ノ選舉ハ町村長ニ於テ之ヲ行ハシムヘシ

町村役場ニハ社寺總代人名簿ヲ備フヘシ

第十條 社寺總代人ハ滿三ケ年毎ニ之ヲ改選スヘシ

社寺總代人ニ缺員ヲ生シタルトキハ臨時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

臨時選舉ニ當選シタル者ノ在職期間ハ定期改選ニ依リ當選シタル者ノ在職期間滿了ノ日迄在職ス

第十一條 社寺總代人家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ確定シ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ臨時ニ之ヲ改選スヘシ

知事ニ於テ社寺總代人中不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ臨時ニ之ヲ改選ヲ命スルコトアルヘシ

前二項ニ該當スルモノハ再選セラレルコトヲ得ス

第十二條 社寺總代人ハ特別ノ規定アル事項ヲ處理スルノ外左ニ掲ル事項ニ關シ神職又ハ住職ノ協議ニ干與シ社寺ニ關スル願届等ノ文書ニ署名スルモノトス

- 一 社寺ノ維持經營ニ關スル事
- 二 社寺財産ノ取得處分及管理ニ關スル事
- 三 社寺ノ負債ニ關スル事
- 四 社寺ノ神職又ハ住職ノ所得區分ニ關スル事
- 五 社寺ノ會計ニ關スル事
- 六 社寺ノ訴訟及和解ニ關スル事

用途以外ニ使用シ又ハ處分スルコトヲ得ス
負擔附ノ寄附ヲ受クルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六章 雜則

第二十四條 左ニ掲ケル事項ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
一 縣社以下神社ノ例祭日變更ノ事
二 縣鄉村社ニ縣名ノ制札ヲ建設スル事
三 寺院ノ他宗派ニ轉屬スル事

第二十五條 寺院ノ離末本寺換ノ願書ニハ本末寺連署新舊本寺ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第二十六條 社寺ノ願書等ニハ氏子、崇敬者、檀徒又ハ信徒總代人其ノ定數五名以内ノ社寺ニ在テハ三名以上、定數六名以上ノ社寺ニ在テハ四名以上及寺院ハ本寺法類連署シ管長ノ副申アルコトヲ要ス但シ左ニ掲ケル寺院ノ願書ニハ各附記ノ連署又ハ副申ヲ要セス
一 地租條例ノ規定ニ依ル願書ニ付テハ總代人其他ノ連署及管長ノ副申
二 障害木伐採願書ニ付テハ本寺法類ノ連署及管長ノ副申
三 道路堤塘、河川溝渠等ノ變更又ハ改修ノ爲公費ノ買上ニ應シ又ハ寄附土地等處分ニ關スル願書ニ付テハ管長ノ副申
前項ノ外寺院ノ願書等ニハ宗名ヲ記載スヘシ

第二十七條 私邸内自祭ノ神祠佛堂ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ公衆ノ參拜ヲ爲サシムルコトヲ得ス違フ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第二十八條 社寺ニ關スル願書等ハ町村長及郡長ヲ經由スヘシ
町村長及郡長ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見アルモノハ副申スヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本規程施行ノ際社寺總代人ノ職ニ在ル者ハ仍ホ其ノ在職期間在職スルヲ妨

ケス
本規程第八條第二項社寺總代人ノ定數ハ定期改選ノ場合ニ之ヲ指定スヘシ

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件

(大正三年四月 縣令第三十八號)

大正二年四月内務省令第六號官國幣社以下神社ノ祭神、神社、社格、明細帳、境内、創立移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件細則左ノ通定ム

第一條 本則ニ於テ省令ト稱スルハ大正二年四月内務省令第六號ヲ謂フ
第二條 省令第一條又ハ第四條ニ依ル具申ニハ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ關スル證左ヲ添付スヘシ
前項具申ノ神社ニシテ特別ノ由緒アルモノニ係ルトキハ其ノ事實ヲ詳記スヘシ

第三條 社格ノ變更又ハ訂正ノ證議ヲ請ハムトスルトキハ左記事項ニ關スル調書ヲ添付スヘシ
一 由緒其ノ他特別ノ事由
二 社殿及境内ノ見取圖
三 氏子若ハ崇敬者名簿
四 維持方法
五 財産調書

第四條 省令第九條ニ依ル具申ニハ左記事項ニ關スル調書ヲ添付スヘシ
一 探取探掘ノ事由
二 探取ノ坪數及探掘ノ株數
三 採取探掘ノ期間
第十四條 省令第二十五條ニ依リ火入ヲ爲サムトスルモノハ火入前隣接地神社ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第十五條 神社境内ニ碑表ヲ建設セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ノ承認ヲ受クヘシ
一 事由
二 建設ノ位置ヲ表示シタル境内地圖面
三 設計仕様書並地圖面
四 碑文
五 維持方法
六 神社ノ承認書
第十六條 省令第二十七條第二項ニ依ル願書ニハ左記事項ニ關スル調書ヲ添付スヘシ
一 境内使用ノ事由及方法
二 工作物ヲ建設スルモノニ於テハ其ノ設計及建設ノ位置ヲ表示スル地圖面
三 期限
四 使用料
五 神社ノ承認書
前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ神社ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

〔千葉縣〕

一 脫漏ノ事由
二 神社明細書
三 明治五年以前ノ創立ニシテ公書公簿等ニ依リ公認セラレ毎年祭祀ヲ執行シ來リタルコトノ證左
四 維持方法
五 氏子若ハ崇敬者名簿

第五條 省令第十條ニ依ル申請ニハ其ノ事由ヲ具シ事實ヲ確認スルニ足ルヘキ證據アラハ之ヲ添付スヘシ
第六條 省令第十三條ニ依ル願書ニハ左記事項ニ關スル調書ヲ添付スヘシ
一 事由
二 工事設計圖書
三 工費及支辨方法
四 起工及竣工豫定期日

第七條 省令第十四條ニ依ル願書ニハ左記事項ニ關スル調書ヲ添付スヘシ
一 傳説又ハ特別ノ由緒
二 發掘ノ目的及方法
三 發掘スヘキ土地坪數及圖面

第八條 省令第十五條ニ依ル願書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ
一 禁止事項
二 制札ノ設計圖書
三 制札建設ノ場所
第九條 省令第十七條ニ依ル願書ニハ木竹ノ種類、員數、目通寸尺、枯損又ハ障礙ノ事實、處分方法ヲ詳記スヘシ
第十條 省令第十八條ニ依ル願書ニハ造修ヲ要スル事由、造修部分ニ對スル仕様設計書並圖面、境内木竹ノ種類員數、目通寸尺、伐採木竹ノ種類員數、目通寸尺ヲ詳記スヘシ